

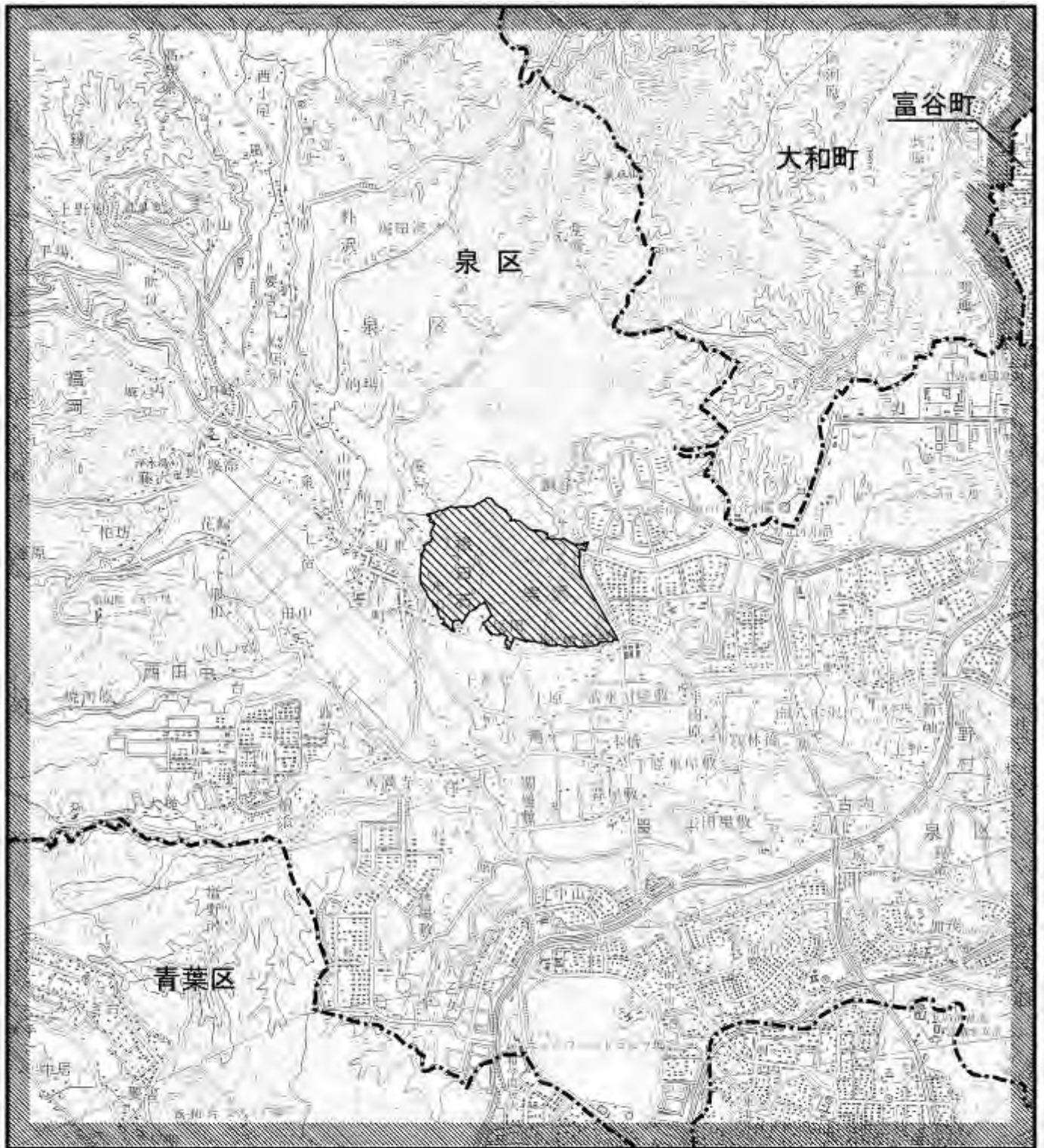
6. 地域の概況

6. 地域の概況




地域概況を整理する調査範囲（以下、「調査範囲」という。）は「仙台市環境影響評価技術指針マニュアル」（平成 11 年 11 月仙台市）（以下、「技術マニュアル」という）に示されている概況調査範囲（5～10km）及び表 5-1 に示す環境項目ごとに影響が想定される範囲を参考として、対象事業計画地を中心とした概ね 9km 四方の範囲とした（図 6-1 参照）。

この調査範囲には大和町が含まれており、調査範囲である仙台市同様に概況調査を実施する。一方、調査範囲の北東部に富谷町の一部が含まれるが、表 5-1 に示す環境項目ごとに影響が想定される範囲には該当しないと考え、調査範囲から除外した。

調査範囲の概況調査は既存資料による把握を基本とし、必要に応じて現地調査によるものとした。なお、平成 12 年 3 月評価書の現地調査結果も含めて地域概況の結果として示す。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 地域概況における調査範囲
(対象事業計画地を中心として概ね9km四方)
-  : 市区町境界線



S=1:50,000

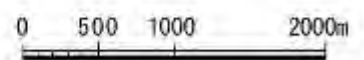


図 6-1

地域の概況調査範囲

※ 富谷町は地域概況における調査範囲から除外する。

6.1. 自然的状況

6.1.1. 大気環境

(1) 気象

対象事業計画地の最寄りの気象観測所は、仙台管区気象台（仙台市宮城野区五輪 1-3-15 仙台第3合同庁舎）がある。仙台管区気象台の位置は図 6.1-1、仙台管区気象台における平成16年～平成26年の気象の概況及び平成26年の気象の概況は表 6.1-1 及び表 6.1-2 に示すとおりである。

ア 気温の状況

平成16年～平成26年の11年間の平均気温は12.8℃、月平均最高気温の平均値は23.7℃、月平均最低気温の平均値は4.8℃である。

平成26年の平均気温は12.8℃、最高気温の平均値は24.4℃、最低気温の平均値は5.5℃である。

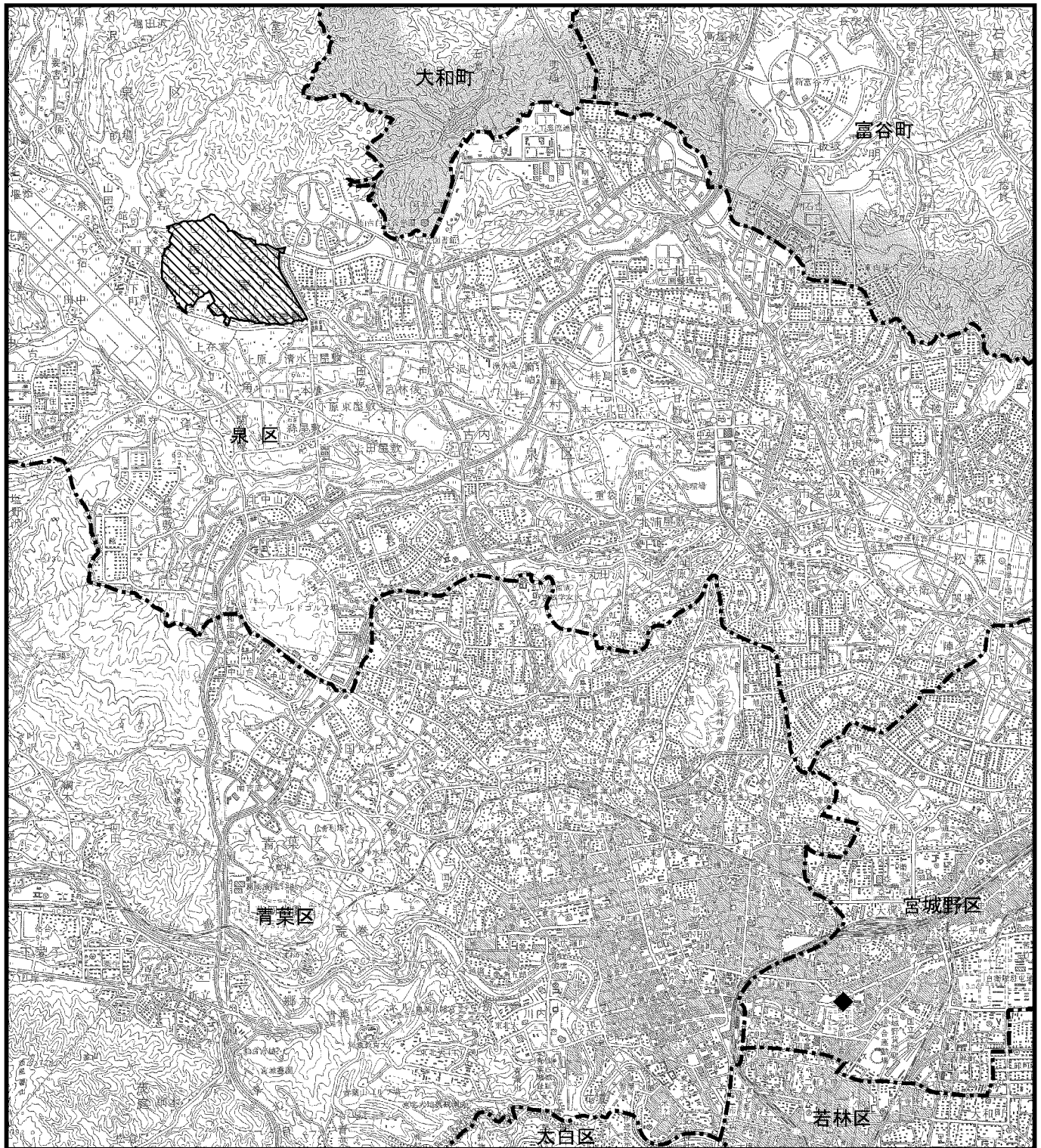
イ 降水量の状況

平成16年～平成26年の11年間の平均年間降水量は1,295mmである。平成26年の年間降水量は1,417mmと過去11年間の平均年間降水量に対して約11%多い。




ウ 風向・風速の状況

平成16年～平成26年の11年間の年間平均風速は3.1m/秒である。風向は1月～3月及び9月～12月にかけて北北西と西北西の風が、4月～8月にかけて南東の風が卓越している。

平成26年の年間平均風速は3.2m/秒、風向は平成16年～平成26年の11年間とほぼ同様の傾向が見られる。



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 仙台管区気象台



S=1:70,000



図 6.1-1

仙台管区気象台の位置

出典:1.「気象台の位置」(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 気象庁)
 2.「仙台管区気象台」(<http://www.jma-net.go.jp/sendai/index.html> 仙台管区気象台)

表 6.1-1 気象の概況（仙台管区气象台：平成 16 年～平成 26 年）

項目 月	気温（℃）			降水量 （mm）	日照時間 （時間）	平均風速 （m/秒）	最多風向
	平均	最高	最低				
1 月	1.7	11.1	-5.0	31.7	159.0	3.5	西北西
2 月	2.1	13.0	-5.0	42.3	152.6	3.6	北北西
3 月	5.2	18.5	-2.9	64.1	172.7	3.7	西北西
4 月	10.2	23.2	0.8	95.3	195.3	3.7	南東
5 月	15.2	27.0	6.5	127.1	182.7	3.2	南東
6 月	19.5	30.5	11.7	144.9	152.6	2.7	南東
7 月	22.9	32.8	16.4	181.8	121.2	2.5	南東
8 月	24.8	34.4	17.7	127.9	154.9	2.5	南東
9 月	21.5	31.7	12.8	157.5	139.9	2.8	北北西
10 月	15.9	26.2	6.3	177.3	144.1	3.0	北北西
11 月	10.0	20.8	0.9	67.0	144.0	3.1	北北西
12 月	4.3	15.5	-2.8	77.8	131.9	3.3	北北西
年間	12.8	23.7	4.8	1,295	1,851	3.1	北北西

※：年間における各項目は以下のとおり。

気温：月平均気温、月平均最高（低）気温の 11 年間における平均値

降水量：月降水量の 11 年間における平均値

日照時間：月合計日照時間の 11 年間における平均値

平均風速：月平均風速の 11 年間における平均値

最多風向：月最多風向の 11 年間における最多風向

出典：「気象庁／気象統計情報／過去の気象データ検索」

(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 気象庁)

表 6.1-2 気象の概況（仙台管区气象台：平成 26 年）

項目 月	気温（℃）			降水量 （mm）	日照時間 （時間）	平均風速 （m/秒）	最多風向
	平均	最高	最低				
1 月	1.9	11.9	-4.6	18.0	183.0	3.5	西北西
2 月	1.4	13.2	-4.9	78.5	152.4	3.8	北北西
3 月	5.5	22.8	-3.4	162.5	157.8	3.9	西北西
4 月	10.9	22.6	2.1	69.0	262.7	3.6	西北西
5 月	16.5	30.7	6.7	83.5	244.0	3.4	南東
6 月	20.6	32.2	16.2	242.0	137.9	2.9	南東
7 月	23.7	32.8	18.4	123.0	159.2	2.7	南東
8 月	24.6	35.4	17.7	133.0	137.9	2.4	南東
9 月	20.5	29.4	13.1	112.0	192.8	2.9	北北西
10 月	15.3	26.5	7.4	256.5	188.4	3.2	北北西
11 月	10.0	21.2	1.8	70.5	143.6	2.9	北北西
12 月	2.8	14.2	-4.3	68.0	133.7	3.3	北北西
年間	12.8	24.4	5.5	1,417	2,093	3.2	北北西

※：年間における各項目は以下のとおり。

気温：月平均気温、各月最高（低）気温

降水量：月合計降水量の年間における合計値

日照時間：月合計日照時間の年間合計値

平均風速：月平均風速の年間における平均値

最多風向：月最多風向の年間における最多風向

出典：「気象庁／気象統計情報／過去の気象データ検索」

(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 気象庁)

(2) 大気質

ア 大気汚染の状況

調査範囲内には大気汚染常時監視測定局として、一般環境大気測定局が1局（中山）、自動車排出ガス測定局が1局（長命）設置されている。なお、一般環境大気測定局の中山が対象事業計画地から若干離れているため、調査範囲外の一般大気測定局を1局（七北田）追加した。各測定局の測定項目は表 6.1-3、常時監視測定局の位置は図 6.1-2 に示すとおりである。なお、調査範囲内においては常時監視測定局以外の簡易測定は行われていない。

また、平成12年3月評価書において大気質調査を実施している。平成12年3月評価書における測定項目は表 6.1-4、測定地点位置は図 6.1-2 に示すとおりである。

表 6.1-3 大気汚染常時監視測定局の測定項目

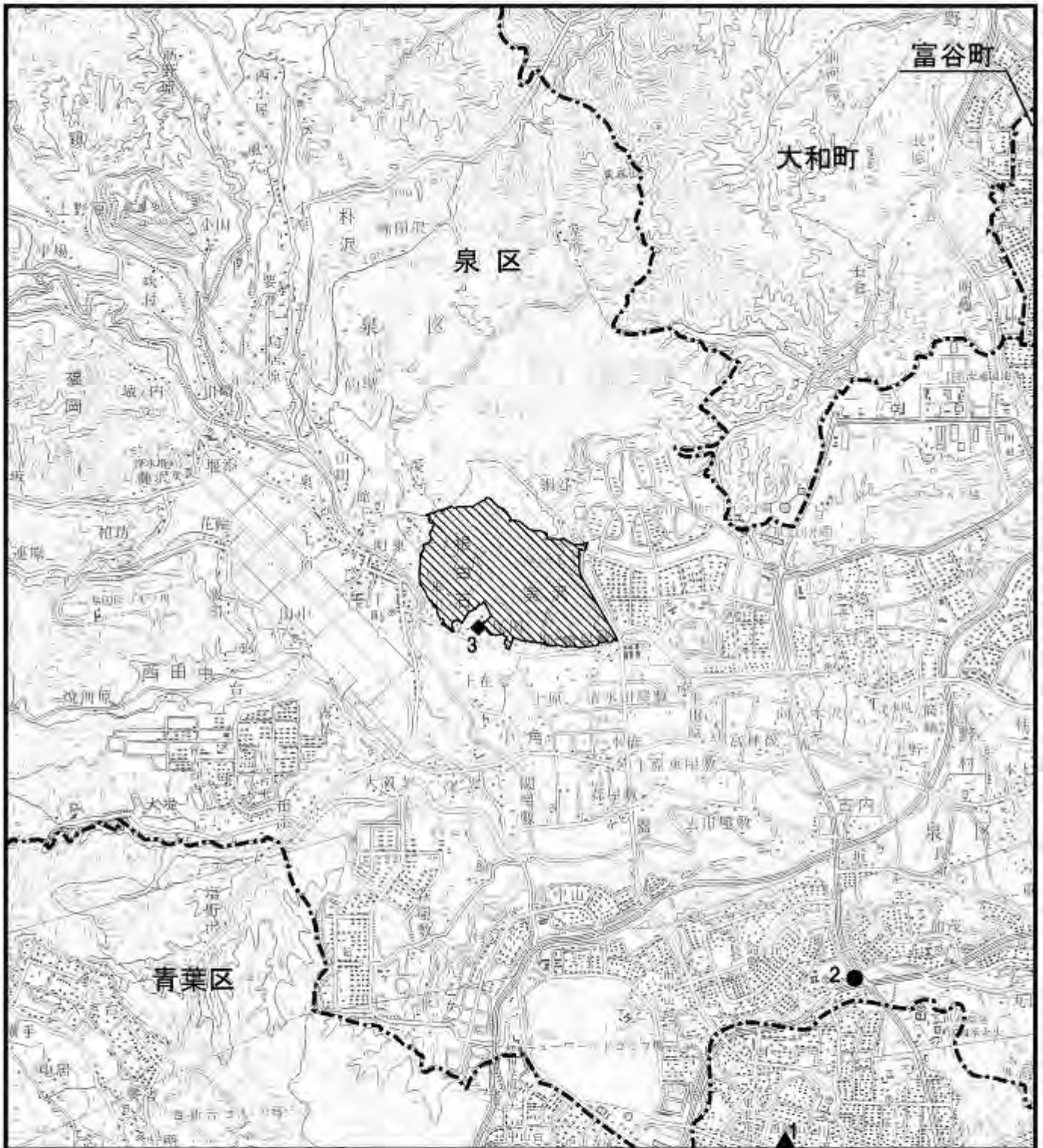
測定局種別	地点No.	測定局名	二酸化硫黄	二酸化窒素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	非メタン炭化水素
一般環境大気	1	中山	—	○	○	○	—	—
自動車排出ガス	2	長命	—	○	—	○	—	—
一般環境大気	—	七北田	—	○	○	○	—	—

※：七北田測定局（仙台市泉区七北田字東裏 90）は調査範囲外の為、地点No.の記載は無い。
出典：「公害関係資料集」（平成25年度測定結果）（仙台市環境局）






表 6.1-4 大気質調査測定項目（平成12年3月評価書）

調査期間		地点No.	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	一酸化炭素
夏季	平成9年8月21日（木） ～平成9年8月27日（水）	3	○	○	○	○
冬季	平成9年12月15日（月） ～平成9年12月21日（日）	3	○	○	○	○

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 一般環境大気測定局 (図中番号: 1)
-  : 自動車排出ガス測定局 (図中番号: 2)
-  : 平成12年3月評価書における大気質調査地点 (図中番号: 3)

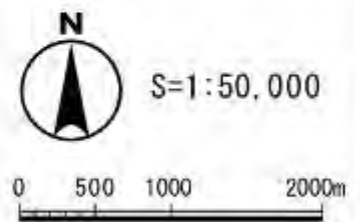


図 6.1-2
大気質の測定地点位置
(文献調査)

出典: 1. 「公害関係資料集」(平成21~25年度測定結果) (仙台市環境局)
2. 「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
(平成12年3月 三菱地所株式会社)

① 二酸化硫黄 (SO₂)

a) 文献調査

「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)によると、平成 25 年度における二酸化硫黄の測定は実施されていないため平成 24 年度の測定結果を示す。平成 24 年度における二酸化硫黄測定結果は表 6.1-5、平成 20 年度～平成 24 年度までの 5 年間における年平均値及び日平均値の 2%除外値の経年変化は表 6.1-6 に示すとおりである。

平成 24 年度における 1 時間値の最高値は 0.009ppm、日平均値の 2%除外値は 0.002ppm であり、短期的評価及び長期的評価とも環境基準を満足している。また、経年変化は同程度で推移している。

表 6.1-5 二酸化硫黄測定結果 (平成 24 年度)

種別	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	短期的評価					長期的評価		
						1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2%除外値	日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.04ppm を超えた日数
						時間	%	日	%				
一般環境	中山	第一低住	307	7,296	0.000	0	0.0	0	0.0	0.009	0.002	○	0
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること										

出典：「公害関係資料集」(平成 24 年度測定結果)(仙台市環境局)

表 6.1-6 二酸化硫黄経年変化 (平成 20 年度～平成 24 年度)

単位：ppm

種別	測定局	項目	年度				
			20	21	22	23	24
一般環境	中山	年平均値	0.000	0.001	0.001	0.000	0.000
		日平均値の 2%除外値	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002

出典：「公害関係資料集」(平成 24 年度測定結果)(仙台市環境局)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書における二酸化硫黄測定結果は、表 6.1-7 に示すとおりである。

表 6.1-7 二酸化硫黄測定結果 (平成 12 年 3 月評価書)

調査期間	調査期間平均値	1 時間値		日平均値		短期的評価					
		最高値	最低値	最高値	最低値	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	
		ppm	ppm	ppm	ppm	時間	%	日	%	ppm	
夏季	平成 9 年 8 月 21 日 (木)～平成 9 年 8 月 27 日 (水)	0.009	0.000	0.003	0.001	0.002	0	0.0	0	0.0	0.009
冬季	平成 9 年 12 月 15 日 (月)～平成 9 年 12 月 21 日 (日)	0.009	0.001	0.004	0.002	0.003	0	0.0	0	0.0	0.009
環境基準		1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること									

出典：「泉パークタウン住宅開発 (第 6 期) に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

② 二酸化窒素 (NO₂)

a) 文献調査

平成 25 年度における二酸化窒素測定結果は表 6.1-8、平成 21 年度～平成 25 年度までの 5 年間に
おける年平均値及び日平均値の年間 98% 値の経年変化は表 6.1-9 に示すとおりである。

いずれの測定局においても環境基準を満足している。また、経年変化について、年平均値が平成
21 年度から平成 25 年度では僅かながら減少しており、日平均値の年間 98% 値が平成 21 年度から平
成 25 年度ではほぼ横ばいである。

表 6.1-8 二酸化窒素測定結果 (平成 25 年度)

種別	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	1 時間値が 0.2ppm を超えた時間数とその割合		1 時間値が 0.1ppm 以上 0.2ppm 以下の時間数とその割合		日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上、0.06ppm 以下の日数とその割合		98% 値評価による日平均値が 0.06ppm を超えた日数	
							時間	%	時間	%	日	%	日	%	ppm	日
一般環境	中山	第一低住	359	8,624	0.007	0.051	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.018	0
自排	長命	準住	361	8,642	0.015	0.066	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.030	0	
一般環境	七北田	第二住	359	8,554	0.011	0.061	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.027	0	
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること													

出典：「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)

表 6.1-9 二酸化窒素経年変化 (平成 21 年度～平成 25 年度)

単位：ppm

種別	測定局	項目	年度				
			21	22	23	24	25
一般環境	中山	年平均値	0.008	0.008	0.008	0.008	0.007
		日平均値の年間 98% 値	0.019	0.019	0.021	0.019	0.018
自動車排ガス	長命	年平均値	0.017	0.016	0.017	0.016	0.015
		日平均値の年間 98% 値	0.029	0.028	0.031	0.032	0.030
一般環境	七北田	年平均値	0.012	0.011	0.011	0.011	0.011
		日平均値の年間 98% 値	0.026	0.023	0.028	0.026	0.027

出典：「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書における二酸化窒素測定結果は、表 6.1-10 に示すとおりである。

表 6.1-10 二酸化窒素測定結果 (平成 12 年 3 月評価書)

調査期間		1 時間値		日平均値		調査期間 平均値	日平均値が 0.04ppm 以上、0.06ppm 以下の日数とその割合	
		最高値	最低値	最高値	最低値		日	%
		ppm	ppm	ppm	ppm			
夏季	平成 9 年 8 月 21 日 (木) ～平成 9 年 8 月 27 日 (水)	0.028	0.001	0.014	0.004	0.009	0	0.0
冬季	平成 9 年 12 月 15 日 (月) ～平成 9 年 12 月 21 日 (日)	0.050	0.000	0.016	0.002	0.009	0	0.0
環境基準		1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること						

出典：「泉パークタウン住宅開発 (第 6 期) に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

③ 光化学オキシダント (O_x)

a) 文献調査

平成 25 年度における光化学オキシダント測定結果は表 6.1-11, 平成 21 年度～平成 25 年度までの 5 年間における 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数及び時間数の経年変化は表 6.1-12 に示すとおりである。

平成 25 年度における昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間は中山測定局では 191 時間(40 日), 七北田測定局では 123 時間 (31 日) 発生し, 昼間の 1 時間値の最高値は中山測定局では 0.083ppm, 七北田測定局では 0.079ppm と, 環境基準 (0.06ppm) を満足していない。また, 経年変化について, 中山測定局では 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数及び時間数はともに, 平成 25 年が最少, 平成 23 年が最多であり, 七北田測定局では 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数は平成 25 年が最少, 平成 22 年, 平成 23 年が最多, 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数は平成 25 年が最少, 平成 21 年度が最多であった。

表 6.1-11 光化学オキシダント測定結果 (平成 25 年度)

種別	測定局	用途地域	昼間測定日数	昼間測定時間	昼間の 1 時間値の年平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数と時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm を超えた日数と時間数		昼間の 1 時間値の最高値	昼間の 1 時間値の最高値
			日	時間	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm
一般環境	中山	第一低住	365	5,403	0.035	40	191	0	0	0.083	0.045
	七北田	第二住	365	5,404	0.031	31	123	0	0	0.079	0.043
環境基準			1 時間値が 0.06ppm 以下であること								

※：昼間とは 5 時から 20 時までの時間帯をいう。

出典：「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)

表 6.1-12 光化学オキシダント経年変化 (平成 21 年度～平成 25 年度)

種別	測定局	項目	年度					
			21	22	23	24	25	
一般環境	中山	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数 (日)	46	57	83	70	40
			時間数 (時間)	314	318	488	324	191
	七北田	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数 (日)	40	56	56	37	31
			時間数 (時間)	284	257	269	140	123

出典：「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において, 光化学オキシダントの測定は行われていない。

④ 浮遊粒子状物質 (SPM)

a) 文献調査

平成 25 年度における浮遊粒子状物質測定結果は表 6.1-13, 平成 21 年度～平成 25 年度までの 5 年間に於ける年平均値及び日平均値の 2%除外値の経年変化は表 6.1-14 に示すとおりである。

いずれの測定局においても、環境基準の短期的評価及び長期的評価を満足している。

また、経年変化について、中山測定局及び長命測定局の年平均値は同程度で推移しているが、七北田測定局の年平均値は減少傾向にある。

表 6.1-13 浮遊粒子状物質測定結果 (平成 25 年度)

種別	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	短期的評価					長期的評価		
						1 時間値が 0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数
						時間	%	日	%				
一般環境	中山	第一低住	350	8,431	0.011	0	0.0	0	0.0	0.070	0.036	○	0
自排	長命	準住	364	8,707	0.014	0	0.0	0	0.0	0.173	0.043	○	0
一般環境	七北田	第二住	363	8,692	0.017	0	0.0	0	0.0	0.081	0.043	○	0
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること										

出典：「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)

表 6.1-14 浮遊粒子状物質経年変化 (平成 21 年度～平成 25 年度)

単位：mg/m³

種別	測定局	項目	年度				
			21	22	23	24	25
一般環境	中山	年平均値	0.010	0.013	0.010	0.011	0.011
		日平均値の 2% 除外値	0.037	0.043	0.033	0.032	0.036
自動車排ガス	長命	年平均値	0.015	0.016	0.016	0.017	0.014
		日平均値の 2% 除外値	0.045	0.044	0.043	0.044	0.043
一般環境	七北田	年平均値	0.022	0.025	0.022	0.016	0.017
		日平均値の 2% 除外値	0.053	0.066	0.055	0.042	0.043

出典：「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書における浮遊粒子状物質測定結果は、表 6.1-15 に示すとおりである。

表 6.1-15 浮遊粒子状物質測定結果 (平成 12 年 3 月評価書)

調査期間		1 時間値		日平均値		調査期間平均値	短期的評価				
		最高値	最低値	最高値	最低値		日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日とその割合		1 時間値が 0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		
		mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³		日	%	時間	%	
夏季	平成 9 年 8 月 21 日 (木) ~ 平成 9 年 8 月 27 日 (水)	0.163	0.002	0.041	0.018	0.030	0	0.0	0	0.0	
冬季	平成 9 年 12 月 15 日 (月) ~ 平成 9 年 12 月 21 日 (日)	0.057	0.000	0.031	0.006	0.018	0	0.0	0	0.0	
環境基準		1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること									

出典：「泉パークタウン住宅開発 (第 6 期) に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

⑤ 一酸化炭素 (CO)

a) 文献調査

「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)によると、調査範囲では一酸化炭素の測定は行われていない。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書における一酸化炭素測定結果は、表 6.1-16 に示すとおりである。

表 6.1-16 一酸化炭素測定結果(平成 12 年 3 月評価書)

調査期間		1 時間値		日平均値		調査期間 平均値	短期的評価					
		最高値	最低値	最高値	最低値		日平均値が 10ppm を 超えた日数 とその割合		8 時間値が 20ppm を 超えた回数 とその割合		1 時間値が 30ppm 以上 となったこと がある日とそ の割合	
		ppm	ppm	ppm	ppm		日	ppm	回	%	日	%
夏季	平成 9 年 8 月 21 日 (木) ～平成 9 年 8 月 27 日 (水)	1.6	0.1	0.2	0.1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
冬季	平成 9 年 12 月 15 日 (月) ～平成 9 年 12 月 21 日 (日)	1.3	0.1	0.4	0.1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
環境基準		1 時間の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること										

出典：「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

⑥ 大気質に係る苦情の状況

仙台市における平成 21 年度から平成 25 年度の大気質に係る苦情件数の推移は表 6.1-17、大和町における平成 21 年度から平成 25 年度の大気質に係る苦情件数の推移は表 6.1-18 に示すとおりである。

仙台市では、ばい煙の苦情件数が年間 4 件～15 件、粉じんの苦情件数が年間 6 件～25 件で推移している。大和町では、大気汚染の苦情件数が年間 0 件～1 件で推移し、直近 4 ヶ年では苦情は無い。

表 6.1-17 大気質に係る苦情件数の経年変化（仙台市内：平成 21 年度～平成 25 年度）

単位：件

項目 \ 年度	21	22	23	24	25
ばい煙	7	8	12	15	4
粉じん	8	6	24	25	20

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-18 大気質に係る苦情件数の経年変化（大和町内：平成 21 年度～平成 25 年度）

単位：件

項目 \ 年度	21	22	23	24	25
大気汚染	1	0	0	0	0

出典：「公害苦情調査結果報告書」（宮城県環境生活部環境対策課）

※：ばい煙、粉じんの内訳は宮城県環境対策課では、把握されていない。

⑦ 発生源の状況

仙台市における大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数及び事業場数及び一般粉じん発生施設数及び事業場数は表 6.1-19、大和町における大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数及び事業場数と一般粉じん発生施設数及び事業場数は表 6.1-20 に示すとおりである。

図5-1に示す関係地域内では、表 6.1-21に示すばい煙発生施設を有する事業場が存在しており、その位置を図 6.1-3 に示す。なお、一般粉じん発生施設は存在しない。

表 6.1-19 仙台市内のばい煙及び一般粉じんの発生施設数及び事業場数（平成 25 年度）

項目		年度	25
ばい煙	発生施設数（事業場数）		1,586 (733)
粉じん	発生施設数（事業場数）		103 (14)

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-20 大和町内のばい煙及び一般粉じんの発生施設数及び事業場数（平成 21 年度）

項目		年度	21
ばい煙	発生施設数（事業場数）		112 (52)
粉じん	発生施設数（事業場数）		26 (8)

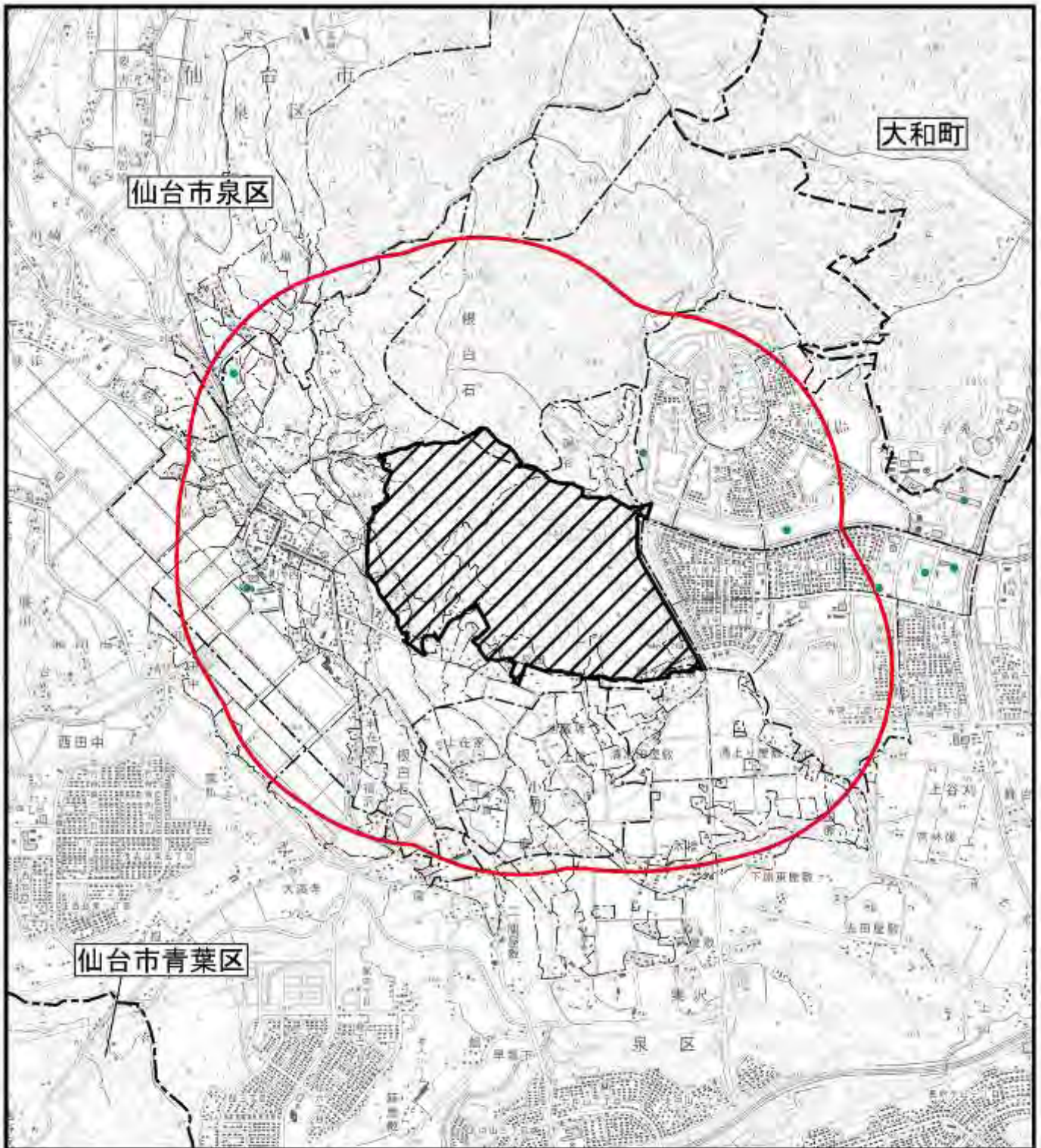
出典：「宮城県公害資料（大気編）」（宮城県環境生活部環境対策課）（平成 23 年 3 月）

表 6.1-21 大気汚染防止法（ばい煙）に基づく発生施設数（平成 25 年 3 月 31 日現在）







市区町名	発生施設所在地	事業所数	施設数	
			総数	内訳
泉区	根白石字山田原	1	2	ボイラー：2
	根白石字紫山※	1	1	ディーゼル機関：1
	根白石字杉下前	1	2	ボイラー：2
	紫山一丁目	1	1	ガスタービン：1
	紫山二丁目	2	2	ディーゼル機関：2
	寺岡六丁目	3	9	ボイラー：5 ディーゼル機関：4

※：出典資料に記載してある住所を記載した。現在の紫山四丁目である。

出典：仙台市環境局




凡例

-  : 対象事業区域
-  : 関係地域 (1.0kmの範囲)
-  : 市区町界
-  : 字界
-  : 町丁界・小字界
-  : 大気汚染防止法 (ばい煙) に基づく発生施設

出典：仙台市環境局

N



S=1:30,000

0 500 1000m

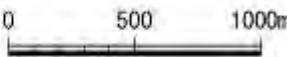


図 6.1-3
大気汚染防止法 (ばい煙)
に基づく発生施設

イ 大気質保全上の留意点

事業計画地周辺の良好な大気環境の維持に配慮し、工事中の粉じんの発生抑制に努めるほか、自動車交通量による窒素酸化物及び浮遊粒子状物質等の大気質への影響について検討を行い、必要に応じて保全対策を行う。

(3) 騒音

ア 騒音の状況

調査範囲内では、平成 21 年度及び平成 25 年度に仙台北環状線及び大衡仙台線、平成 22 年度に泉ヶ岳熊ヶ根線及び仙台北環状線で自動車交通騒音測定が実施されている。自動車交通騒音測定対象区間は表 6.1-22～表 6.1-24、測定地点位置は図 6.1-4 に示すとおりである。

また、平成 12 年 3 月評価書において、環境騒音調査、道路交通騒音調査が実施されており、測定項目は表 6.1-25、測定地点位置は図 6.1-4 に示すとおりである。

表 6.1-22 自動車交通騒音測定対象区間(平成 21 年度)

路線 No.	路線名	評価対象道路		
		評価区間	評価区間の延長	評価対象住居等戸数
		始点 終点	km	戸
1	仙台北環状線	仙台市泉区八乙女中央 1 丁目 7 番	3.2	456
		仙台市泉区上谷刈字立脇		
2	大衡仙台線	仙台市泉区上谷刈字立脇	1.8	425
		仙台市青葉区水の森 3 丁目 41 番		

出典：「公害関係資料集」（平成 21 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-23 自動車交通騒音測定対象区間(平成 22 年度)

路線 No.	路線名	評価対象道路		
		評価区間	評価区間の延長	評価対象住居等戸数
		始点 終点	km	戸
3	泉ヶ岳熊ヶ根線	仙台市泉区七北田字大沢大ヶ沢	3.1	359
		仙台市泉区高森 2 丁目		
4	仙台北環状線	仙台市泉区上谷刈字立脇	2.5	626
		仙台市泉区南中山 1 丁目		

出典：「公害関係資料集」（平成 22 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-24 自動車交通騒音測定対象区間(平成 25 年度)

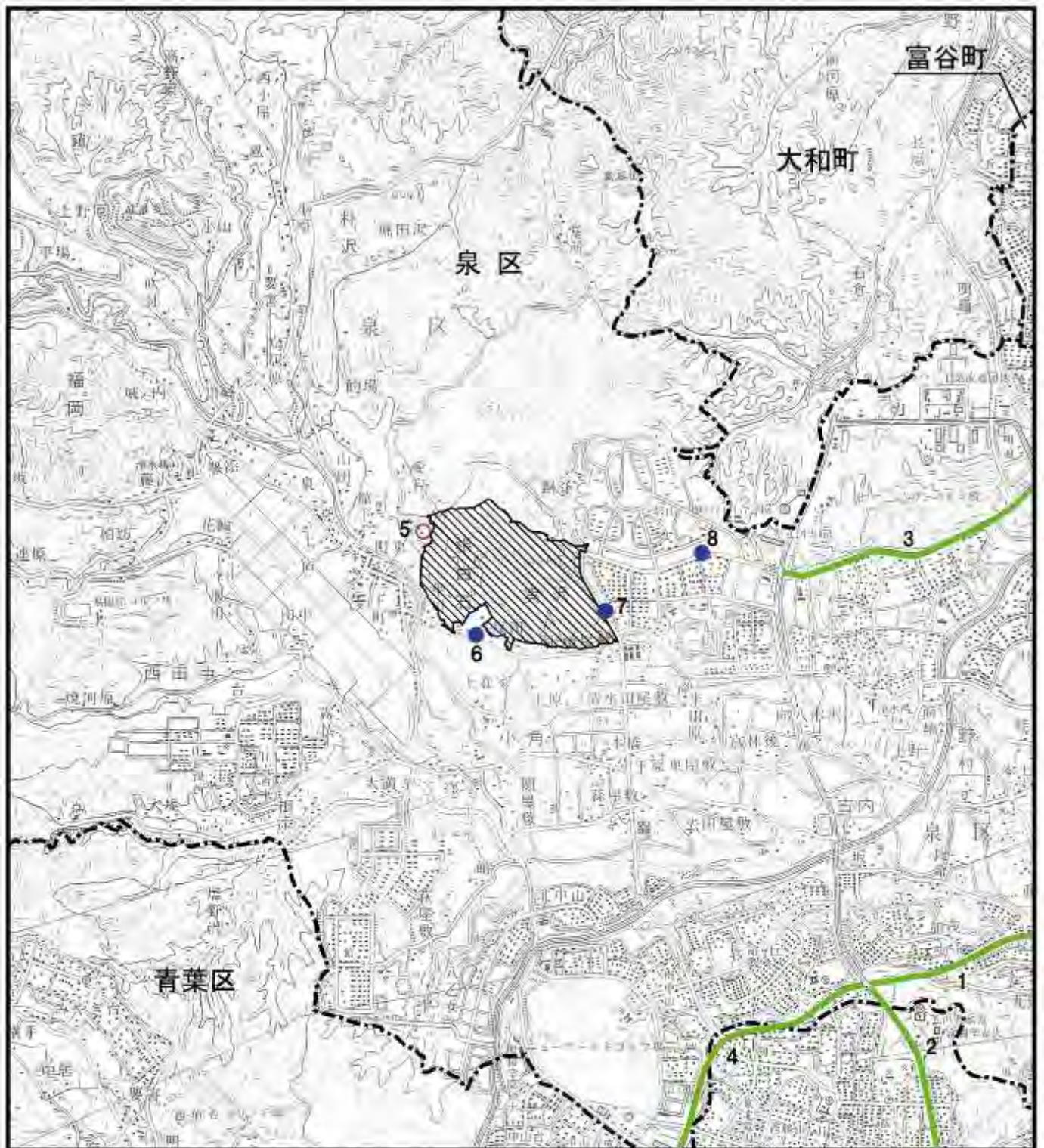
路線 No.	路線名	評価対象道路		
		評価区間	評価区間の延長	評価対象住居等戸数
		始点 終点	km	戸
1	仙台北環状線	仙台市泉区八乙女中央 1 丁目 7 番	3.2	456
		仙台市泉区上谷刈字立脇		
2	大衡仙台線	仙台市泉区上谷刈字立脇	1.8	431
		仙台市青葉区水の森 3 丁目 41 番		

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）






表 6.1-25 騒音調査測定項目（平成 12 年 3 月評価書）

調査期間	地点 No.	地点名	環境騒音	道路交通騒音
平成 9 年 11 月 13～14 日（平日） 平成 9 年 11 月 9～10 日（休日）	5	—	○	—
平成 9 年 9 月 4～5 日（平日） 平成 9 年 8 月 24～25 日（休日）	6	市道桐ヶ崎年川線	—	○
	7	市道荒巻根白石線	—	○
	8	市道宮沢根白石線	—	○

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 自動車交通騒音調査路線 (図中番号: 1~4) ※出典1
-  : 環境騒音調査地点 (図中番号: 5) ※出典2
-  : 道路交通騒音調査地点 (図中番号: 6~8) ※出典2



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

図 6.1-4

自動車交通騒音調査
路線位置図 (文献調査)

出典:1.「公害関係資料集」(平成21~25年度測定結果)(仙台市環境局)
2.「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
(平成12年3月 三菱地所株式会社)

① 環境騒音

a) 文献調査

「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)によると、調査範囲では環境騒音の測定は行われていない。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書における測定結果は、表 6.1-26 に示すとおりである。この評価書では、将来「第一種住居地域」になると想定して地域の類型 B を適用している。現在もこの地点は用途地域の指定区域外だが、「主として住居の用に供される地域」であるため、地域の類型 B を準用した。

測定値は、昼間、夜間ともに地域の類型 B の環境基準を満足している。

表 6.1-26 環境騒音測定結果(平成 12 年 3 月評価書)

単位：dB

調査期間	地点 No.	用途地域	地域の類型	測定結果 (L_{Aeq})		環境基準の基準値	
				昼間	夜間	昼間	夜間
平成 9 年 11 月 13~14 日 (平日)	5	無指定	B	40.2 (○)	31.5 (○)	55	45
平成 9 年 11 月 9~10 日 (休日)				42.0 (○)	36.7 (○)		

※1：都市計画区域外だが、「主として住居の用に供される地域」であるため、環境基準類型の B を準用した。

※2：測定結果のカッコ内は、環境基準の適合状況について示す。○=満足する、×=満足しない

※3：時間の区分は、「騒音に係る環境基準について」(平成 10 年 9 月 環告 64 号)に基づく。

昼間 6:00~22:00、夜間 22:00~6:00。

出典：「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

② 道路交通騒音

a) 文献調査

平成 21 年度、平成 22 年度及び平成 25 年度の評価結果は、表 6.1-27、表 6.1-28 及び表 6.1-29 に示すとおりである。

環境基準達成状況は、平成 21 年度において仙台北環状線で昼間・夜間とも達成が 89%、昼間のみ達成が 0%、夜間のみ達成が 11%であった。大衡仙台線で昼間、夜間とも 100%達成していた。平成 22 年度において泉ヶ岳熊ヶ根線及び仙台北環状線でいずれも昼間・夜間とも 100%達成していた。平成 25 年度において仙台北環状線及び大衡仙台線でいずれも昼間・夜間とも 100%達成していた。

表 6.1-27 自動車騒音評価結果（平成 21 年度）

路線 No.	評価対象道路				評価結果		
	路線名	評価区間	評価区間 の延長	住居等 評価対象 戸数	環境基準達成状況		
					昼間・夜間 とも達成	昼間のみ 達成	夜間のみ 達成
		始点	(km)	(戸)	達成率 (%)	達成率 (%)	達成率 (%)
終点	達成戸数 (戸)	達成戸数 (戸)			達成戸数 (戸)		
1	仙台北環状線	仙台市泉区八乙女 中央 1 丁目 7 番	3.2	456	89	0	11
		仙台市泉区上谷刈 字立脇			404	0	52
2	大衡仙台線	仙台市泉区上谷刈 字立脇	1.8	425	100	0	0
		仙台市青葉区水の 森 3 丁目 41 番			425	0	0

出典：「公害関係資料集」（平成 21 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-28 自動車騒音評価結果（平成 22 年度）

路線 No.	評価対象道路				評価結果		
	路線名	評価区間	評価区間 の延長	住居等 評価対象 戸数	環境基準達成状況		
					昼間・夜間 とも達成	昼間のみ 達成	夜間のみ 達成
		始点	(km)	(戸)	達成率 (%)	達成率 (%)	達成率 (%)
終点	達成戸数 (戸)	達成戸数 (戸)			達成戸数 (戸)		
3	泉ヶ岳 熊ヶ根線	仙台市泉区七北田 字大沢大ヶ沢	3.1	359	100	0	0
		仙台市泉区高森 2 丁目			359	0	0
4	仙台北環状線	仙台市泉区上谷刈 字立脇	2.5	626	100	0	0
		仙台市泉区南中山 1 丁目			626	0	0

出典：「公害関係資料集」（平成 22 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-29 自動車騒音評価結果（平成 25 年度）

路線 No.	評価対象道路			評価結果			
	路線名	評価区間	評価区間の延長	住居等評価対象戸数	環境基準達成状況		
					昼間・夜間とも達成	昼間のみ達成	夜間のみ達成
		始点	(km)	(戸)	達成率 (%)	達成率 (%)	達成率 (%)
終点	達成戸数 (戸)	達成戸数 (戸)			達成戸数 (戸)		
1	仙台北環状線	仙台市泉区八乙女中央1丁目7番	3.2	456	100	0	0
		仙台市泉区上谷刈字立脇			456	0	0
2	大衡仙台線	仙台市泉区上谷刈字立脇	1.8	431	100	0	0
		仙台市青葉区水の森3丁目41番			431	0	0

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書における測定結果は、表 6.1-30 に示すとおりである。この評価書では、No.6 と No.7 が将来「第一種住居地域」になると想定して地域の類型 B を適用している。現在、No.6 は市街化調整区域だが、「主として住居の用に供される地域」であるため、B 地域の基準を準用した。No.7 については、第一種住居地域に指定されている。

測定値は、No.6 が昼間、No.7 が昼間及び夜間で基準値を上回っているが、No.8 は昼間及び夜間ともに基準値を満足していた。

表 6.1-30 道路交通騒音測定結果（平成 12 年 3 月評価書）

単位：dB

調査期間	地点 No.	用途地域	地域の区分	測定結果 (L _{Aeq})		環境基準	
				昼間	夜間	昼間	夜間
平成 9 年 9 月 4～5 日 (平日)	6	無指定	B 地域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する地域	65.6 (×)	56.4 (○)	65	60
平成 9 年 8 月 24～25 日 (休日)				65.1 (×)	57.2 (○)		
平成 9 年 9 月 4～5 日 (平日)	7	第一種住居	B 地域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する地域	67.0 (×)	62.9 (×)		
平成 9 年 8 月 24～25 日 (休日)				63.6 (○)	60.9 (×)		
平成 9 年 9 月 4～5 日 (平日)	8	近隣商業	C 地域のうち車線を有する道路に面する地域	64.8 (○)	55.4 (○)		
平成 9 年 8 月 24～25 日 (休日)				61.7 (○)	53.2 (○)		

※1：測定結果のカッコ内は、環境基準の適合状況について示す。○＝適合、×＝超過

※2：時間の区分は、「騒音に係る環境基準について」（平成 10 年 9 月 環告 64）に基づく。

昼間 6:00～22:00、夜間 22:00～6:00。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

③ 騒音に係る苦情の状況

仙台市における平成 21 年度から平成 25 年度の騒音に係る苦情件数の推移は表 6.1-31、大和町における平成 21 年度から平成 25 年度の騒音に係る苦情件数の推移は表 6.1-32 に示すとおりである。

仙台市では、騒音に係る苦情件数は年間 97 件～139 件で推移している。大和町では、騒音に係る苦情件数は年間 0 件～3 件で推移している。

表 6.1-31 騒音に係る苦情件数の経年変化（仙台市内：平成 21 年度～平成 25 年度）

単位：件

項目 \ 年度	21	22	23	24	25
騒音	139	126	97	121	128

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-32 騒音に係る苦情件数の経年変化（大和町内：平成 21 年度～平成 25 年度）

単位：件

項目 \ 年度	21	22	23	24	25
騒音	3	0	2	0	2

出典：「公害苦情調査結果報告書」（宮城県環境生活部環境対策課）

④ 発生源の状況

仙台市における騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況は表 6.1-33、大和町における騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況は表 6.1-34 に示すとおりである。

仙台市の平成 25 年度の届出は、全 334 件のうち、工事種別ではビル等工事が 127 件（38%）を占めている。また、作業内容ではさく岩機を使用する作業が 192 件（57%）を占めている。大和町の平成 25 年度の届出は、くい打機・くい抜機を使用する作業の 1 件のみである。

図 5-1 に示す関係地域内における騒音規制法に基づく特定施設を有する事業所数及びその位置は、表 6.1-35 及び図 6.1-5 に示すとおりである。また、宮城県公害防止条例に基づく特定施設を有する事業所数及びその位置は、表 6.1-36 及び図 6.1-6 に示すとおりである。

表 6.1-33 仙台市内の騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成 25 年度）

単位：件

作業内容	工事種別	ビル等 工事	上下水道 等工事	道路河川 等工事	その他の 工事	合計
くい打機・くい抜機を使用する作業		18	—	2	15	35
びょう打機を使用する作業		—	—	—	—	—
さく岩機を使用する作業		90	1	23	78	192
空気圧縮機を使用する作業		2	—	2	31	35
コンクリートプラントを設けて行う作業		—	—	—	—	—
バックホウを使用する作業		17	3	7	45	72
トラクターショベルを使用する作業		—	—	—	—	—
ブルドーザーを使用する作業		—	—	—	—	—
計		127	4	34	169	334

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-34 大和町内の騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成 25 年度）

単位：件

作業内容	工事種別	合計
くい打機・くい抜機を使用する作業		1
びょう打機を使用する作業		0
さく岩機を使用する作業		0
空気圧縮機を使用する作業		0
コンクリートプラントを設けて行う作業		0
バックホウを使用する作業		0
トラクターショベルを使用する作業		0
ブルドーザーを使用する作業		0
計		1

出典：「宮城県公害資料（騒音・振動・悪臭編）」（宮城県環境生活部環境対策課）（平成 27 年 3 月）

※：ビル工事，上下水道等工事，等の内訳は公表されていない。

表 6.1-35 騒音規制法に基づく特定施設の状況

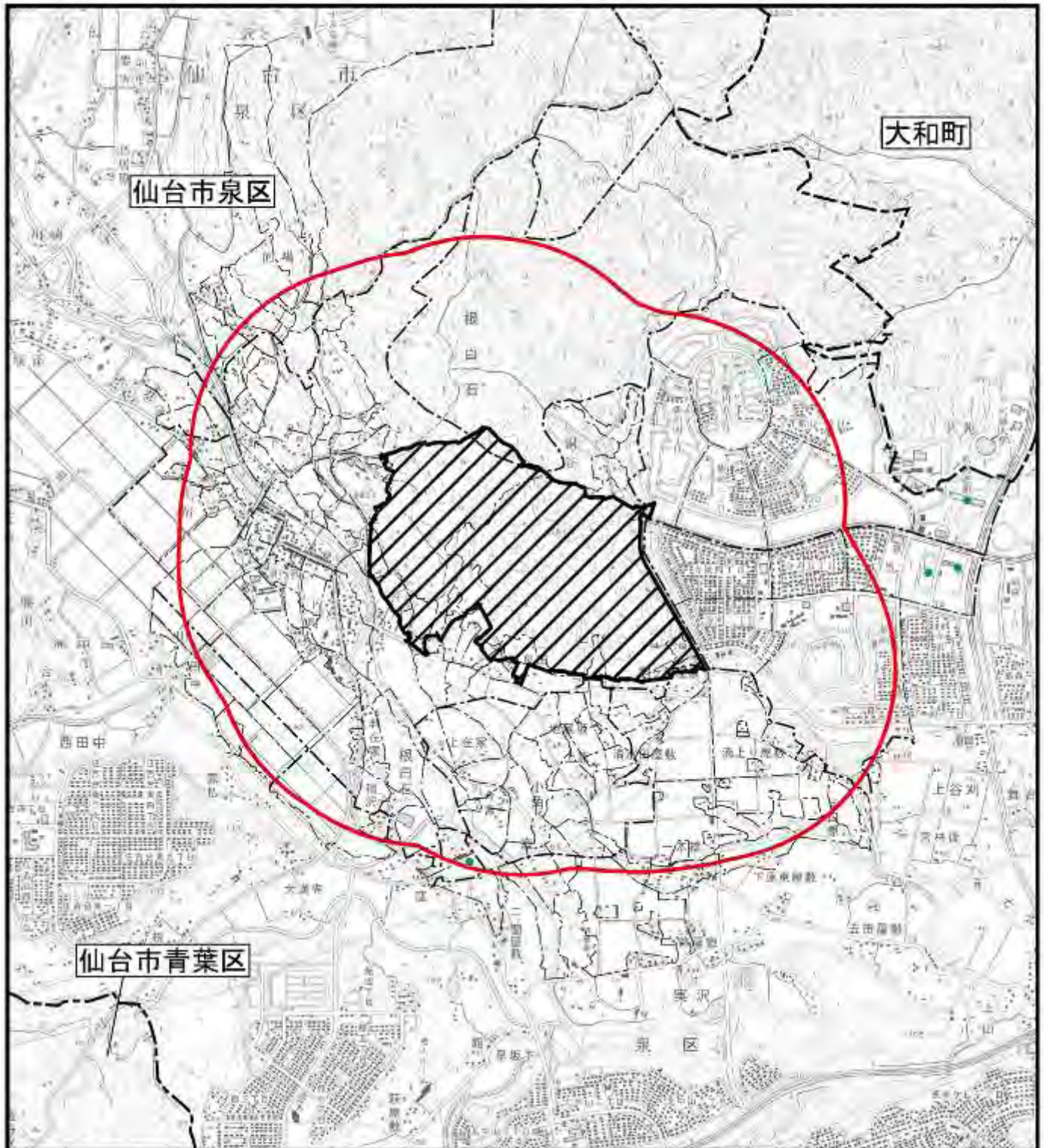
市区町名	事業場所在地	事業場数	施設数	
			総数	内訳
泉区	小角館前	1	1	印刷機械：1
	紫山一丁目	1	1	送風機：1
	寺岡六丁目	2	2	送風機：2

出典：仙台市環境局







表 6.1-36 宮城県公害防止条例（騒音）に基づく特定施設の状況

市区町名	事業場所在地	事業場数	施設数	
			総数	内訳
泉区	根白石字山田原	1	1	バーナー：1
	根白石字杉下前	1	1	バーナー：1
	根白石字清水屋敷	1	1	空気圧縮機：1
	根白石字堂ノ沢	1	2	クーリングタワー：1 バーナー：1
	根白石字福沢館下	1	1	液圧プレス：1
	根白石字福沢後	1	3	チップパー：1 クーリングタワー：1 液圧プレス：1
	寺岡六丁目	3	4	クーリングタワー：1 バーナー：3
	小角字宮	1	1	空気圧縮機：1

出典：仙台市環境局



凡例

-  : 対象事業区域
-  : 関係地域 (1.0kmの範囲)
-  : 市区町界
-  : 字界
-  : 町丁界・小字界
-  : 騒音規制法に基づく特定施設



S=1:30,000

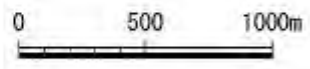
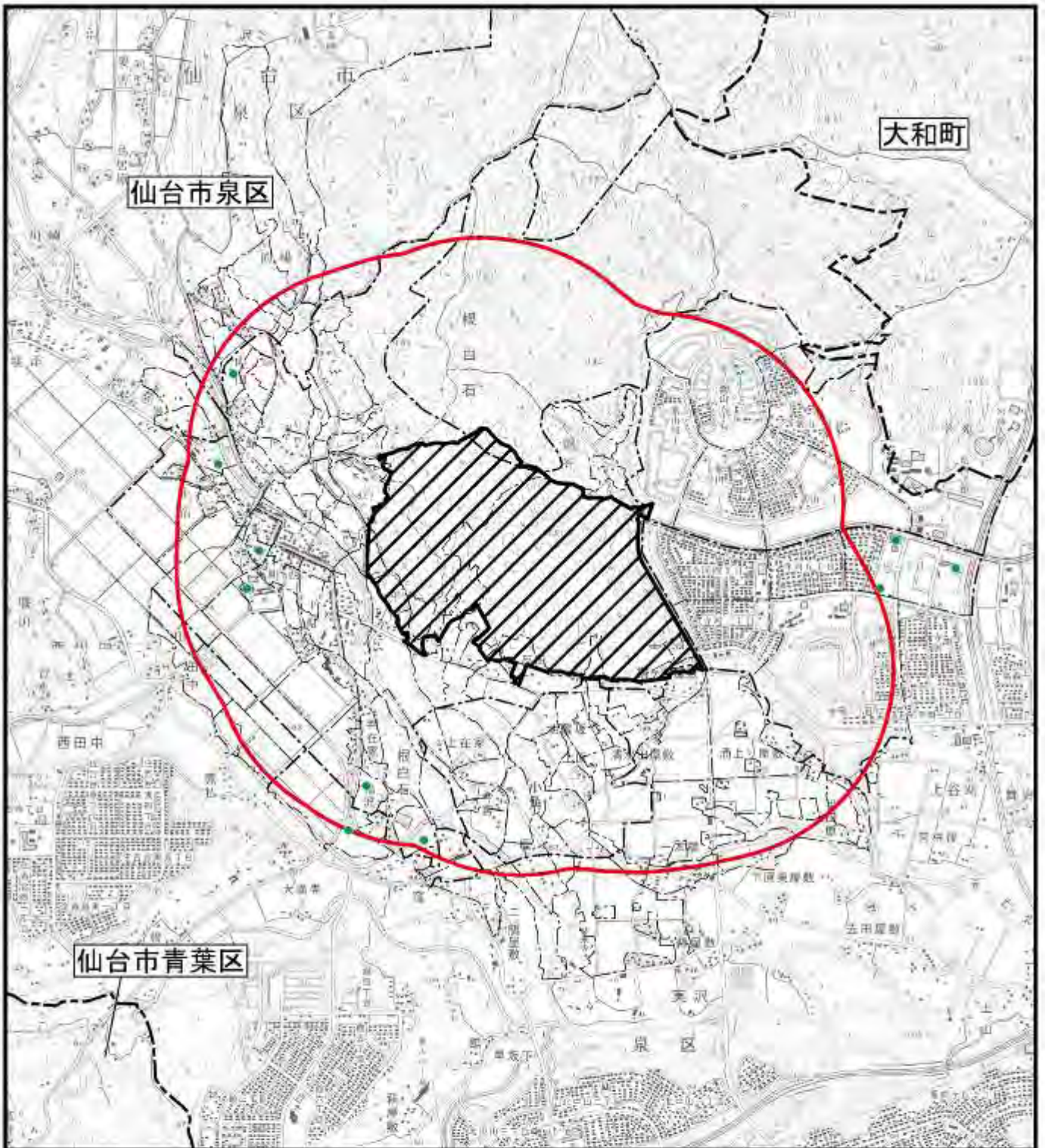








図 6.1-5
騒音規制法に基づく
特定施設

出典：仙台市環境局



凡例

-  : 対象事業区域
-  : 関係地域 (1.0kmの範囲)
-  : 市区町界
-  : 字界
-  : 町丁界・小字界
-  : 宮城県公害防止条例(騒音)に基づく特定施設



S=1:30,000

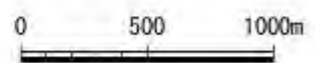


図 6.1-6
宮城県公害防止条例
(騒音)に基づく特定施設

出典：仙台市環境局

イ 騒音防止上の留意点

対象事業計画地の北西に近接して根白石中学校が存在するため、工事中の騒音の影響について配慮する。

また、寺岡地区における供用後の自動車交通騒音について検討し、必要に応じて保全対策を行う。

(4) 振動

ア 振動の状況

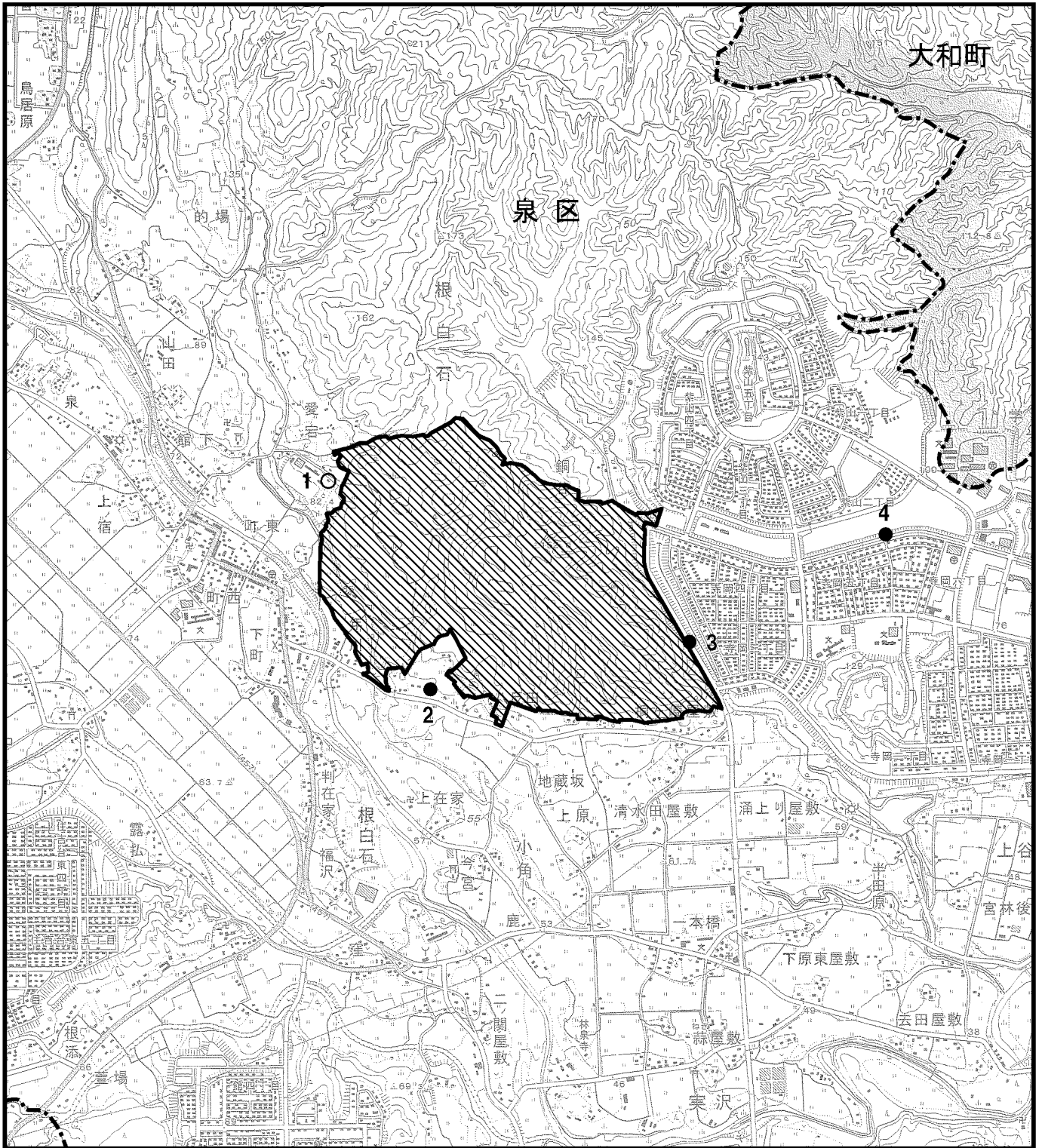
「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)によると、調査範囲内において、平成 21 年度から平成 25 年度まで自動車交通振動測定は実施されていない。

平成 12 年 3 月評価書において、環境振動調査、道路交通振動調査が実施されている。測定項目は表 6.1-37、測定地点位置は図 6.1-7 に示すとおりである。





表 6.1-37 振動調査測定項目(平成 12 年 3 月評価書)

調査期間	地点 No.	地点名	環境振動	道路交通振動
平成 9 年 11 月 13~14 日(平日) 平成 9 年 11 月 9~10 日(休日)	1	—	○	—
平成 9 年 9 月 4~5 日(平日) 平成 9 年 8 月 24~25 日(休日)	2	市道桐ヶ崎年川線	—	○
	3	市道荒巻根白石線	—	○
	4	市道宮沢根白石線	—	○

出典:「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 環境振動調査地点 (図中番号 : 1)
-  : 道路振動調査地点 (図中番号 : 2~4)

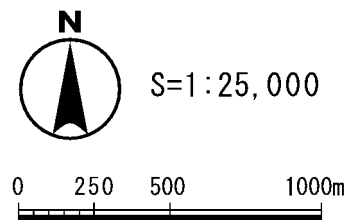


図 6.1-7
振動調査地点位置図
(平成12年3月評価書)

出典:「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
(平成12年3月 三菱地所株式会社)

① 環境振動

a) 文献調査

「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)によると、調査範囲内において、環境振動の測定は実施されていない。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書における環境振動の測定結果は、表 6.1-38 に示すとおりである。測定値は、昼間、夜間とも基準値を満足している。

表 6.1-38 環境振動測定結果(平成 12 年 3 月評価書)

単位: dB

調査期間	地点 No.	用途地域	区域の区分	測定結果(最大 L_{10})		規制基準	
				昼間	夜間	昼間	夜間
平成 9 年 11 月 13~14 日(平日)	1	無指定	第一種区域	21 (○)	19 (○)	55	50
平成 9 年 11 月 9~10 日(休日)				17 (○)	10 (○)		

※1: 測定結果のカッコ内は、規制基準の適合状況について示す。○=満足する, ×=満足していない
 ※2: No.1 は「学校等の周囲 50m の区域内」に当たるため、規制基準を第一種区域の基準値から 5dB 減じている。
 昼間 8:00~19:00, 夜間 19:00~8:00。
 出典:「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

② 道路交通振動

a) 文献調査

「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果)(仙台市環境局)によると、調査範囲内において、道路交通振動の測定は実施されていない。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書における道路交通振動の測定結果は、表 6.1-39 に示すとおりである。各測定地点の振動レベル (L_{10}) は 19~40dB であり、昼間、夜間とも要請限度を満足している。

表 6.1-39 道路交通振動測定結果(平成 12 年 3 月評価書)

単位: dB

調査期間	地点 No.	用途地域	規制区分	測定結果(最大 L_{10})		要請限度	
				昼間	夜間	昼間	夜間
平成 9 年 9 月 4~5 日(平日)	2	無指定	第一種区域	26 (○)	20 (○)	65	60
平成 9 年 8 月 24~25 日(休日)				23 (○)	19 (○)		
平成 9 年 9 月 4~5 日(平日)	3	第一種住居地域	第一種区域	35 (○)	27 (○)	70	65
平成 9 年 8 月 24~25 日(休日)				28 (○)	23 (○)		
平成 9 年 9 月 4~5 日(平日)	4	近隣商業	第二種区域	40 (○)	33 (○)	70	65
平成 9 年 8 月 24~25 日(休日)				30 (○)	29 (○)		

※: 測定結果のカッコ内は、規制基準の適合状況について示す。○=満足する, ×=満足していない
 昼間 8:00~19:00, 夜間 19:00~8:00。
 出典:「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

③ 振動に係る苦情の状況

仙台市における平成 21 年度から平成 25 年度の振動に係る苦情件数の推移は表 6.1-40、大和町における平成 21 年度から平成 25 年度の振動に係る苦情件数の推移は表 6.1-41 に示すとおりである。

仙台市では、振動に係る苦情件数は年間 2 件～15 件で推移している。大和町では、過去 5 年間、振動に係る苦情は出されていない。

表 6.1-40 振動に係る苦情件数の経年変化（仙台市内：平成 21 年度～平成 25 年度）

単位：件

項目 \ 年度	21	22	23	24	25
振動	14	2	12	15	11

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-41 振動に係る苦情件数の経年変化（大和町内：平成 21 年度～平成 25 年度）

単位：件

項目 \ 年度	21	22	23	24	25
振動	0	0	0	0	0

出典：「公害苦情調査結果報告書」（宮城県環境生活部環境対策課）

④ 発生源の状況

仙台市における振動規制法に基づく特定建設作業届出状況は表 6.1-42、大和町における振動規制法に基づく特定建設作業届出状況は表 6.1-43 に示すとおりである。

仙台市における平成 25 年度の届出は全体 208 件のうち、工事種別ではビル等工事が 97 件 (47%)、作業内容ではブレーカーを使用する作業が 149 件 (72%) を占めている。大和町の平成 25 年度の届出は、くい打機・くい抜機を使用する作業の 1 件のみである。

図 5-1 に示す関係地域内における振動規制法に基づく特定施設を有する事業所数及びその位置は、表 6.1-44 及び図 6.1-8 に示すとおりである。また、宮城県公害防止条例に基づく特定施設を有する事業所数及びその位置は、表 6.1-45 及び図 6.1-9 に示すとおりである。

表 6.1-42 仙台市内の振動規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成 25 年度）

単位：件

作業内容	工事種別				合計
	ビル等 工事	上下水道 等工事	道路河川 等工事	その他の 工事	
くい打機・くい抜機を使用する作業	29	—	2	26	57
鉄球を使用して破壊する作業	—	—	—	—	—
舗装破砕機を使用する作業	—	—	1	1	2
ブレーカーを使用する作業	68	1	15	65	149
計	97	1	18	92	208

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-43 大和町内の振動規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成 25 年度）

単位：件

作業内容	工事種別		合計
	ビル等 工事	上下水道 等工事	
くい打機・くい抜機を使用する作業	—	1	1
鉄球を使用して破壊する作業	—	—	0
舗装破砕機を使用する作業	—	—	0
ブレーカーを使用する作業	—	—	0
計	—	—	1

出典：「宮城県公害資料（騒音・振動・悪臭編）」（宮城県環境生活部環境対策課）（平成 27 年 3 月）

※：ビル工事，上下水道等工事，等の内訳は公表されていない。

表 6.1-44 振動規制法に基づく特定施設の状況

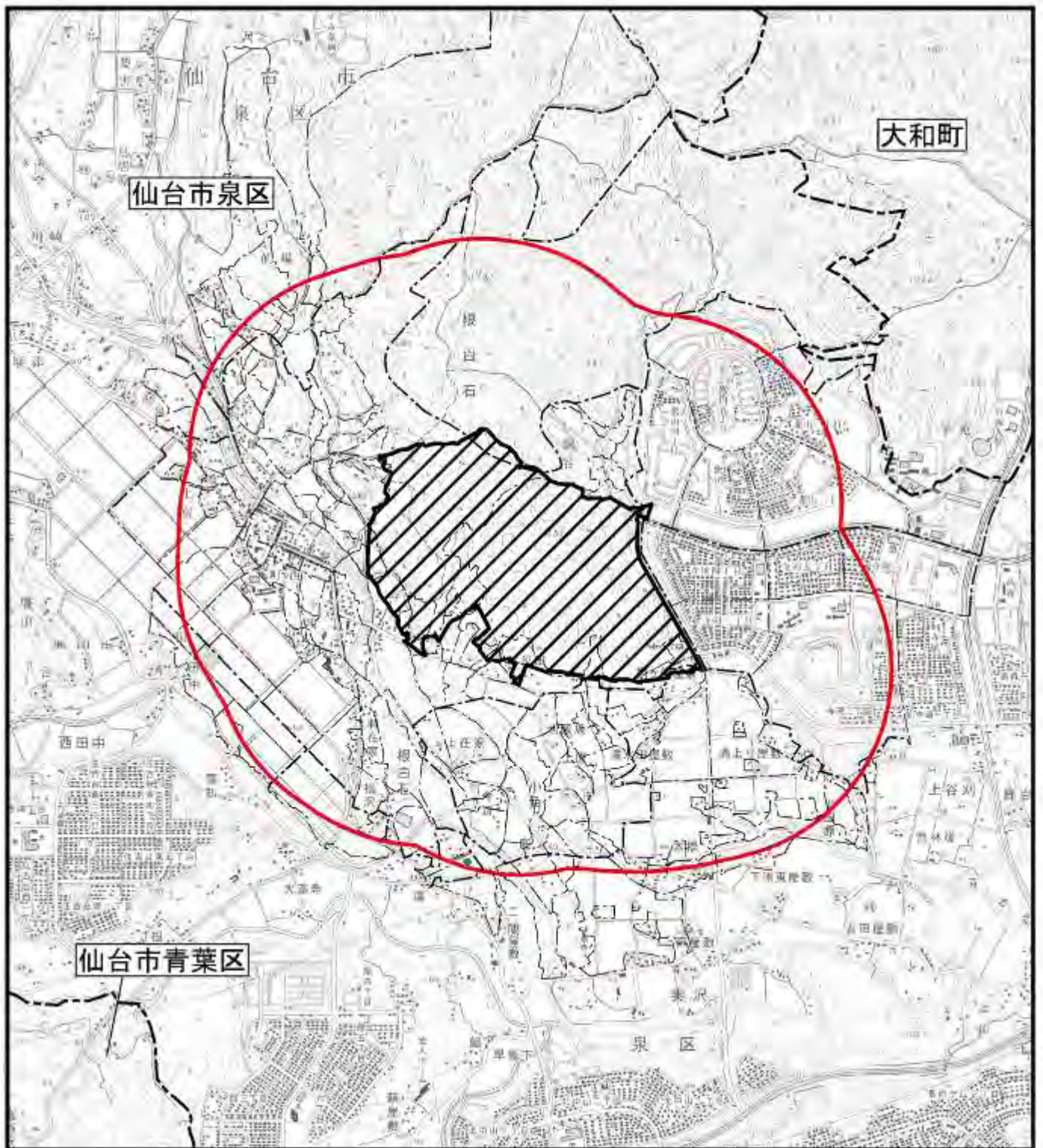
市区町名	事業場所在地	事業場数	施設数	
			総数	内訳
泉区	小角館前	1	1	印刷機械：1

出典：仙台市環境局







表 6.1-45 宮城県公害防止条例（振動）に基づく特定施設の状況

市区町名	事業場所在地	事業場数	施設数	
			総数	内訳
泉区	根白石字杉下前	1	1	冷凍機：1
	根白石字福沢館下	1	1	液圧プレス：1
	根白石字福沢後	1	2	液圧プレス：1 チッパー：1
	紫山一丁目	2	2	冷凍機：2
	寺岡四丁目	1	1	冷凍機：1
	寺岡六丁目	2	2	冷凍機：2
	小角字宮	1	1	圧縮機：1

出典：仙台市環境局



凡例

-  : 対象事業区域
-  : 関係地域 (1.0kmの範囲)
-  : 市区町界
-  : 字界
-  : 町丁界・小字界
-  : 振動規制法に基づく特定施設

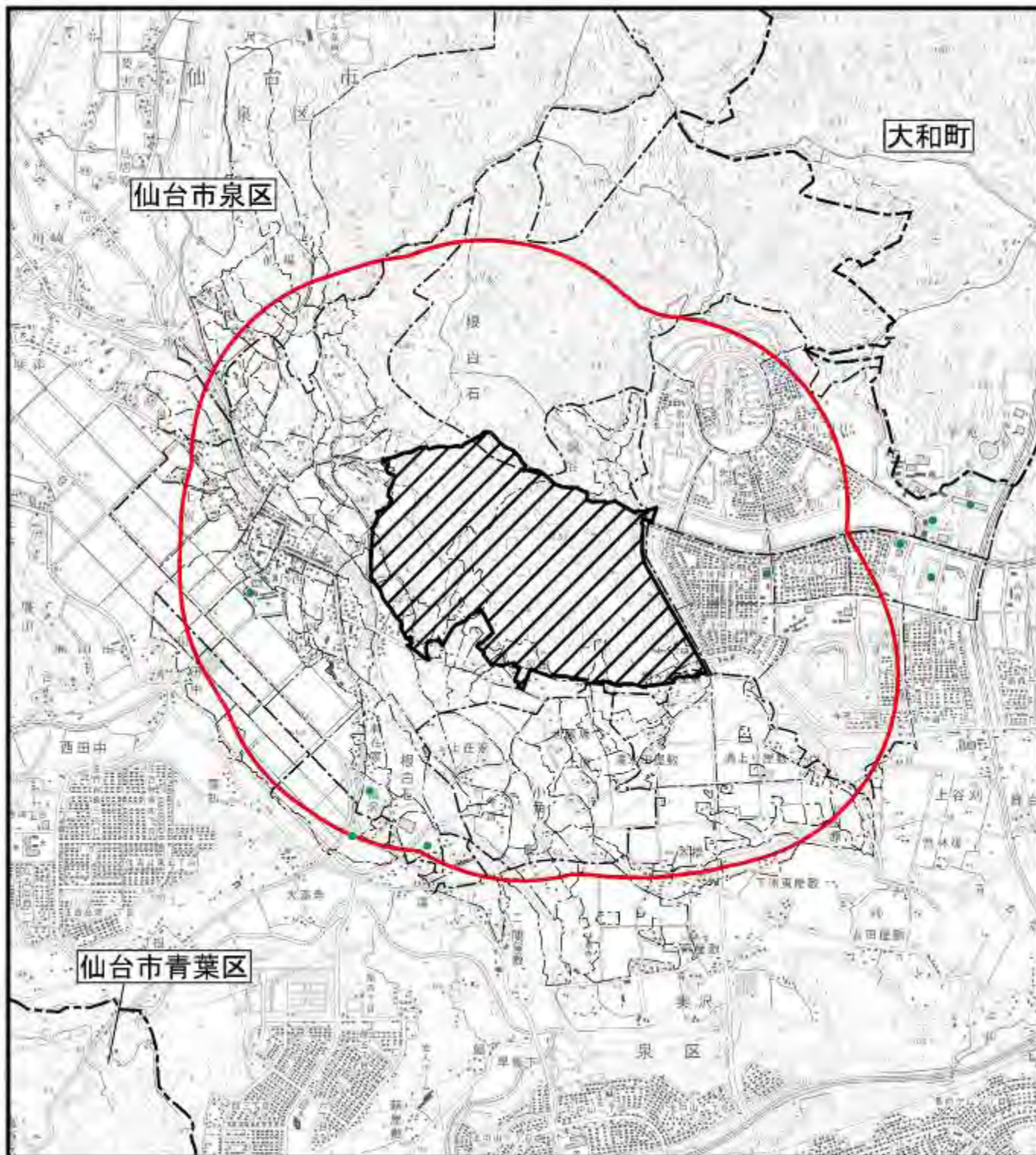


S=1:30,000









図 6.1-8
振動規制法に基づく
特定施設

出典：仙台市環境局



凡例

-  : 対象事業区域
-  : 関係地域 (1.0kmの範囲)
-  : 市区町界
-  : 字界
-  : 町丁界・小字界
-  : 宮城県公害防止条例(振動)に基づく特定施設



S=1:30,000

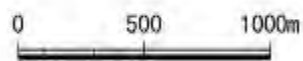


図 6.1-9
宮城県公害防止条例
(振動)に基づく特定施設

出典：仙台市環境局

イ 振動防止上の留意点

対象事業計画地の北西に近接して根白石中学校が存在するため、工事中の振動の影響について配慮する。

また、寺岡地区における供用後の自動車交通振動について検討し、必要に応じて保全対策を行う。

(5) 低周波音

ア 低周波音の状況

① 低周波音に係る苦情の状況

仙台市内では、「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、平成 25 年度に低周波音に関する苦情が 1 件寄せられているが、騒音苦情として取り扱われている。大和町では、「公害苦情調査結果報告書」（宮城県環境生活部環境対策課）によると、平成 25 年度に低周波音に関する苦情は出されていない。

② 発生源の状況

市街地周辺には青葉山トンネルや北山トンネル等があるが、調査範囲には低周波音の発生源となると考えられる高架道路、トンネル及び工場は存在しない。

なお、平成 12 年 3 月評価書において、低周波音の測定は行われていない。

イ 低周波音防止上の留意点

本事業では、低周波音の発生が予想される工事及び施設の計画はない。

(6) 悪臭

ア 悪臭の状況

① 悪臭に係る苦情の状況

仙台市における平成 21 年度から平成 25 年度の悪臭に係る苦情件数の推移は表 6.1-46、大和町における平成 21 年度から平成 25 年度の悪臭に係る苦情件数の推移は表 6.1-47 に示すとおりである。

仙台市では、平成 25 年度は全体 30 件のうち個人住宅・アパート・寮に係るものが 8 件、次いでサービス業・その他及び不明が 6 件となっている。苦情件数は年間 19 件～39 件で推移している。大和町では、苦情件数は年間 0 件～3 件で推移している。

表 6.1-46 悪臭に係る苦情件数の経年変化（仙台市内：平成 21 年度～平成 25 年度）

単位：件

発生源区分	年度	21	22	23	24	25
畜産農業		—	1	—	—	2
飼料・肥料製造工場		2	—	—	—	—
食料品製造工場		1	3	1	—	1
化学工場		—	—	—	—	—
その他の製造工場		—	—	3	2	4
サービス業・その他		8	8	7	14	6
移動発生源		—	—	—	—	—
建設作業現場		3	—	1	1	2
下水・用水		—	—	3	—	—
ごみ集積所		—	1	1	—	1
個人住宅・アパート・寮		3	4	3	8	8
不明		7	2	7	14	6
計		24	19	26	39	30

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-47 悪臭に係る苦情件数の経年変化（大和町内：平成 21 年度～平成 25 年度）

単位：件

発生源区分	年度	21	22	23	24	25
悪臭		1	1	3	0	3

出典：「公害苦情調査結果報告書」（宮城県環境生活部環境対策課）

※：発生源区分は公表されていない。

② 発生源の状況

仙台市では、「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、悪臭に係る苦情件数が多い発生源区分は表 6.1-46 に示すとおり、個人住宅・アパート・寮、次いでサービス業・その他である。大和町では、内訳は不明である。

個人住宅・アパート・寮の発生源としてはごみ焼き・浄化槽等であり、サービス業・その他の発生源としては廃棄物処理業・飲食店・医療機関等である。

図 5-1 に示す関係地域内では、宮城県公害防止条例に基づく悪臭に係る特定施設は無い。

なお、平成 12 年 3 月評価書において、悪臭の測定は行われていない。

イ 悪臭防止上の留意点

本事業では、悪臭の発生が予想される工事及び施設の計画はない。

6.1.2. 水環境

(1) 水質

ア 水質汚濁の状況

① 水質の状況

a) 文献調査

調査範囲では、対象事業計画地の西から南側を流れる七北田川の福岡大堰、鼻毛橋、七北田川の支流である長谷倉川、西田中川及び萱場川の最下流、竹林川の黒木橋、対象事業計画地の南東側にある丸田沢ため池出口、三共堤池出口の計8地点で水質測定が実施されている。水質調査地点は、図 6.1-10 に示すとおりである。

平成 21 年度から平成 25 年度における各測定地点の測定結果は、表 6.1-48～表 6.1-59 に示すとおりである。

調査結果は、生活環境項目については、西田中川で pH 及び SS、萱場川で pH、BOD 及び SS が環境基準を満足しなかった月がみられる。また、大腸菌群数は、全調査地点で環境基準を満足しなかった月がみられる。健康項目については、全調査地点においていずれの測定項目も環境基準を満足している。

表 6.1-48 河川の水質調査結果（生活環境項目）(1/6)

河川名		七北田川					環境基準 (A)
地点名		福岡大堰 (No. 1)					
環境基準類型		A					
年度		H21	H22	H23	H24	H25	
pH	最大～最小 (年平均)	7.2～7.9 (7.7)	7.3～7.9 (7.7)	7.1～7.7 (7.5)	7.3～7.8 (7.5)	7.0～8.1 (7.5)	6.5 以上 8.5 以下
DO (mg/L)	最大～最小 (年平均)	9.4～14 (11)	8.8～14 (11)	9.2～14 (11)	8.7～14 (11)	9.0～14 (11)	7.5 以上
BOD (mg/L)	最大～最小 (年平均)	<0.5～0.9 (0.6)	<0.5～0.7 (0.6)	<0.5～1.0 (0.6)	<0.5～0.9 (0.6)	<0.5～1.6 (0.7)	2 以下
SS (mg/L)	最大～最小 (年平均)	<1～5 (2)	<1～13 (3)	<1～6 (2)	<1～5 (2)	<1～5 (3)	25 以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)	最大～最小 (年平均)	1.3×10^2 ～ 7.9×10^3 (2.7×10^3)	7.0×10 ～ 2.4×10^4 (4.5×10^3)	1.1×10^2 ～ 1.7×10^4 (3.5×10^3)	1.7×10^2 ～ 2.2×10^4 (5.2×10^3)	4.9×10 ～ 2.4×10^4 (4.2×10^3)	1,000 以下

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
出典：「公害関係資料集」（平成 21～25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-49 河川の水質調査結果（生活環境項目）(2/6)

河川名		七北田川					環境基準 (A)
地点名		鼻毛橋 (No. 2)					
環境基準類型		A					
年度		H21	H22	H23	H24	H25	
pH	最大～最小 (年平均)	7.4～7.9 (7.7)	7.3～8.0 (7.7)	7.4～7.9 (7.7)	7.4～8.1 (7.7)	7.1～8.3 (7.6)	6.5 以上 8.5 以下
DO (mg/L)	最大～最小 (年平均)	9.3～15 (12)	9.0～15 (11)	9.0～14 (11)	8.7～14 (11)	9.3～14 (11)	7.5 以上
BOD (mg/L)	最大～最小 (年平均)	<0.5～1.2 (0.7)	<0.5～1.0 (0.7)	<0.5～1.2 (0.7)	<0.5～1.3 (0.7)	0.6～2.0 (1.0)	2 以下
SS (mg/L)	最大～最小 (年平均)	<1～15 (4)	<1～9 (4)	<1～8 (3)	<1～6 (3)	<1～14 (4)	25 以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)	最大～最小 (年平均)	2.4×10^2 ～ 3.3×10^4 (6.5×10^3)	2.2×10^2 ～ 4.9×10^4 (7.2×10^3)	1.7×10^2 ～ 1.3×10^5 (1.8×10^4)	1.7×10^2 ～ 7.9×10^4 (1.3×10^4)	2.4×10^2 ～ 7.9×10^4 (1.7×10^4)	1,000 以下

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
出典：「公害関係資料集」（平成 21～25 年度測定結果）（仙台市環境局）

※：環境基準欄の類型は以下のとおり（河川）。

AA…水道 1 級，自然環境保全及び A 以下の欄に掲げるもの A…水道 2 級，水産 1 級，水浴及び B 以下の欄に掲げるもの
B…水道 3 級，水産 2 級及び C 以下の欄に掲げるもの C…水産 3 級，工業用水 1 級及び D 以下の欄に掲げるもの
D…工業用水 2 級，農業用水及び E の欄に掲げるもの E…工業用水 3 級，環境保全

表 6.1-50 河川の水質調査結果（生活環境項目）（3/6）

河川名		長谷倉川					環境基準 (A)
地点名		長谷倉川最下流(No. 3)					
環境基準類型		A					
年度		H21	H22	H23	H24	H25	
pH	最大～最小 (年平均)	7.4～7.9 (7.6)	7.3～7.8 (7.6)	7.3～7.7 (7.6)	7.3～7.9 (7.7)	7.1～8.0 (7.6)	6.5以上 8.5以下
DO (mg/L)	最大～最小 (年平均)	9.5～14 (11)	8.9～14 (11)	9.1～14 (11)	9.0～14 (11)	9.2～14 (11)	7.5以上
BOD (mg/L)	最大～最小 (年平均)	<0.5～<0.5 (<0.5)	<0.5～0.5 (0.5)	<0.5～0.5 (0.5)	<0.5～0.6 (0.5)	<0.5～0.8 (0.5)	2以下
SS (mg/L)	最大～最小 (年平均)	<1～2 (1)	<1～4 (2)	<1～2 (1)	<1～3 (1)	<1～2 (1)	25以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)	最大～最小 (年平均)	1.3×10^2 ～ 7.9×10^3 (2.4×10^3)	4.9×10 ～ 2.4×10^4 (3.6×10^3)	7.9×10 ～ 7.0×10^3 (2.2×10^3)	1.9×10 ～ 3.5×10^4 (4.2×10^3)	4.9×10 ～ 3.5×10^4 (4.4×10^3)	1,000以下

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-51 河川の水質調査結果（生活環境項目）（4/6）

河川名		西田中川					環境基準 (A)
地点名		西田中川最下流(No. 4)					
環境基準類型		A					
年度		H21	H22	H23	H24	H25	
pH	最大～最小 (年平均)	7.5～8.4 (7.8)	7.5～8.2 (7.8)	7.6～8.4 (7.9)	7.6～8.4 (7.9)	7.2～8.8 (7.8)	6.5以上 8.5以下
DO (mg/L)	最大～最小 (年平均)	8.6～14 (11)	8.8～14 (11)	8.9～14 (11)	8.7～15 (11)	9.0～15 (11)	7.5以上
BOD (mg/L)	最大～最小 (年平均)	<0.5～1.3 (0.7)	<0.5～1.4 (0.8)	<0.5～1.0 (0.7)	0.5～1.7 (0.9)	0.6～1.7 (0.9)	2以下
SS (mg/L)	最大～最小 (年平均)	<1～18 (3)	<1～5 (3)	<1～22 (4)	1～34 (5)	<1～20 (4)	25以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)	最大～最小 (年平均)	2.3×10^2 ～ 1.3×10^4 (4.2×10^3)	1.7×10^2 ～ 3.3×10^4 (7.6×10^3)	4.9×10^2 ～ 7.9×10^4 (1.8×10^4)	3.3×10^2 ～ 7.9×10^4 (1.7×10^4)	1.3×10^2 ～ 3.3×10^4 (8.4×10^3)	1,000以下

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-52 河川の水質調査結果（生活環境項目）（5/6）

河川名		萱場川					環境基準 (A)
地点名		萱場川最下流(No. 5)					
環境基準類型		A					
年度		H21	H22	H23	H24	H25	
pH	最大～最小 (年平均)	7.6～8.7 (8.2)	7.6～9.1 (8.2)	7.7～9.1 (8.3)	7.8～9.1 (8.3)	7.4～9.2 (8.2)	6.5以上 8.5以下
DO (mg/L)	最大～最小 (年平均)	10～15 (12)	8.4～15 (12)	9.7～15 (12)	8.9～15 (12)	9.0～15 (12)	7.5以上
BOD (mg/L)	最大～最小 (年平均)	0.6～1.7 (1.0)	0.5～1.8 (1.0)	<0.5～2.1 (1.0)	<0.5～2.2 (1.1)	0.7～2.1 (1.2)	2以下
SS (mg/L)	最大～最小 (年平均)	<1～4 (2)	<1～6 (2)	<1～16 (3)	<1～9 (3)	<1～37 (5)	25以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)	最大～最小 (年平均)	2.3×10^2 ～ 4.9×10^4 (1.1×10^4)	4.9×10 ～ 1.4×10^5 (1.5×10^4)	7.0×10 ～ 2.2×10^4 (5.5×10^3)	3.3×10 ～ 4.6×10^4 (8.8×10^3)	4.9×10 ～ 4.9×10^4 (8.1×10^3)	1,000以下

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

※：環境基準欄の類型は以下のとおり（河川）。

AA…水道1級，自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの A…水道2級，水産1級，水浴及びB以下の欄に掲げるもの
B…水道3級，水産2級及びC以下の欄に掲げるもの C…水産3級，工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの
D…工業用水2級，農業用水及びEの欄に掲げるもの E…工業用水3級，環境保全

表 6.1-53 河川の水質調査結果（生活環境項目）（6/6）

河川名	竹林川					環境基準 (B)
地点名	黒木橋(No. 6)					
環境基準類型	B					
年度	H21	H22	H23	H24	H25	
pH	7.5	7.7	7.6	7.6	7.6	6.5以上 8.5以下
DO (mg/L)	10	9.9	9.4	10	9.1	5以上
BOD (mg/L)	1.8	1.0	0.9	1.0	1.5	3以下
SS (mg/L)	3	2	2	1	3	25以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)	7.9×10^2	3.3×10^4	7.0×10^4	2.8×10^3	1.1×10^4	5,000以下

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
出典：「平成21～25年度河川水質検査結果表」（大和町役場町民生活課）

※：環境基準欄の類型は以下のとおり（河川）

AA…水道1級，自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの A…水道2級，水産1級，水浴及びB以下の欄に掲げるもの
B…水道3級，水産2級及びC以下の欄に掲げるもの C…水産3級，工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの
D…工業用水2級，農業用水及びEの欄に掲げるもの E…工業用水3級，環境保全

表 6.1-54 湖沼の水質調査結果（生活環境項目）（1/2）

河川名	丸田沢ため池					
地点名	丸田沢ため池出口(No. 7)					
環境基準類型	—					
年度		H21	H22	H23	H24	H25
pH	最大～最小 (年平均)	7.6～8.5 (8.0)	7.3～8.2 (7.7)	7.4～8.8 (7.9)	7.2～8.4 (7.6)	7.5～8.4 (7.7)
DO (mg/L)	最大～最小 (年平均)	8.6～14 (11)	6.9～13 (10)	7.7～14 (11)	5.6～14 (9.6)	5.9～15 (10)
COD (mg/L)	最大～最小 (年平均)	3.5～9.2 (5.6)	3.7～10 (5.9)	3.9～13 (6.1)	4.8～7.7 (5.8)	4.0～10 (6.4)
SS (mg/L)	最大～最小 (年平均)	3～29 (8)	2～15 (8)	3～16 (9)	4～11 (7)	3～15 (9)
大腸菌群数 (MPN/100mL)	最大～最小 (年平均)	1.7×10^2 ～ 4.9×10^3 (1.9×10^3)	7.9×10 ～ 1.7×10^5 (1.8×10^4)	2.4×10^2 ～ 1.7×10^4 (2.6×10^3)	1.1×10^2 ～ 7.9×10^4 (1.2×10^4)	2.4×10^2 ～ 9.2×10^4 (1.5×10^4)

出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-55 湖沼の水質調査結果（生活環境項目）（2/2）

河川名	三共堤池					
地点名	三共堤池出口(No. 8)					
環境基準類型	—					
年度		H21	H22	H23	H24	H25
pH	最大～最小 (年平均)	—	7.2～9.0 (7.7)	—	—	—
DO (mg/L)	最大～最小 (年平均)	—	6.4～12 (9.9)	—	—	—
COD (mg/L)	最大～最小 (年平均)	—	3.9～7.1 (5.1)	—	—	—
SS (mg/L)	最大～最小 (年平均)	—	2～8 (5)	—	—	—
大腸菌群数 (MPN/100mL)	最大～最小 (年平均)	—	1.3×10 ～ 4.9×10^2 (2.3×10^2)	—	—	—

出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-56 水質測定結果（健康項目）（1/4）

単位：mg/L

項目	七北田川									環境基準
	福岡大堰(No. 1)									
	H21			H22			H23			
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	
カドミウム	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L 以下
全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05mg/L 以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.03mg/L 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02mg/L 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.10	0.29	0.19	0.11	0.38	0.19	0.095	0.31	0.20	10mg/L 以下
フッ素	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
ホウ素	<0.01	0.09	0.05	0.02	0.08	0.05	0.04	0.13	0.09	1mg/L 以下
1,4-ジオキサン	—	—	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下

※：「ND」とは、定量下限値未満を示し、定量下限値は次のとおり。

全シアン (0.1mg/L)、アルキル水銀 (0.0005mg/L)、PCB (0.0005mg/L)

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典：「公害関係資料集」（平成 21～25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-57 水質測定結果（健康項目）（2/4）

単位：mg/L

項目	河川名 測定地点 年度		七北田川				環境基準
			福岡大堰(No. 1)				
			H24		H25		
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	
カドミウム	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L以下
全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05mg/L以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
チオベンカルブ	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02mg/L以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.12	0.29	0.20	0.085	0.39	0.22	10mg/L以下
フッ素	<0.08	0.08	0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
ホウ素	0.06	0.10	0.08	0.04	0.07	0.05	1mg/L以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L以下

※：「ND」とは、定量下限値未満を示し、定量下限値は次のとおり。

全シアン (0.1mg/L), アルキル水銀 (0.0005mg/L), PCB (0.0005mg/L)

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典：「公害関係資料集」（平成 21～25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-58 水質測定結果（健康項目－硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素）（3/4）

単位：mg/L

測定地点	H21			H22			H23			H24			H25		
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
七北田川 鼻毛橋 (No. 2)	0.13	0.39	0.23	0.11	0.42	0.24	0.095	0.35	0.22	0.11	0.35	0.22	0.085	0.42	0.26
長谷倉川 長谷倉川最下流 (No. 3)	0.12	0.29	0.22	0.13	0.47	0.23	0.085	0.36	0.22	0.10	0.43	0.24	0.065	0.49	0.25
西田中川 西田中川最下流 (No. 4)	0.12	0.45	0.22	0.095	0.43	0.24	0.025	0.27	0.16	0.025	0.29	0.16	0.035	0.49	0.24
萱場川 萱場川最下流 (No. 5)	0.20	1.7	0.97	0.36	1.8	0.80	0.40	1.2	0.87	0.39	1.3	0.91	0.44	1.4	0.94
丸田沢ため池 丸田沢ため池出口 (No. 7)	0.42	0.93	0.66	0.20	0.95	0.62	0.099	0.82	0.45	0.19	0.84	0.50	<0.015	0.80	0.55
三共堤池 三共堤池出口 (No. 8)	—	—	—	0.10	0.43	0.32	—	—	—	—	—	—	—	—	—

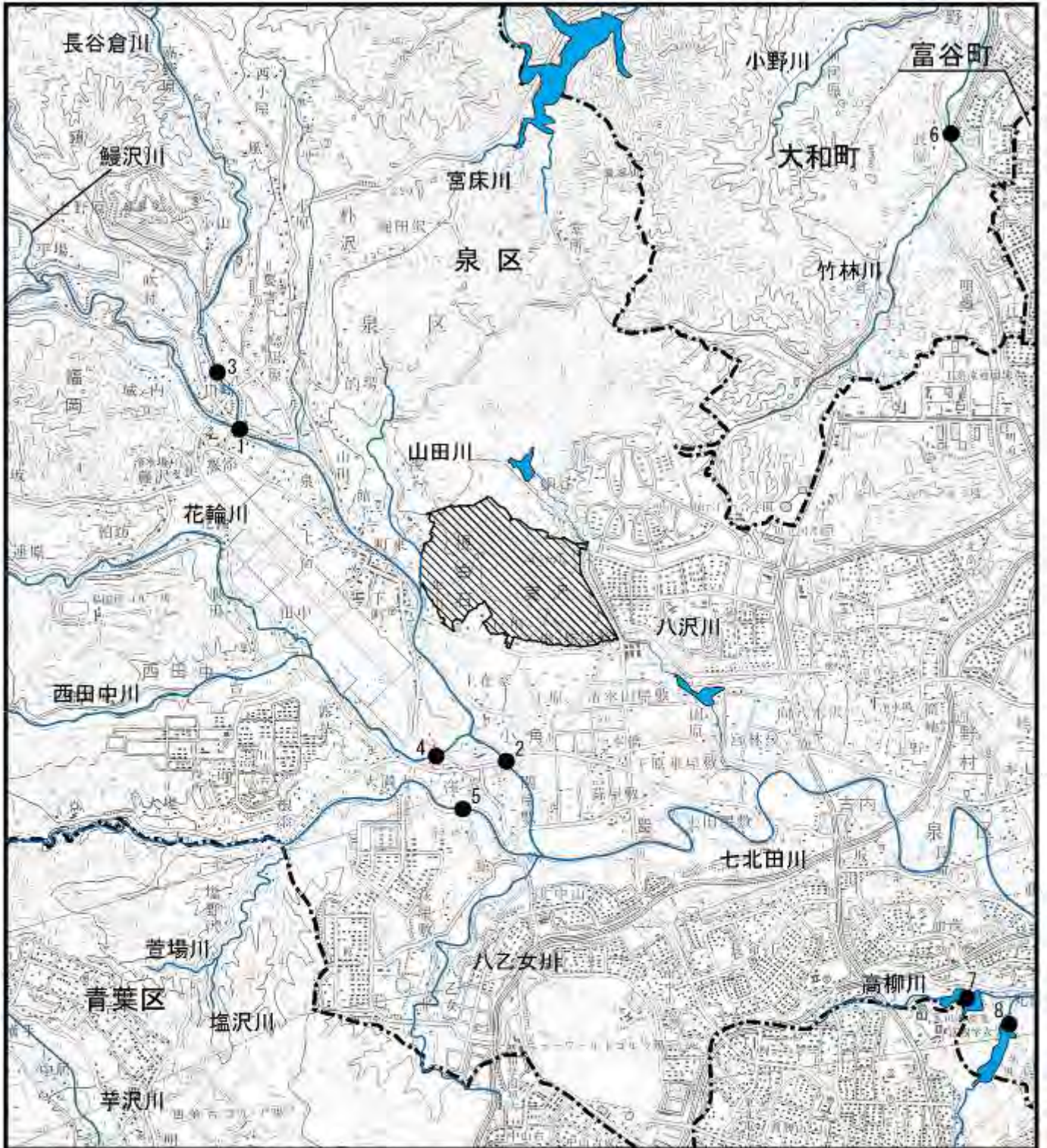
出典：「公害関係資料集」（平成 21～25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-59 水質測定結果（健康項目）（4/4）




単位：mg/L

河川名 測定地点 年度	竹林川					環境基準
	黒木橋(No. 6)					
測定地点	H21	H22	H23	H24	H25	
カドミウム	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L 以下
全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
六価クロム	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L 以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	0.002	0.001	0.01mg/L 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
PCB	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと

※：「ND」とは、定量下限値未満を示し、定量下限値は次のとおり。
 全シアン（0.1mg/L）、アルキル水銀（0.0005mg/L）、PCB（0.0005mg/L）
 ※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
 出典：「平成 21～25 年度河川水質検査結果表」（大和町役場町民生活課）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 河川

● : 水質調査地点 (图中番号: 1~8)

- No. 1 : 福岡大堰 (七北田川)
- No. 2 : 鼻毛橋 (七北田川)
- No. 3 : 長谷倉川最下流 (長谷倉川)
- No. 4 : 西田中川最下流 (西田中川)
- No. 5 : 菅場川最下流 (菅場川)
- No. 6 : 黒木橋 (竹林川)
- No. 7 : 丸田沢ため池出口 (丸田沢ため池)
- No. 8 : 三共堤池出口 (三共堤池)



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

図 6.1-10
水質調査地点位置図
(文献調査)

出典: 1. 「公害関係資料集」(平成21~25年度測定結果)(仙台市環境局)
2. 「平成21~25年度河川水質検査結果表」(大和町役場町民生活課)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、対象事業計画地近傍で水質測定を実施している。水質調査地点は No. 1 山田川, No. 2 新堰水路, No. 3 八沢川の 3 地点(図 6.1-12 参照)である。測定結果は, 表 6.1-60 及び図 6.1-11 に示すとおりである。

BOD が No. 2 新堰水路及び No. 3 八沢川の 2 月, 大腸菌群数が No. 1 山田川の 8 月及び 2 月, No. 2 新堰水路の 8 月, 11 月及び 2 月, No. 3 八沢川の 8 月について環境基準を満足しなかったが, その他の生活環境項目とすべての健康項目については, 3 地点とも環境基準を満足していた。

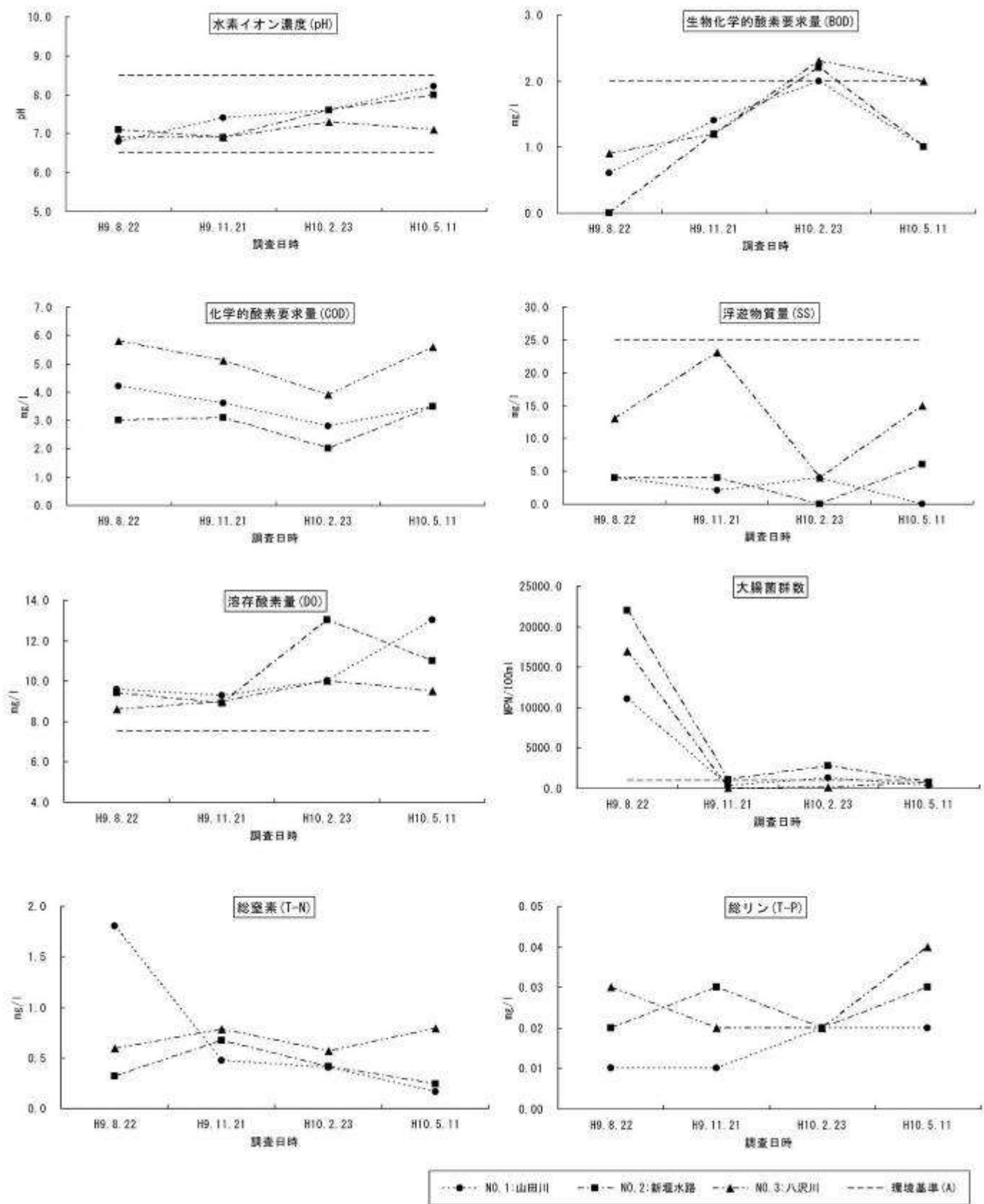
表 6.1-60 水質測定結果 (健康項目) (平成 12 年 3 月評価書)

単位: mg/L

項目	平成 9 年 8 月 22 日			環境基準
	No. 1(山田川)	No. 2(新堰水路)	No. 3(八沢川)	
カドミウム及びその化合物	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.003 以下
シアン化合物	不検出 (0.1 未満)	不検出 (0.1 未満)	不検出 (0.1 未満)	検出されないこと
鉛及びその化合物	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 以下
六価クロム化合物	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 以下
砒素	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.01 以下
総水銀	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 以下
アルキル水銀化合物	不検出 (0.0005 未満)	不検出 (0.0005 未満)	不検出 (0.0005 未満)	検出されないこと
PCB	不検出 (0.0005 未満)	不検出 (0.0005 未満)	不検出 (0.0005 未満)	検出されないこと
ジクロロメタン	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02 以下
四塩化炭素	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
トリクロロエチレン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.03 以下
テトラクロロエチレン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
チウラム	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
シマジン	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003 以下
チオベンカルブ	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.02 以下
ベンゼン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
セレン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下

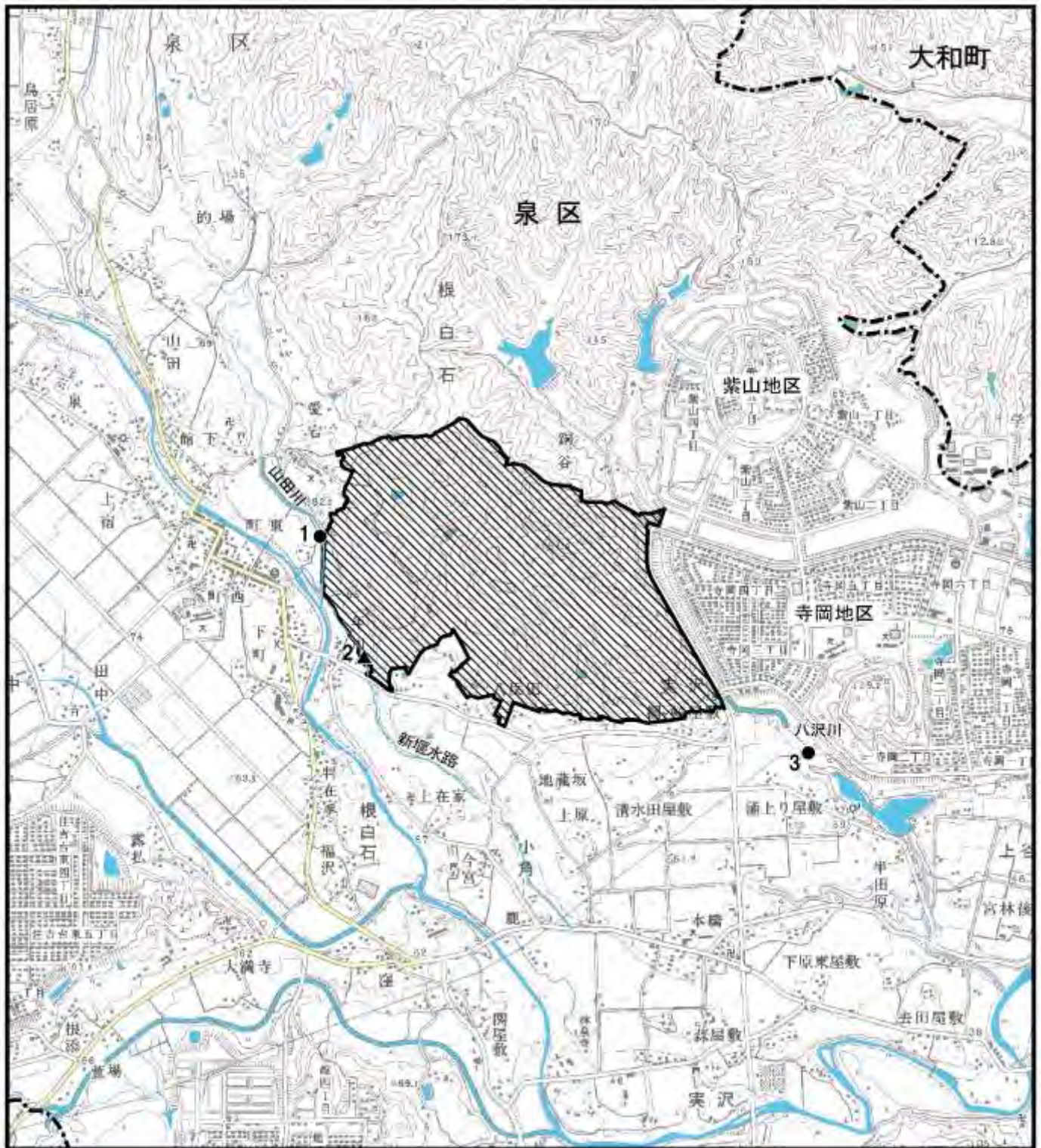
※: 表内の網掛けされた箇所は, 環境基準を満足しなかった値を示す。

出典: 「泉パークタウン住宅開発 (第 6 期) に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)







出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-11 水質測定結果（生活環境項目）（平成12年3月評価書）



凡例

-  : 対象事業計画地
 -  : 市区町境界線
 -  : 水質・底質調査地点 (図中番号: 1, 3)
 -  : 水質調査地点 (図中番号: 2)
- No. 1 : 山田川
 No. 2 : 新堰水路
 No. 3 : 八沢川



S=1:25,000

0 250 500 1000m

図 6.1-12
 水質・底質調査地点位置図
 (平成12年3月評価書)

出典:「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
 (平成12年3月 三菱地所株式会社)

c) 平成 26 年現地調査

平成 26 年 2 月, 4 月, 6 月に対象事業計画地近傍で水質測定を実施している。水質調査地点は図 1. 4-3 に示すように雨水排水流域区分及び主な放流先を勘案して, No. 1 山田川, No. 2 新堰水路, No. 3 銅谷水路, No. 4 八沢川, No. 5 七北田川, No. 6 開発区域内ため池の 6 地点(図 6. 1-13 参照)を設定した。測定結果は, 表 6. 1-61~表 6. 1-63 に示すとおりである。

環境基準との比較では, 以下に示すとおりであった。

- ・溶存酸素量は, 平成 26 年 6 月の No. 4 八沢川, No. 6 開発区域内ため池で基準を満足しなかった。
- ・生物化学的酸素要求量 (BOD) は, 平成 26 年 4 月の No. 5 七北田川で基準を満足しなかった。
- ・大腸菌群数は, 平成 26 年 2 月の No. 1 山田川, No. 3 銅谷水路, No. 4 八沢川で, 平成 26 年 4 月の No. 1 山田川, No. 2 新堰水路, No. 3 銅谷水路, No. 4 八沢川, No. 5 七北田川で, 平成 26 年 6 月の全地点で基準を満足しなかった。
- ・全窒素は, 平成 26 年 2 月, 平成 26 年 4 月及び平成 26 年 6 月の全地点で基準を満足しなかった。
- ・全リンは, 平成 26 年 2 月の No. 1 山田川, No. 2 新堰水路, No. 3 銅谷水路, No. 4 八沢川, No. 5 七北田川で, 平成 26 年 4 月及び平成 26 年 6 月の全地点で基準を満足しなかった。
- ・その他の項目については, 各地点で環境基準を満足していた。

農業用水基準との比較では, 以下に示すとおりであった。

- ・水素イオン濃度は, 平成 26 年 2 月の No. 4 八沢川, No. 5 七北田川で, 平成 26 年 4 月の No. 3 銅谷水路, No. 5 七北田川で基準を満足しなかった。
- ・化学的酸素要求量 (COD) は, 平成 26 年 4 月の No. 4 八沢川, No. 5 七北田川で基準を満足しなかった。
- ・全窒素は, 平成 26 年 2 月の No. 3 銅谷水路で, 平成 26 年 4 月の No. 1 山田川で基準を満足しなかった。
- ・その他の項目については, 各地点で農業用水基準を満足していた。

表 6. 1-61 水質測定結果 (平成 26 年 2 月)

項目 (単位)	採取年月 採取地点	平成 26 年 2 月						基準値
		No. 1 山田川	No. 2 新堰水路	No. 3 銅谷水路	No. 4 八沢川	No. 5 七北田川	No. 6 開発区域 内ため池	
環境基準 (生活環境項目 A 類型)	水素イオン濃度 (-)	7.0	7.3	7.5	8.0	7.8	7.2	6.5 以上 8.5 以下
	溶存酸素量 (mg/L)	12	14	14	12	14	13	7.5 以上
	生物化学的酸素要求量 (mg/L)	1.0	0.5 未満	1.3	1.1	0.7	0.5 未満	2 以下
	浮遊物質 (mg/L)	10	1	5	3	3	2	25 以下
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	1,700	170	2,400	2,400	790	220	1,000 以下
	全窒素 (mg/L)	0.71	1.0	2.6	0.43	0.46	0.61	0.2 以下
	全リン (mg/L)	0.048	0.047	0.12	0.022	0.026	0.005	0.01 以下
農業用水 (水稲) 基準	水素イオン濃度 (-)	7.0	7.3	7.5	8.0	7.8	7.2	6.0 以上 7.5 以下
	化学的酸素要求量 (mg/L)	4.6	4.6	5.3	4.4	2.6	3.4	6 以下
	浮遊物質 (mg/L)	10	1	5	3	3	2	100 以下
	溶存酸素量 (mg/L)	12	14	14	12	14	13	5 以上
	全窒素 (mg/L)	0.71	1.0	2.6	0.43	0.46	0.61	1 以下
	電気伝導度 (mS/cm)	0.079	0.075	0.15	0.14	0.12	0.091	0.3 以下
	ヒ素 (mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
亜鉛 (mg/L)	0.008	0.002	0.008	0.002	0.001	0.001	0.5 以下	
銅 (mg/L)	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.02 以下

※: 表内の網掛けされた箇所は, 環境基準または農業用水基準を満足しなかった値を示す。

表 6.1-62 水質測定結果（平成 26 年 4 月）

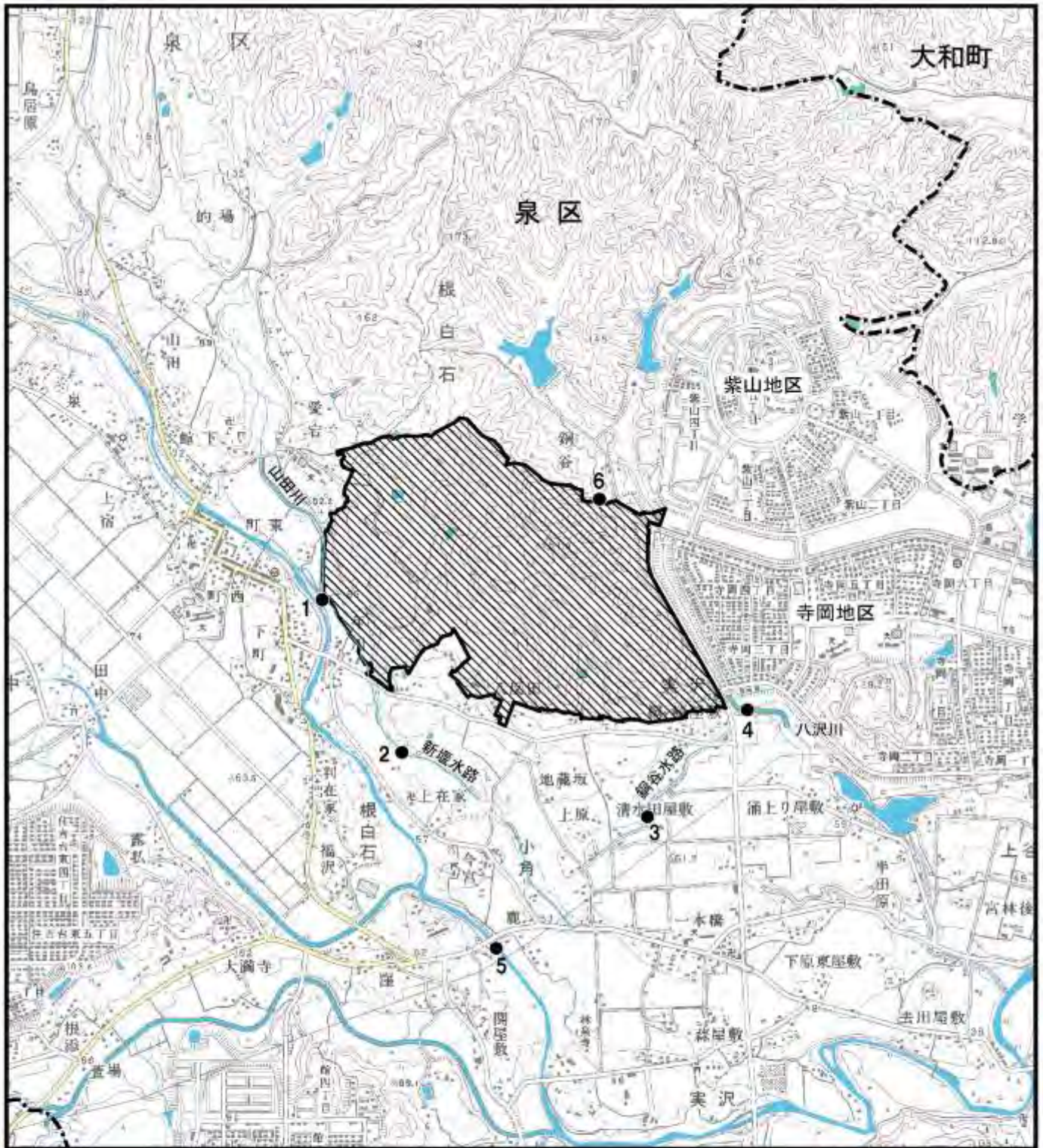
採取年月 採取地点		平成 26 年 4 月						基準値
		No. 1 山田川	No. 2 新堰水路	No. 3 銅谷水路	No. 4 八沢川	No. 5 七北田川	No. 6 開発区域内ため池	
項目（単位）								
環境基準 (生活環境項目A類型)	水素イオン濃度 (－)	7.0	7.4	8.4	7.4	7.8	7.1	6.5 以上 8.5 以下
	溶存酸素量 (mg/L)	11	11	11	8.4	10	8.4	7.5 以上
	生物化学的酸素要求量 (mg/L)	0.8	0.5 未満	1.8	1.9	4.0	1.0	2 以下
	浮遊物質 (mg/L)	4	3	8	6	12	8	25 以下
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	5,400	1,700	2,400	1,300	24,000 以上	79	1,000 以下
	全窒素 (mg/L)	1.2	0.29	0.59	0.60	0.74	0.33	0.2 以下
	全リン (mg/L)	0.075	0.021	0.086	0.061	0.13	0.018	0.01 以下
農業用水（水稲）基準	水素イオン濃度 (－)	7.0	7.4	8.4	7.4	7.8	7.1	6.0 以上 7.5 以下
	化学的酸素要求量 (mg/L)	3.8	2.2	5.9	6.1	6.8	4.6	6 以下
	浮遊物質 (mg/L)	4	3	8	6	12	8	100 以下
	溶存酸素量 (mg/L)	11	11	11	8.4	10	8.4	5 以上
	全窒素 (mg/L)	1.2	0.29	0.59	0.60	0.74	0.33	1 以下
	電気伝導度 (mS/cm)	0.16	0.10	0.10	0.10	0.079	0.086	0.3 以下
	ヒ素 (mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.05 以下
	亜鉛 (mg/L)	0.010	0.001	0.003	0.001	0.010	0.001 未満	0.5 以下
銅 (mg/L)	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.02 以下	

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準または農業用水基準を満足しなかった値を示す。


表 6.1-63 水質測定結果（平成 26 年 6 月）


採取年月 採取地点		平成 26 年 6 月						基準値
		No. 1 山田川	No. 2 新堰水路	No. 3 銅谷水路	No. 4 八沢川	No. 5 七北田川	No. 6 開発区域内ため池	
項目（単位）								
環境基準 (生活環境項目A類型)	水素イオン濃度 (－)	7.1	7.0	7.3	7.1	7.3	7.0	6.5 以上 8.5 以下
	溶存酸素量 (mg/L)	9.4	10	8.8	7.3	9.7	7.4	7.5 以上
	生物化学的酸素要求量 (mg/L)	1.0	0.5	1.6	0.9	0.5 未満	0.5 未満	2 以下
	浮遊物質 (mg/L)	5	5	3	2	3	1 未満	25 以下
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	24,000 以上	5,400	24,000 以上	9,200	5,400	2,200	1,000 以下
	全窒素 (mg/L)	0.55	0.42	1.0	0.79	0.43	1.0	0.2 以下
	全リン (mg/L)	0.055	0.021	0.069	0.034	0.036	0.012	0.01 以下
農業用水（水稲）基準	水素イオン濃度 (－)	7.1	7.0	7.3	7.1	7.3	7.0	6.0 以上 7.5 以下
	化学的酸素要求量 (mg/L)	5.1	2.5	6.0	4.9	4.8	3.7	6 以下
	浮遊物質 (mg/L)	5	5	3	2	3	1 未満	100 以下
	溶存酸素量 (mg/L)	9.4	10	8.8	7.3	9.7	7.4	5 以上
	全窒素 (mg/L)	0.55	0.42	1.0	0.79	0.43	1.0	1 以下
	電気伝導度 (mS/cm)	0.097	0.079	0.090	0.097	0.088	0.073	0.3 以下
	ヒ素 (mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.05 以下
	亜鉛 (mg/L)	0.009	0.002	0.003	0.003	0.002	0.001	0.5 以下
銅 (mg/L)	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.02 以下	

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準または農業用水基準を満足しなかった値を示す。



凡例

 : 対象事業計画地

 : 市区町境界線

● : 水質調査地点 (平成26年現地調査)

- No. 1 : 山田川
- No. 2 : 新堰水路
- No. 3 : 銅谷水路
- No. 4 : 八沢川
- No. 5 : 七北田川
- No. 6 : 開発区域内ため池



図 6.1-13
水質調査地点位置図
(平成 26 年現地調査)

② 水質に係る苦情の状況

仙台市における平成 21 年度から平成 25 年度の水質に係る苦情件数の推移は表 6.1-64、大和町における平成 21 年度から平成 25 年度の水質に係る苦情件数の推移は表 6.1-65 に示すとおりである。

仙台市では、水質に係る苦情件数は年間 0 件～7 件で推移している。大和町では、水質に係る苦情件数は年間 0 件～4 件で推移している。

表 6.1-64 水質に係る苦情件数の経年変化（仙台市内：平成 21 年度～平成 25 年度）

項目 \ 年度	21	22	23	24	25
水質	3	7	1	1	0

出典：「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-65 水質に係る苦情件数の経年変化（大和町内：平成 21 年度～平成 25 年度）

項目 \ 年度	21	22	23	24	25
水質	3	0	0	4	1

出典：「公害苦情調査結果報告書」（宮城県環境生活部環境対策課）

③ 水質に係る発生源の状況

図5-1に示す関係地域内での水質汚濁防止法による特定施設及びその位置図は表 6.1-66 及び図 6.1-14 に示すとおりであり、「自動式車両洗浄施設」が最も多くなっている。また、関係地域内での下水道法による特定施設及びその位置図は、表 6.1-67 及び図 6.1-15 に示すとおりである。関係地域内での宮城県公害防止条例による汚水等に係る特定施設及びその位置図は、表 6.1-68 及び図 6.1-16 に示すとおりである。

表 6.1-66 水質汚濁防止法による特定施設

No.	施設名称	施設数
1の2(イ)	畜産農業又はサービス業の用に供する施設であって、次に掲げるもの イ 豚房施設(豚房の総面積が50平方メートル未満の事業場に係るものを除く。)	1
1の2(ロ)	畜産農業又はサービス業の用に供する施設であって、次に掲げるもの ロ 牛房施設(牛房の総面積が200平方メートル未満の事業場に係るものを除く。)	4
4(イ)(ロ)(ハ)(ニ)	野菜又は果実を原料とする保存食料品製造業の用に供する施設であって、次に掲げるもの イ 原料処理施設 ロ 洗浄施設 ハ 圧搾施設 ニ 湯煮施設	1
23の2	新聞業、出版業、印刷業又は製版業の用に供する施設であって、次に掲げるもの イ 自動式フィルム現像洗浄施設 ロ 自動式感光膜付印刷版現像洗浄施設	1
66の2	旅館業(旅館業法第2条第1項に規定するもの(下宿営業を除く。)をいう。)の用に供する施設であって、つぎに掲げるもの イ ちゅう房施設 ロ 洗たく施設 ハ 入浴施設	1
67	洗たく業の用に供する洗浄施設	4
71	自動式車両洗浄施設	5
計		17

出典：水質汚濁防止法に基づく特定施設届出一覧(平成25年3月31日現在)

表 6.1-67 下水道法による特定施設

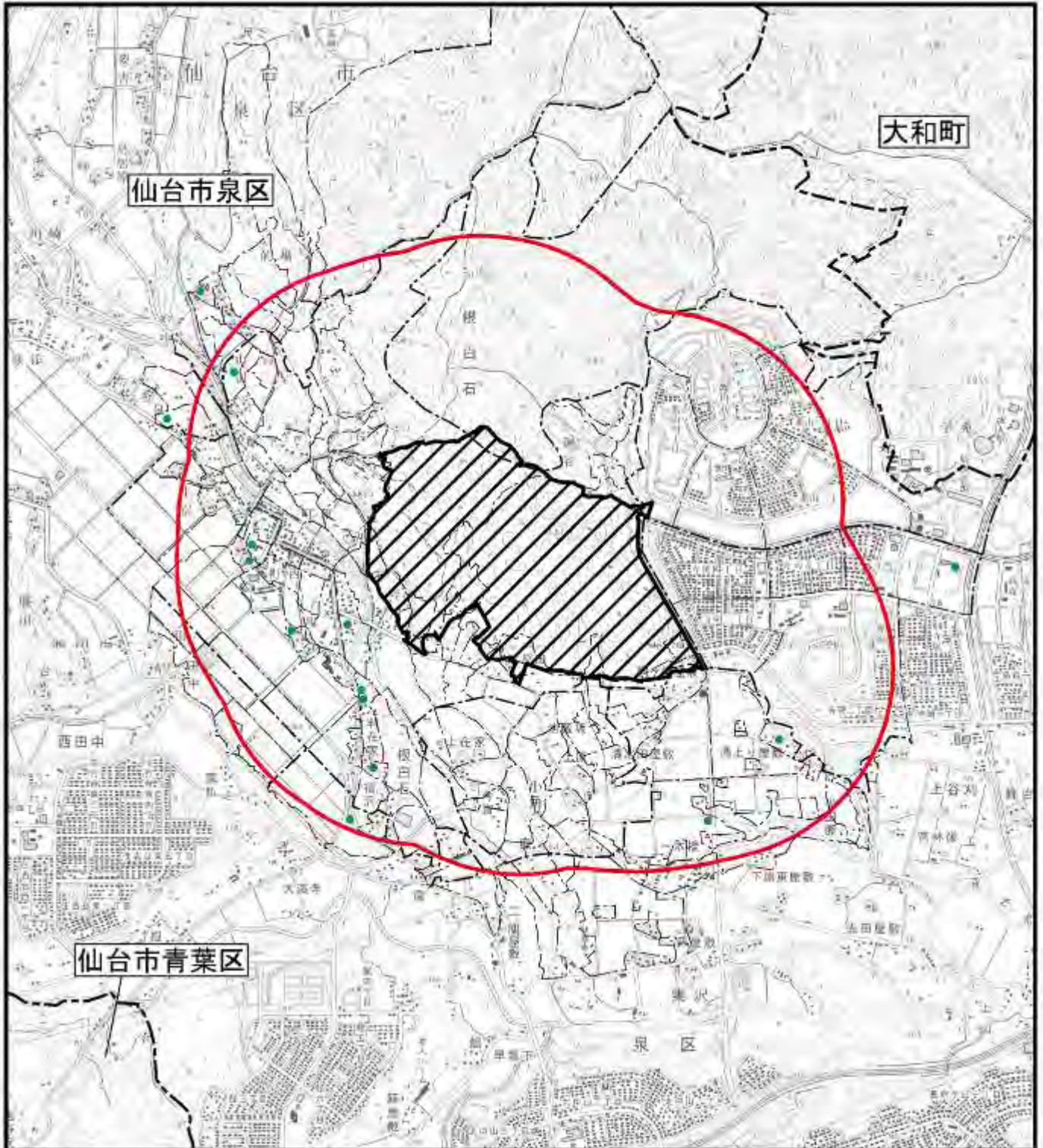
No.	施設名称	施設数
23の2	新聞業、出版業、印刷業又は製版業 (イ) 自動式フィルム現像洗浄施設 (ロ) 自動式感光膜付印刷版現像洗浄施設	1
66の6	総床面積が420m ² 以上の飲食店(66の7及び66の8に掲げるものを除く)に設置されるちゅう房施設	1
67	洗たく業の用に供する洗浄施設	1
71	自動式車両洗浄施設	1
計		4

出典：下水道法に基づく特定施設届出一覧(平成25年3月31日現在)







表 6.1-68 宮城県公害防止条例による汚水等に係る特定施設

特定施設の種類の	事業場数
公衆浴場業の用に供する洗場施設	1
計	1

出典：仙台市環境局(平成25年3月31日現在)



凡例

-  : 対象事業区域
-  : 関係地域 (1.0kmの範囲)
-  : 市区町界
-  : 字界
-  : 町丁界・小字界
-  : 水質汚濁防止法に基づく特定施設



S=1:30,000

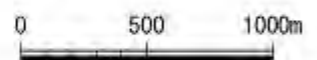
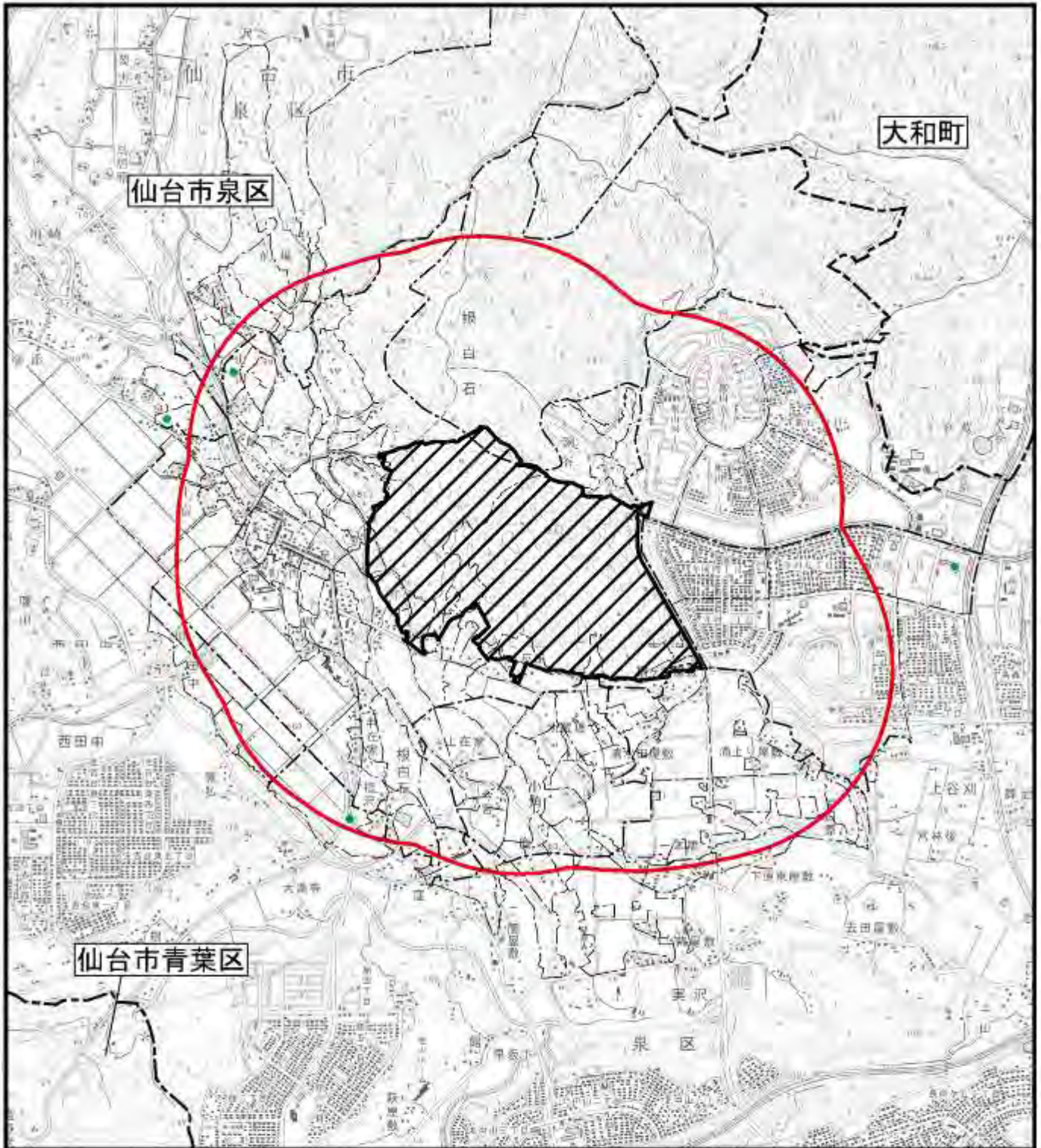








図 6.1-14
水質汚濁防止法に基づく
特定施設

出典：「水質汚濁防止法に基づく特定施設届出一覧」（仙台市）平成25年3月31日現在



凡例

-  : 対象事業区域
-  : 関係地域 (1.0kmの範囲)
-  : 市区町界
-  : 字界
-  : 町丁界・小字界
-  : 下水道法に基づく特定施設

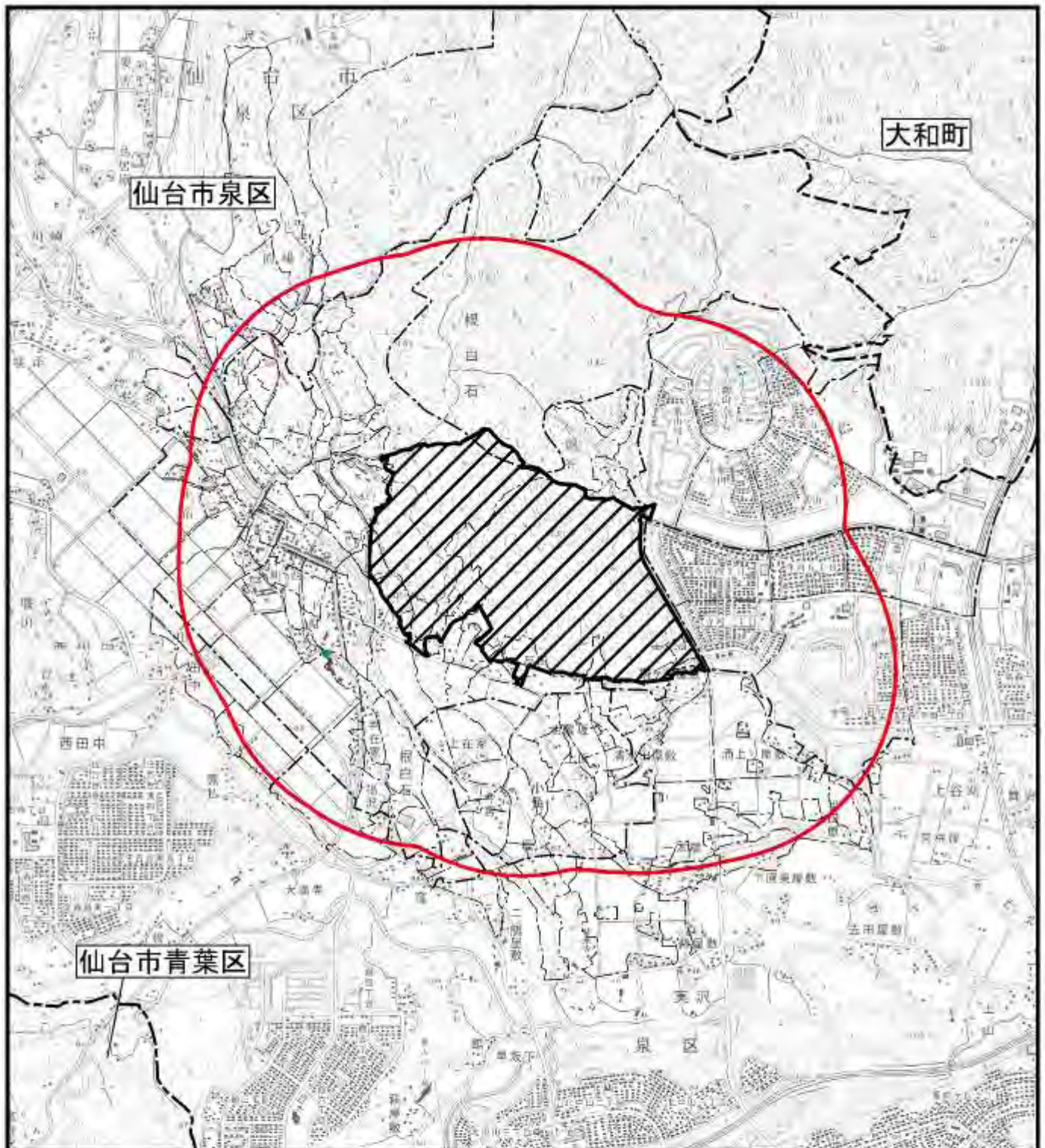


S=1:30,000







0 500 1000m

図 6.1-15
下水道法に基づく
特定施設

出典：「下水道法に基づく特定施設届出一覧」（仙台市）平成25年3月31日現在



凡例

-  : 対象事業区域
-  : 関係地域 (1.0kmの範囲)
-  : 市区町界
-  : 字界
-  : 町丁界・小字界
-  : 宮城県公害防止条例(汚水等)に基づく特定施設



S=1:30,000

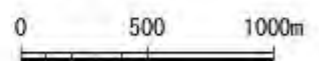


図 6.1-16
宮城県公害防止条例(汚水等)に基づく特定施設

出典：仙台市環境局

イ 水質保全上の留意点

対象事業計画地は、工事中に一時的に地山が裸地化し、降雨時に濁水が発生するおそれがあるため、防災調整池や仮設沈砂池等により、流域外に濁水が流出しないように配慮する。

(2) 底質
ア 底質の状況

a) 文献調査

「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、調査範囲では底質の測定は行われていない。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、図 6.1-12 に示す水質調査地点のうち No. 1 山田川、No. 3 八沢川の 2 地点で底質調査を実施している。水質調査地点の新堰水路は三面張水路のため、底質採取は不可能であった。

平成 12 年 3 月評価書における各測定地点の測定結果は、表 6.1-69 に示すとおりである。

含水率は 2 地点とも 25%、強熱減量は 1.3~1.4%、水素イオン濃度は 6.7~7.1、その他重金属等の項目は No. 1 山田川において鉛が 6.8mg/kg、砒素が 1.8mg/kg、No. 3 八沢川においては砒素が 2.8mg/kg である。その他の項目については、2 地点とも定量下限値未満であった。

表 6.1-69 底質調査結果（平成 12 年 3 月評価書）

採取年月日：平成 9 年 9 月 27 日

項目	調査地点名	No. 1 (山田川)	No. 3 (八沢川)
含水率	(%)	25	25
強熱減量	(%)	1.4	1.3
水素イオン濃度 (測定時水温 (°C))	—	6.7 (20)	7.1 (20)
カドミウム及びその化合物	(mg/kg)	0.1 未満	0.1 未満
シアン化合物	(mg/kg)	1 未満	1 未満
有機リン化合物	(mg/kg)	0.5 未満	0.5 未満
鉛及びその化合物	(mg/kg)	6.8	0.5 未満
六価クロム化合物	(mg/kg)	2 未満	2 未満
砒素及びその化合物	(mg/kg)	1.8	2.8
総水銀	(mg/kg)	0.01 未満	0.01 未満
アルキル水銀化合物	(mg/kg)	0.01 未満	0.01 未満
PCB	(mg/kg)	0.01 未満	0.01 未満

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

イ 底質に係る発生源の状況

図 5-1 に示す関係地域内では、水質汚濁防止法・下水道法による届出が出されている特定施設であって、土壤汚染対策法により指定された有害物質を使用している施設は存在しない。

ウ 底質保全上の留意点

本事業では、有害物質を排出する工事や設備は予定されていない。

(3) 地下水汚染

ア 地下水汚染の状況

a) 文献調査

調査範囲では、地下水概況調査（環境基準項目及び要監視項目）が7箇所、地下水概況調査（環境基準項目）が12箇所、ダイオキシン類に関する地下水水質調査が4箇所、地下水継続監視調査が6箇所平成21～25年度に実施されている。

地下水概況調査結果（環境基準項目及び要監視項目）は表 6.1-70 及び表 6.1-71、地下水概況調査結果（環境基準項目）は表 6.1-72 及び表 6.1-73、ダイオキシン類に関する地下水水質調査結果は表 6.1-74、地下水継続監視調査結果は表 6.1-75～表 6.1-80 に、地下水水質調査位置（三次メッシュコード）は図 6.1-17 に示すとおりである。

環境基準を満足しなかった地点は、

- ・ 硝酸性窒素と亜硝酸性窒素の測定結果が平成21年度～平成25年度における「5740-36-85」及び「5740-36-95」、平成21年度～平成22年度における「5740-36-86」、平成21年度～平成22年度及び平成24年度における「5740-36-87」であった。
- ・ 砒素の測定結果が平成21年度～平成25年度における「5740-36-84」、平成22年度～平成25年度における「5740-36-94」であった。

その他の地点及び項目については、すべての環境基準と要監視項目の指針値を満足していた。

表 6.1-70 地下水概況調査結果（環境基準項目・要監視項目）（1/2）

単位：mg/L

調査項目・環境基準	区名・三次メッシュコード 調査年月日	泉区	泉区	泉区	泉区	泉区	泉区	
		5740-46-33	5740-36-96	5740-46-04	5740-36-93	5740-36-97	5740-36-67	5740-46-19
		H21.10.30	H21.10.30	H23.12.19	H24.12.20	H24.12.19	H25.10.28	H25.10.30
水温	—	15.5	14.4	14.0	13.6	13.1	15.5	14.5
pH	—	6.2	6.7	6.6	6.7	6.7	7.1	7.2
カドミウム	0.003	<0.001	<0.001	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
全シアン	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
鉛	0.01	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
六価クロム	0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
砒素	0.01	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
総水銀	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
PCB	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ジクロロメタン	0.02	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
四塩化炭素	0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
塩化ビニルモノマー	0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
1,2-ジクロロエタン	0.004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
1,1-ジクロロエチレン	0.1	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
1,2-ジクロロエチレン	0.04	<0.008	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
1,1,1-トリクロロエタン	1	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
1,1,2-トリクロロエタン	0.006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
トリクロロエチレン	0.03	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
テトラクロロエチレン	0.01	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
1,3-ジクロロプロペン	0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
チウラム	0.006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
シマジン	0.003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
チオベンカルブ	0.02	<0.001	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ベンゼン	0.01	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
セレン	0.01	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10	5.4	8.7	4.4	0.14	10	0.51	1.7
フッ素	0.8	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.10	<0.08
ホウ素	1	0.02	0.03	0.05	0.01	<0.01	0.02	<0.01
1,4-ジオキサン	0.05	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

※1：「ND」とは、定量下限値未満を示し、定量下限値は次のとおり。

全シアン（0.1mg/L）、アルキル水銀（0.0005mg/L）、PCB（0.0005mg/L）

※2：「単位：mg/L」は、水温（℃）、pHを除く。

※3：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-71 地下水概況調査結果（環境基準項目・要監視項目）(2/2)

単位：mg/L

区名・三次メッシュコード 調査年月日 調査項目・指針値		泉区	泉区	泉区	泉区	泉区	泉区	泉区
		5740-46-33	5740-36-96	5740-46-04	5740-36-93	5740-36-97	5740-36-67	5740-46-19
		H21. 10. 30	H21. 10. 30	H23. 12. 19	H24. 12. 20	H24. 12. 19	H25. 10. 28	H25. 10. 30
クロロホルム	0.06	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
トランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	—	—	—	—	—	—	—
1,2-ジクロロプロパン	0.06	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
p-ジクロロベンゼン	0.2	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
イソキサチオン	0.008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
ダイアジノン	0.005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
フェニトロチオン (MEP)	0.003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
イソプロチオラン	0.04	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
オキシ銅 (有機銅)	0.04	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
クロロタロニル (TPN)	0.05	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
プロピザミド	0.008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
EPN	0.006	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
ジクロロボス (DDVP)	0.008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
フェノブカルブ (BPMC)	0.03	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
イプロベンホス (IBP)	0.008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
クロルニトロフェン (CNP)	—	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001
トルエン	0.6	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06
キシレン	0.4	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
フタル酸ジエチルヘキシル	0.06	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
ニッケル	—	<0.001	<0.001	<0.001	0.005	0.009	0.009	0.003
モリブデン	0.07	<0.007	<0.007	<0.007	<0.007	<0.007	<0.007	<0.007
アンチモン	0.02	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
エピクロロヒドリン	0.0004	<0.00004	<0.00004	<0.00004	<0.00004	<0.00004	<0.00004	<0.00004
全マンガン	0.2	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.06	<0.02
ウラン	0.002	<0.0002	0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002

※：表内の網掛けされた箇所は、要監視項目の指針値を満足しなかった値を示す。

出典：「公害関係資料集」（平成 21～25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-72 地下水概況調査結果（環境基準項目）（1/2）

単位：mg/L

調査項目・環境基準	区名・三次メッシュコード 調査年月日	泉区	泉区	泉区	泉区	泉区	泉区
		5740-46-41	5740-36-89	5740-36-94	5740-46-35	5740-36-98	5740-36-88
		H21.12.2	H21.12.2	H21.12.17	H22.12.2	H23.1.13	H23.1.13
水温	—	13.8	12.9	14.8	13.1	14.5	12.4
pH	—	6.3	6.7	7.4	7.5	7.3	6.7
カドミウム	0.003	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
全シアン	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND
鉛	0.01	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
六価クロム	0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
砒素	0.01	<0.005	<0.005	0.015	<0.005	<0.005	<0.005
総水銀	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND
PCB	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ジクロロメタン	0.02	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
四塩化炭素	0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
塩化ビニルモノマー	0.002	—	—	—	<0.0002	<0.0002	<0.0002
1,2-ジクロロエタン	0.004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
1,1-ジクロロエチレン	0.1	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
1,2-ジクロロエチレン	0.04	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
1,1,1-トリクロロエタン	1	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
1,1,2-トリクロロエタン	0.006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
トリクロロエチレン	0.03	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
テトラクロロエチレン	0.01	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
1,3-ジクロロプロペン	0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
チウラム	0.006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
シマジン	0.003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
チオベンカルブ	0.02	<0.001	<0.001	<0.001	<0.002	<0.002	<0.002
ベンゼン	0.01	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
セレン	0.01	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10	0.87	8.3	<0.011	4.1	2.4	4.0
フッ素	0.8	<0.08	<0.08	0.10	<0.08	<0.08	<0.08
ホウ素	1	<0.01	0.02	0.37	<0.01	<0.01	0.02
1,4-ジオキサン	0.05	—	—	—	<0.005	<0.005	<0.005

※1：「ND」とは、定量下限値未満を示し、定量下限値は次のとおり。

全シアン（0.1mg/L）、アルキル水銀（0.0005mg/L）、PCB（0.0005mg/L）

※2：「単位：mg/L」は、水温（℃）、pHを除く。

※3：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-73 地下水概況調査結果（環境基準項目）（2/2）

単位：mg/L

区名・三次メッシュコード 調査年月日		泉区	泉区	泉区	泉区	泉区	泉区
		5740-36-69	5740-36-75	5740-36-79	5740-46-02	5740-36-67	5740-46-19
		H23. 1. 13	H24. 1. 24	H23. 12. 20	H24. 1. 20	H25. 10. 28	H25. 10. 30
水温	—	13.0	9.3	14.7	9.0	15.5	14.5
pH	—	6.8	7.2	6.6	7.2	7.1	7.2
カドミウム	0.003	<0.001	<0.001	<0.0003	<0.001	<0.0003	<0.0003
全シアン	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND
鉛	0.01	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
六価クロム	0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
砒素	0.01	<0.005	<0.005	<0.005	0.005	<0.005	<0.005
総水銀	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND
PCB	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ジクロロメタン	0.02	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
四塩化炭素	0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
塩化ビニルモノマー	0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
1,2-ジクロロエタン	0.004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
1,1-ジクロロエチレン	0.1	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
1,2-ジクロロエチレン	0.04	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
1,1,1-トリクロロエタン	1	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
1,1,2-トリクロロエタン	0.006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
トリクロロエチレン	0.03	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
テトラクロロエチレン	0.01	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
1,3-ジクロロプロペン	0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
チウラム	0.006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
シマジン	0.003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
チオベンカルブ	0.02	<0.002	<0.001	<0.002	<0.001	<0.002	<0.002
ベンゼン	0.01	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
セレン	0.01	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10	0.40	<0.015	1.7	2.2	0.51	1.7
フッ素	0.8	<0.08	0.11	<0.08	0.11	0.10	<0.08
ホウ素	1	<0.01	0.11	0.01	0.03	0.02	<0.01
1,4-ジオキサン	0.05	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

※1：「ND」とは、定量下限値未満を示し、定量下限値は次のとおり。

全シアン（0.1mg/L）、アルキル水銀（0.0005mg/L）、PCB（0.0005mg/L）

※2：「単位：mg/L」は、水温（℃）、pHを除く。

※3：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-74 ダイオキシン類に関する地下水水質調査結果

単位：pg-TEQ/L

区名・三次メッシュコード 調査年月日		泉区	泉区	泉区	泉区
		5740-46-33	5740-36-96	5740-46-04	5740-36-93
		H21. 10. 30	H21. 10. 30	H23. 12. 19	H24. 12. 20
ダイオキシン類年平均値	1	0.056	0.056	0.045	0.046

※：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-75 地下水継続監視調査結果 (1/6)

単位：mg/L

区名・三次メッシュコード 調査年月日 調査項目・環境基準		泉区				
		5740-36-85				
		H21. 8. 26	H22. 8. 11	H24. 3. 13	H24. 10. 26	H25. 7. 10
水温	—	15.2	15.6	9.4	14.5	17.8
pH	—	6.2	5.9	6.4	5.9	6.3
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10	16	27	14	28	15
亜硝酸性窒素	—	<0.001	<0.005	0.006	0.010	0.006
アンモニア性窒素	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

※1：「単位：mg/L」は、水温（℃）、pHを除く。
 ※2：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
 出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-76 地下水継続監視調査結果 (2/6)

単位：mg/L

区名・三次メッシュコード 調査年月日 調査項目・環境基準		泉区		
		5740-36-86		
		H21. 9. 15	H22. 8. 11	H24. 3. 13
水温	—	17.2	16.9	6.3
pH	—	6.0	6.0	6.3
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10	18	12	7.0
亜硝酸性窒素	—	<0.001	<0.005	<0.005
アンモニア性窒素	—	<0.05	<0.05	<0.05

※1：「単位：mg/L」は、水温（℃）、pHを除く。
 ※2：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
 出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-77 地下水継続監視調査結果 (3/6)

単位：mg/L

区名・三次メッシュコード 調査年月日 調査項目・環境基準		泉区				
		5740-36-87				
		H21. 8. 26	H22. 8. 11	H24. 3. 13	H24. 10. 26	H25. 7. 10
水温	—	14.9	14.7	10.1	15.0	15.8
pH	—	6.2	6.2	6.7	6.3	6.4
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10	12	15	10	12	7.4
亜硝酸性窒素	—	0.001	<0.005	0.006	0.005	0.010
アンモニア性窒素	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

※1：「単位：mg/L」は、水温（℃）、pHを除く。
 ※2：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
 出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-78 地下水継続監視調査結果 (4/6)

単位：mg/L

区名・三次メッシュコード 調査年月日 調査項目・環境基準		泉区				
		5740-36-95				
		H21. 9. 15	H22. 8. 11	H24. 3. 13	H24. 10. 26	H25. 7. 10
水温	—	17.1	16.2	10.1	16.7	15.6
pH	—	6.1	7.0	6.7	6.2	6.2
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10	13	13	12	12	12
亜硝酸性窒素	—	<0.001	<0.005	<0.005	<0.005	0.006
アンモニア性窒素	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

※1：「単位：mg/L」は、水温（℃）、pHを除く。
 ※2：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。
 出典：「公害関係資料集」（平成21～25年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-79 地下水継続監視調査結果 (5/6)

単位：mg/L

区名・三次メッシュコード 調査年月日 調査項目・環境基準		泉区				
		5740-36-84				
		H21. 9. 15	H22. 8. 11	H24. 3. 13	H24. 10. 26	H25. 7. 10
水温	—	16.9	14.4	13.2	16.5	19.0
pH	—	9.1	9.0	9.1	9.0	9.0
砒素	0.01	0.017	0.017	0.019	0.018	0.019

※1：「単位：mg/L」は、水温（℃）、pHを除く。

※2：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典：「公害関係資料集」（平成 21～25 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-80 地下水継続監視調査結果 (6/6)

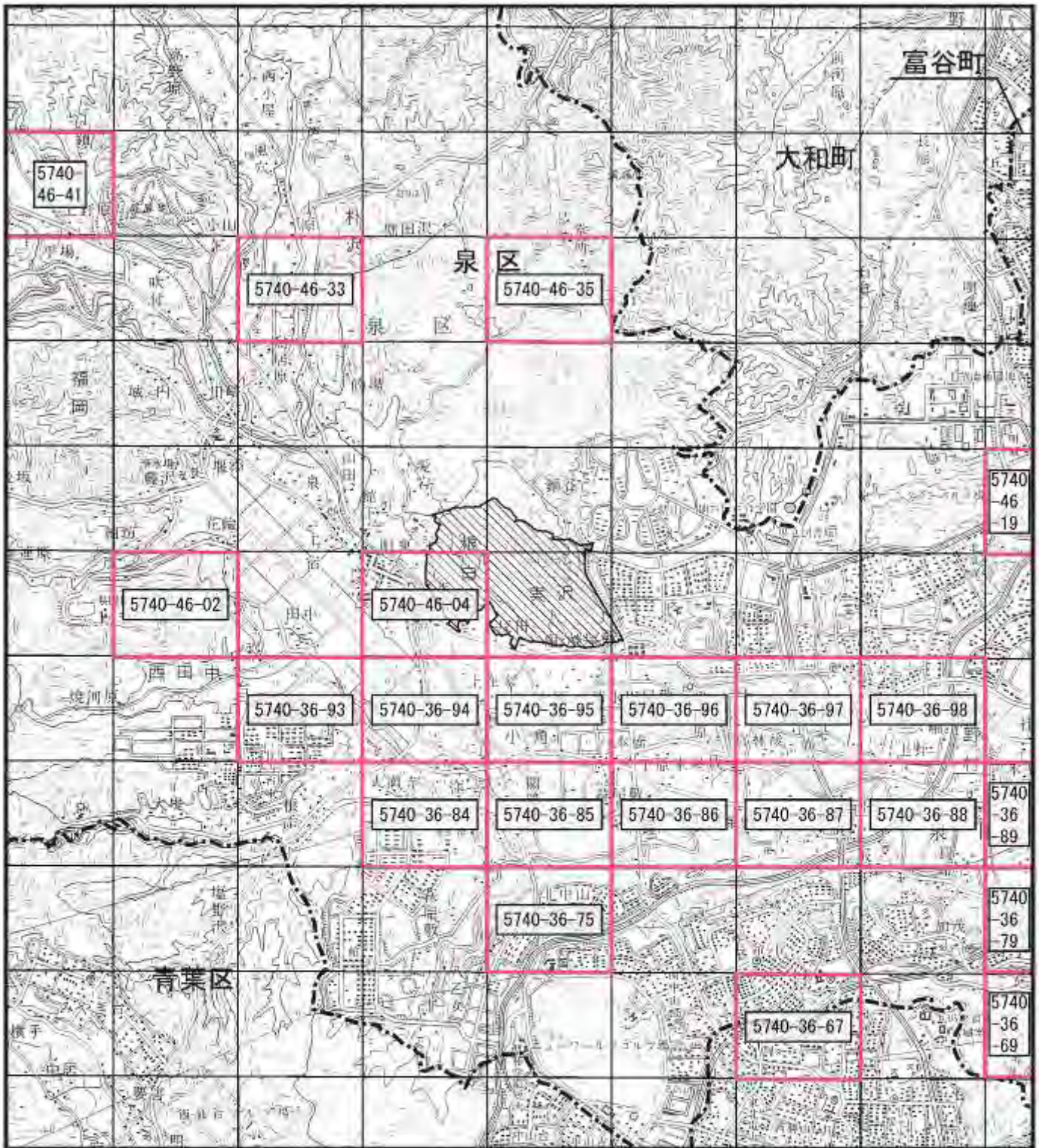
単位：mg/L

区名・三次メッシュコード 調査年月日 調査項目・環境基準		泉区			
		5740-36-94			
		H22. 8. 11	H24. 3. 13	H24. 10. 26	H25. 7. 10
水温	—	16.4	13.7	14.8	17.3
pH	—	7.3	7.4	7.2	7.2
砒素	0.01	0.013	0.015	0.014	0.013

※1：「単位：mg/L」は、水温（℃）、pHを除く。

※2：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典：「公害関係資料集」（平成 21～25 年度測定結果）（仙台市環境局）



<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> : 対象事業計画地 : 市区町境界線 : 調査地域 (三次メッシュ) : 調査地域コード (三次メッシュ) : 三次メッシュ <p>※ 三次メッシュは、日本測地系</p>	<p>N</p> <p>S=1:50,000</p>
<p>図 6.1-17 地下水水質調査位置 (三次メッシュコード)</p>	

出典「公害関係資料集」(平成21~25年度測定結果)(仙台市環境局)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、地下水汚染の調査は実施していない。

イ 地下水に係る発生源の状況

図 5-1 に示す関係地域内での水質汚濁防止法による特定施設は、表 6.1-66 及び図 6.1-14 のとおりである。

関係地域内での下水道法に基づく特定事業場は、表 6.1-67 及び図 6.1-15 のとおりである。

関係地域内での宮城県公害防止条例の汚水に係る特定施設及びその位置図は、表 6.1-68 及び図 6.1-16 のとおりである。

ウ 地下水汚染防止上の留意点

本事業では地下水利用は予定されておらず、地下水に影響する有害物質や汚染土壌を持ち込む可能性のある計画はない。なお、対象事業計画地内の土壌汚染は確認されていない。

(4) 水象
ア 水象の状況

① 河川・湖沼等の概要

調査範囲の主な河川の諸元は、表 6.1-81 に示すとおりである。また、七北田川では市名坂観測所にて流量の観測が行われており、その流況を表 6.1-82 に示す。

対象事業計画地周辺の河川の分布は図 6.1-18 に示すとおりである。七北田川が対象事業計画地の西側から南側を流れ、その支流である山田川が西側を流れている。

調査範囲の主な湖沼・ため池は表 6.1-83 及び表 6.1-84、調査範囲の湖沼・ため池の位置は図 6.1-19 に示すとおりである。調査範囲には、銅谷堤、荒砥沢堤等の湖沼・ため池が存在する。対象事業計画地内には湖沼・ため池が 14 箇所（名称は不明）存在する。

「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、平成 25 年度の七北田川の福岡大堰における流量は平均 1.7m³/秒、鼻毛橋で 2.4m³/秒、長谷倉川最下流で 0.98m³/秒である。

なお、農業用水取水施設は「6.2.3 水利用（1）水利権の設定状況及び利水の状況」に示すとおりである。

表 6.1-81 調査範囲の主な河川

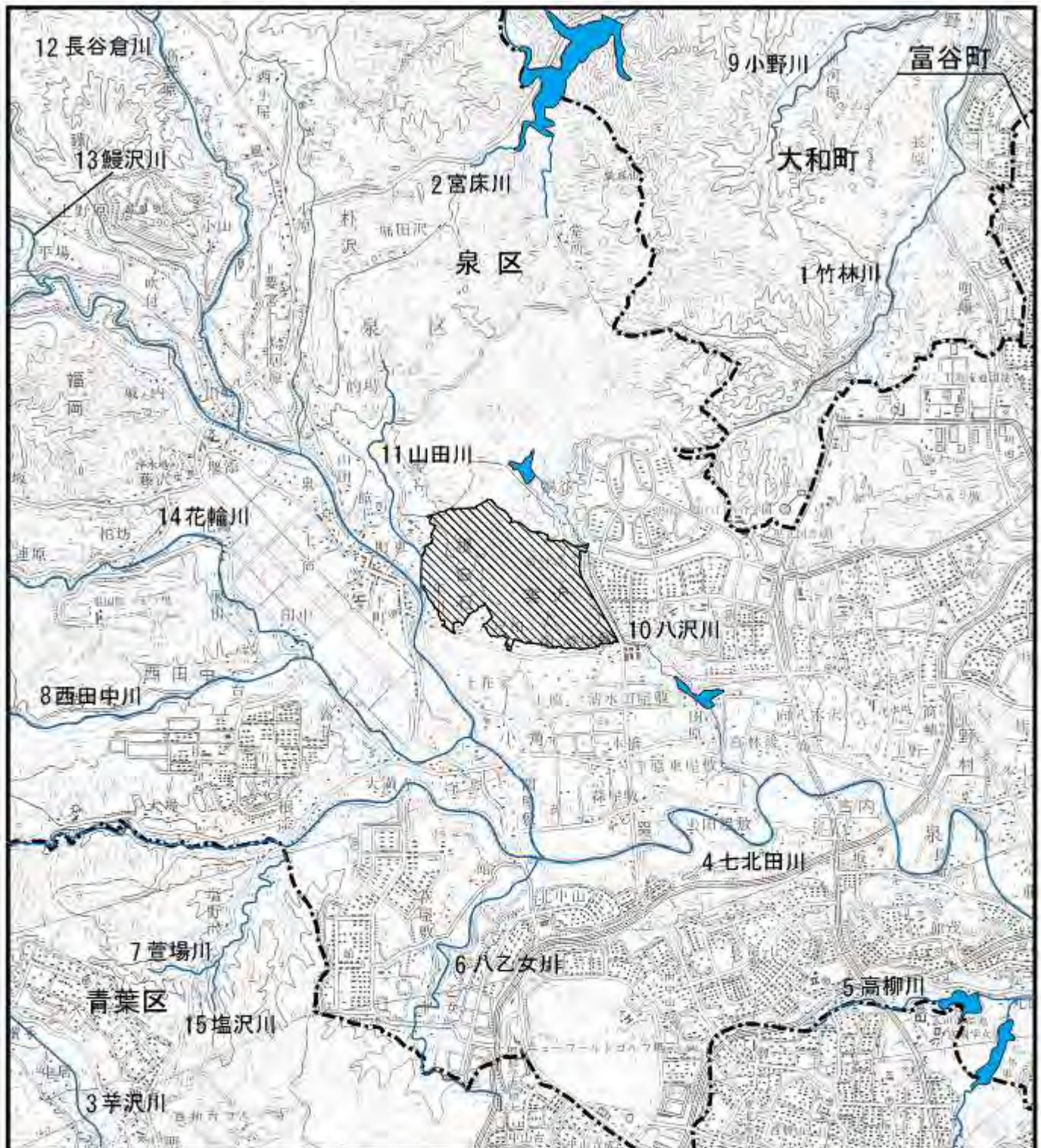
No.	種別	河川名	総延長 (m)
1	一級河川	竹林川	9,300
2	一級河川	宮床川	9,500
3	一級河川	芋沢川	8,000
4	二級河川	七北田川	40,899
5	二級河川	高柳川	3,000
6	二級河川	八乙女川	2,700
7	二級河川	萱場川	3,300
8	二級河川	西田中川	3,400
9	準用河川	小野川	800
10	準用河川	八沢川	950
11	準用河川	山田川	920
12	準用河川	長谷倉川	5,760
13	準用河川	鰻沢川	1,620
14	準用河川	花輪川	2,780
15	準用河川	塩沢川	2,010

出典：「宮城県河川・海岸図」（平成 25 年 3 月 宮城県土木部河川課）
宮城県土木部河川課




表 6.1-82 七北田川の流況（市名坂観測所）

河川名	流量 (m ³ /s)							観測期間
	最大	豊水	平水	低水	渇水	最小	平均	
七北田川	109.46	5.89	3.99	2.94	2.04	1.59	6.05	H15～H25

出典：宮城県土木部河川課



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 河川

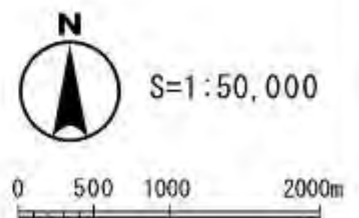


図 6.1-18
対象事業計画地周辺の
河川の分布

出典 「宮城県河川・海岸図」 (平成25年3月 宮城県土木部河川課)

表 6.1-83 調査範囲の主な湖沼・ため池 (1/2)

No.	名称	所在地	No.	名称	所在地
1	板橋堤溜池	芋沢字板橋 1	31	荒砥沢溜池	根白石字荒砥沢
2	寺下堤溜池	芋沢字寺下西 1	32	トドヶ沢 1 号溜池	上谷刈字長命岫
3	湯舟沢新溜池	芋沢字湯船沢東 2-1 外 2 筆	33	トドヶ沢 2 号溜池	上谷刈字小梨沢
4	塩野沢第 1 溜池	芋沢字塩野沢西 3 外 1 筆	34	大堤溜池	高森 6 丁目
5	松葉沢上溜池 4	芋沢字松葉沢上 33	35	元道堤溜池	七北田字大沢日焼
6	上野原溜池 1	芋沢字上野原 4	36	新大堤溜池	西田中字小倉山
7	上野原溜池 2	芋沢字上野原 53	37	高野原溜池	朴沢字上屋敷
8	板橋溜池 2	芋沢字板橋 14	38	寿連原堤溜池	西田中字
9	板橋溜池 5	芋沢字板橋 47	39	瀬木沢堤溜池	朴沢字鷹繫
10	平溜池	芋沢字平 18	40	不詳	西田中字小倉山
11	明神溜池	芋沢字明神 15	41	不詳	根白石字花輪山
12	不動堂溜池	芋沢字不動堂 23	42	不詳	福岡字北鎖
13	ガニガヤ溜池		43	不詳	福岡字北鎖
14	湯船沢古溜池		44	不詳	福岡字中鎖
15	不詳	芋沢字堰ヶ袋	45	不詳	福岡字上大堀
16	銅谷溜池	根白石字青笹山 30 外 2 筆	46	不詳	朴沢字鷹繫
17	畑沢溜池	加茂 3 丁目 34	47	不詳	根白石字花輪田
18	橘川屋敷溜池	実沢字橘川屋敷 12	48	不詳	根白石字花輪細田
19	杭城山溜池 1	西田中字杭城山 5	49	不詳	西田中字姥懐西
20	新松山溜池	実沢字新松山 1	50	不詳	西田中字小倉山
21	杉原上溜池	根白石字杉原上 7	51	不詳	小角字大満寺
22	藤沢新官林溜池	福岡字藤沢新官林 6-1	52	不詳	館 5 丁目
23	油房堤下溜池	根白石字油房堤下 6	53	不詳	西田中字杭城山
24	青笹山溜池	根白石字青笹山 17	54	不詳	福岡字小山
25	石倉山溜池 2	根白石字石倉山 4	55	不詳	福岡字上大堀
26	三共堤溜池	上谷刈字赤坂 3	56	不詳	福岡字大堀
27	朴ノ木山溜池 1	西田中字朴ノ木山 6	57	不詳	福岡字藤沢新官林
28	朴ノ木山溜池 2	西田中字朴ノ木山 27	58	不詳	実沢字番堂山
29	朴ノ木山溜池 3	西田中字朴ノ木山 35	59	不詳	実沢字搦目
30	杭城山溜池 2	西田中字杭城山 36	60	不詳	小角字芦沢

出典：「平成 21 年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成 22 年 3 月 仙台市）

ため池台帳調書（平成 20 年 2 月 仙台市）

仙台地方ダム総合事務所ホームページ（<http://www.pref.miyagi.jp/snd-dam/index.html>）

表 6.1-84 調査範囲の主な湖沼・ため池 (2/2)

No.	名称	所在地	No.	名称	所在地
61	不詳	西田中字小倉山	92	泉ビレッジ3号調整池	—
62	不詳	根白石字芳ノ沢	93	長命ヶ丘1号調整池	—
63	不詳	根白石字石倉山	94	みやぎ中山調整池	—
64	不詳	根白石字堂所山	95	泉ビレッジ2号調整池	—
65	不詳	朴沢字鷹鳥屋	96	中山3号調整池	—
66	不詳	朴沢字鷹鳥屋	97	中山4号調整池	—
67	不詳	朴沢字沢	98	紫山一丁目調整池	—
68	不詳	根白石字上田堤頭東	99	明通第1調整池	—
69	不詳	—	100	明通第2調整池	—
70	不詳	—	101	明通第3調整池	—
71	中山2号調整池	—	102	宮床ダム	—
72	八沢川調整池	—	103	不詳	—
73	坊主山溜池	—	104	不詳	—
74	明神堤溜池	—	105	不詳	—
75	長兵衛堤調整溜池	—	106	不詳	—
76	高森溜池	—	107	不詳	—
77	桂島下の堤溜池	—	108	不詳	—
78	桂島上の堤溜池	—	109	不詳	—
79	大倉溜池	—	110	不詳	—
80	丸田沢溜池	—	111	不詳	—
81	長命ヶ丘調整池	—	112	不詳	—
82	新釜の沢溜池	—	113	不詳	—
83	長命第1号溜池	—	114	不詳	—
84	住吉台第5号調整池	—	115	不詳	—
85	住吉台第4号調整池	—	116	不詳	—
86	住吉台第3調整池	—	117	不詳	—
87	北高森調整池	—	118	不詳	—
88	住吉台第2調整池	—	119	不詳	—
89	中山1号調整池	—	120	不詳	—
90	加茂第1号調整池	—	121	不詳	—
91	トドヶ沢3号溜池	—	122	不詳	—

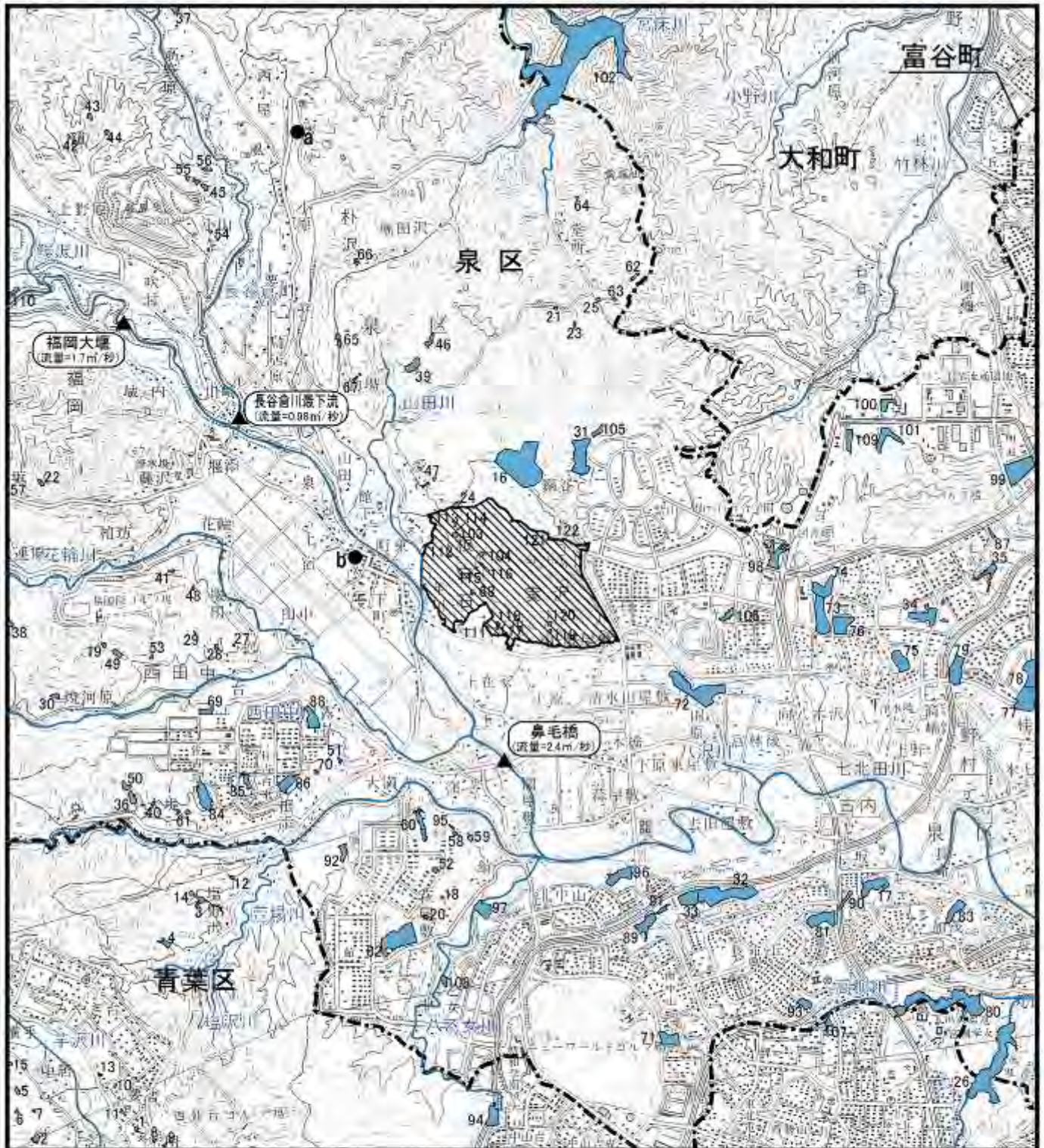
※：網掛部は、対象事業計画地内に存在するため池である。

出典：「平成21年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成22年3月 仙台市）






ため池台帳調査（平成20年2月 仙台市）

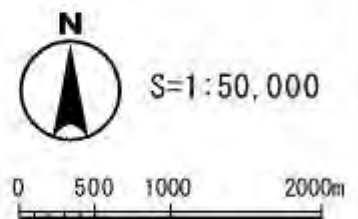
仙台地方ダム総合事務所ホームページ（<http://www.pref.miyagi.jp/snd-dam/index.html>）

No. 111～122は、平成26年4月に実施した現地踏査により確認したものの。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 湖沼・ため池 (图中番号: 1~122)
-  : 湧水地点 (图中番号: a, b)
-  : 流量測定地点



出典: 1. 「平成21年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
 (平成22年3月 仙台市)
 2. 「宮城県河川・海岸図」(平成25年3月 宮城県)
 3. 「公害関係資料集」(平成25年度測定結果) (仙台市環境局)

図 6.1-19
 対象事業計画地周辺の
 水象の状況

② 水源地の概要

仙台市における上水は、釜房ダム、七北田ダム、宮床ダム等のダム水、新川水源、滝原水源、野尻水源等の井戸・湧水から取水している。このうち調査範囲には図 6.1-19 に示すとおり、対象事業計画地の北側に宮床ダムがある。

調査範囲では鳴瀬川水系の竹林川、七北田川水系の七北田川等の河川に農業用の頭首工や取水口が設置されており、施設概要は表 6.1-85、農業用水取水位置図は図 6.1-20 に示すとおりである。

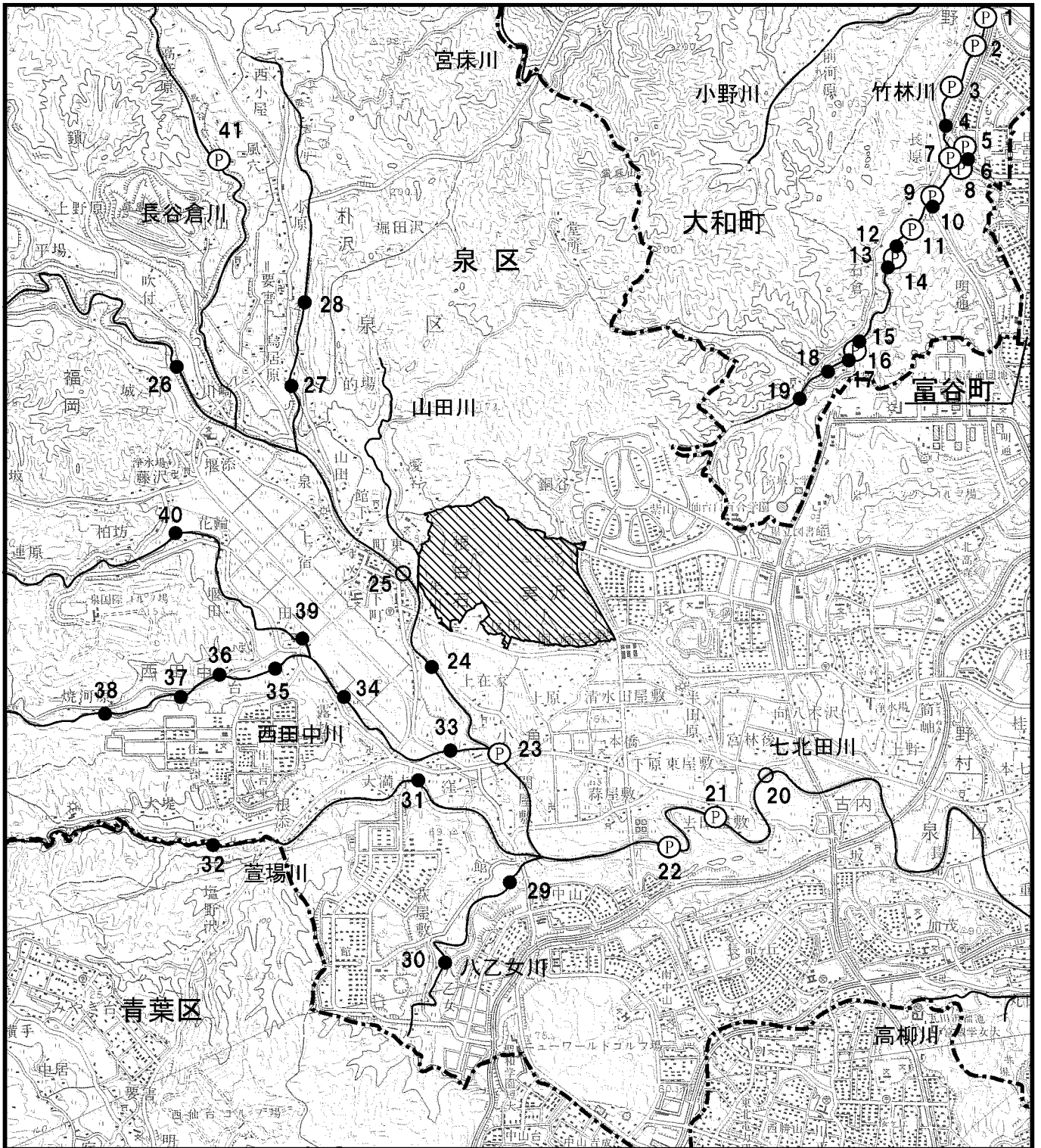
「農業用水施設台帳（河川取水施設）改訂五版」（平成 20 年 3 月 宮城県）によると、調査範囲で最大の取水施設は七北田川の根白石大堰で、取水量は 0.45m³/秒とされている。

表 6.1-85 農業用水取水施設の概要






番号	水系	河川名	河川区分	施設名	用排水区分	左右岸別	施設所在地	取水量（最大m ³ /s）		
								代播き期	普通期	非かんがい期
1	鳴瀬	竹林川	一級	新道揚水機場	用	右	大和町宮床小野	0.0100	0.0067	—
2	鳴瀬	竹林川	一級	菅原揚水機場	用	左	大和町宮床小野	0.0015	0.0010	—
3	鳴瀬	竹林川	一級	白久保揚水機場	用	左	大和町宮床小野	0.0080	0.0080	—
4	鳴瀬	竹林川	一級	後藤堰	用	左	大和町小路	0.0600	0.0600	不明
5	鳴瀬	竹林川	一級	後藤堰下揚水機場	用	右	大和町宮床小野	0.0100	0.0070	—
6	鳴瀬	竹林川	一級	岩倉堰	用	左	大和町小野	0.0030	0.0030	不明
7	鳴瀬	竹林川	一級	後藤下揚水機場	用	右	大和町小野後藤	0.0010	0.0007	—
8	鳴瀬	竹林川	一級	清水揚水機場	用	右	大和町宮床小野	0.0015	0.0010	—
9	鳴瀬	竹林川	一級	小野揚水機場	用	左	大和町小野地内	0.0200	0.0080	—
10	鳴瀬	竹林川	一級	長原堰	用	左	大和町宮床小野	0.0020	0.0020	不明
11	鳴瀬	竹林川	一級	長原揚水機場	用	左	大和町宮床小野	0.0100	0.0100	—
12	鳴瀬	竹林川	一級	蛇石堰	用	右	大和町宮床小野	0.0010	0.0010	不明
13	鳴瀬	竹林川	一級	新田揚水機場	用	左	大和町宮床小野	0.0050	0.0050	—
14	鳴瀬	竹林川	一級	菅谷地下堰	用	左	大和町宮床小野	0.0030	0.0030	不明
15	鳴瀬	竹林川	一級	菅谷地上堰	用	左	大和町宮床小野	0.0050	0.0050	不明
16	鳴瀬	竹林川	一級	山岸揚水機場	用	左	大和町宮床小野	0.0080	0.0080	—
17	鳴瀬	竹林川	一級	山岸堰	用	左	大和町宮床小野蛇石	0.0030	0.0030	不明
18	鳴瀬	竹林川	一級	松沢堰	用	右	大和町宮床小野	0.0100	0.0100	不明
19	鳴瀬	竹林川	一級	苦勞川堰	用	右	大和町小野	0.0100	0.0100	不明
20	七北田	七北田川	二級	明神堰頭首工	用	左	泉区野村字八木沢	0.1000	0.0800	不明
21	七北田	七北田川	二級	諏訪揚水機	用	右	泉区実沢字六堂	0.0180	0.0160	—
22	七北田	七北田川	二級	六堂揚水機	用	右	泉区実沢	0.0150	0.0150	0.0150
23	七北田	七北田川	二級	川西揚水機	用	右	泉区実沢字小角	0.1900	0.1900	0.1900
24	七北田	七北田川	二級	今宮堰	用	左	泉区小角字鹿	0.0360	0.0270	不明
25	七北田	七北田川	二級	新堰頭首工	用	左	泉区根白石字小角 屋敷前 9-1 地先	0.4100	0.3420	—
26	七北田	七北田川	二級	根白石大堰	用	右	泉区福岡坂下	0.4500	0.4500	0.4500
27	七北田	七北田川支川	普通	免口堰	用	左	泉区朴沢免口	0.0700	0.0600	不明
28	七北田	七北田川支川	普通	山田堰	用	左	泉区井沢字要害	0.0400	0.0400	0.0400
29	七北田	八乙女川	二級	館堰	用	左	泉区実沢荻屋敷	0.0120	0.0120	0.0120
30	七北田	八乙女川	二級	八乙女堰	用	右	泉区実沢出戸	0.0039	0.0039	0.0039
31	七北田	萱場川	二級	小豆島堰	用	左	泉区実沢細木門下	0.0180	0.0180	0.0180
32	七北田	萱場川支川	普通	萱場堰	用	左	泉区西田中萱場中	0.1000	0.0800	不明
33	七北田	西田中川	二級	二ノ堰下上堰	用	右	泉区小角館	0.0150	0.0150	0.0150
34	七北田	西田中川	二級	下堰	用	左	泉区西田中霧払向	0.0450	0.0450	不明
35	七北田	西田中川	二級	五百刈堰	用	右	泉区西田中	0.0090	0.0090	不明
36	七北田	西田中川	二級	才ノ前堰	用	左	泉区西田中西沢東	0.0120	0.0120	0.0120
37	七北田	西田中川	二級	箱豊堰	用	右	泉区西田中上山下	0.0600	0.0600	0.0600
38	七北田	西田中川	二級	鷹ノ巣堰	用	左	泉区西田中三十刈山	0.0150	0.0150	0.0150
39	七北田	西田中川支川	普通	鍛冶輪堰	用	左	泉区根白石鍛冶輪	0.1000	0.0800	不明
40	七北田	西田中川支川	普通	花輪堰	用	左	泉区根白石中花輪	0.1000	0.0800	—
41	七北田	長谷倉川	準用	小山揚水機	用	右	泉区福岡小山	0.0150	0.0150	0.0150

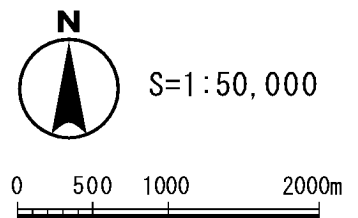
出典：「農業用水施設台帳（河川取水施設）改訂五版」（平成 20 年 3 月 宮城県農林水産部農村振興課）

出典：「河川取水施設図」（平成 20 年 3 月 宮城県農林水産部農村振興課）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 農業用取水堰
-  : 頭首工
-  : 揚水機



出典:1.「農業用水施設台帳(河川取水施設)改訂五版」
(平成20年3月 宮城県農林水産部農村振興課)
2.「農業用水河川取水施設図」
(平成20年3月 宮城県農林水産部農村振興課)

図 6.1-20
農業用水取水位置図

③ 湧水の概要

調査範囲の湧水の位置は表 6.1-86 及び図 6.1-19 に示すとおりであり、阿久玉御前化粧の水、満興寺七不思議の清水がある。

仙台市における飲用井戸の設置数は、表 6.1-87 に示すとおりである。仙台市全体では 5,325 箇所の飲用井戸が設置されており、そのうち対象事業計画地の位置する泉区は 346 箇所と市全体の約 6%を占めている。

表 6.1-86 調査範囲における湧水地点

No.	名称	所在地	現状	概要
a	阿久玉御前化粧の水	仙台市泉区 朴沢字壇ノ原	現存 飲用水	泉区朴沢の亀の子石に近い水田に湧く。坂上田村麻呂に見初められた現利府町の長者の娘、阿久玉姫が、旅に乱れた姿をこの清水に映して化粧したといわれる。今でも清水が湧き出ており、近くの飲み水として用いられている。朴沢地区には他にも湧水が多くみられる。
b	満興寺七不思議の清水	仙台市泉区 根白石字西上	現存 池の水源	寺のうちで蛙の鳴き声がしない、軒端の雨だれの音がしない、寺内に白狐が棲み村々の変事を前もって告げる、寒中でも虻が出る、和尚が亡くなると池から無縫塔が現れる、柱穴を掘っても無用の水が沸かない、清水が欲しいときどこを掘っても湧き出す、の 7 項目を古来満興寺の七不思議という。湧水は現在も池の水として使用している。

出典：「平成 21 年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成 22 年 3 月 仙台市）

表 6.1-87 仙台市における飲用井戸の設置数（平成 11 年度末）

区	飲用井戸数（箇所）
仙台市	5,325
青葉区	1,035
宮城野区	41
若林区	2,087
太白区	1,816
泉区	346

出典：「飲用井戸水等調査報告書」（平成 13 年 3 月 仙台市）

④ 平成 12 年 3 月評価書

なお、平成 12 年 3 月評価書において、水象の調査は実施していない。

イ 水象保全上の留意点

対象事業計画地は、森林に被われた丘陵地形であり、地形改変により流出係数が変化するため、防災調整池等により雨水の流出抑制に配慮する。

6.1.3. 土壌環境

(1) 地形・地質

ア 地形・地質の状況

① 現況地形・地質

a) 文献調査

調査範囲の地形・地質の状況は、図 6.1-21 及び図 6.1-22 に示すとおりである。

仙台市の地形は、西部の奥羽山脈東麓に沿って広がる陸前丘陵、中央部を西から東に流下する七北田川、広瀬川、名取川の各河川沿いに発達する河岸段丘、東部の仙台湾に沿って広がる沖積平野に大別され、西側から東側に移行するにつれて標高が低くなっている。

調査範囲の地形は、低位から高位の河岸段丘が七北田川沿いに発達し、その周囲に丘陵地が分布する地域となっている。対象事業計画地は、東側が丘陵地形を呈するのに対し、西側は高位段丘面となっている。

調査範囲の表層地質は、七北田川沿いに礫層・砂層及び粘土層からなる河岸段丘堆積物が分布し、図幅南東側には砂岩・凝灰岩等からなる亀岡層、南西側には砂岩・礫岩及びシルト岩からなる大年寺層が分布する。

対象事業計画地は、主に中央～東側に七北田層(細粒～粗粒砂岩)、西側に白沢層(シルト岩・細粒凝灰岩・軽石凝灰岩及び砂岩)が分布しており、パッチ状に段丘堆積物がみられる。

一方、図幅北側には細粒～粗粒砂岩からなる七北田層が広く分布するが、北東側の大和町付近には酸性軽石凝灰岩からなる宮床凝灰岩が分布する。

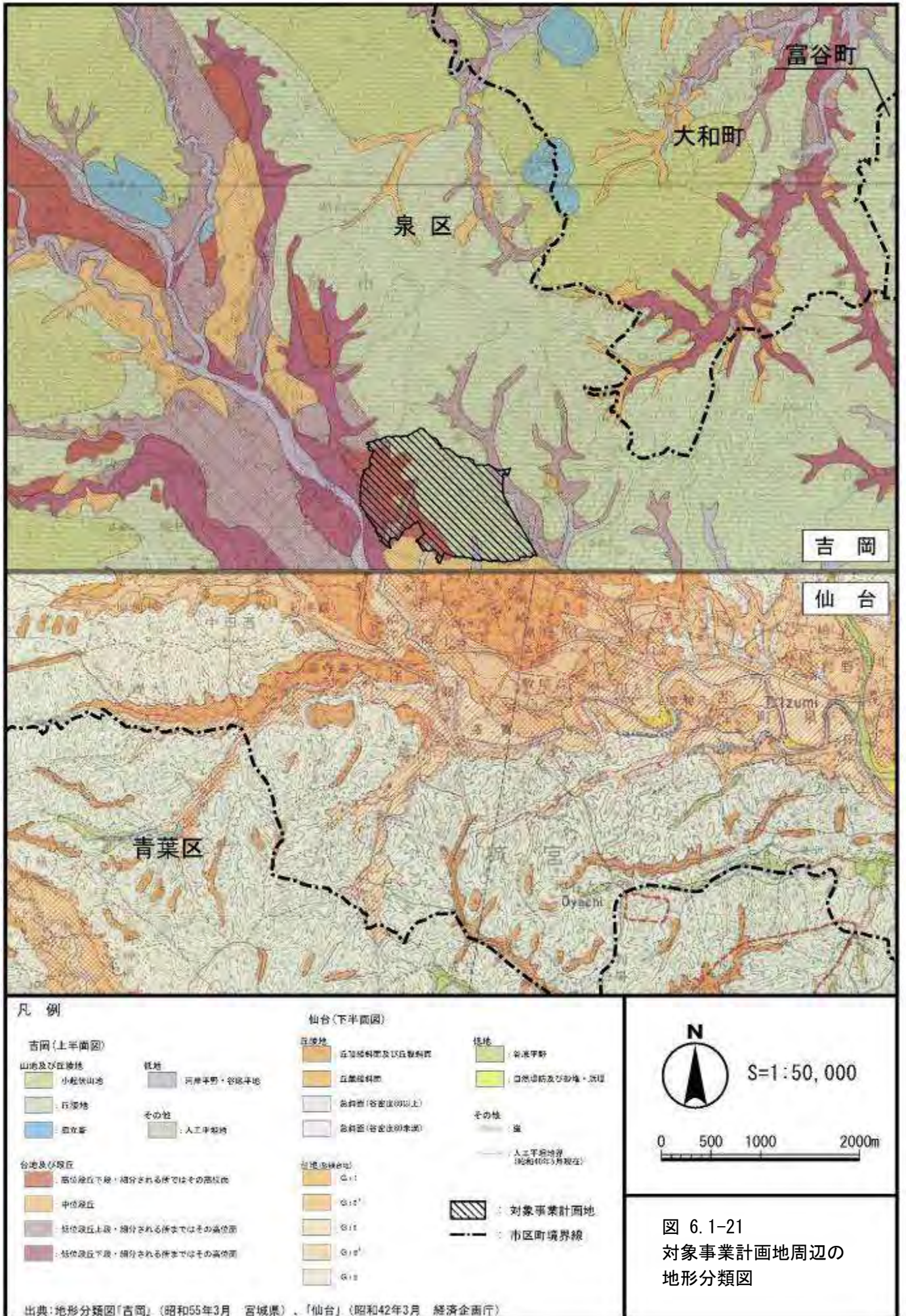
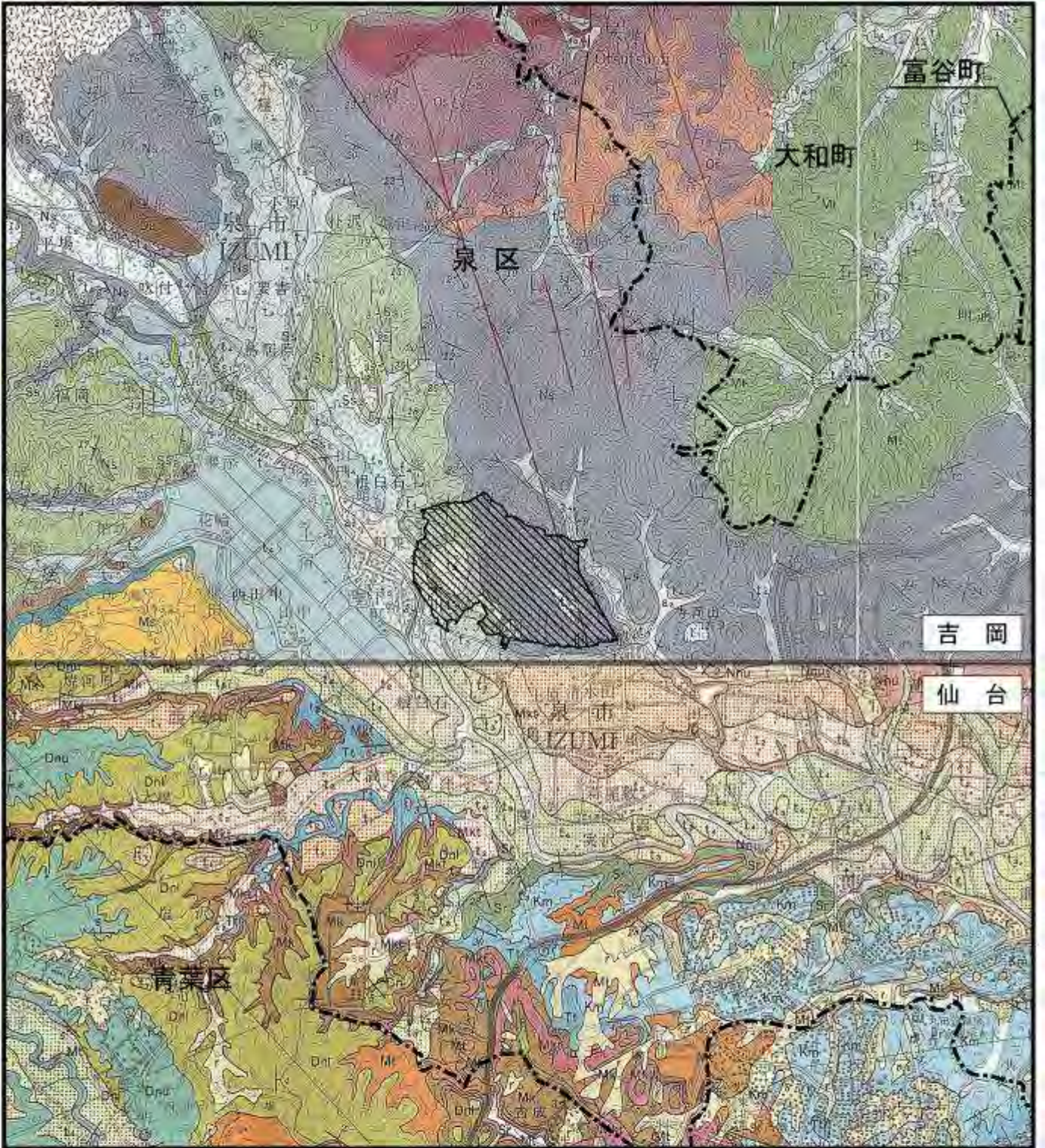


図 6.1-21
対象事業計画地周辺の
地形分類図



凡 例

- 吉岡(上半面図)**
- 沖積層: 砂・砂及び泥
 - 砂丘堆積物: 砂・砂及び泥
 - 花川火砕岩: 砂・砂及び泥
 - 七ツ森火山岩: 砂・砂及び泥
 - 東山火砕岩: 砂・砂及び泥
 - 中山層: 砂・砂及び泥

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 仙台(下半面図)**
- 沖積層
 - 河成砂行地堆積物
 - 大年層
 - 向山層
 - 薄の口層

- 亀岡層**
- 砂岩・粘板岩・シルト岩等
 - 三連層
 - 白灰層
 - 七北田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

- 薄の口層**
- シルト層及び砂層
 - 粘板層
 - 白乳層
 - 七北田層
 - 青森層
 - 大田層

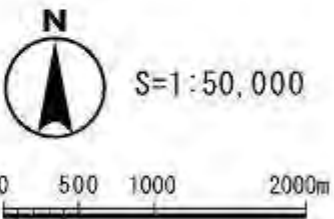


図 6.1-22 対象事業計画地周辺の表層地質図

出典:5万分の1地形図「吉岡」(昭和58年11月 地質調査時)。「仙台」(昭和61年3月 地質調査時)

b) 平成 12 年 3 月評価書

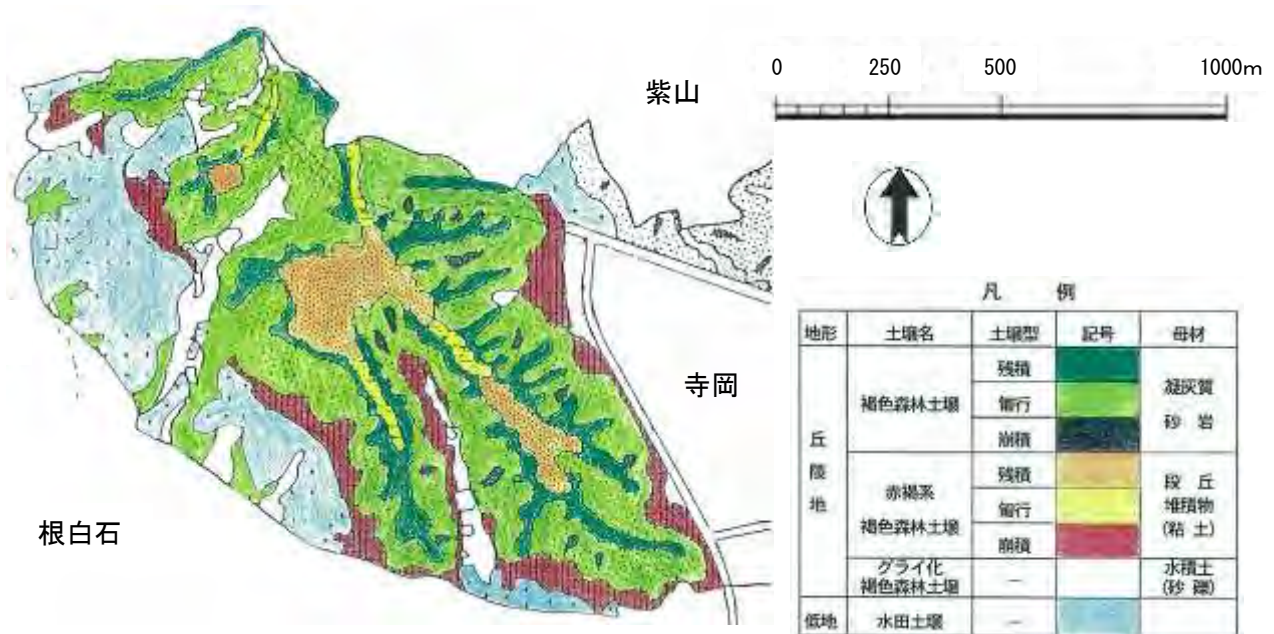
平成 12 年 3 月評価書において、対象事業計画地で地形・地質調査及び各種試験を実施している。対象事業計画地の地形・地質調査結果の概要は表 6.1-88，地質平面図は図 6.1-24，土壌分布図は図 6.1-23，地質断面図は図 6.1-25，地質構成表は表 6.1-89，土木地質試験・岩石試験結果概要は表 6.1-90～表 6.1-92 に示すとおりである。

仙台市泉区北部の根白石に位置する対象事業計画地は，大和町との行政区にほど近い場所にあり，東側に泉パークタウン寺岡地区が隣接している。

対象事業計画地の地形は，奥羽山脈の東麓に広がる定高性の低平丘陵地帯として特徴づけられる。

対象事業計画地の周辺地域を構成する地質は，新第三紀中新世の堆積岩類及び火山破碎岩類を主体としている。対象事業計画地に分布する地質は，後期中新世の七北田層及び白沢層を主体とし，これらの基盤岩類を覆って未固結の段丘堆積物，崖錐堆積物が発達している。

対象事業計画地の地層の傾斜は概ね 15° 以下である。東側には南北方向に伸びる背斜状隆起帯が存在し，全体に緩やかな褶曲がみられる。



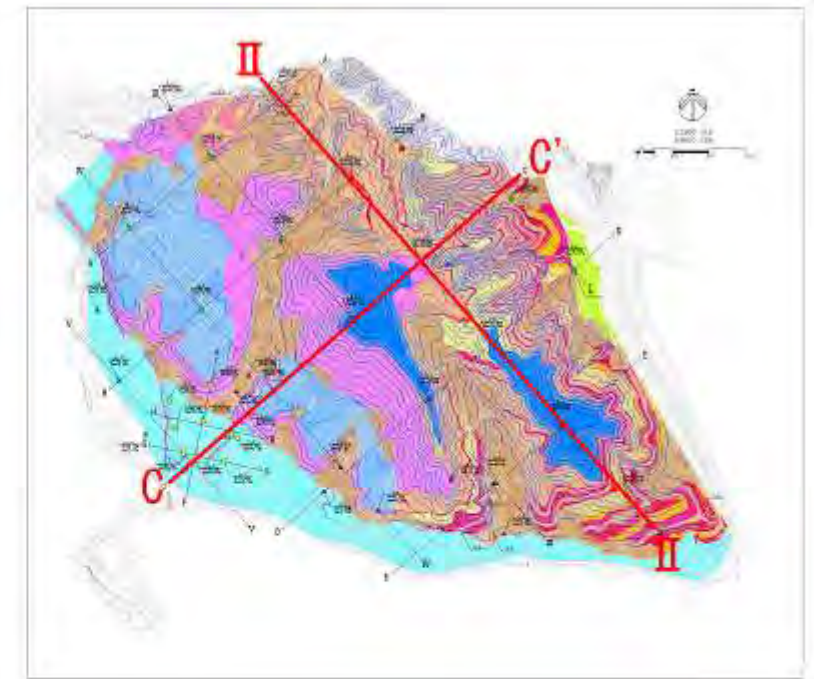
出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

図 6.1-23 対象事業計画地土壌分布図

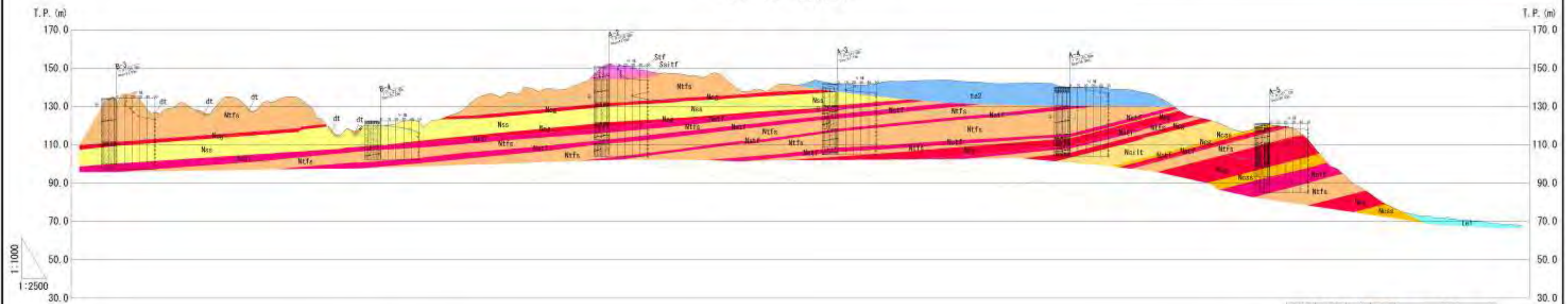
表 6.1-88 対象事業計画地の地形・地質調査結果概要（平成 12 年 3 月評価書）

項目		調査結果の概要
地質及び地質構造	七北田層	七北田層は、対象事業計画地の北東部に分布する。調査結果では、80m 程度の層厚に相当する地質が確認されている。 一般に新第三紀の堆積岩は、岩相変化が激しく、単一岩相の厚さが数 cm～数 10cm 毎に変化し、岩種も水平・鉛直方向に遷移的に変化するものが多いことが知られている。対象事業計画地に分布する七北田層についても、同様の岩相変化の傾向が認められた。 七北田層は凝灰質砂岩を主体とし、これと砂質凝灰岩、礫岩、シルト岩、シルト質凝灰岩が互層をなしている。
	白沢層	白沢層は、対象事業計画地の南西部に位置し、七北田層の上位に堆積している。調査結果では、120m 程度の層厚に相当する地質が確認されている。 対象事業計画地に分布する白沢層は、層厚 8m 以下のシルト質凝灰岩と軽石を混在する酸性の凝灰岩によって構成される。
	段丘堆積物	対象事業計画地における段丘堆積物は、その基底面の標高により、高位段丘、中位段丘、低位段丘に分けられる。高位段丘は、対象事業計画地の中央部及び東部に位置する。中位段丘は、対象事業計画地の西部に位置する。低位段丘は、対象事業計画地の南西部に位置する。いずれの段丘も基礎底面は、安山岩質の円礫及び玉石を主体とする砂礫によって構成される。
	崖錐堆積物	主に対象事業計画地の山裾部及び沢沿いに分布する。角礫、亜角礫を含む未固結の砂質粘土を主とする。 調査結果では、沼地等の比較的分解の進んだ腐植土も含め、崖錐堆積物として取り扱っている。N 値は概ね 30 以下を示す。
表層土壌	褐色森林土壌	凝灰質砂岩を母材とし、沢の発達した開析地形に発達している。本土壌は、尾根地形の平坦部及び山麓緩斜面で赤褐色森林土壌と接している。 狭小尾根部には、粗ないし軟の堆積状態を示す残積的な乾燥土壌（砂壤土）が分布し、斜面には葡萄的な適潤性の土壌が広く分布する。斜面の谷頭部には、局部的に崩積的な弱湿性の土壌（砂壤土）が分布している。
	赤褐色森林土壌	段丘堆積物（粘土）を母材として、対象事業計画地の平坦ないし緩斜面に分布する。赤褐色を呈し、壤土ないし植壤土の堅密な土壌である。山頂平坦部では典型的な残積土の形態を呈し、山麓緩斜面では、拳大以上の円礫を混入し、成層状態は不規則である。 本土壌が赤褐色を呈しているのは古赤風化に由来しているものと考えられる。
	グライ化褐色森林土壌	水田に続く谷底部にみられ、細礫、砂、粘土などの堆積物からなる。沢の流水の影響で、種々の程度にグライ化（灰色～淡青色）しているが、腐植土層の発達もみられ、排水状態はそれほど不良ではない。
	水田土壌	対象事業計画地の低地を占め、作土層、鉄盤層、地下水位を伴う場合が多い。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）



II-II' 断面



C-C' 断面

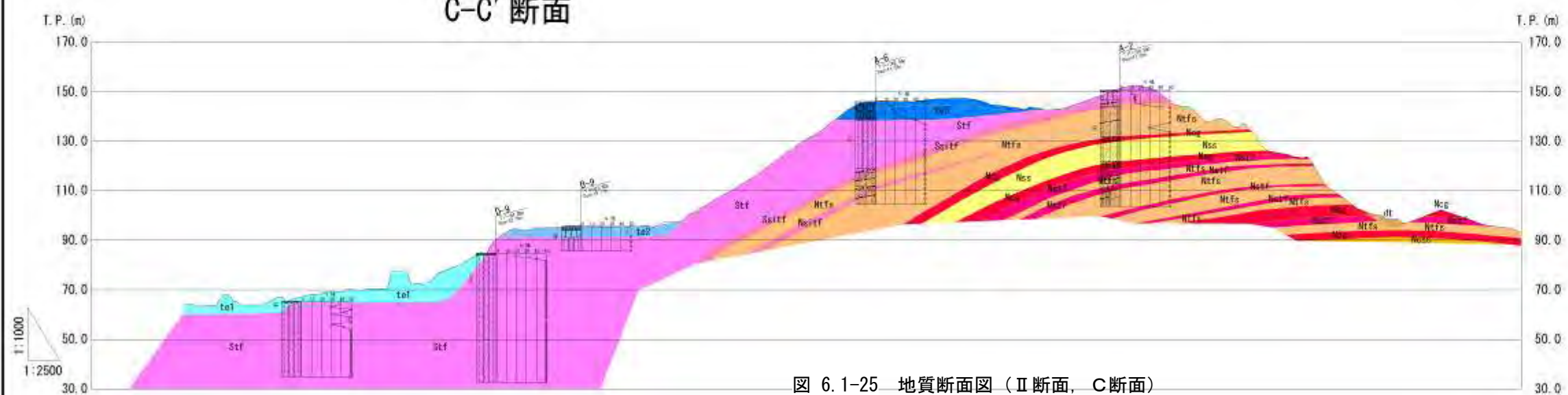


図 6.1-25 地質断面図 (II断面, C断面)

地質時代	地層名	層厚	地層記号	備考
新 鮮 統	堆積物	砂礫土	ts	地層記号は、地層記号の「ts」に「s」を付して「tss」とする。これは、砂礫土の層厚が10m以上であることを示す。
	砂礫	粗粒	ts1	粗粒砂礫土。地層記号は「ts1」とする。
		細粒	ts2	細粒砂礫土。地層記号は「ts2」とする。
新 鮮 統	礫層	粗粒	ts	粗粒礫層。地層記号は「ts」とする。
		細粒	ts	細粒礫層。地層記号は「ts」とする。
	礫層	粗粒	ts	粗粒礫層。地層記号は「ts」とする。
		細粒	ts	細粒礫層。地層記号は「ts」とする。
	礫層	粗粒	ts	粗粒礫層。地層記号は「ts」とする。
		細粒	ts	細粒礫層。地層記号は「ts」とする。
新 鮮 統	礫層	粗粒	ts	粗粒礫層。地層記号は「ts」とする。
		細粒	ts	細粒礫層。地層記号は「ts」とする。
	礫層	粗粒	ts	粗粒礫層。地層記号は「ts」とする。
		細粒	ts	細粒礫層。地層記号は「ts」とする。
	礫層	粗粒	ts	粗粒礫層。地層記号は「ts」とする。
		細粒	ts	細粒礫層。地層記号は「ts」とする。
新 鮮 統	礫層	粗粒	ts	粗粒礫層。地層記号は「ts」とする。
		細粒	ts	細粒礫層。地層記号は「ts」とする。
	礫層	粗粒	ts	粗粒礫層。地層記号は「ts」とする。
		細粒	ts	細粒礫層。地層記号は「ts」とする。
	礫層	粗粒	ts	粗粒礫層。地層記号は「ts」とする。
		細粒	ts	細粒礫層。地層記号は「ts」とする。

出典：「泉パークタウン第6住区開発に伴う地質調査業務報告書 平成9年10月 三菱地所株式会社」

表 6.1-89 地質構成表

地質時代	地層名	層相	地質記号	備考		
第四紀	完新世	崖錐堆積物	礫混り砂質粘土	dt	山裾部及び沢沿いに分布する。φ2~30mmの角礫、亜角礫を含む砂質粘土を主とする崖錐堆積物である。比較的分解の進んだ腐植土も含む。	
	更新世	段丘堆積物	砂礫	低位段丘	te1	標高60~70mを基底面とする。基底部はφ5~75mmの安山岩質円礫、φ75~130mmの安山岩質玉石主体の砂礫である。
				中位段丘	te2	標高約90mを基底面とする。基底部はφ5~75mmの安山岩質円礫、φ75~250mmの安山岩質玉石主体の砂礫である。
				高位段丘	te3	標高130~138mを基底面とする。基底部はφ5~75mmの安山岩質円礫、φ75~150mmの安山岩質玉石主体の砂礫である。
新第三紀	白沢層	凝灰岩	Stf	全体に、白色の軽石を多量に混在する酸性の凝灰岩である。部分的に、層厚2m以下の細粒凝灰岩層を含む。薄い植物化石層を挟む。固結度中程度。		
		シルト質凝灰岩	Ssif	葉理が認められるシルト質凝灰岩である。軽石を挟在する。七北田層との境界部に分布する。固結度中程度。		
		シルト質凝灰岩	Nsif	シルト質~細粒砂質の凝灰岩である。軽石を挟在する。葉理が認められる。七北田層最上部の凝灰質砂岩中にレンズ状に分布する。部分的にピスライスを濃集する。固結度やや高い。		
	七北田層	砂岩	Nss	少量の軽石を含む砂岩である。緻化層理が認められる。部分的に葉理が発達している。葉理面に沿って黒色の鉱物を濃集しており、風化により、赤褐色を呈する部分がある。固結度中程度~やや高い。		
		シルト岩	Nsilt	葉理が発達しているシルト岩である。固結度高い。		
		砂質凝灰岩	Nstf	軽石を多く含む砂質凝灰岩である。部分的に薄い凝灰質砂岩層を挟む。斜交葉理が認められる。固結度中程度~やや高い。		
		凝灰質砂岩	Ntfs	葉理が認められる凝灰質砂岩である。葉理面に沿って黒色の鉱物を濃集しており、風化により赤褐色を帯びている。軽石を挟在する。斜交葉理が認められる。固結度中程度。		
		礫岩	Nll	φ2~40mmの安山岩円礫、泥岩円礫、黒色の火山細礫、軽石等を礫種とする。円礫の中には、みがかれて滑らかになったものも含む。マトリックスは凝灰質砂岩。固結度中程度。		
		粗粒砂岩	Ncss	細礫混りの粗粒砂岩である。部分的に薄い凝灰岩層を挟む。葉理が認められる。固結度中程度。		

出典：「泉パークタウン第6住区開発に伴う地質調査業務報告書 平成9年10月 三菱地所株式会社」

表 6.1-90 対象事業計画地の土木地質試験，岩石試験結果概要（平成 12 年 3 月評価書）（1/3）

試験項目	試験結果の概要
土木地質	<p>対象事業計画地の地山弾性波速度を把握し，造成工事における地山の掘削性及び掘削後の法面の安定性を検討する目的で弾性波探査を実施した。</p> <p>調査の結果，計画地の速度構成は 4 層構造となった。各速度層の速度値と対応する地質状況は以下の通りである。</p> <p>第 1 層 (0.3~0.4km/s)：表土，基礎岩の強風化帯 第 2 層 (0.5~0.8km/s)：基礎岩の強風化帯 第 3 層 (1.0~1.5km/s)：基礎岩の弱風化帯 第 4 層 (1.8~2.2km/s)：基礎岩の新鮮部</p>
	<p>ボーリング調査と並行して 1m 毎に標準貫入試験を行った。ただし，切土部及び盛土部におけるボーリングで，貫入試験の結果，N 値が 50 以上を示し，堅硬な岩が厚く分布していると考えられる場合は，2m 間隔で実施した。</p> <p>各地層の N 値は以下のとおりである。</p> <p>崖錐堆積物：N=1~30 段丘堆積物：N≤30 白沢層：(風化部) N=1~50，(新鮮部) N≥50 七北田層：(風化部) N=27~50，(新鮮部) N≥50</p>
	<p>調査地基礎地盤の透水性を把握するため，2 箇所（11 区間）においてボーリング孔を利用した現場透水試験を行った。</p> <p>試験の結果，ルジオン値はいずれの箇所においても，概ね 10 以下（D-2 孔），5 以下（D-4 孔）と低い値を示し，難透水性地盤の傾向が認められた。</p>
	<p>盛土の材料特性を把握するため，土粒子の密度，含水比，粒度，締固め，コーン貫入，三軸 UU，三軸 CD 及び CBR の各試験を行った。</p> <p>試験結果は全て砂質土に分類され，結果から以下のようにまとめることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 盛土材料としては，礫岩・凝灰質砂岩・凝灰岩及び砂岩から構成され，凝灰質砂岩または凝灰岩が主体となる。 ② いずれも粗粒分が卓越しており，粒度分布は良好である。 ③ 施工時の最適含水比は，20~30%を示すものが多く，この値はほぼ自然含水比と等しい傾向にある。すなわち，締固めやすい性質を有している。 ④ 平均 CBR は，全体的にみて 2 以下を示すものが多く，路床材として利用する場合には改良が必要である。 ⑤ 粘着力 (Cd) は，0.1kgf/cm²前後を示すものが多く，せん断抵抗角 (φd) は，31° 前後を示すものが多い。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 6.1-91 対象事業計画地の土木地質試験，岩石試験結果概要（平成12年3月評価書）(2/3)

試験結果の概要												
岩石試験	岩石試験は、切土部で実施したボーリングコアのうちA-1, A-3, A-6, A-8の4孔より代表的な地層の試料を選んで、物理試験及び力学試験を実施した。 試験結果は、地層別に大きな範囲にばらついているが、概ね以下の物性値を示す。 密度 (ρt) = 1.50~1.80 (kgf/m ³) 吸水率 (Wab) = 30~50 (%) 伝播速度 (Vp) = 1.0~2.0 (km/s) 一軸強度 (qu) = 15~70 (kgf/m ³)											
	表 盛土の材料試験結果一覧表											
	岩石名	礫岩	礫岩	凝灰質砂岩	凝灰質砂岩	凝灰質砂岩	凝灰質砂岩	粗粒砂岩	砂質凝灰岩	凝灰質砂岩	凝灰岩	
	土質名	礫混じり砂質土	礫混じり砂質土	砂質土	砂質土	砂質土	礫混じり砂質土	礫混じり砂質土	砂質土	砂質土	砂質土	
	土粒子の密度 (ρs g/cm ³)	2.584	2.585	2.633	2.618	2.619	2.717	2.788	2.642	2.662	2.621	
	自然含水比 (%)	47.6	51.2	24.6	20.4	22	35.2	26.3	48.9	41.6	28.8	
	粒度 (%)	礫分	4.5	19.8	0	0	0	3.5	10.3	1.1	0.1	0
		砂分	62.9	62.2	77.3	82.6	81.3	74.2	67	72.6	57.2	
		シルト分	22.4	11.2	15.7	11.5	11.9	16.4	16.9	23.4	20.3	27.8
		粘土分	10.2	6.8	7	5.9	6.8	5.9	5.2	8.5	7	15
	最大乾燥密度 ($\rho dmax$ g/cm ³)	1.295	1.328	1.524	1.494	1.536	1.345	1.601	1.157	1.23	1.454	
	最適含水比 (%)	32.8	31.2	21	24.4	22.2	32	21.2	44.2	39.6	25.5	
	平均CBR(%)	0.6	0.5	2.6	34.2	8.2	1.4	2.8	1.6	1.8	3.3	
	粘着力 (Cd kgf/cm ²)	0.21	0.16	0.11	0.14	0.1	0.1	0.13	0.17	0.15	0.11	
	せん断抵抗角 ϕd (度)	37.56	39.53	31.19	30.27	30.2	31.02	31.84	30.9	35.09	30.28	
粘着力 (Cd kgf/cm ²)							0.32					
せん断抵抗角 ϕd (度)							25.15					
表 各地層別・岩石試験結果一覧表												
地層				自然比重 ρt (kgf/cm ³)		吸水率 Wab (%)		伝播速度 Vp (km/sec)		一軸強度 Qu (kgf/cm ²)		
地層名	地質記号	岩級区分	試料数	範囲	平均	範囲	平均	範囲	平均	範囲	平均	
粗粒砂岩	Ncss	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
礫岩	Ncg	CM	1	1.72	1.72	43.5	43.5	1.44	1.44	14.2	14.2	
		CL	6	1.53~2.13	1.79	14.9~67.1	32.1	0.89~2.02	1.36	4.52~34.8	11.9	
凝灰質砂岩	Ntfs	CM	10	1.16~1.90	1.45	30.0~67.1	49.7	0.88~2.29	1.38	11.6~135.9	35.9	
		CL	1	1.34	1.34	66.7	66.7	1.04	1.04	18.7	18.7	
砂質凝灰岩	Nsif	CM	2	1.30~1.86	1.58	29.2~73.2	51.2	1.18~2.31	1.75	17.5~113.6	65.5	
		CL	1	1.34	1.34	66.7	66.7	1.04	1.04	18.7	18.7	
シルト岩	Nsilt	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
砂岩	Nss	CM	4	1.66~1.99	1.96	12.9~34.8	20.9	2.03~2.44	2.20	22.7~136.4	70.5	
シルト質凝灰岩	Nsiltf	CH	1	1.68	1.68	44.1	44.1	2.01	2.01	67.0	67.0	
シルト質凝灰岩	Ssiltf	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
凝灰岩	Sif	DM	3	1.40~1.60	1.48	45.7~65.5	54.0	1.72~2.14	1.93	24.9~40.5	33.2	
		CL	4	1.43~1.55	1.51	42.5~62.0	56.4	0.32~1.41	0.69	8.45~25.9	15.4	

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

表 6.1-92 対象事業計画地の土木地質試験，岩石試験結果概要（平成12年3月評価書）(3/3)

試験結果の概要

ボーリングコアのうち A-2（採取深度 25.0m～26.0m），A-4（採取深度 23.0m～24.0m），A-6（採取深度 24.0m～25.0m）の採取コア 3 試料について土壌の沈降特性及び粒径分布を調べた。
 粒度試験の結果，シルト以下の細粒分が 9.3～21.0%含まれていた。
 沈降試験の結果，180 分後の平均残留率は 1.6%，SS 濃度は 32mg/l であった。

表 粒径分布一覧表

粒径 (mm)		ふるい通過率 (%)		
		No. 1 (A-2) 七北田層 砂岩	No. 2 (A-4) 七北田層 凝灰質砂岩	No. 3 (A-6) 白沢層 凝灰岩
礫	9.500	100.0	100.0	100.0
	4.750	98.2	95.0	97.1
砂	2.000	96.3	86.1	80.6
	0.850	88.9	67.1	65.7
	0.425	61.5	33.4	55.3
	0.250	38.2	21.7	47.2
	0.106	11.6	12.8	29.6
シルト	0.075	9.3	10.6	21.0

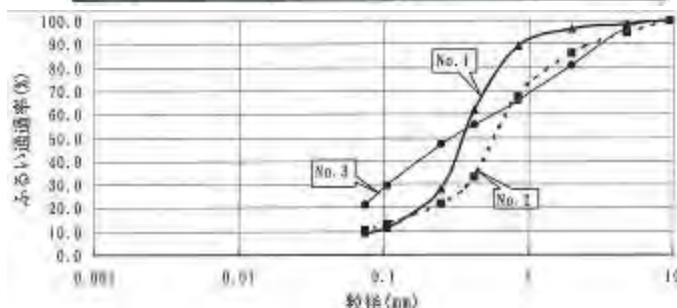


図 粒径分布図

表 沈降特性一覧表

時間 (分)	No. 1 (A-2) 七北田層 砂岩		No. 2 (A-4) 七北田層 凝灰質砂岩		No. 3 (A-6) 白沢層 凝灰岩		平均	
	SS濃度	残留率	SS濃度	残留率	SS濃度	残留率	SS濃度	残留率
0	2000	100.0	2000	100.0	2000	100.0	2000	100.0
5	140	7.0	120	6.0	220	11.0	160	8.0
10	120	6.0	81	4.1	130	6.5	110	5.6
15	100	5.0	66	3.3	94	4.7	87	4.3
30	89	4.5	44	2.2	54	2.7	62	3.1
60	69	3.5	30	1.5	29	1.4	43	2.1
180	57	2.8	20	1.0	20	1.0	32	1.6
360	45	2.5					16	0.8
1440	24	1.2					8	0.4
2880							0	0

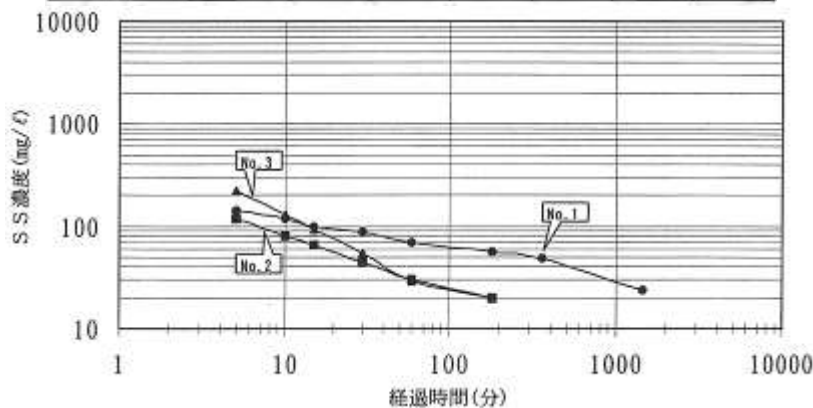


図 沈降特性図

粒度試験及び沈降特性

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

② 注目すべき地形

調査範囲には、「文化財保護法」（昭和 25 年 法律第 214 号）に基づく天然記念物等、「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）に掲載されている地形・地質、「日本の典型地形 都道府県別一覧」（平成 11 年 4 月 国土地理院）に掲載されている地形はない。

③ 災害履歴

対象事業計画地において、東日本大震災による特段の被害はない。

イ 地形・地質保全上の留意点

対象事業計画地では切土・盛土法面が計画されるが、谷埋め盛土等の安定性に配慮した計画とする。

(2) 地盤沈下

ア 地盤沈下の状況

① 規制地域の指定状況

仙台市では、「工業用水法」（昭和 31 年 6 月 11 日 法律第 146 号）の第 3 条第 1 項で定める指定地域が指定されている。対象事業計画地は「工業用水法」に基づく指定地域に含まれない。

また、調査範囲は「建築物用地下水の採取に関する法律」（昭和 37 年 5 月 1 日 法律第 100 号）の第 3 条第 1 項で定める指定地域に含まれない。

地下水の採取に係る条例として、仙台市では「宮城県公害防止条例」（昭和 46 年 3 月 18 日 条例第 12 号）において地下水採取規制を行っており、新增設井戸の届出、地下水採取量の記録、報告の義務付けを行うとともに、知事による地下水採取量の削減と水源転換等の指導を行っている。対象事業計画地は「宮城県公害防止条例」に基づく地下水採取規制の対象地域に含まれない。

② 地盤沈下の観測

「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、調査範囲において地盤沈下の観測が実施された情報はない。

③ 地下水位の観測

「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、調査範囲において地下水位の観測が実施された情報はない。「泉パークタウン第 6 住区開発に伴う地質調査業務」（平成 9 年、三菱地所株式会社）によれば、対象事業計画地内で実施したボーリング調査時の地下水位の高さ及び対象事業計画地の山裾に存在する井戸の地下水位の高さの記録があり、「8.5 水象 (5) 調査結果ア 既存資料調査」に示すとおりである。

④ 累積地盤収縮量の推移

「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、調査範囲において累積地盤収縮量の測定が実施された情報はない。

⑤ 地盤沈下に関する苦情件数

仙台市では、「公害関係資料集」（平成 25 年度測定結果）（仙台市環境局）によると平成 25 年度における地盤沈下に関する苦情は出されていない。大和町では、「公害苦情調査結果報告書」（宮城県環境生活部環境対策課）によると平成 25 年度における地盤沈下に関する苦情は出されていない。

なお、平成 12 年 3 月評価書において、地盤沈下の調査は実施していない。

イ 地盤沈下防止上の留意点

対象事業計画地及びその周辺には地盤沈下が生じやすい地形・地質（沖積低地の粘土質、砂質、泥炭質、腐植土質からなる地盤）は分布しておらず、地盤沈下が発生する可能性は少ない。

なお、事前に人工物（管等）の埋没等について十分に確認するとともに、対象事業計画地内に複数存在するため池を埋め立てる際には、防災暗渠による排水を行い十分な転圧を行いながら盛土を構築するよう留意する。

(3) 土壌汚染

ア 土壌汚染の状況

① 対象事業計画地の土壌調査結果（平成 12 年 3 月評価書）

平成 12 年 3 月評価書において、調査範囲で土壌汚染調査を実施している。測定結果は表 6.1-93、調査地点は図 6.1-26 に示すとおりである。

いずれの調査地点でも環境基準を満足している。

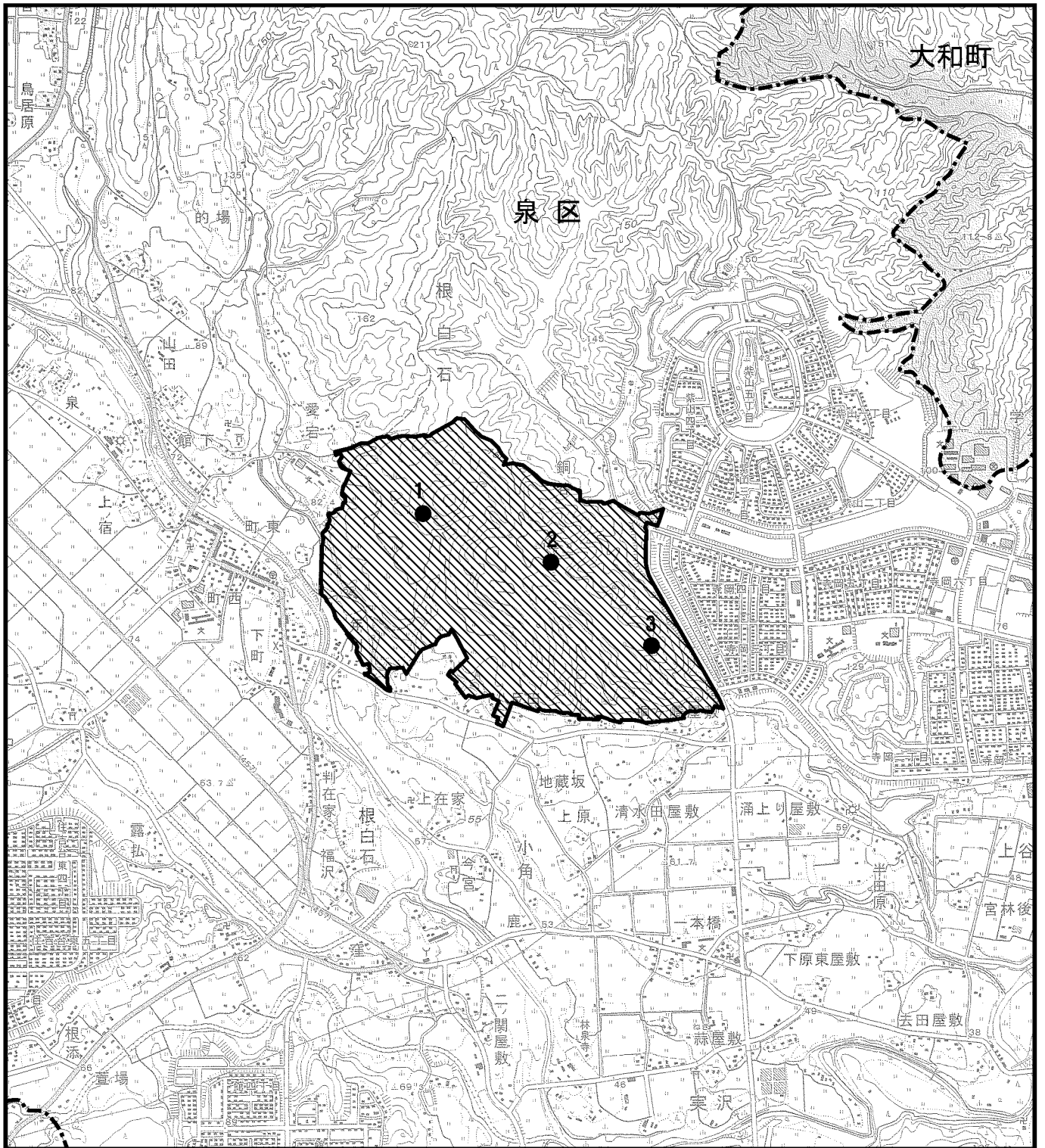
表 6.1-93 土壌汚染調査結果（平成 12 年 3 月評価書）

採取年月日		平成 9 年 8 月 22 日			
項目		地点			環境基準
		No. 1	No. 2	No. 3	
環境基準項目	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.01 以下
	シアン化合物 (mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	有機リン (mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	鉛及びその化合物 (mg/L)	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 以下
	六価クロム化合物 (mg/L)	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 以下
	砒素 (mg/L)	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.01 以下
	砒素（農用地） (mg/kg 乾量)	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	15 未満
	総水銀 (mg/L)	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 以下
	アルキル水銀化合物 (mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	P C B (mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	銅含有量 (mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.015	—
	銅含有量（農用地） (mg/kg 乾量)	1.17	0.02 未満	3.25	125 未満
	ジクロロメタン (mg/L)	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02 以下
	四塩化炭素 (mg/L)	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満	0.004 以下
	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02 以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.04 以下
	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	1 以下
	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
	トリクロロエチレン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.03 以下
	テトラクロロエチレン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
	チウラム (mg/L)	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
	シマジン (mg/L)	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003 以下
	チオベンカルブ (mg/L)	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.02 以下
	ベンゼン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
セレン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下	




※1：検出されないこととは、「土壌の汚染に係る環境基準について」（平成 3 年環境庁告示第 46 号）で、定められた分析方法による分析結果が、当該方法の定量限界を下回ることを示す。

※2：表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 土壌汚染調査地点 (图中番号1~3)

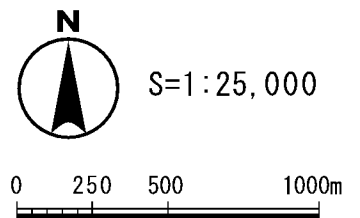


図 6.1-26
土壌汚染調査地点位置図
(平成12年3月評価書)

出典:「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
(平成12年3月 三菱地所株式会社)

② 対象事業計画地周辺の土壌調査結果

調査範囲において、「大沢宅地造成事業報告書」(平成 21 年 1 月 大成ロテック株式会社) 及び「環境影響評価書 仙台市新墓園建設事業(第 2 期)」により土壌汚染調査が実施されている。測定結果は表 6.1-94 及び表 6.1-95, 調査地点は図 6.1-27 に示すとおりである。

これらの調査では、いずれの分析項目も土壌汚染対策法の基準等を満足している。

表 6.1-94 土壌汚染調査結果(第二種特定有害物質: 重金属等)

項目	分析結果		土壌汚染対策法の基準	
	土壌溶出量 (mg/L)	土壌含有量 (mg/kg)	土壌溶出量基準 (mg/L)	土壌含有量基準 (mg/kg)
カドミウム及びその化合物	0.001 未満	5 未満	0.01 以下	150 以下
六価クロム化合物	0.01 未満	10 未満	0.05 以下	250 以下
水銀及びその化合物	0.005 未満	0.5 未満	水銀が 0.0005 以下 かつアルキル水銀が 検出されないこと	15 以下
セレン及びその化合物	0.001 未満	5 未満	0.01 以下	150 以下
鉛及びその化合物	0.001 未満	5 未満	0.01 以下	150 以下
砒素及びその化合物	0.001 未満	5 未満	0.01 以下	150 以下
ふっ素及びその化合物	0.08 未満	200 未満	0.8 以下	4,000 以下
ほう素及びその化合物	0.1 未満	200 未満	1 以下	4,000 以下

※1: 土壌溶出量は環境省告示(第 18 号平成 15 年 3 月 6 日), 土壌含有量は環境省告示(第 19 号平成 15 年 3 月 6 日)により測定したものである。環境基準の「検出されないこと」とは、「土壌の汚染に係る環境基準について」(平成 3 年環境庁告示第 46 号)別表に掲げる方法により当該項目を測定した場合に、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

※2: 七北田層凝灰質砂岩(対象事業計画地に分布する地質)を対象とした分析結果である。

※3: 表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典: 「大沢宅地造成事業報告書」(平成 21 年 1 月 大成ロテック株式会社)

表 6.1-95 土壤汚染調査結果

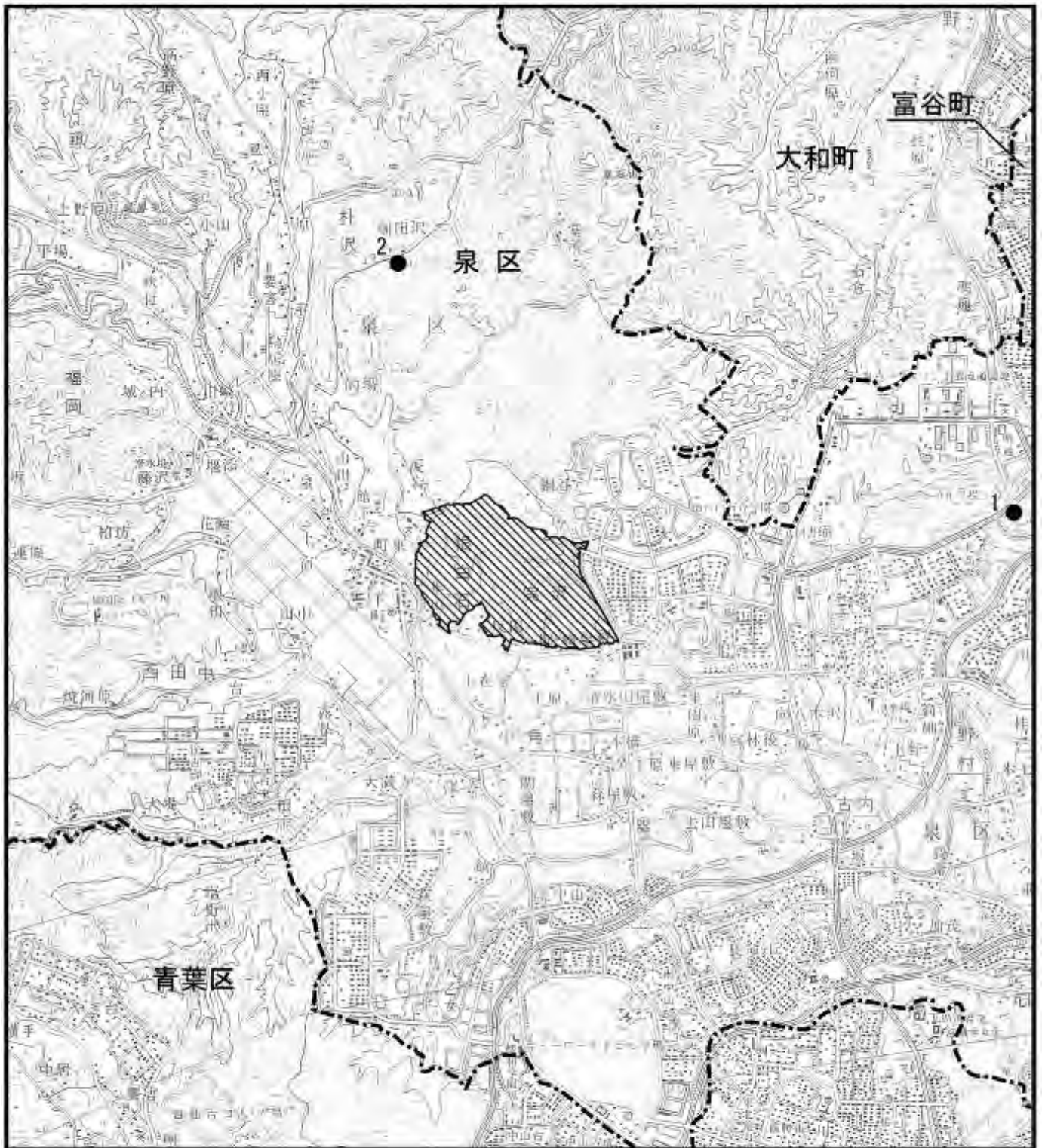
調査項目	No. 1	No. 2	No. 3	環境基準
カドミウム mg/L	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.01mg/L 以下かつ農用地では米1kg中1mg未満
全シアン mg/L	不検出 (0.1 未満)	不検出 (0.1 未満)	不検出 (0.1 未満)	検出されないこと
有機燐 mg/L	不検出 (0.1 未満)	不検出 (0.1 未満)	不検出 (0.1 未満)	検出されないこと
鉛 mg/L	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01mg/L 以下
六価クロム mg/L	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05mg/L 以下
砒素 mg/L	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.01mg/L 以下
砒素 (農用地) mg/kg	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	農用地では土壌 1kg につき 15mg 未満
総水銀 mg/L	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀 mg/L	不検出 (0.0005 未満)	不検出 (0.0005 未満)	不検出 (0.0005 未満)	検出されないこと
P C B mg/L	不検出 (0.0005 未満)	不検出 (0.0005 未満)	不検出 (0.0005 未満)	検出されないこと
銅 mg/L	0.007	0.005 未満	0.006	—
銅含有量 (農用地) mg/kg	0.37	0.96	0.72	農用地では土壌 1kg につき 125mg 未満
ジクロロメタン mg/L	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02mg/L 以下
四塩化炭素 mg/L	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン mg/L	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン mg/L	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン mg/L	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン mg/L	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.03mg/L 以下
テトラクロロエチレン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン mg/L	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002mg/L 以下
チウラム mg/L	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006mg/L 以下
シマジン mg/L	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ mg/L	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.02mg/L 以下
ベンゼン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01mg/L 以下
セレン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01mg/L 以下

※1: 測定結果の「～未満」とは、計量の下限值未満であり、環境省告示による調査方法では検出されなかったことを示す。




※2: 表記している3つの調査結果及び箇所は、第1期墓園事業の環境影響評価時に調査したものであり、詳細な時期・位置は出典には記載されていない。

※3: 表内の網掛けされた箇所は、環境基準を満足しなかった値を示す。

出典: 「環境影響評価書 仙台市新墓園建設事業(第2期)」(仙台市)

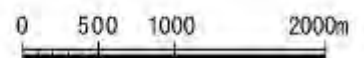


凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 土壌汚染調査地点 (図中番号 1 : 出典1による)
(図中番号 2 : 出典2による)



S=1:50,000



※ 調査地点2については、詳細な土壌汚染調査地点が不明であるため、新墓園建設事業地を示している。

出典1: 「大沢宅地造成事業報告書」(平成21年1月 大成ロテック株式会社)
出典2: 「環境影響評価 仙台市新墓園建設事業(第2期)」(仙台市)

図 6.1-27
土壌汚染調査地点位置図
(調査範囲近隣地区)

③ 土壌のダイオキシン類調査結果

調査範囲では、平成 20 年度、平成 24 年度及び平成 25 年度に土壌のダイオキシン類調査が実施されている。

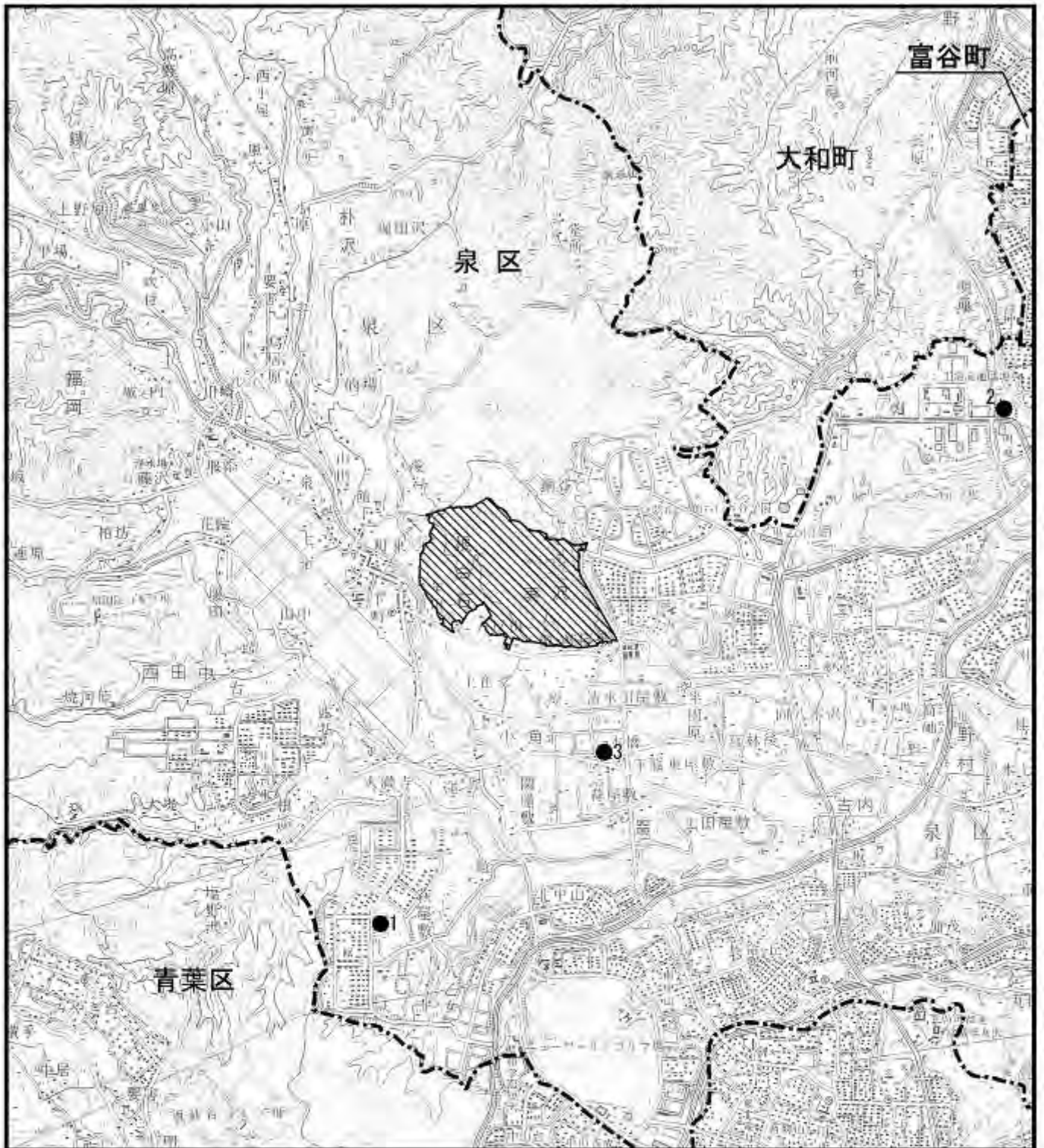
土壌のダイオキシン類調査結果は表 6.1-96、調査地点図は図 6.1-28 に示すとおりである。調査結果はいずれの地点においても環境基準を満足していた。

表 6.1-96 土壌のダイオキシン類調査結果




単位：pg-TEQ/g

調査項目・環境基準	調査地点名 調査年月日	館中央公園 (No. 1)	泉ヶ丘小学校 (No. 2)	実沢小学校 (No. 3)
		H20. 11. 18	H24. 11. 27	H25. 8. 30
ダイオキシン類	1,000	2.3	0.041	0.10

出典：「公害関係資料集」（平成 20～25 年度測定結果）（仙台市環境局）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 土壌のダイオキシン類調査地点 (图中番号: 1~3)

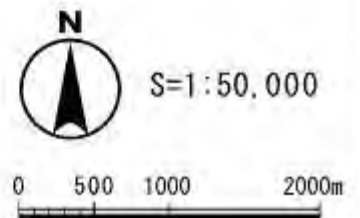


図 6.1-28
土壌のダイオキシン類
調査地点図 (文献調査)

出典:「公害関係資料集」(平成20~25年度測定結果)(仙台市環境局)

④ 土壤汚染対策法施行状況

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの仙台市における土壤汚染対策法の施行状況は、表 6.1-97 に示すとおりである。

法に規定する特定有害物質の使用を把握している特定施設の件数は 170 件である。施行件数が最も多いものは、法第 4 条の「一定規模 (3,000m²) 以上の土地の形質の変更の届出」の 73 件である。

表 6.1-97 土壤汚染対策法施行状況

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

内 容		件数
法に規定する特定有害物質の使用を把握している特定施設の件数		170
法第 3 条 ^{※1}	有害物質使用特定施設の廃止件数	20
	調査結果報告件数	6
	調査猶予件数	15
法第 4 条	一定規模 (3,000 m ²) 以上の土地の形質の変更の届出	73
	調査命令発出件数	0
	調査結果報告件数	0
法第 5 条	調査命令発出件数	0
	調査結果報告件数	0
法第 6 条	要措置区域に指定した件数	3
	要措置区域を解除した件数	1
法第 12 条	形質変更時要届出区域に指定した件数	9
	形質変更時要届出区域を解除した件数	3
法第 14 条 ^{※2}	指定の申請件数	10

※1：法第 3 条については、土壤汚染対策法施行後から平成 26 年 3 月 31 日までの累計件数。有害物質使用特定施設の廃止年度と調査結果報告・調査猶予の年度が異なる場合があること、また、調査猶予の取り消し後に調査結果報告を行う場合があることから、結果報告件数と調査猶予件数の和が有害物質使用特定施設の廃止件数と一致しない場合がある。

※2：法第 14 条については、指定の申請の届出年度と指定年度が異なる場合があること、また指定の申請 1 件につき、要措置区域と形質変更時要届出区域の両方を指定する場合があることから、指定の申請件数と区域に指定した件数の合計は一致しない場合がある。

出典：「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果) (仙台市環境局)

⑤ 土壤汚染に関する苦情件数

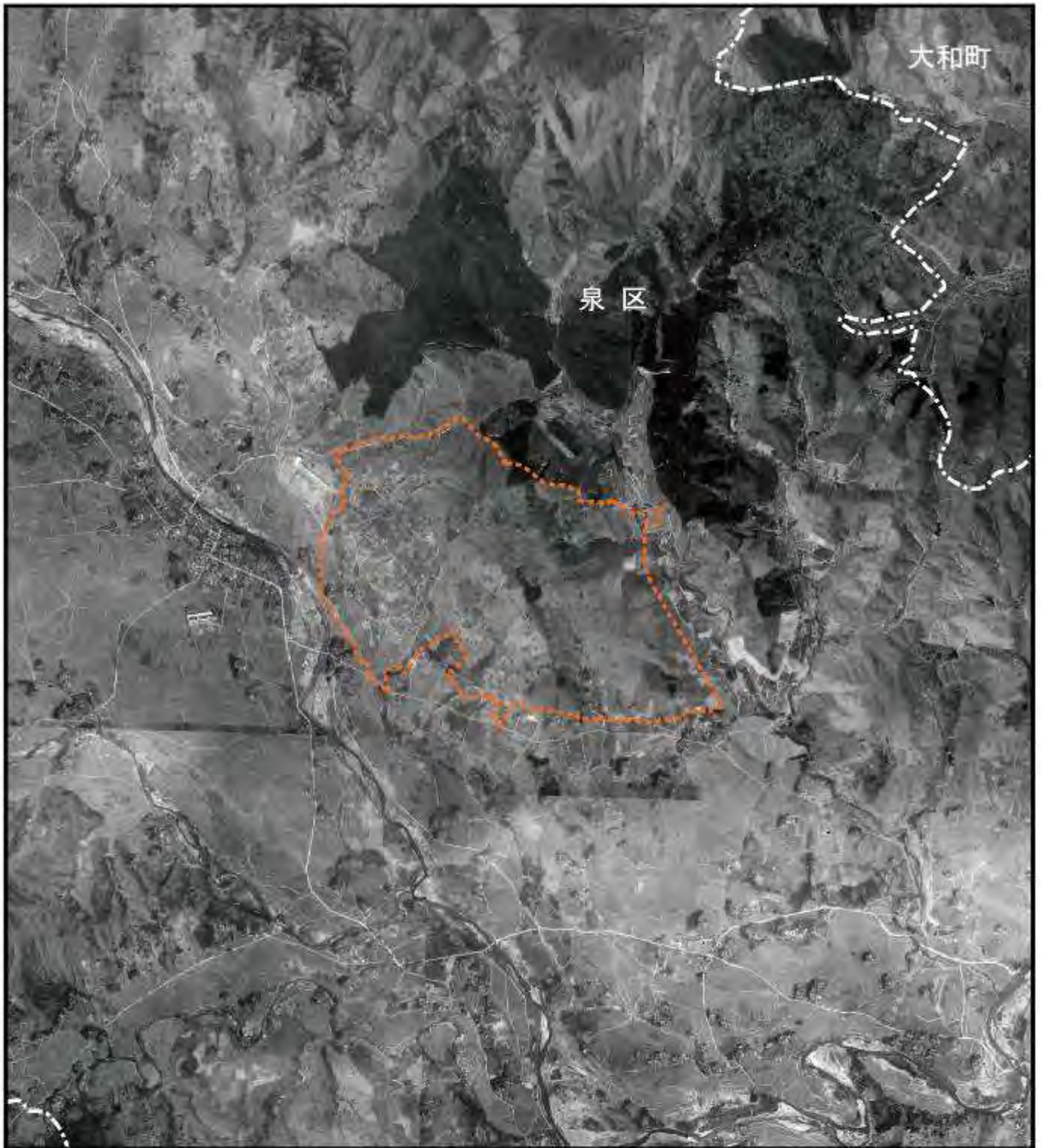
仙台市では、「公害関係資料集」(平成 25 年度測定結果) (仙台市環境局) によると平成 25 年度における土壤汚染に関する苦情件数は出されていない。大和町では、「公害苦情調査結果報告書」(宮城県環境生活部環境対策課) によると平成 25 年度における土壤汚染に関する苦情は出されていない。

⑥ 発生源の状況



図 5-1 に示す関係地域内では、水質汚濁防止法・下水道法による届出が出されている特定施設であって、土壤汚染対策法により指定された有害物質を使用している施設は存在しない。

⑦ 土壤汚染の可能性

対象事業計画地内は林業(植林)及び農業に利用されてきており、他の地域から土壌を持ち込む大規模な土地の改変や土壌汚染の原因となり得る工場の建設・操業は無い(図 6.1-29, 図 6.1-30, 図 6.1-31 参照)。一方、対象事業計画地周辺の丘陵地は新興住宅団地として造成されている。これらの造成団地は、団地内の土砂を利用して造成していると想定されることから、土壌汚染の可能性は低いと言える。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線

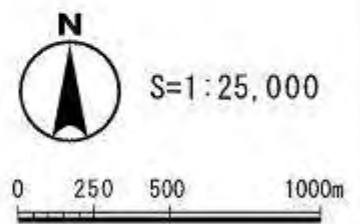




図 6.1-29
対象事業計画地周辺の状況
(1956年)

出典:米軍撮影空中写真(1956年撮影、コース番号:M555)



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線



S=1:25,000

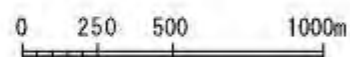




図 6.1-30
対象事業計画地周辺の状況
(1975年)

出典:国土画像情報(オルソ化空中写真)国土交通省(1975年撮影)



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線

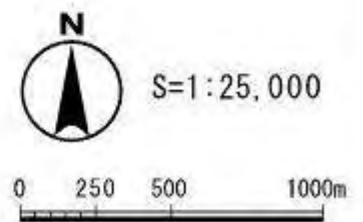


図 6.1-31
対象事業計画地周辺の状況
(2012年)

出典: 三菱地所株式会社 (2012年撮影)

イ 土壤汚染防止上の留意点

対象事業計画地内及び周辺地域には、土壤汚染の原因となる地歴はない。造成工事においては場内土量のバランスを図るため搬出入土を極力少なくする計画とするが、土砂の搬入に際しては汚染土壤を持ち込まないよう留意する。

6.1.4. 生物環境

(1) 植物

ア 植物相及び注目すべき種の状況

① 植物相

a) 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）によれば、仙台市の丘陵地帯は暖地帯と冷温帯の間に位置する中間温帯と呼ばれる領域でモミーイヌブナ林の発達が見られ、しかもその領域が広い面積を占めることが特徴である。この領域では暖地系の植物、寒地系の植物の両方が見られるなど、植物相は非常に多様である。

また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）によれば、大和町ではミズナラ、オオカメノキ、エゾユズリハ、ヒメアオキ、チシマザサ等が生育する。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、調査地域（対象事業計画地及びその周辺約 200m の範囲）で植物相調査を実施している。植物相調査実施日は表 6.1-98、植物相確認種数一覧表は表 6.1-99 に示すとおりである。

確認された植物種は調査地域全体で 122 科 720 種（亜種、変種、品種も 1 種とする）であり、その大部分は宮城県内の低地や丘陵地に主に生育する種で構成される。

表 6.1-98 植物相調査実施日（平成 12 年 3 月評価書）

調査項目	調査年	調査月日
植物相	平成 9 年	8 月 26 日, 27 日, 28 日 10 月 7 日, 8 日
	平成 10 年	4 月 19 日 5 月 1 日, 16 日, 17 日, 29 日, 30 日
植物群落	平成 9 年	8 月 26 日, 27 日, 28 日

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 6.1-99 植物相確認種数一覧表（維管束植物）（平成 12 年 3 月評価書）

分類群		対象事業 計画地内		対象事業 計画地周辺		全体				
		科数	種数	科数	種数	科数	種数			
シダ植物		10	36	10	28	11	40			
種子植物	裸子植物	5	6	4	5	5	6			
	被子植物	単子葉植物		15	147	15	135	15	192	
		双子葉 植物	離弁花類		58	248	60	248	64	306
			合弁花類		24	136	24	131	27	176
合計		112	573	113	547	122	720			

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

② 注目すべき植物種

a) 文献調査

注目すべき植物種は「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）に掲載されている学術上重要種，減少種，環境指標種及びふれあい保全種の該当種に加え，環境省レッドリスト・宮城県レッドリスト・文化財保護法及び種の保存法の該当種とした（表 6.1-100 及び表 6.1-101 参照）。

調査範囲における注目すべき植物種は，表 6.1-102～表 6.1-105 に示すとおりである。この注目すべき植物種のうち「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）に記載のある植物種は 81 種であり，分布地は根白石，朴沢小山，水の森公園等である。また，「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）に記載のある植物種のうち調査範囲に生育する注目すべき植物種は 37 種であり，分布地は大和町宮床地区である。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において確認された注目すべき植物種は表 6.1-102～表 6.1-105 に示す 104 種であり，その確認位置は図 6.1-32 に示すとおりである。

以上 3 つの文献に記載の調査範囲における注目すべき種は，全部で 130 種である。

表 6.1-100 注目すべき種の選定基準

選定基準		番号	説明	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市において、もともと稀産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種。	
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種。	
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種	
		4	その他、学術上重要な種	
	注目種	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
			A	現在ほとんど見ることができない。
			B	減少が著しい。
			C	減少している。
			*	普通に見られる。
			/	生息・生育しない可能性が非常に大きい。
	環境指標種	○	本市の各環境分類において良好な環境を指標する種。（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標）	
	ふれあい保全種	○	市民に親しまれている（よく知られている）種のうち、保全上重要な種。（身近にある種の保全に対して啓蒙をはかるための種。）	
レッドデータ等	国 RDB（「環境省第4次レッドリスト」（平成24・25年 環境省報道発表資料）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR	絶滅危惧ⅠA類	
		EN	絶滅危惧ⅠB類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群	
	宮城 RL（「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト2013版－」（平成25年 宮城県）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		要	要注目種	
	天記、種保存法	特天	『文化財保護法』（昭和25年法律第214号）における特別天然記念物	
		天	『文化財保護法』（昭和25年法律第214号）における天然記念物	
		国内	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成4年法律第75号）における国内希少野生動植物	
		国際	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成4年法律第75号）における国際希少野生動植物	

出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成23年3月 仙台市）

表 6.1-101 減少種の地域区分

番号	地域区分
1	山地地域
2	西部丘陵地・田園地域
3	市街地地域
4	東部田園地域
5	海浜地域（後背の樹林帯も含む）

※：対象事業計画地は、「2 西部丘陵地・田園地域」に該当する。

出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成23年3月 仙台市）
「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画」（平成28年3月 仙台市）

表 6.1-102 注目すべき植物種(1/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分							国 RDB	県 RL	天記・ 種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種										
							減少種				ふれあい保全種						
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園		海浜					環境指標種
1	ミズニラ	ミズニラ	○		○	1		B		A				NT	NT	根白石	
2	トクサ	イヌスギナ		○				B		B						大和町宮床地区	
3	コケシノブ	ヒメハイホラゴケ	○			1										朴沢小山	
4	オシダ	リョウメンシダ	○	○	○			B				○	○			水の森公園, 大和町宮床地区	
5		オシダ			○			B				○					
6		イワシロイノデ	○		○			B								水の森公園, 根白石	
7		サカゲイノデ	○					B								北中山	
8		ジュウモンジシダ	○		○			B				○	○			水の森公園	
9	メシダ	シケチシダ			○	1,2									要		
10		イヌガンソク			○			C				○					
11		クサソテツ			○			B		C			○				
12	マツ	モミ	○	○	○	2		C				○	○			長命館公園, 大和町宮床地区	
13	イチイ	カヤ			○	2		B					○				
14	クルミ	オニグルミ			○			B	B	B		○	○				
15	ヤナギ	ネコヤナギ			○	4		C	C			○	○				
16		キツネヤナギ	○		○			C				○	○			水の森	
17	カバノキ	ハンノキ			○	1,4		C		B	C	○	○				
18		ミズメ			○			C	C				○				
19		サワシバ	○	○	○			C	B			○				朴沢, 大和町宮床地区	
20		アカシデ	○	○	○			C	B			/	○	○			黒森山, 長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区
21		イヌシデ	○	○	○	4		C	B			C	○			長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
22	ブナ	ブナ			○	4		C	B				○			屏風岳, 大和町宮床地区	
23		イヌブナ	○	○	○	1,4		B				○	○			屏風岳, 大和町宮床地区	
24		アカガシ			○	2		C	C	C	C	○					
25		ミズナラ	○		○			C	B				○				黒森山, 朴沢
26		アラカシ			○											要	
27		シラカシ	○		○	2		C	C	C	/	○	○				芋沢大國神社, 長命館公園
28	ニレ	エノキ	○		○	4		B	B	B		○				寺岡	
29		ケヤキ		○	○			C	C	B	B	○	○			大和町宮床地区	
30	タデ	ヤナギヌカボ	○			1				C				VU	要	福岡	
31		イヌタデ			○	○						○				大和町宮床地区	
32		ミゾソバ	○	○	○			C	B	C		○	○			水の森, 大和町宮床地区	
33	ザクロソウ	ザクロソウ			○	1											
34	ナデシコ	カワラナデシコ	○		○			C				C	○			朴沢	
35	モクレン	タムシバ			○							○					
36	クスノキ	オオバクロモジ	○	○	○							○	○			水の森公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
37		シロダモ	○			2		*		*	*	○	○			長命館公園, 鷺倉	
38	キンボウゲ	ニリンソウ			○			B		B		○	○				
39		リュウキンカ	○		○							○				白石銅谷, 朴沢堂所	
40		カザグルマ			○	1		B		B				NT	VU		
41		トウゴクサバノオ	○			1		B									鷺倉
42		バイカモ	○			1		B								朴沢上の原	

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。

表 6.1-103 注目すべき植物種(2/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分							国 RDB	果 RL	天記・種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種										
							減少種				環境指標種	ふれあい保全種					
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園							海浜
43	ボタン	ヤマシャクヤク	○			1	B	B						NT	CR+EN	朴沢	
44	ツバキ	ヤブツバキ		○	○			B	B	B	B	○	○			大和町宮床地区	
45	モウセンゴケ	モウセンゴケ	○					C			C					寺岡	
46	ケシ	ヤマブキノソ	○			1		B								鷺倉, 堂所	
47	アブラナ	ナズナ	○	○	○			B	B	B		○	○			水の森公園, 北中山, 朴沢, 大和町宮床地区	
48	ベンケイソウ	ベンケイソウ			○										VU		
49		キリンソウ	○									○				上谷刈丸田沢	
50	ユキノシタ	トリアシショウマ	○	○	○		C	B		B			○			長命館公園, 大和町宮床地区	
51		コチャルメルソウ	○													朴沢洞門	
52	バラ	クサボケ			○										CR+EN		
53		ヤマブキ	○					C								朴沢	
54		カスミザクラ	○	○	○			C								黒森山, 大和町宮床地区	
55		ナガボノワレモコウ			○										VU		
56	マメ	ツクシハギ	○		○			B				○	○			水の森公園, 朴沢	
57	ユズリハ	ユズリハ	○			1,2		C		C	C					水の森公園	
58	カエデ	ハウチワカエデ	○	○	○			C					○			水の森, 鷺倉, 大和町宮床地区	
59		メグスリノキ	○	○	○	1		B					○			長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
60		ヤマモミジ	○		○			B					○	○		水の森公園, 朴沢	
61		イタヤカエデ (広義)	○	○	○			C								長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
62		ウリハダカエデ	○	○	○			C					○			長命館公園, 黒森山, 水の森公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
63	トチノキ	トチノキ	○		○		C	C					○			朴沢	
64	モチノキ	イヌツゲ	○	○	○			C					C			長命館公園, 黒森山, 水の森公園, 大和町宮床地区	
65		ソヨゴ	○			1,2		C							NT	黒森山, 塩野沢	
66	スマレ	ナガハシスマレ	○	○	○	1		B		B						長命館公園, 黒森山, 水の森公園, 朴沢, 鷺倉, 芋沢, 大和町宮床地区	
67	ヒシ	ヒシ	○		○			B		B			○	○		芋沢, 朴沢, 福岡, 根白石	
68	アカバナ	カラフトアカバナ			○										NT		
69	ミズキ	アオキ	○	○	○			C	C	C	C	○	○			水の森公園, 長命館公園, 鷺倉, 大和町宮床地区	
70	ウコギ	コシアブラ	○		○		C	C					○			水の森公園, 長命館公園, 鷺倉	
71	イチヤクソウ	ウメガサソウ	○						C		C	○	○			朴沢	
72	ツツジ	ヤマツツジ	○	○	○			C	C		C	○	○			黒森山, 水の森公園, 長命館公園, 朴沢, 鷺倉, 大和町宮床地区	
73		トウゴクミツバツツジ	○			2		B								長命館公園	
74		ナツハゼ	○		○			C					○			長命館公園, 根白石	
75	ヤブコウジ	ヤブコウジ			○								○				
76	サクラソウ	サクラソウ	○		○	1		A					○		NT	CR+EN	芋沢, 朴沢
77	エゴノキ	オオバアサガラ			○	1		A									
78	モクセイ	イボタノキ	○		○			B					○			根白石, 長命館公園, 朴沢	
79	リンドウ	ホソバツルリンドウ	○			1		C						VU	VU	実沢	
80		イヌセンブリ	○			1								VU	VU	福岡	
81	ガガイモ	スズサイコ	○			1		A						NT	VU	朴沢	
82		コカモメツル			○	1									VU		
83	ムラサキ	ルリソウ			○			C							NT		
84	シソ	ヒカゲヒメジソ			○										要		

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。

表 6.1-104 注目すべき植物種(3/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分							国 RDB	県 RL	天記・ 種保存法	分布地		
			①	②	③	学術上重要種	注目種											
							減少種				ふれあい保全種							
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園		海浜					採掘指標種	
85	ゴマノハグサ	ムラサキサギゴケ		○	○					C							大和町宮床地区	
86	タヌキモ	イヌタヌキモ			○	1				B				NT	VU			
87	オオバコ	オオバコ	○	○	○							○					水の森, 長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
88	スイカズラ	オオカメノキ			○							○						
89	オミナエシ	オミナエシ			○					B		B	○	○				
90	キク	オクモミジハグマ	○	○	○					C			○				水の森, 大和町宮床地区	
91		キッコウハグマ	○		○					B			○				水の森公園	
92		オケラ	○		○					B			○	○			水の森公園, 長命館公園	
93		コウヤボウキ			○										CR+EN			
94		アキノキリンソウ	○	○	○						C			○				水の森, 大和町宮床地区
95		エンタンボボ	○	○	○						C	B	B	C	○	○		黒森山, 鷺倉, 大和町宮床地区
96	オモダカ	アギナシ			○					C		B	○	○	NT	VU		
97	ヒルムシロ	エビモ	○							B		B	○				芋沢	
98		ホンバミズヒキモ			○					C		B	○			VU		
99	ユリ	カタクリ	○	○	○					B	B	B		○			水の森公園, 長命館公園, 鷺倉, 泉, 大和町宮床地区	
100		ショウジョウバカマ			○					B			○	○				
101		ニッコウキスゲ			○					B	B	B		○				
102		ヒメヤブラン	○	○							C			*	○	○		根白石, 朴沢, 大和町宮床地区
103		オオバジャノヒゲ	○	○	○						B			C	○			芋沢, 長命館公園, 大和町宮床地区
104		ナルコユリ			○											DD		
105		ユキザサ	○							C			○				長命館公園	
106	ミズアオイ	コナギ			○							C	○	○				
107	アヤメ	ノハナショウブ	○		○	1				C			○	○			朴沢, 水の森公園	
108		ヒメジャガ	○		○					B	B		○	○	NT	NT	長命館公園, 水の森公園, 福岡, 根白石	
109	イネ	ヤマアワ	○		○					B			B				根白石	
110		メヒシバ		○	○								○				大和町宮床地区	
111		カゼクサ	○	○	○						B	C		○			水の森, 朴沢, 大和町宮床地区	
112		オオウシノケグサ	○			4					B		B	C	○	○		古内
113		エゾノサヤヌカグサ		○	○								C					朴沢, 根白石, 大和町宮床地区
114		オギ			○						C	C	C	C	○	○		
115		ヨシ		○	○						C	C	C	C	○	○		大和町宮床地区
116		ツルヨシ			○						C	C	C	○				
117		オオクマガサ	○		○	3												水の森公園, 芋沢
118		マコモ			○						B		B	○	○			
119		シバ	○		○					B	B	B	○	○			長命館公園, 朴沢	
120	サトイモ	ミズバショウ	○							B			○	○			丸田沢	
121		ヒメザゼンソウ			○						B	C						
122	ミクリ	ナガエミクリ	○		○	1				A		A		NT	NT		根白石	
123	ガマ	ヒメガマ			○					C	C	C		○				
124	カヤツリグサ	タチスゲ	○		○	1									CR+EN		塩野沢	
125		カンガレイ	○		○					B		B					丸田沢	
126		サンカクイ			○						B		B					

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。

表 6.1-105 注目すべき植物種 (4/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										天記・種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種											
							減少種											
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	ふれあい保全種	国 RDB	県 RL			
127	ラン	ジュンラン	○		○			C		C		○						水の森公園
128		ホクリクムヨウラン	○			1		B										芋沢
129		クモキリソウ	○		○	1, 4		B			B							芋沢, 朴沢
130		ネジバナ	○	○	○			B		B		○	○					水の森公園, 長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区
	63 科	130 種	81 種	37 種	104 種	40 種	11 種	100 種	23 種	44 種	22 種	65 種	59 種	12 種	26 種	0 種		

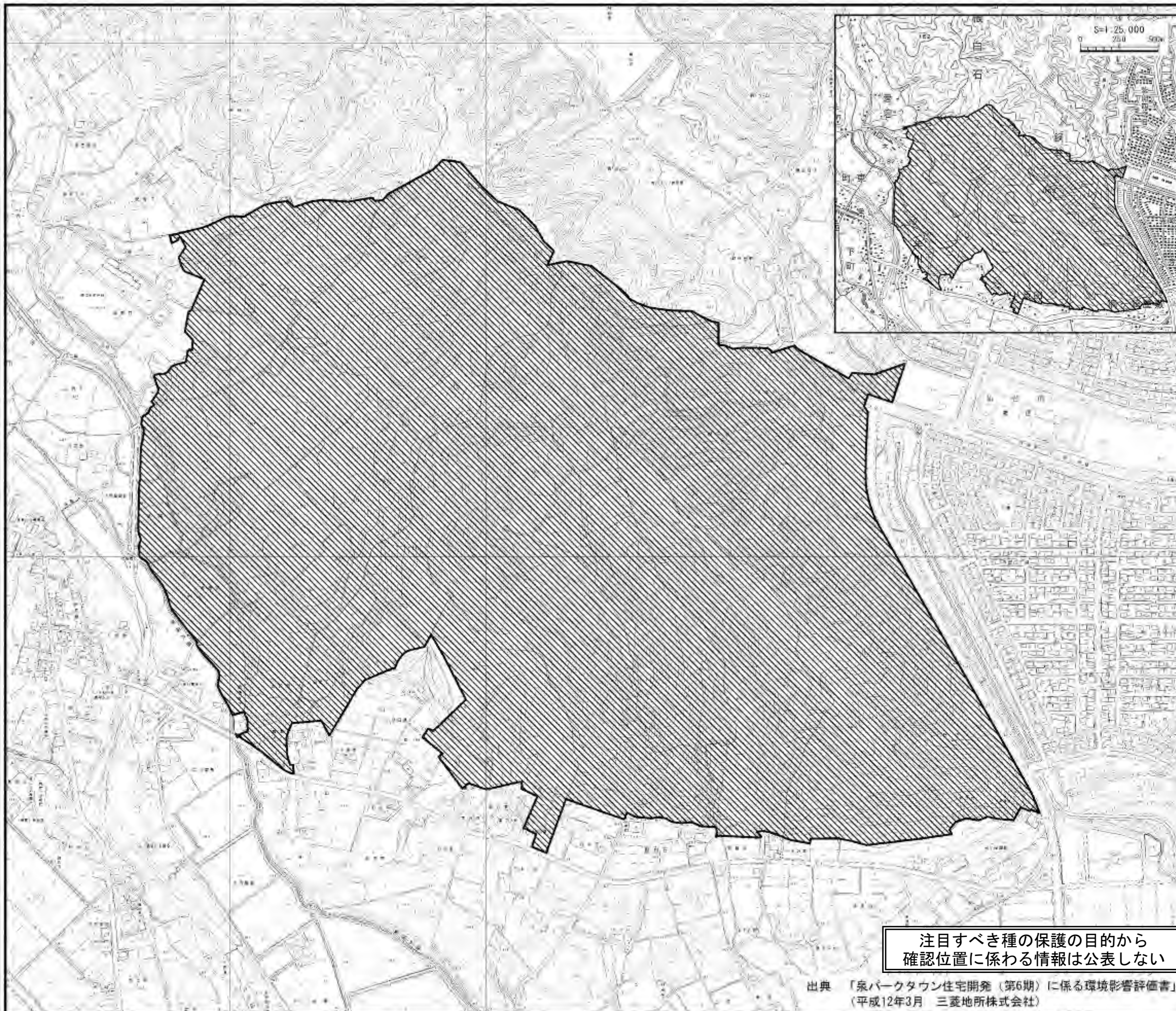
※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。

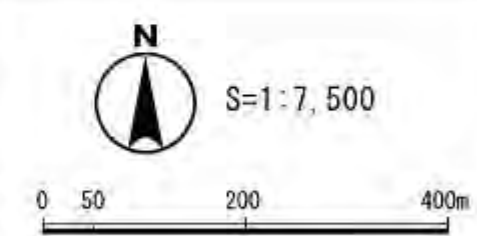


凡 例	
●	ミズニラ
■	シケチシダ
▲	アラカシ
★	ザクロソウ
●	カザグルマ
●	サクラソウ
●	オオバアサガラ
●	コカモメヅル
●	アギナシ
●	ホソバミズヒキモ
●	ヒメザゼンソウ
■	ナガエミクリ
▲	タチスゲ
★	シュンラン
▨	対象事業計画地
■	ヒメジャガ

※出典で位置が確認できた注目すべき種のみを記載した。

※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

※一般的に、植物相調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

出典 「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-32
注目すべき植物種の確認位置図
(平成12年3月評価書)

イ 植生及び保全上重要な植物の生育地の状況

① 植生

a) 文献調査

調査範囲の現存植生は、図 6.1-33 に示すとおりである。

対象事業計画地の東側及び南側の東北自動車道以南は、市街地となっている。七北田川周辺は、水田雑草群落が多範囲を占める。対象事業計画地の北側及び七北田川を挟んで西側、大和町内はクリーコナラ群集やアカマツ群集が分布している。また、七北田川沿いにはヤナギ低木群落、ヨシクラスなどの自然植生や自然植生に近い植生自然度の高い植生がみられる（表 6.1-106 参照）。なお、「平成 21 年度 自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 22 年 3 月 仙台市）では、環境省の植生自然度 9、10（自然植生）に該当する植生を「自然性の高い植生」と位置づけている。

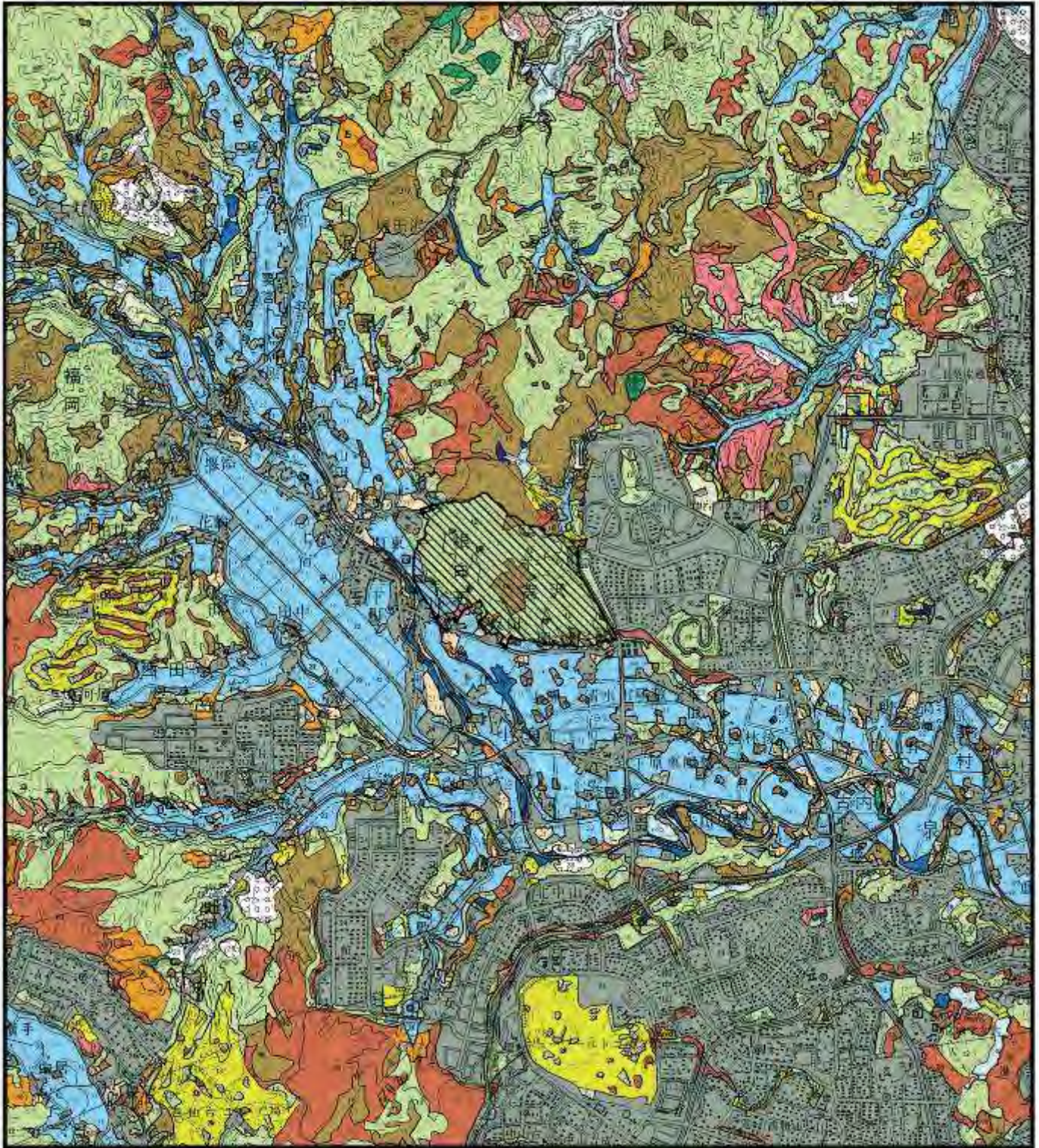
対象事業計画地の植生は中央部から東側がクリーコナラ群集、西側が畑地雑草群落、南側がスギ植林や水田雑草群落が分布している。

表 6.1-106 植生自然度区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クヌギーコナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：自然環境保全基礎調査[環境省・生物多様性センター]

http://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg_kiso.html



凡例

▨ : 対象事業計画地 - · - · : 市区町境界線

- | | | | |
|-------------------|--------------------|-----------------|-------------------------|
| 01 ミヤマハシロキ群落(9) | 09 落葉広葉樹林群落(7) | 17 竹林(7) | 25 緑の多い住宅地(2) |
| 02 モミイヌブナ群集(9) | 10 スズキ群団(V)(3) | 18 ゴルフ場・芝地(2) | 26 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等(2) |
| 03 イヌシダーアカシダ群落(9) | 11 伏拝跡地群落(V)(4) | 19 路傍・空地雑草群落(4) | 27 工場地帯(1) |
| 04 マヤキ群落(IV)(9) | 12 クリーコナツ群集(7) | 20 果樹園(3) | 28 造成地(1) |
| 05 ハシロキ群落(IV)(9) | 13 クズ群落(4) | 21 畑雑草群落(2) | 29 開放水域(-) |
| 06 ヤナギ低木群落(IV)(9) | 14 ヨシクラス(10) | 22 水田雑草群落(2) | 30 自然裸地(-) |
| 07 ヤマハシロキ群落(7) | 15 ヒルムシロクラス(10) | 23 放葉水田雑草群落(4) | |
| 08 アカマツ群落(V)(7) | 16 スズキ・ヒキ・サワラ雑林(8) | 24 市街地(1) | |

※ 凡例の括弧内は植生自然区(表 6.1-106 参照)を示す。

出典: 「1:50,000 仙台市植生図 東日本大震災後における自然環境基礎調査業務委託報告書」
(平成 25 年 仙台市)

「第 6 回・7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査 根白石」(2002 年 環境省)



S=1:50,000

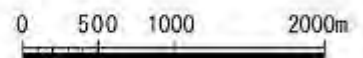
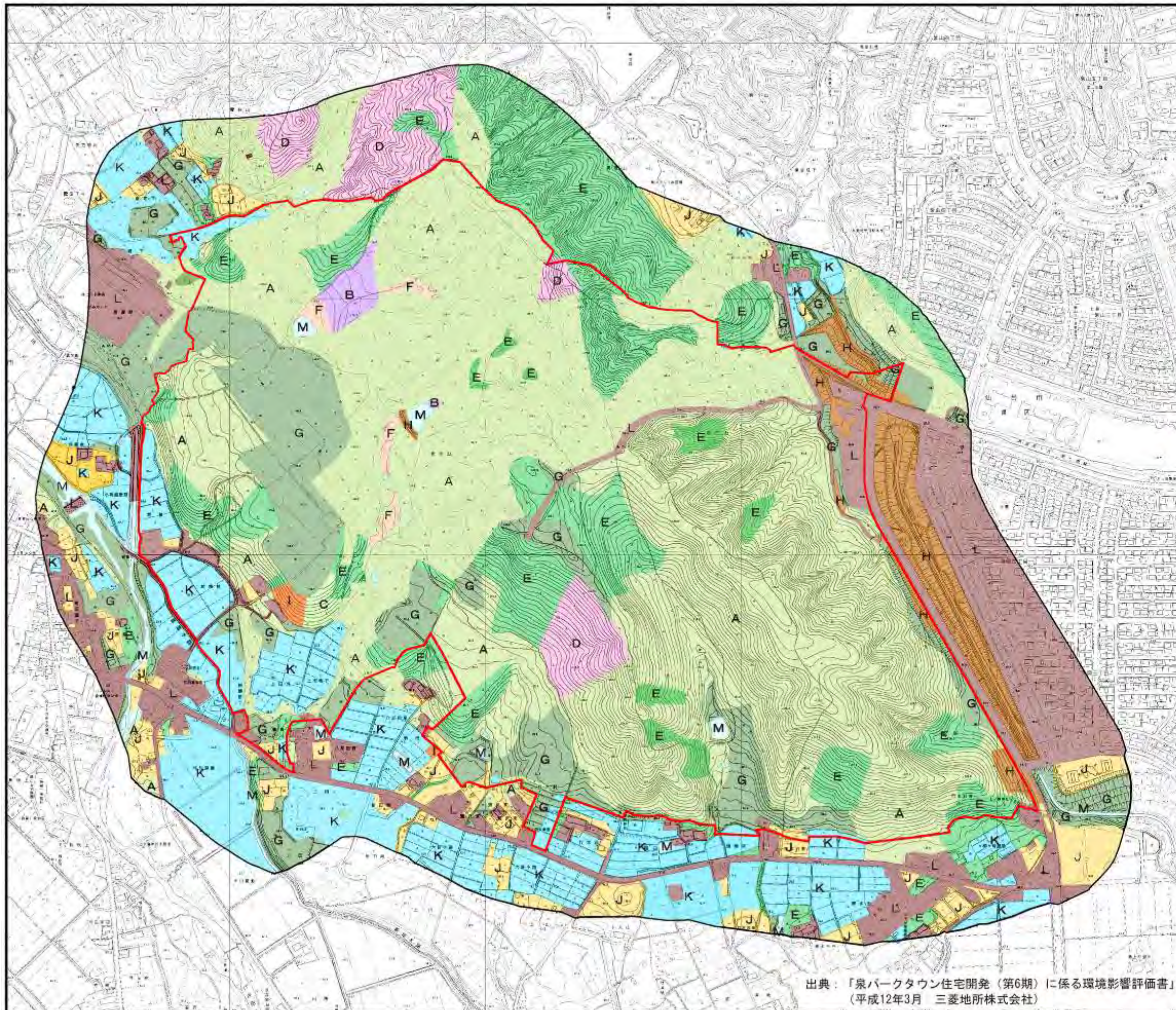


図 6.1-33
現存植生図
(文献調査)

b) 平成 12 年 3 月評価書

対象事業計画地の現存植生は、図 6.1-34 に示すとおりである。

対象事業計画地内の植生はコナラ林、ハンノキ林、竹林、アカマツ植林等が占め、植生自然度は 5～7 の植生が多く対象事業計画地全体の 9 割程度を占める。対象事業計画地には自然植生あるいはそれに近い植生（植生自然度 10～8）は全く分布しておらず、全て代償植生となっている。植生自然度の観点からは対象事業計画地は人為的干渉を比較的多く受けてきた土地といえる。



凡例

- : 対象事業計画地
- A : コナラ林 (植生自然度 7)
- B : ハンノキ林 (植生自然度 7)
- C : 竹林 (植生自然度 7)
- D : アカマツ植林 (植生自然度 6)
- E : スギ植林 (植生自然度 6)
- F : 湿性植物群落 (植生自然度 5)
- G : ススキ群落 (植生自然度 5)
- H : 法面雑草群落 (植生自然度 5)
- I : 果樹園 (植生自然度 3)
- J : 畑地雑草群落 (植生自然度 2)
- K : 水田雑草群落 (植生自然度 2)
- L : 建物・道路など (植生自然度 1)
- M : 開放水面 (植生自然度 1)



S=1:7,500



図 6.1-34
 現存植生図
 (平成 12 年 3 月評価書)

出典: 『泉パークタウン住宅開発 (第6期) に係る環境影響評価書』
 (平成12年3月 三菱地所株式会社)

※本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500) (平成 19 年修正版)を下图として使用している。

② 保全上重要な植物の生育地

a) 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）では、表 6.1-107 に示す選定基準により保全上重要な植物の生育地を選定している。調査範囲では、表 6.1-108 及び図 6.1-35 に示す保全上重要な植物の生育地が存在している。なお、対象事業計画地は、「根白石（朴沢・実沢・福岡）地域の里地・里山植生」の地域内に位置している。

宮城県レッドリストにおける植物群落のカテゴリー区分は、表 6.1-109 に示すとおりである。調査範囲の宮城県レッドリストに該当する植物群落は、表 6.1-110 及び図 6.1-36 に示すとおりである。

表 6.1-107 保全上重要な動植物の生息地・生育地選定のための基準

No.	判断理由	
保全上重要な地域	1	・保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域
	2	・多様な生物相が保存されている地域
	3	・自然性の高い植生，その他学術上重要な植生が保存されている地域
	4	・湿地，湧水，岸壁地，地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
	5	・自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
	6	・環境教育の場としてふさわしい地域
	7	・郷土の特色が保存されている地域（里地・里山・居久根等）
	8	・緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地，市街地や田園地域に点在する緑地等）
	9	・海辺や水辺，植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

表 6.1-108 保全上重要な植物の生育地

No.	件名	備考	判断理由
①	黒森山国有林のソヨゴ林と周辺の植生	・ 権現森緑地環境保全地域。 ・ ソヨゴは本市が北限で，かつ，1978 年に発見されるまでの北限地から 250km も離れた隔離分布である。	3, 6, 7
②	七北田川中～下流域の河畔植生	・ 市と丘陵の緑地の連続性を確保するうえで重要なコリドー。 ・ 河畔植生として保護が必要。	8, 9
③	朴沢のモミ林	・ 朴沢地区の国道 457 号沿いにはモミ林が残されている。	3, 7
④	根白石（朴沢・実沢・福岡）地域の里地・里山植生	・ 里地・里山植生が良好な状態で残されている。	7, 8
⑤	大倉・芋沢丘陵地の植生（緑の回廊）	・ 生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	7, 8
⑥	丸田沢緑地（水の森公園）	・ 丸田沢緑地環境保全地域。 ・ 市街地に残された池沼を含む緑地・公園である。植物生育地，環境学習のフィールドとして重要である。	5, 6, 7
⑦	西田中の里地・里山植生	・ 里地・里山植生が良好な状態で残されている。	7, 8

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

注：表中の No. は図 6.1-35 の番号に対応する。

判断理由は表 6.1-107 に対応する。

表 6.1-109 宮城県レッドリストにおける植物群落の 카테고리区分

カテゴリー	区分	基本概念
D	壊滅	—
4	壊滅状態	群落は全体的に壊滅状態にあり，緊急に対策を講じなければ壊滅する。
3	壊滅危惧	群落は対策を講じなければ徐々に悪化して壊滅する。
2	破壊危惧	群落は当面保護されているが，将来破壊されるおそれがある。
1	要注意	群落は，現在保護・管理状態が良く，当面破壊されるおそれが少ない。しかし，監視は必要である。

出典：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 年版（震災前アーカイブ）－」（平成 25 年 3 月 宮城県）

表 6.1-110 宮城県レッドリストに該当する植物群落

単一群落

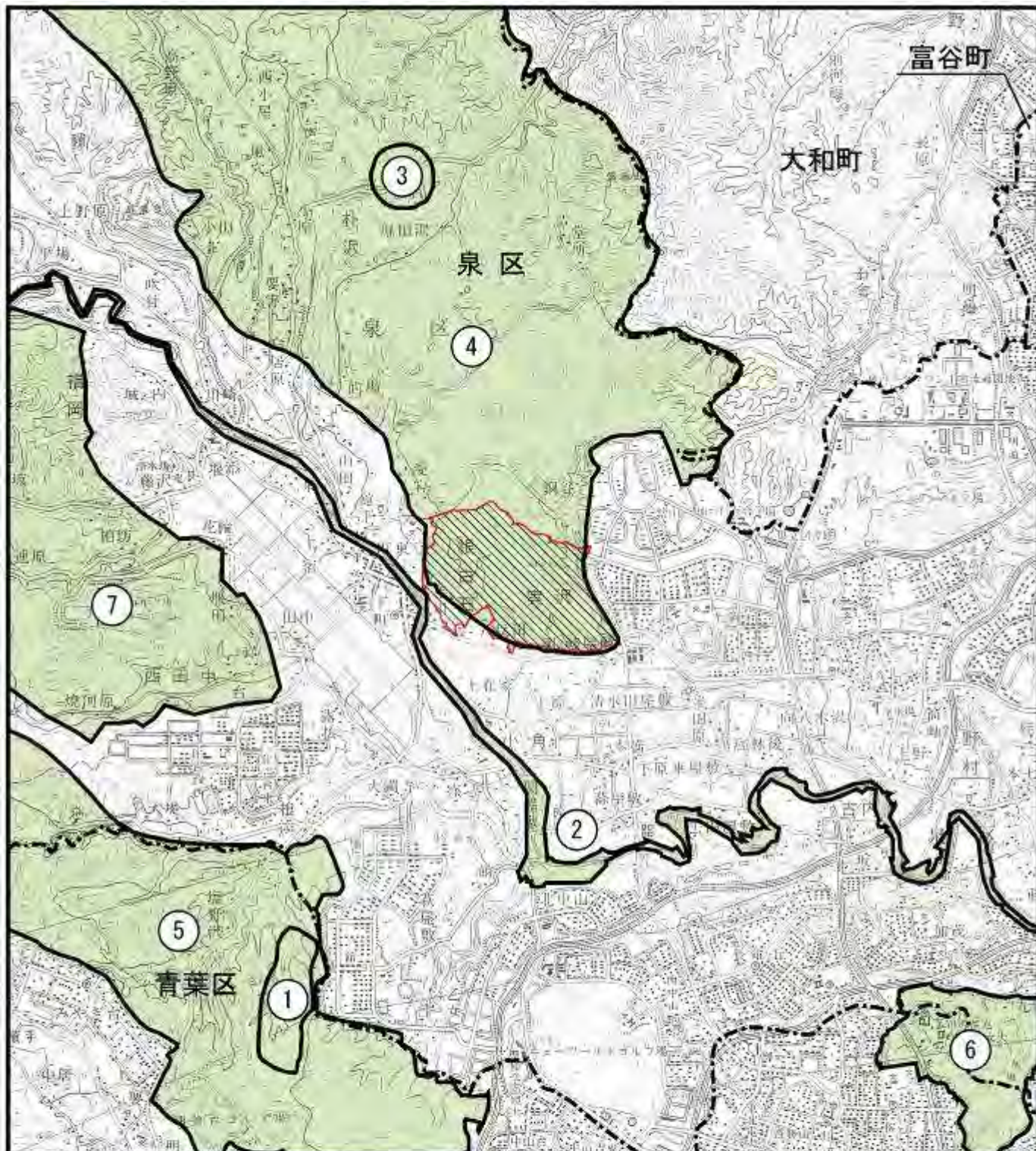
No.	植生	群系名	群落名	調査群落名	カテゴリー
1	丘陵地帯	二次林	ソヨゴ群落	黒森山のソヨゴ群落	3

群落複合




No.	区分	調査群落名	カテゴリー
2	中間温帯森林植生	(仮称) 丸田沢の植物群落	3

出典：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 年版（震災前アーカイブ）－」（平成 25 年 3 月 宮城県）

注：カテゴリーは表 6.1-109 に対応する。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 保全上重要な植物の生育地 (①～⑦)
-  : 市区町境界線



S=1:50,000

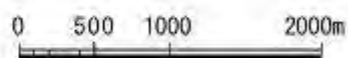
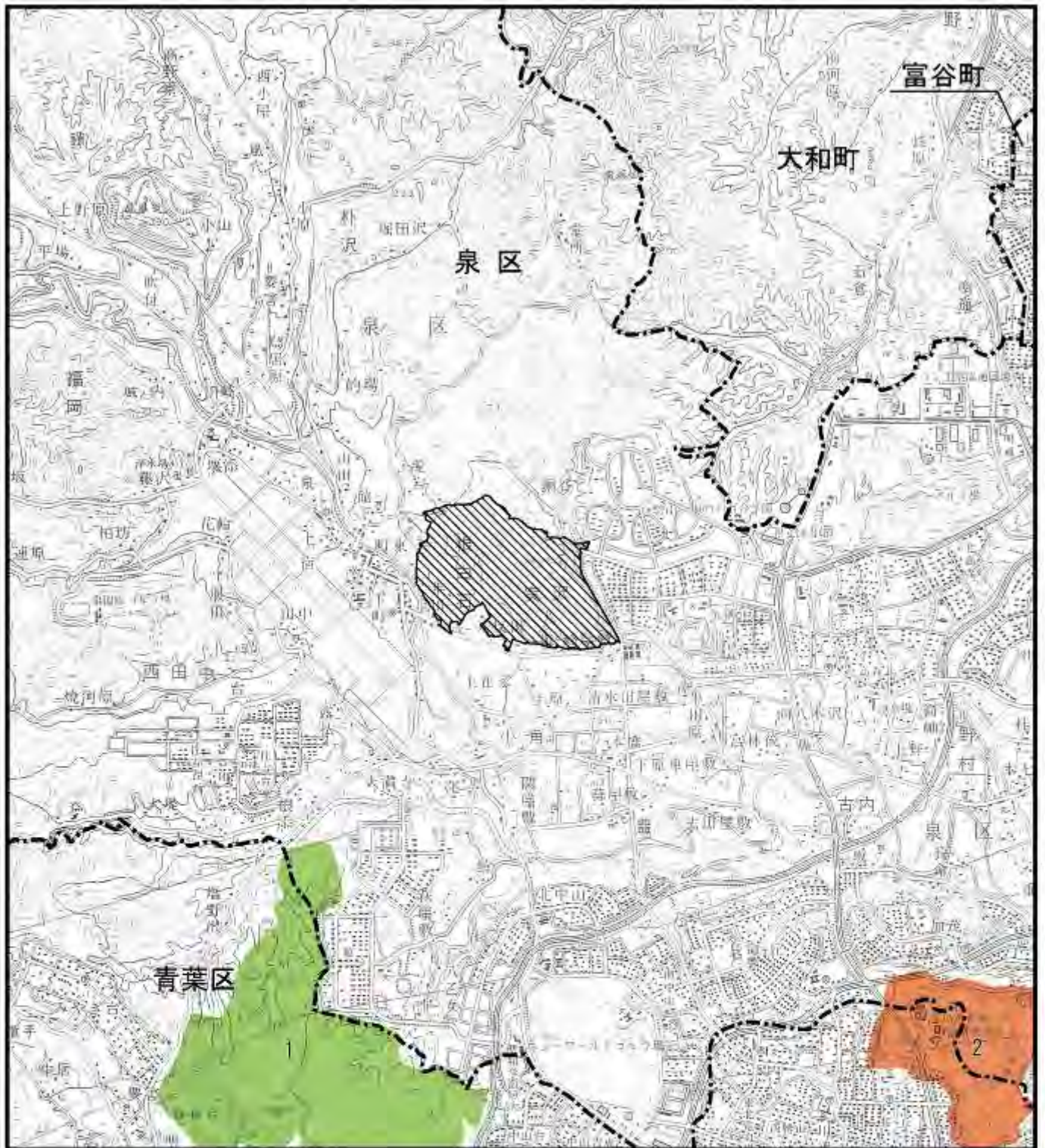






図 6.1-35
保全上重要な植物の生育地
(文献調査)

出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
(平成23年3月 仙台市)



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 黒森山のソゴ群落を含む地域（権現森緑地環境保全地域）
-  : （仮称）丸田沢の植物群落を含む地域
（丸田沢緑地環境保全地域を含む地域）

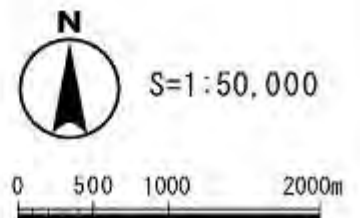


図 6.1-36
宮城県レッドリストに
該当する植物群落

b) 平成12年3月評価書

対象事業計画地内は保全上重要な植物の生育地に含まれており、ハンノキ林、湿性植物群落等が存在するものの宮城県レッドリストに該当する植物群落はない。

ウ 植物からみた対象事業計画地の位置づけ及び保全上の留意点

対象事業計画地は北側から連続する丘陵地の南端部にあたり、南側は七北田川によって形成された段丘平野が広がっている。丘陵地の植生は、コナラ二次林やスギ・アカマツ植林によって大部分が占められる。また、西側には耕作放棄地が広がり里地・里山的な植生となっている。

対象事業計画地は山地地域と市街地地域のバッファゾーン（緩衝帯）として、本市の生物多様性の連続性を支える重要地域であることから、既往の調査結果で確認された注目すべき種を念頭に現地調査を実施して移植等の保全対策を検討する。

(2) 動物

ア 動物相及び注目すべき種の状況

① 動物相

a) 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)によれば、仙台市の山地から丘陵地に広がる森林域には本州最大の哺乳類であるツキノワグマや特別天然記念物であるカモシカをはじめ、ヤマネ、ニホンザル、キツネ、タヌキ、ニッコウムササビ、ニホンリス等の哺乳類が生息している。近年、二次林の放置などを一因と考えられるツキノワグマ、ニホンカモシカの低地丘陵への分布拡大が確認される。鳥類ではオオルリ、ゴジュウカラ、キビタキ、アカゲラ等の森林性の鳥類が多く分布し、山地帯を中心にクマタカも生息している。爬虫類ではマムシやジムグリのほか、自然度が高い林床を好むタカチホヘビや比較的珍しいシロマダラなども生息している。両生類では山地の溪流にハコネサンショウウオが生息し、トウホクサンショウウオは丘陵地の沢などに広く生息している。また、池沼の縁の樹木の枝に卵塊を産み付けるモリアオガエルや清流の環境を指標するカジカガエルも生息している。魚類では山地の溪流でイワナ、ヤマメが生息する。一方、丘陵地の池沼などでは近年、オオクチバス(ブラックバス)やブルーギル、タイリクバラタナゴといった移入種により、在来の魚類の生息が脅かされている。昆虫類ではオニクワガタ、カミキリムシ類、ミドリシジミ類等の森林性の昆虫類が多数生息し、丘陵地では生きた化石といわれるヒメギフチョウなども生息している。また、泉ヶ岳付近は山地性チョウ類の主要な生息地になっている。丘陵地の湿地ではオゼイトトンボ等のトンボ類も多く生息している。

市街地や田園地域では、人の生活空間の拡大や圃場整備などにより動物の生息環境が減少しているが、市街地に残された公園や田園地域に見られる居久根などの緑地や、河川沿いなどでキツネ、イタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタ等の動物が生息している。市街地に残された緑地ではオオタカの繁殖も確認される。

また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)によれば、大和町では、哺乳類はカモシカ、ツキノワグマ、ヤマネ、オコジョ等が生息している。鳥類はコマドリ、イワヒバリ、クマタカ等が生息している。両生類では、モリアオガエル等の生息地が確認されている。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、対象事業計画地周辺を含む調査地域(対象事業計画地及びその周辺 100m~1,000m の範囲)で動物相調査を実施している。動物相調査実施日は表 6.1-111、動物相確認種数一覧表は表 6.1-112、動物相の生息状況は表 6.1-113 に示すとおりである。

確認された動物種は、全部で 635 種となっている。対象事業計画地内の植生はコナラ林、ハンノキ林を主体とし、アカマツ植林やスギ植林のほか、ススキ群落、湿生植物群落、水田雑草群落、開放水面、沢など動物の多様な生息環境がみられ、動物相も多様である。

表 6.1-111 動物相調査実施日（平成 12 年 3 月評価書）

項目	調査内容	夏季調査	秋季調査	冬季調査	春季調査
哺乳類	フィールドサイン調査	平成 9 年 8 月 26 日， 平成 10 年 7 月 10 日	平成 9 年 10 月 1 日， 2 日，7 日， 11 月 21 日	平成 10 年 1 月 30 日， 2 月 12 日	平成 10 年 3 月 30 日， 5 月 11 日，25 日， 26 日
	捕獲調査	—	平成 9 年 10 月 1 日， 2 日	—	平成 10 年 5 月 25 日， 26 日
	写真撮影調査	—	—	—	平成 10 年 5 月 25 日， 26 日
	コウモリ類調査	平成 10 年 7 月 31 日	—	—	—
鳥類	ラインセンサス調査	平成 9 年 8 月 26 日	平成 9 年 10 月 7 日	平成 10 年 1 月 30 日	平成 10 年 5 月 26 日
	定点センサス調査	平成 9 年 8 月 26 日	平成 9 年 10 月 7 日	平成 10 年 1 月 30 日	平成 10 年 5 月 26 日
	夜間調査	平成 10 年 7 月 10 日	—	—	平成 10 年 3 月 13 日
	希少猛禽類調査	平成 9 年 2 月～平成 10 年 7 月			
両生・爬虫類	任意確認調査	平成 9 年 8 月 26 日， 平成 10 年 7 月 10 日	平成 9 年 9 月 16 日， 10 月 7 日	—	平成 10 年 3 月 30 日， 4 月 6 日，5 月 25 日， 26 日
水生動物（魚類，底生動物）	捕獲調査	平成 9 年 8 月 31 日， (9 月 16 日※)	—	—	平成 10 年 5 月 25 日， 26 日
昆虫類	任意確認採取調査	平成 10 年 7 月 10 日， 8 月 1 日，3 日	平成 9 年 10 月 7 日， 8 日	—	平成 10 年 5 月 18 日， 19 日
	ベイトトラップ調査	平成 10 年 8 月 1 日， 3 日	平成 9 年 10 月 7 日， 8 日	—	平成 10 年 5 月 18 日， 19 日
	ライトトラップ調査	平成 10 年 8 月 1 日	平成 9 年 10 月 7 日	—	平成 10 年 5 月 18 日
	夜間調査	平成 10 年 7 月 10 日	—	—	—

※1：水生動物の平成 9 年 9 月 16 日の調査は夏季調査の補足調査。

※2：昆虫類は，陸上昆虫類の確認種数を示す。

※3：底生動物は，扁形動物，軟体動物，環形動物，クモ類，甲殻類，水生昆虫類の確認種数を示す。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 6.1-112 動物相確認種数一覧表（平成 12 年 3 月評価書）

分類群	目数	科数	種数
哺乳類	5	9	14
鳥類	13	31	105
両生類	2	6	11
爬虫類	1	3	5
水生動物（魚類）	5	6	16
水生動物（底生動物）	20	59	118
昆虫類	10	100	366

※1：昆虫類は，陸上昆虫類の確認種数を示す。

※2：底生動物は，扁形動物，軟体動物，環形動物，クモ類，甲殻類，水生昆虫類の確認種数を示す。

※3：底生動物の種数は，種未同定種（～の一種）も含む。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 6.1-113 動物相の生息状況（平成 12 年 3 月評価書）

項目	動物相の特徴
哺乳類	<p>捕獲調査ではヒミズ・アカネズミ・ヒメネズミの 3 種を捕獲確認した。捕獲地点別についてみるとネズミ類は■■■■で捕獲し、スギ植林地ではヒミズを捕獲した。また、総捕獲個体数は 4 個体と少ない結果であった。</p> <p>冬季のアニマルトラッキング調査ではノウサギ、ニホンリス、タヌキ、キツネの足跡を積雪上で多く確認し、カモシカの足跡も確認した。</p> <p>写真撮影調査及びバットディテクターによるコウモリ類の調査では確認種はなかった。貴重種としてはジネズミ、ツキノワグマ、アナグマ、カモシカの 4 種を確認した。</p>
鳥類	<p>①夏季調査 繁殖期も終わりに近づき、さえずりによる確認が少なくなるが、■■■■ではウグイス、■■■■ではホオジロのさえずりもまだ聞こえた。また、樹林地内ではシジュウカラやエナガの巣だち雛を含んだ群や、■■■■ではハリオアマツバメやツバメの飛翔を確認した。</p> <p>②秋季調査 開発地域の主要部を占めるコナラ、アカマツ等の樹林地では、エナガ、シジュウカラ等がカラ混群をつくり活動しており、カケス、ヒヨドリも多く確認した。</p> <p>③冬季調査 樹林地では、シジュウカラ、エナガ、ヒガラ等がカラ混群をつくり活動しており、カケス、ヒヨドリ、カワラヒワも多く確認した。また、標高の高い所より漂行してきたミソサザイ、ルリビタキ、キクイタダキやヒガラ、コガラ等の確認も多くなっていた。</p> <p>④春季調査 ほとんどの鳥類の繁殖期となっているためさえずりによる確認が多くなり、特に■■■■ではウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ等、■■■■ではホオジロ、カワラヒワ等が目立った。■■■■に、フクロウを鳴き声により確認した。また、■■■■ではトビや夏鳥として渡来したツバメの飛翔を多く確認した。</p>
両生類 爬虫類	<p>現地調査における確認種は、両生類 2 目 6 科 11 種、爬虫類は 1 目 3 科 5 種であった。貴重種としてはトウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、タゴガエルの 3 種の両生類を確認した。また、爬虫類についての貴重種は確認できなかった。</p>
水生動物 (魚類 底生動物)	<p>現地調査により確認した魚種は、5 目 6 科 16 種であった。また、魚類の貴重種としてはギバチ 1 種を確認した。</p> <p>現地調査により確認した底生動物は、5 門 8 綱 20 目 59 科 118 種であった。また、底生昆虫の貴重種としてはタガメ 1 種を確認した。</p>
昆虫類	<p>調査地域の環境は、丘陵地帯がクリ・コナラなどの落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ植林などの針葉樹林になっており、調査地南西部には水田・畑などの耕作地及び休耕地になっている。また調査地各地に開放水域がある。確認種の構成は、宮城県の平地及び低山地に普通に生息している種が主体であった。</p>

※1：貴重種とは「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）における注目すべき種である。

※2：昆虫類は、陸上昆虫類の確認種数を示す。

※3：底生動物は、扁形動物、軟体動物、環形動物、クモ類、甲殻類、水生昆虫類の確認種数を示す。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

② 注目すべき動物種

a) 文献調査

注目すべき動物種は、「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）の選定基準を採用し、学術上重要種、減少種、環境指標種及びふれあい保全種の該当種、並びに環境省レッドリスト・宮城県レッドリスト・文化財保護法・種の保存法の該当種とした（表 6.1-100 及び表 6.1-101 参照）。

調査範囲における注目すべき動物種数は表 6.1-114、分類群ごとの注目すべき動物種は表 6.1-115～表 6.1-122 に示すとおりである。「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）に記載のある動物種のうち調査範囲に生息する注目すべき動物種は 88 種であり、分布地は朴沢、芋沢、丸田沢、三共堤等である。また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）に記載のある動物種のうち調査範囲に生息する注目すべき動物種は 16 種であり、分布地は大和町宮床地区である。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、調査地域（対象事業計画地及びその周辺 100m～1,000m の範囲）で動物相調査を実施している。確認された注目すべき動物種は表 6.1-115～表 6.1-122 に示す 82 種であり、確認位置は図 6.1-37 ～図 6.1-43 に示すとおりである。

以上 3 つの文献に記載の調査範囲における注目すべき種は、全部で 120 種である。

表 6.1-114 注目すべき動物種の種数

項目	目数	科数	種数	文献			学術上重要種	仙台市重要種区分							国 RDB	県 RL	天記・種保存法
				文献①	文献②	文献③		注目種									
								減少種					環境指標種	ふれあい保全種			
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
哺乳類	4	7	9	7	3	8	3	9	8	5	5	4	5	5	0	1	2
鳥類	13	27	56	46	6	44	17	35	48	50	43	36	36	15	12	18	2
両生類	2	4	8	3	2	8	2	8	8	8	3	2	6	4	4	5	0
爬虫類	1	2	2	2	1	1	1	2	2	2	1	1	2	2	0	0	0
水生動物（魚類）	6	7	9	5	1	5	4	4	7	6	4	3	5	6	7	5	0
水生動物（底生動物）	3	5	5	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0
昆虫類	6	23	31	25	3	11	14	2	23	17	10	0	9	6	12	12	0
合計	35 目	75 科	120 種	88 種	16 種	82 種	42 種	60 種	96 種	88 種	66 種	46 種	63 種	38 種	40 種	44 種	4 種

※1：国 RDB：「環境省第 4 次レッドリスト」（平成 24・25 年 環境省報道発表資料）掲載種
 県 RL：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 版－」（平成 25 年 3 月 宮城県）掲載種
 天記：「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）
 種保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成 4 年法律第 75 号）
 ※2：文献①：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
 ②：「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
 ③：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）
 ※3：減少種の地域区分については、表 6.1-101 を参照。

表 6.1-115 注目すべき動物種【哺乳類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種					ふれあい保全種								
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜		環境指標種							
1	モグラ(食虫)	モグラ	アズマモグラ			○		*	C	C	C	*		○							
2	ネズミ(齧歯)	リス	ニホンリス	○		○		*	C	B		C		○				芋沢			
3		ネズミ	ハタネズミ	○				C	C	B	C	C	○	○				朴沢			
4			ヒメネズミ	○		○		*	C	C	/		○					朴沢, 芋沢			
5	ネコ(食肉)	クマ	ツキノワグマ	○	○	○	4	C	C								国際	朴沢, 大和町宮床地区			
6		イヌ	タヌキ	○	○	○		*	C		C		○	○				朴沢, 大和町宮床地区			
7		イタチ	イタチ	○		○		C	C	B	C	C	○	○					朴沢, 芋沢		
8			アナグマ	○		○	4	C	C										朴沢		
9	ウシ(偶蹄)	ウシ	カモシカ		○	○	4	*					○			要	特天	大和町宮床地区			
	4目	7科	9種	7種	3種	8種	3種	9種	8種	5種	5種	4種	5種	5種	0種	1種	2種				

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。

表 6.1-116 注目すべき動物種【鳥類】(1/2)

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種					ふれあい保全種								
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜		環境指標種							
1	キジ	キジ	ヤマドリ	○		○		*	C											朴沢, 芋沢	
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○		○			C	B	C	C	○	○						朴沢, 丸田沢	
3	ペリカン	サギ	チュウサギ			○	1,2,4		C	A	C	C			NT						
4			コサギ			○	2		C	B	*	*	○	○							
5	ツル	クイナ	クイナ	○					C	A	B	B	○				要			三共堤	
6			ヒクイナ	○					C	B	B	B	○	○	NT	CR+EN				丸田沢	
7			オオバン	○			1				B	B								水の森公園	
8	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	○		○		*	*	C	C	C	○	○						丸田沢, 朴沢, 芋沢	
9			カッコウ	○		○			C	C	B	C	C	○	○					七北田川	
10	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ			○											要				
11	チドリ	チドリ	イカルチドリ	○		○			C	C	B	B		○						丸田沢, 芋沢	
12	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○	○	1,4					C	C	○		NT				三共堤, 七北田川, 大和町宮床地区	
13		タカ	ハチクマ	○		○	1,4		C	C					NT	NT				朴沢, 芋沢	
14			チュウヒ			○			C	B	C	C	○		EN	NT					
15			ツミ	○			1,4		C	C	C	C	C				DD			芋沢	
16			ハイタカ	○		○	1,4		C	C	C	C	C		NT	NT				丸田沢, 朴沢, 芋沢	
17			オオタカ	○		○	1,4		C	C	B	B	C	○	○	NT	NT	希少		福岡, 七北田川	
18			サンバ	○		○			C	C	A	C	C		VU	VU				朴沢, 芋沢	
19			ノスリ			○		*	C	C	C		○								
20	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	○			1		C	C	C	B	B				要			丸田沢	
21			フクロウ	○		○			C	C	B	B	C	○	○						泉パークタウン
22			アオバズク	○						C	B	B	B	○			VU				みやぎ台
23	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	○			1		C								要				朴沢
24			カワセミ	○		○				C	C	C		○	○						七北田川
25			ヤマセミ	○		○					B			○			要				丸田沢堤
26	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	○	○	○		*	C	B	C	C									丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区
27			アオゲラ	○		○		*	C	B	C	C	○	○							丸田沢, 朴沢, 芋沢
28	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	○		○				C	B	C	B		○						朴沢, 芋沢
29			チゴハヤブサ	○		○	1,4				B	B					要				朴沢
30			ハヤブサ			○	1,4		C	B	B	B	B			VU	NT	希少			
31	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	○		○	1,4		C	C	B	C	C			VU	VU				丸田沢, 朴沢, 芋沢
32		カササギヒタキ	サンコウチョウ	○		○				C	B			○	○						芋沢
33		モズ	モズ	○		○		*	C	B	C	C	○	○							丸田沢, 芋沢
34			アカモズ	○			1,4			B	B	B	B			EN	CR+EN				七北田川
35		ヒバリ	ヒバリ	○		○				C	B	C	C	○	○						丸田沢, 芋沢
36		ツバメ	ツバメ			○	○			C	C	C		○							大和町 宮床地区
37		ウグイス	ウグイス	○	○	○		*	*	C	C	C		○							丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区
38		ムシクイ	センダイムシクイ	○		○		*	C	B				○							丸田沢, 朴沢, 芋沢
39		ヨシキリ	オオヨシキリ			○				C	B	C	C	○							
40		セッカ	セッカ	○		○				C	B	C	C	○							丸田沢, 七北田川
41		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○				*		B				○							朴沢, 芋沢
42		カワガラス	カワガラス	○		○		*	C	B				○							芋沢

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。

表 6.1-117 注目すべき動物種【鳥類】(2/2)

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国RL	県RL	天記・種保存法	分布地
				①	②	③	学術上重要種	注目種						ふれあい保全種						
								減少種												
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環塊指標種							
43	スズメ	ヒタキ	トラツグミ	○		○		*	C	B	C	C	○					丸田沢, 朴沢, 芋沢		
44			クロツグミ	○		○		*	C	B	C	C	○					丸田沢, 朴沢, 芋沢		
45			シロハラ	○				*	C	B			○					丸田沢, 朴沢, 芋沢		
46			コルリ	○		○		*	C	B	C	C	○					丸田沢, 芋沢		
47			ルリビタキ	○				*	C	C	C	C						丸田沢, 朴沢, 芋沢		
48			コサメビタキ	○		○					B			○					丸田沢, 朴沢	
49			キビタキ	○		○		*	C	B				○					丸田沢, 朴沢, 芋沢	
50			オオルリ			○		*	C	C	C	C	○							
51			セキレイ	キセキレイ	○		○		*	C	C	C		○	○					丸田沢, 朴沢, 芋沢
52				セグロセキレイ	○	○	○	4	C	C	C	C								丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区
53		ホオジロ	ホオジロ	○	○	○		*	*	B	C	C	○						丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区	
54			ホオアカ	○			1	B	C	A	C	B	○						丸田沢, 芋沢	
55			ノゾコ			○	1	C	C	B					NT	要				
56			アオジ	○		○		C	C	C	C	C								丸田沢, 朴沢, 芋沢
		13 目	27 科	56 種	46 種	6 種	44 種	17 種	35 種	48 種	50 種	43 種	36 種	36 種	15 種	12 種	18 種	2 種		

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。

表 6.1-118 注目すべき動物種【両生類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種						ふれあい保全種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種								
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	○		○	1, 4	*	C	B				○		NT	NT		丸田沢		
2			クロサンショウウオ			○	4	*	C	A				○	○	NT	LP				
3			イモリ			○		*	C	A				○	○	NT	LP				
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル			○		*	C	C	C	C		○							
5			アカガエル		○	○		*	C	B				○						大和町宮床地区	
6			ニホンアカガエル	○	○	○		*	*	B	*	C								根白石, 福岡, 芋沢, 大和町宮床地区	
7			トウキョウダルマガエル			○		C	C	B	C			○	○	NT	NT				
8			ツチガエル	○		○		*	C	B				○			NT			芋沢	
	2 目	4 科	8 種	3 種	2 種	8 種	2 種	8 種	8 種	8 種	3 種	2 種	6 種	4 種	4 種	5 種	0 種				

※1: 表中の文献は以下のとおりである。
 ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)
 ※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。
 ※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。
 ※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。

表 6.1-119 注目すべき動物種【爬虫類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種						ふれあい保全種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種								
1	有鱗	トカゲ	ニホントカゲ	○	○		1	C	C	A				○	○				大和町宮床地区, 芋沢		
2			ナミヘビ	○		○		*	*	C	C	C	○	○					上谷刈, 福岡		
	1 目	2 科	2 種	2 種	1 種	1 種	1 種	2 種	2 種	2 種	1 種	1 種	2 種	2 種	0 種	0 種	0 種				

※1: 表中の文献は以下のとおりである。
 ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)
 ※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。
 ※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。
 ※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。

表 6.1-120 注目すべき動物種【水生動物（魚類）】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種					ふれあい保全種								
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜		環境指標種							
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種	○			1	B	B		A				○	VU	NT		七北田川		
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	○			1	A	B	B	B	B	○		EN	NT		七北田川			
3	コイ	コイ	キンブナ			○									VU	NT					
4			ウグイ	○			*	C	B	C	C	○	○					七北田川			
5			ドジョウ	ドジョウ		○	○									DD			大和町富床地区		
6			ホトケドジョウ			○	1		B	B			○	○	EN	NT					
7	ナマズ	ギギ	ギバチ			○	1	*	C					○	VU	NT					
8	サケ	アユ	アユ	○					C	C	C	C	○	○					七北田川		
9	カサゴ	カジカ	カジカ	○		○			C	C	A			○	○	NT			芋沢川, 七北田川		
	6 目	7 科	9 種	5 種	1 種	5 種	4 種	4 種	7 種	6 種	4 種	3 種	5 種	6 種	7 種	5 種	0 種				

※1：表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
- ③「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

※2：表中の分布地は、文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3：表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4：減少種の地域区分については、表 6.1-101 を参照。

表 6.1-121 注目すべき動物種【水生動物（底生動物）】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種					ふれあい保全種								
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜		環境指標種							
1	原始紐舌	タニシ	マルタニシ			○									VU	DD					
2			オオタニシ			○									NT	DD					
3	基眼	モノアラガイ	モノアラガイ			○									NT						
4			ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ			○								DD						
5	イシガイ	イシガイ	カラスガイ			○									NT	CR+EN					
	3 目	5 科	5 種	0 種	0 種	5 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	5 種	3 種	0 種				

※1：表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
- ③「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

※2：表中の分布地は、文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3：表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4：減少種の地域区分については、表 6.1-101 を参照。

表 6.1-122 注目すべき動物種【昆虫類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種					環境指標種	ふれあい保全種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜									
1	トンボ	イトトンボ	モートンイトトンボ	○						B							NT		福岡		
2		カワトンボ	アオハダトンボ	○						C	A					○	NT		七北田川, 花輪川		
3		ヤンマ	ヤブヤンマ	○						B		B						VU	丸田沢緑地, 芋沢, 朴沢		
4		サナエトンボ	モイワサナエ	○						C									芋沢		
5			ナゴヤサナエ	○			1,2			C							VU	CR+EN	七北田川		
6		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	○			1,4			C					○				芋沢, 塩野沢, 丸田沢		
7		オニヤンマ	オニヤンマ	○		○			*	B					○				丸田沢緑地, 芋沢, 朴沢		
8		エゾトンボ	オオトラフトンボ	○			1	C	C									CR+EN	芋沢		
9		トンボ	ハッチョウトンボ	○			1		B	A					○			CR+EN	福岡, 芋沢		
10			コノシメトンボ	○			1		A									CR+EN	福岡		
11			ヒメアカネ		○			1		B	A							CR+EN	福岡, 芋沢		
12	カマキリ	カマキリ	オオカマキリ	○					*	C	C				○				芋沢, 朴沢, 丸田沢		
13	バッタ	バッタ	トノサマバッタ	○	○	○			*	C	*				○				芋沢, 朴沢, 大和町宮床地区		
14	カメムシ	セミ	エゾゼミ	○					*	B					○	○			水の森, 芋沢, 朴沢, 丸田沢		
15		コオイムシ	コオイムシ	○			1		B	A	A						NT	NT	朴沢		
16			タガメ				○	1		B	A	A					VU	CR+EN			
17			タイコウチ	タイコウチ	○			1		B		A								芋沢	
18	チョウ	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ本土亜種	○			1		C	B									館		
19		ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	○	○	○			C	C	C				○				塩野沢, 大和町宮床地区		
20	コウチュウ	オサムシ	セアカオサムシ				○										NT	NT			
21			ニッコウオオズナガゴミムシ	○			1	C											芋沢		
22		ハンミョウ	ハンミョウ	○		○			B	B									朴沢		
23		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	○					C	B	B							NT		芋沢, 朴沢	
24			ゲンゴロウ	○			1			B	B				○	VU	NT		芋沢, 朴沢		
25			マルガタゲンゴロウ					○										VU			
26			ケシゲンゴロウ					○											NT		
27		コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ				○											VU	DD		
28		ガムシ	ガムシ				○												NT		
29		クワガタムシ	ミヤマクワガタ	○	○				C	B					○	○			芋沢, 朴沢, 大和町宮床地区		
30		タマムシ	ツシマムツボシタマムシ	○			1		C										朴沢		
31		ホタル	ゲンジボタル	○		○	1		C	B	C				○	○		NT	朴沢, 福岡(消失), 実沢(消失), 芋沢, 北長坂		
	6目	23科	31種	25種	3種	11種	14種	2種	23種	17種	10種	0種	9種	6種	12種	12種	0種				

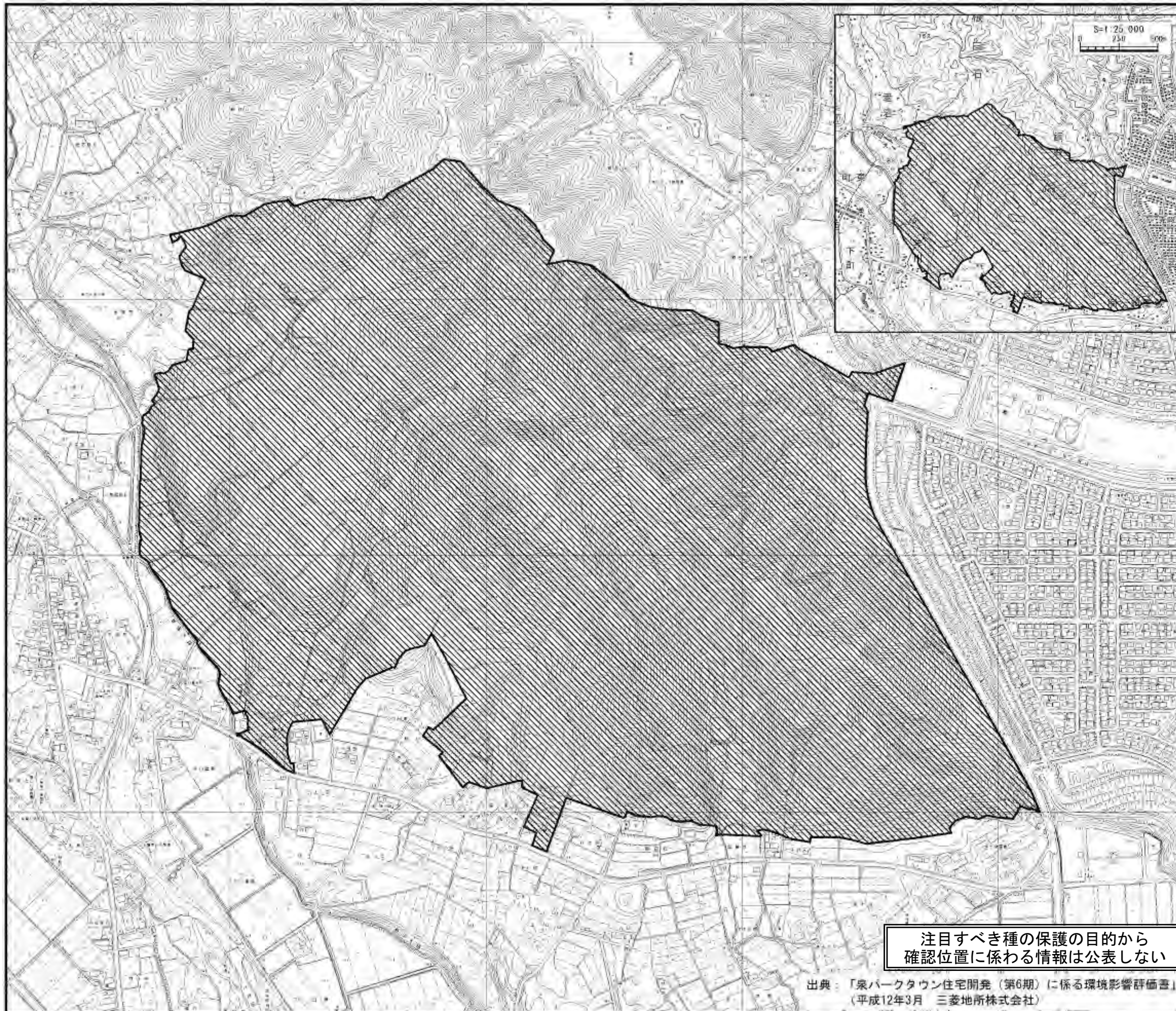
※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

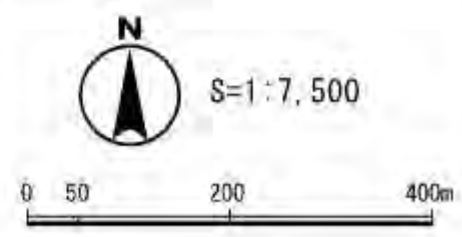
※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照。



凡 例	
注目すべき種	
▲	アズマモグラ
★	ニホンリス
●	ヒメネズミ
▲	ツキノワグマ
▲	タヌキ
●	イタチ
■	アナグマ
●	カモシカ
確 認 種	
★	ジネズミ
●	ヒミズ
■	ノウサギ
◆	アカネズミ
■	キツネ
★	テン
▨	対象事業計画地

※右上の1/25,000の図は対象事業計画地
 外の確認地点を表したものである。
 ※出典で位置が確認できた注目すべき種
 のみを記載した。

※一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記
 録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情
 報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改
 訂により、平成12年当時は注目すべき種に該当し
 ない種でも、現在では注目すべき種として選定され
 る種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置
 情報が不明である。

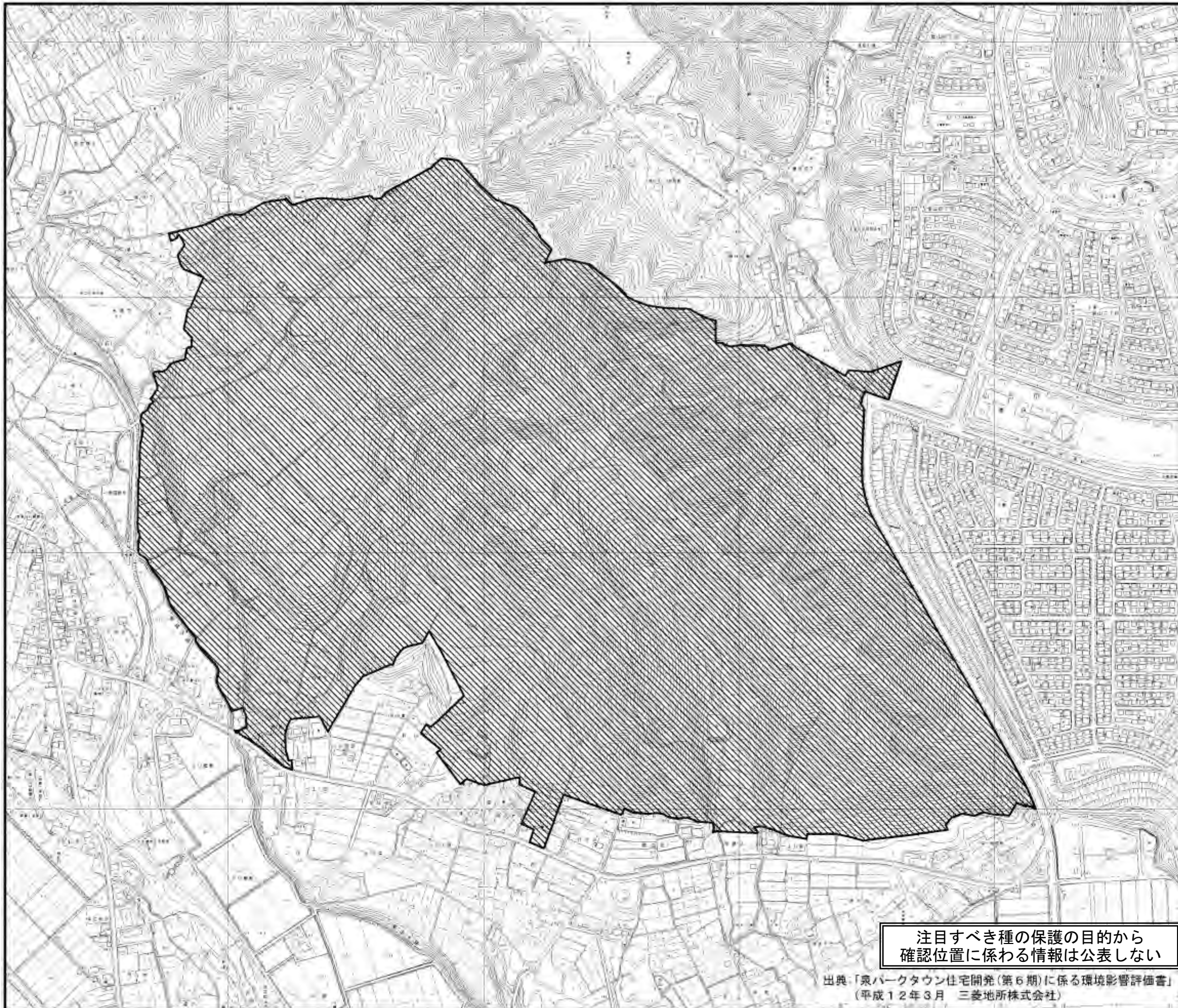


注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
 （平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-37
 哺乳類確認位置図
 （平成12年3月評価書）

※本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500) (平成19年修正版)を下図として使用している。

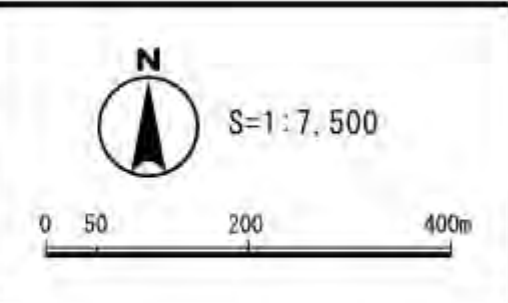


凡 例	
	フクロウ
	ノジコ
	チゴハヤブサ
	対象事業計画地

サシバ、チョウゲンボウ、ハリオアマツ
バメ、サンショウクイ

※出典で位置が確認できた注目すべき種のみを記載した。

※一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。

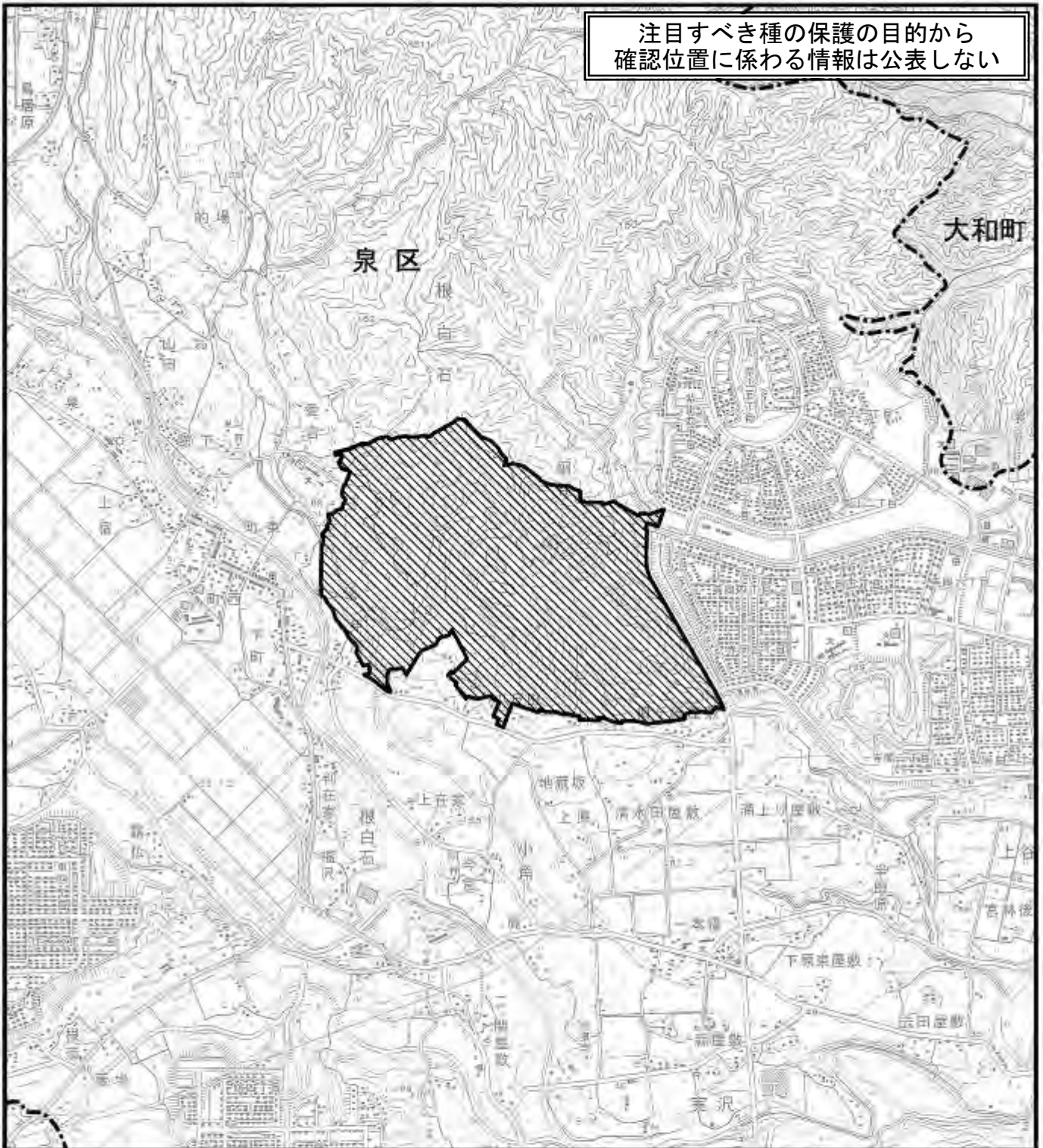


注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない










出典「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
(平成12年3月 三菱地所株式会社)

図 6.1-38
注目すべき鳥類確認位置図
(対象事業計画地内)
(平成12年3月評価書)

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡例

- | | | |
|---|--|---|
|  対象事業計画地 |  チゴハヤブサ |  カワガラス |
|  市区町境界線 |  ヤマセミ |  オオルリ |
|  チュウサギ |  カワセミ |  サンコウチョウ |

※サシバ、チョウゲンボウ、ハリオアマツバメ、サンショウクイ

※出典で位置が確認できた注目すべき種のみを記載した。

※一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。

出典 「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
（平成12年3月 三菱地所株式会社）



S=1:25,000

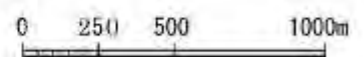
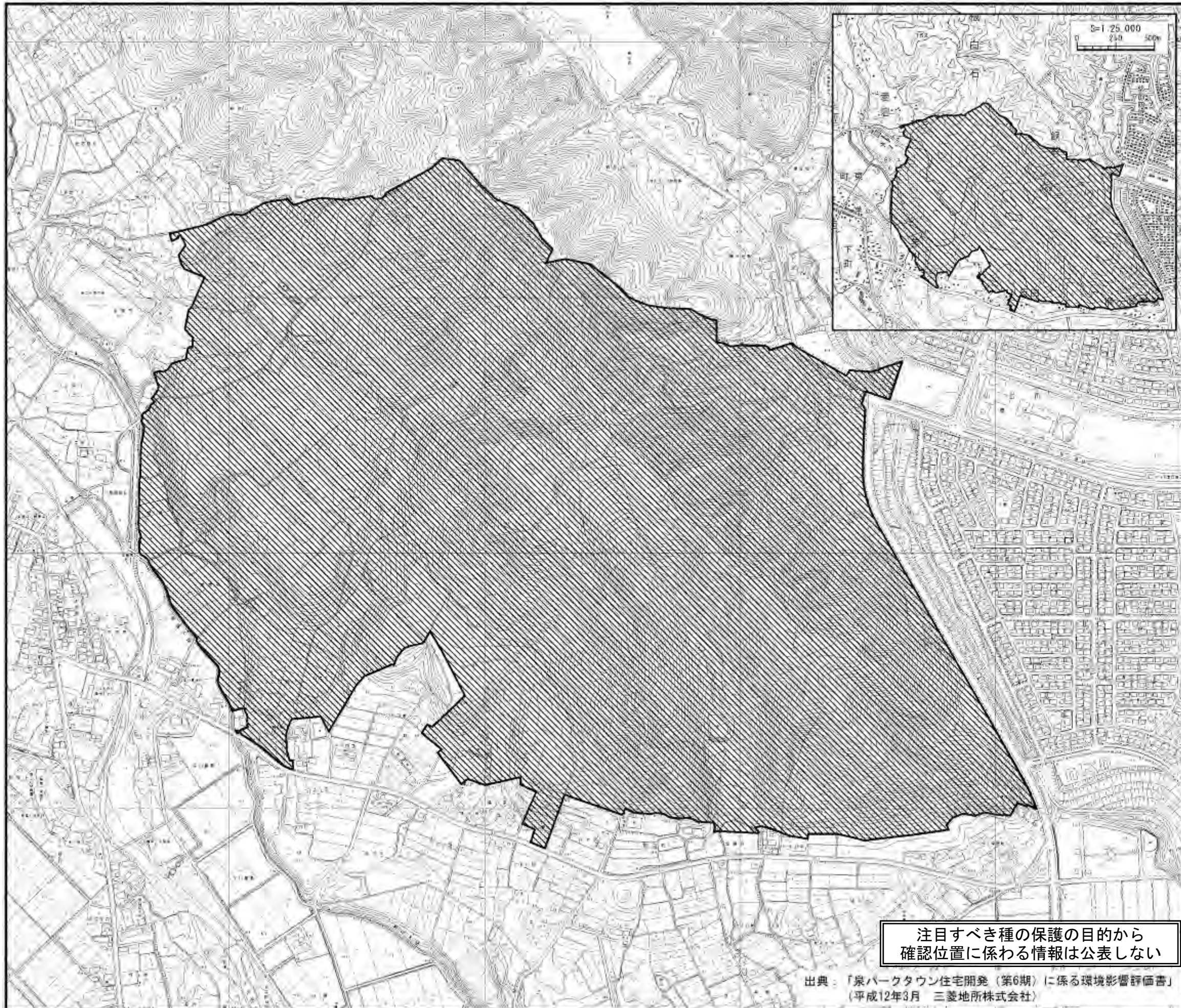
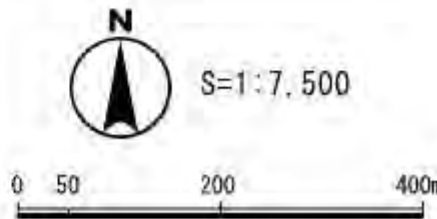


図 6.1-39
注目すべき鳥類確認位置図
（対象事業計画地周辺）
（平成12年3月評価書）



凡 例	
注目すべき種	
◆	アオダイショウ
確認種	
●	カナヘビ
★	マムシ
▲	シマヘビ
■	ヤマカガシ
▨	対象事業計画地

※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

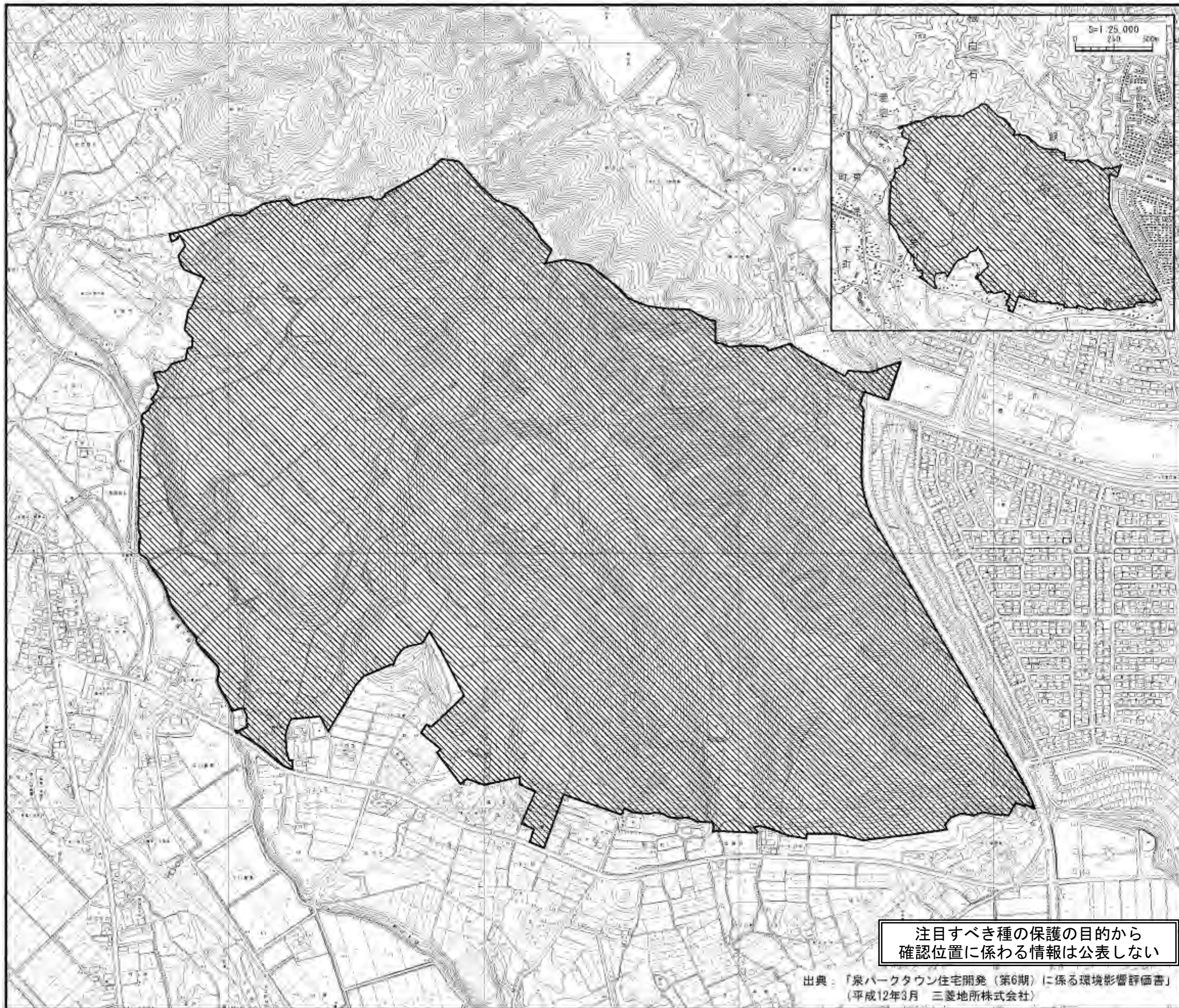


注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-40
爬虫類確認位置図
（平成12年3月評価書）

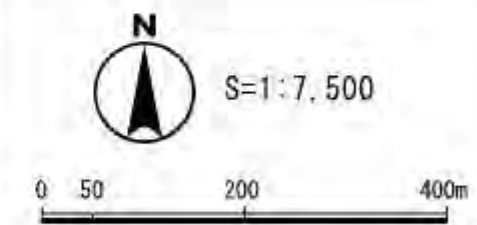
※本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500)（平成19年修正版）を下図として使用している。



凡例	
注目すべき種	
●	トウホクサンショウウオ
▲	クロサンショウウオ
■	アズマヒキガエル
★	タゴガエル
◆	トウキョウダルマガエル
▼	ツチガエル
●	アカハライモリ
確認種	
■	アマガエル
◆	ウシガエル
▲	シュレーゲルアオガエル
▨	対象事業計画地

※ニホンアカガエルは、XXXXXXXXXX

※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

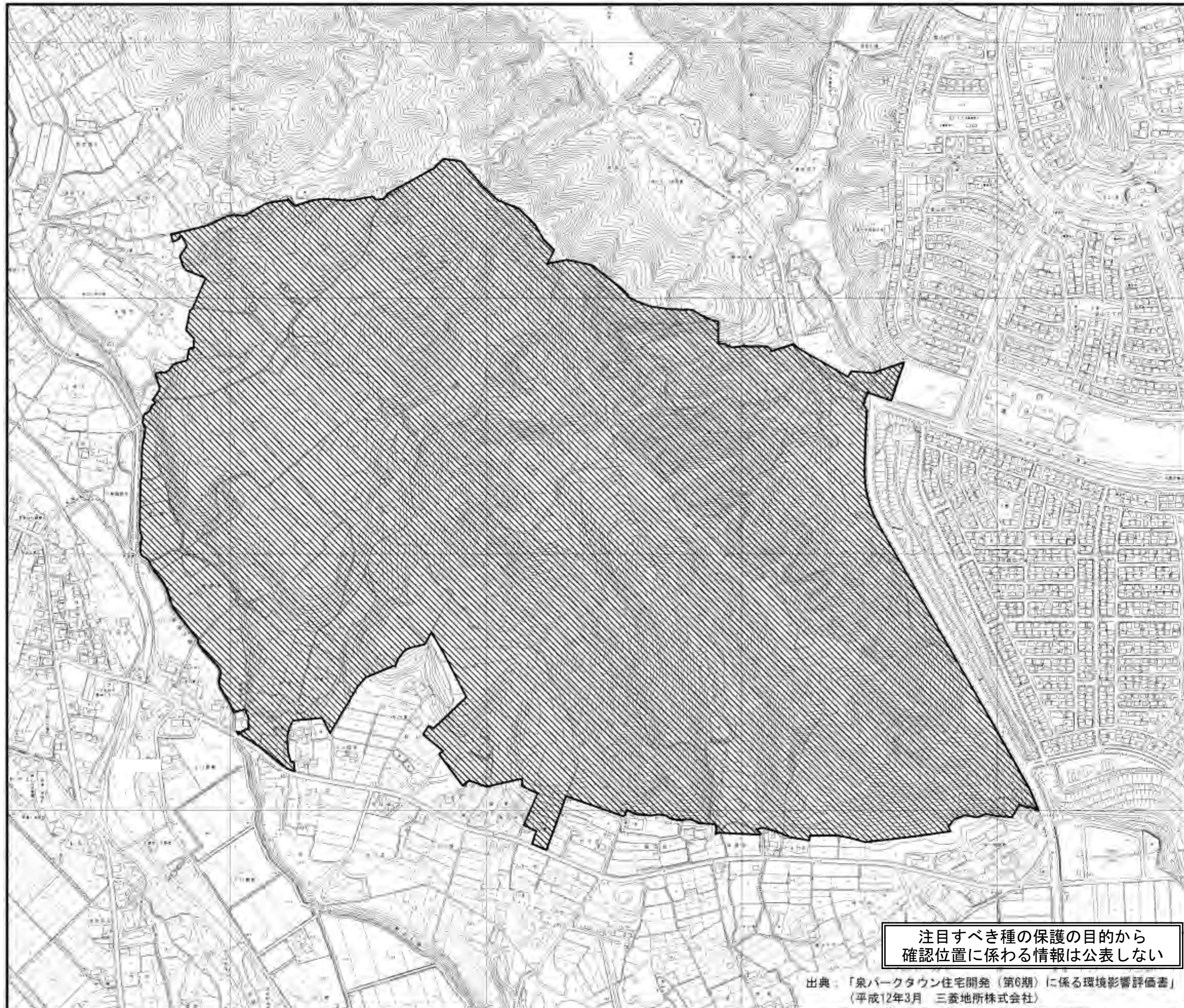


注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

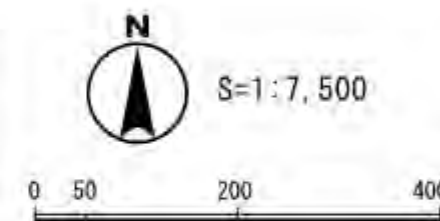
出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-41
両生類確認位置図
（平成12年3月評価書）

※本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500) (平成19年修正版)を下図として使用している。



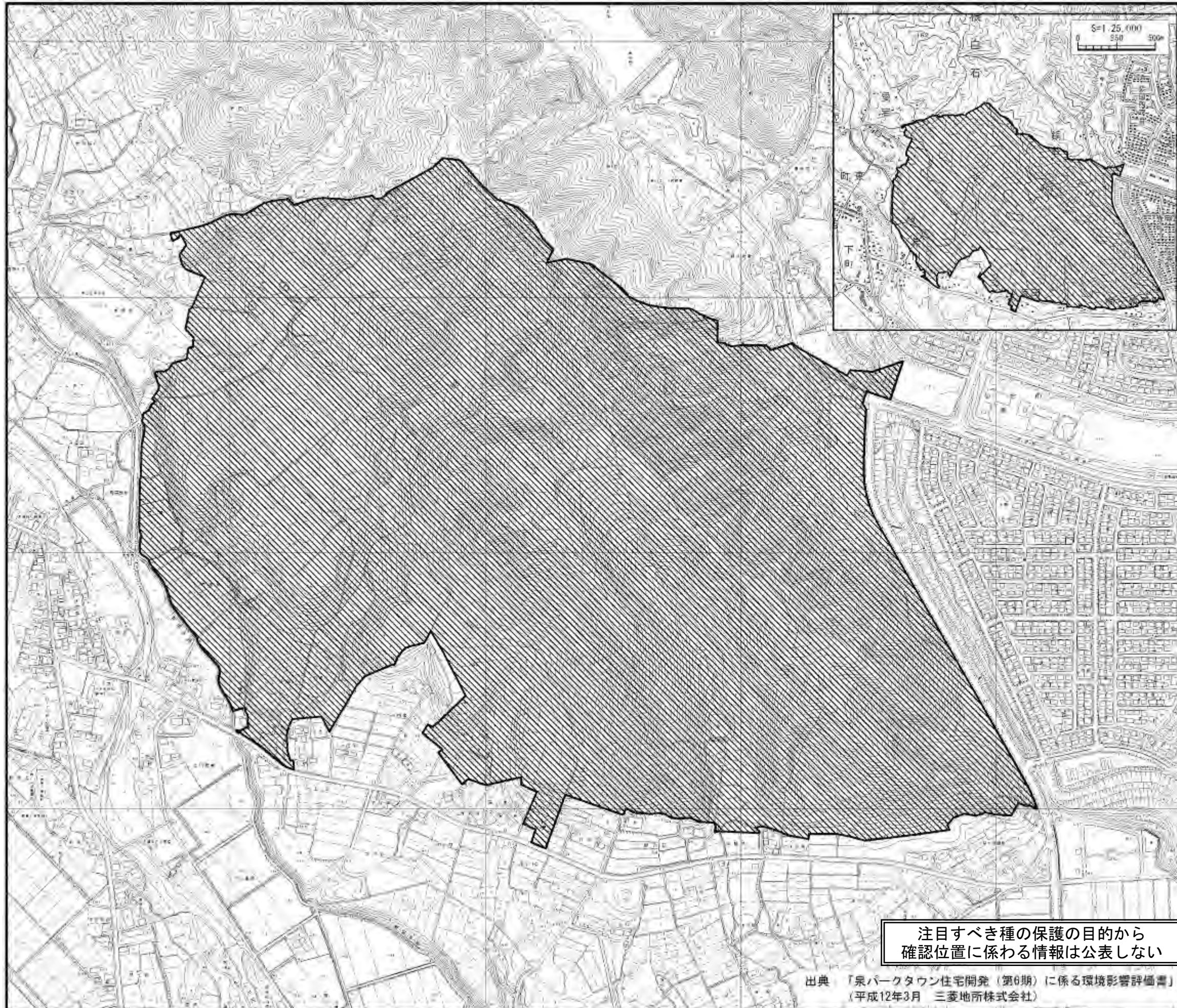
凡例	
種名	注目すべき種
種名	確認種
	対象事業計画地



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
（平成12年3月 三菱地所株式会社）

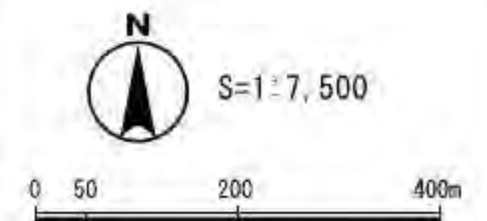
図 6.1-42
水生動物（魚類）確認位置図
（平成12年3月評価書）



凡例	
注目すべき種	
●	ゲンジボタル
★	タガメ
確認種	
●	エゾイトトンボ
●	オゼイトトンボ
●	オオツノトンボ
●	マガタマハンミョウ
●	ヘイケボタル
▨	対象事業計画地

※出典で位置が確認できた注目すべき種のみを記載した。
 ※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

※一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県レッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。



注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない

出典 「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
 （平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-43
 注目すべき昆虫類確認位置図
 （平成12年3月評価書）

※本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500)（平成19年修正版）を下図として使用している。

平成 12 年 3 月評価書において、対象事業計画地周辺を含む調査地域（対象事業計画地及びその周辺約 1000m の範囲）で希少猛禽類調査を実施している。希少猛禽類の確認状況は表 6.1-123、飛翔確認位置図は図 6.1-44～図 6.1-47 に示すとおりである。

平成 9 年 2 月から平成 10 年 7 月の調査で確認された希少猛禽類は、オオタカ、ハイタカ、ハチクマ、ハヤブサ、ミサゴ、チュウヒの 6 種である。なお、チゴハヤブサ、サシバ、チョウゲンボウについては平成 18 年 12 月の環境省鳥類レッドリスト改訂によりランクが上がったため、平成 12 年 3 月評価書では希少猛禽類の選定基準外である。

※希少猛禽類

一般的に猛禽類はタカ科、ハヤブサ科、フクロウ科の鳥類のことを指し、このうち、フクロウ科を除く猛禽類で希少性の高い(レッドリスト該当種)ものを希少猛禽類として、鳥類調査とは個別に現地調査の実施・整理している。

表 6.1-123 希少猛禽類の確認状況（平成 12 年 3 月評価書）

確認種	確認回数	確認状況
オオタカ	135	確認回数が調査期間中 135 回/32 日と最も多く、 [redacted]においてオオタカの営巣を確認した。 その後の繁殖状況調査で繁殖失敗が確認された。 また翌年の平成 10 年度は、営巣、繁殖は確認されなかった。
ハイタカ	44	冬季に多く確認され、確認位置も散発的であり対象事業計画地及び周辺での繁殖の可能性はほとんどないと考えられる。確認状況から対象事業計画地周辺の林縁部等を採餌場として利用していると考えられる。
ハチクマ	29	夏鳥として対象事業計画地周辺に渡来しており、5～7月にディスプレイ飛翔、つがい雌雄 2 個体での飛翔が確認された。飛翔確認の多い [redacted] に営巣している可能性が高いと考えられる。
ハヤブサ	4	冬季に 4 回確認された。対象事業計画地は本種の本来の生息環境ではないことから、対象事業計画地に対する依存性はなく、採餌のため水田、屋敷林等を利用していると考えられる。
ミサゴ	3	散発的に 3 回確認された。対象事業計画地及び周辺は本種の本来の生息環境ではないことから、確認個体は移動途中の通過個体であり、対象事業計画地に対する依存性はないと考えられる。
チュウヒ	1	平成 9 年 4 月に 1 回確認された。冬鳥として渡来するが、対象事業計画地及び周辺は本種の本来の生息環境ではないことから、確認個体は移動途中の通過個体と考えられる。
チゴハヤブサ	—	散発的な確認であり、確認個体は移動途中の通過個体と考えられる。
サシバ	—	夏鳥として渡来し数多く確認され、開発地域では夏季を中心に普通にみられる。
チョウゲンボウ	—	事業計画地周辺での水田、屋敷林での確認が多く、開発地域に対する依存性はほとんどないと考えられる。

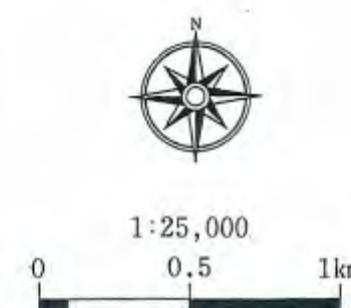
注) ①チゴハヤブサ、サシバ、チョウゲンボウの 3 種は、平成 12 年当時、希少猛禽類ではないが、飛翔を確認した貴重種（「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）における注目すべき種）であるため、表内に示した。

②平成 12 年 3 月評価書において、チゴハヤブサ、サシバ、チョウゲンボウの 3 種の確認回数の記載は無いため「—」と記載した。

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
	オオタカ飛翔コース
	オオタカ営巣木
	調査地点
	対象事業計画地

図 6.1-44
オオタカ飛翔確認位置図
(平成12年3月評価書)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない


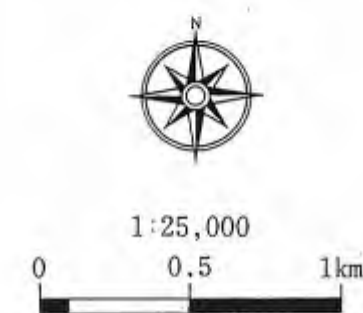
凡 例	
	ハイタカ飛翔コース
	調査地点
	対象事業計画地

図 6.1-45
ハイタカ飛翔確認位置図
(平成 12 年 3 月評価書)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない


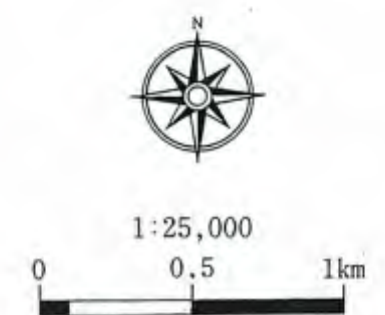
凡 例	
—	ハチクマ飛翔コース
●	調査地点
	対象事業計画地

図 6.1-46
ハチクマ飛翔確認位置図
(平成 12 年 3 月評価書)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない


凡 例	
—	ミサゴ飛翔コース
—	チュウヒ飛翔コース
—	ハヤブサ飛翔コース
	対象事業計画地
●	調査地点

図 6.1-47
ミサゴ、チュウヒ、ハヤブサ
飛翔確認位置図
(平成12年3月評価書)



c) 事業者による希少猛禽類の自主調査

平成 19 年～平成 24 年にかけて、対象事業計画地周辺を含む調査地域（対象事業計画地及びその周辺約 1,000m の範囲）で希少猛禽類調査を実施している。調査内容及び調査期間は、定点観察調査を平成 19 年～平成 21 年に実施し、林内踏査を平成 19 年～平成 22 年及び平成 24 年に実施している。

(i) 定点観察調査

平成 19 年～平成 21 年に実施した定点観察調査による希少猛禽類の確認状況は表 6.1-124、定点観察調査の定点位置図は図 6.1-48、飛翔確認位置図は図 6.1-49～図 6.1-55 に示すとおりである。

定点観察調査で確認された種はオオタカ、ハイタカ、ハチクマ、ハヤブサ、サシバ、ミサゴ、チュウヒの 7 種であり、確認種のうちオオタカの繁殖が示唆された。

表 6.1-124 定点観察調査による希少猛禽類の確認状況（平成 19 年～平成 21 年）

確認種	確認回数	確認状況
オオタカ	147	<p>平成 19 年は、対象事業計画地内においてオオタカの活動が確認され、巣立った幼鳥の確認には至らなかったが、対象事業計画地内に執着している様子が示唆された。</p> <p>平成 20 年は、[] に執着する 2 組のつがいが存在することが明らかとなった。[] に執着するつがいの行動圏の中心は、[] にかけてと推定され、[] に執着するつがいの行動圏の中心は、[] にかけてと推定される。なお、[] では狩りがみられたことから、餌狩場として利用されていると考えられる。</p> <p>平成 21 年においても、2 組のつがいとみられる個体が探餌や異種への攻撃といった指標行動を伴う飛翔が確認されており、[] への執着が示唆されている。</p>
ハイタカ	23	<p>平成 20 年は計 6 回散発的に確認されたが、繁殖行動等はなく、確認回数も少ないことから通過個体と考えられる。</p> <p>平成 21 年は [] に計 17 回確認された。4/24 には 6 回確認され、そのうち雌雄が同時出現し、突っかかりの繁殖行動が確認されているが、その後、確認されておらず、散発的であることから対象事業計画地及び周辺での繁殖の可能性はないと考えられる。</p>
ハチクマ	23	<p>夏鳥として対象事業計画地周辺に渡来しており、平成 20 年、平成 21 年とも雌雄複数個体が確認され、対象事業計画地内から羽ばたく個体もみられたが、殆どの場合北側に飛び去り、対象事業計画地内に戻らなかったこと、以降の調査では確認されていないことから、確認個体は通過個体であり、対象事業計画地及び周辺での営巣の可能性はないと考えられる。</p>
ハヤブサ	11	<p>[] で飛翔が確認された。確認回数も少なく繁殖に係る指標行動はみられないことから、対象事業計画地及び周辺での繁殖の可能性はないと考えられる。</p>
サシバ	10	<p>夏鳥として対象事業計画地周辺に渡来しており、[] で確認された。平成 19 年に [] で幼鳥が確認され、周辺で繁殖したと考えられる。平成 20 年は対象事業計画地内での確認はなく、確認回数も少ないことから、対象事業計画地及び周辺で繁殖した可能性はないと考えられる。</p>
ミサゴ	10	<p>[] で確認された。対象事業計画地及び周辺は本種の本来の生息環境ではないことから、確認個体は移動途中の通過個体であり、対象事業計画地に対する依存性はないと考えられる。</p>
チュウヒ	1	<p>平成 20 年 10 月 14 日に 1 回確認された。[] の飛翔であったが、繁殖行動等はみられず、確認回数も 1 回であることから通過個体と考えられる。</p>

(ii) 林内踏査

平成19年～平成22年及び平成24年に実施した林内踏査で確認された巣の一覧及び営巣状況は表6.1-125、巣の位置図は図6.1-56に示すとおりである。

林内踏査は定点確認調査において繁殖が示唆されたオオタカを対象として実施し、その結果は以下に示すとおりである。

平成9年に確認された[]では、平成19年4月の調査では[]

平成19年4月、平成20年4月、平成21年4月に[]

[]を確認した。このつがいは、定点観察調査で確認された[]と考えられた。[]を確認した。平成22年には[]

[]と判断した。平成24年には、[]が確認された。

また、平成20年4月に[]

[]を確認した。このつがいは、定点観察調査で確認された[]と考えられた。6月の繁殖状況調査で[]

[]確認された。平成21年3月には、[]

[]が確認されたが、4月には[]

[]を確認した。6月下旬に[]

[]が確認されたことから、

[]と考えられ、

[]が確認された。平成22年は、[]

[]した。平成24年には[]は[]と考えられた。

なお、オオタカ以外の猛禽類についても[]しており、表6.1-125に示すとおり[]を確認した。[]については、平成20年に[]している。

表 6.1-125 林内踏査により確認された巣の一覧及び営巣状況(平成19年～平成22年及び平成24年)

NO.	巣 NO.	利用種 ^{※1}	巣の利用状況 ^{※2}						備考
			～H11	H19	H20	H21	H22	H24	

※1：利用種が確定できないものは、不明と記載している。

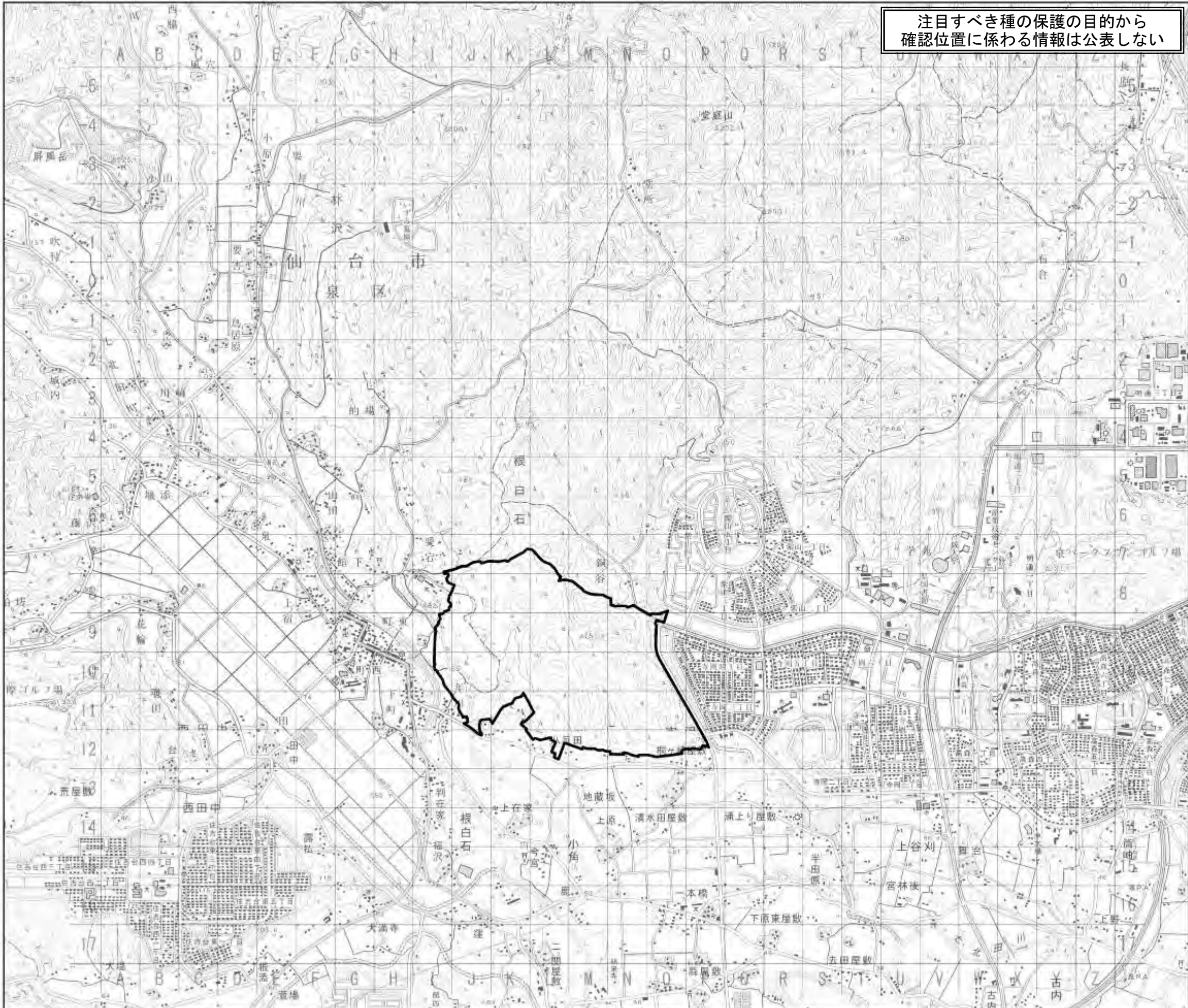
※2：巣の利用状況の凡例は以下に示すとおり。

◎…巣利用，繁殖成功 △…巣利用，繁殖失敗 ×…巣利用なし 不明…巣利用不明 斜線（\）…調査対象外
 消失…営巣木に巣は確認されず，H11～H19の間に落巣したと考えられるもの。

落巣…営巣木の直下に巣材が確認され，巣が明らかに落下した形跡があるもの。

注) 平成24年12月時点の情報である。

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡例	
●	調査地点
○	対象事業計画地

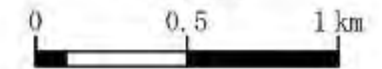
● … 定点調査位置

※巢の名称の付け方は、下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号：確認種、(オオタカのみN+通算番号)」
(例：「H19-5：オオタカ、N2」は、平成19年に初めて確認した5番目の猛禽類の巢で、オオタカの巢としては、通算2番目に確認した巢であることを示す。なお、Fは古巣を示す)

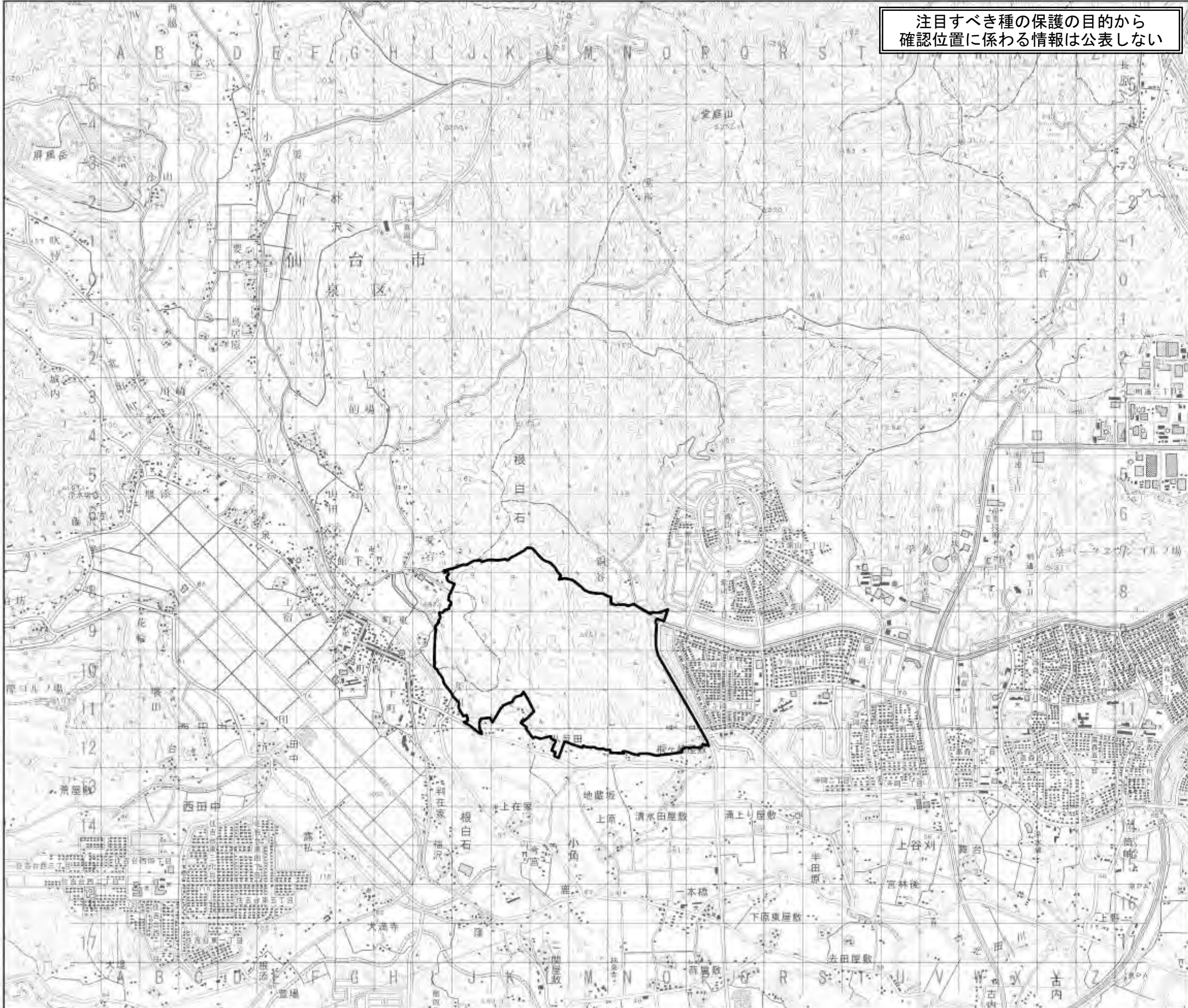
図 6.1-48 定点位置図



1:25,000



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣位置(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

*1 波状、突っかかりなど、単発的に
行われるディスプレイ。
*2 連れ立ち、相互旋回など、連続的に
行われるディスプレイ。
*3 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号：確認種。
(オオタカのみN+通算番号)」
(例：「H19-5 オオタカ、N2」は平成
19年に初めて確認した5番めの猛禽類
の巣で、オオタカの巣としては通算2
番目に確認した巣であることを示す。
Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔



1:25,000

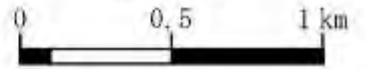
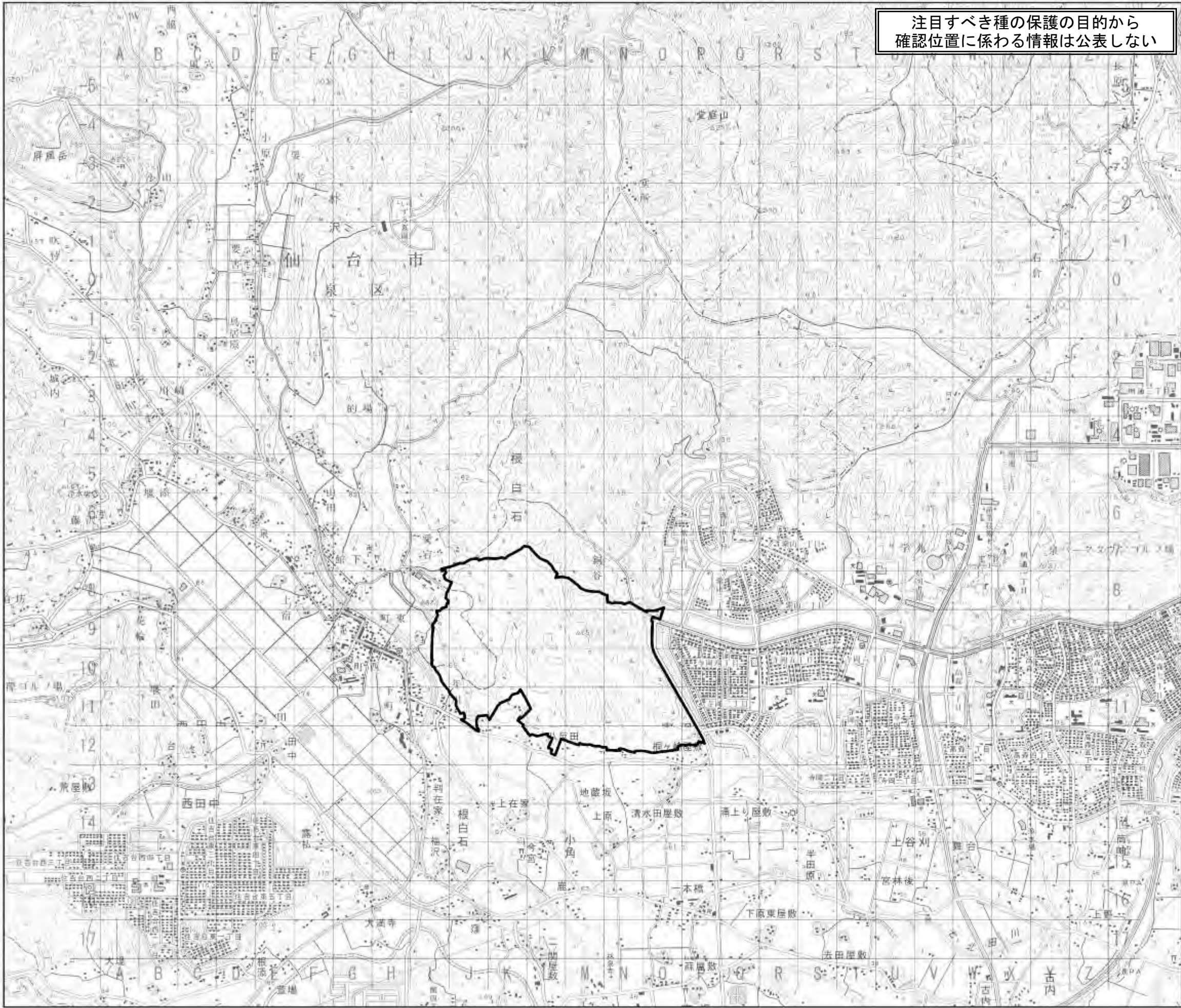


図 6.1-49 オオタカ飛翔確認位置図

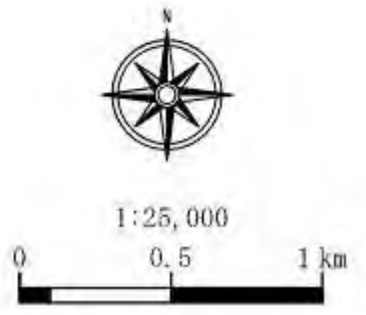
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



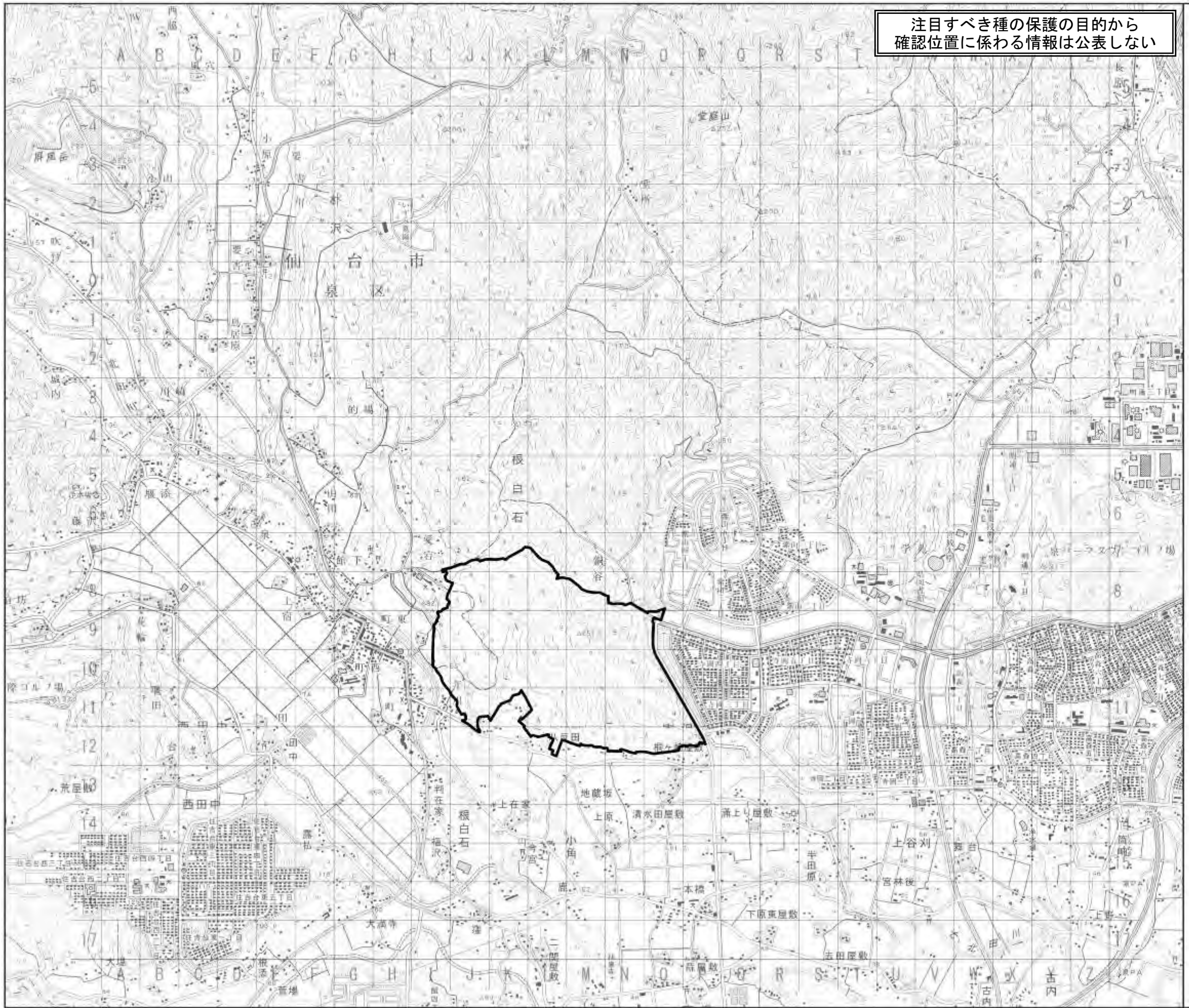
凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用中)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に
行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に
行われるディスプレイ。
*3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種、
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5 オオタカ N2」は平成
19年に初めて確認した5番めの猛禽類
の巣で、オオタカの巣としては通算2
番目に確認した巣であることを示す。
Fは古巣を示す)

図 6.1-50 ハイタカ飛翔確認位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
 *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
 *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
 「最初の確認年-確認番号:確認種
 (オオタカのみH+通算番号)」
 (例: 「H19-5:オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20.3~H21.7確認の飛翔
	H19.4~H19.8確認の飛翔



1:25,000

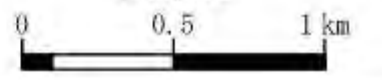
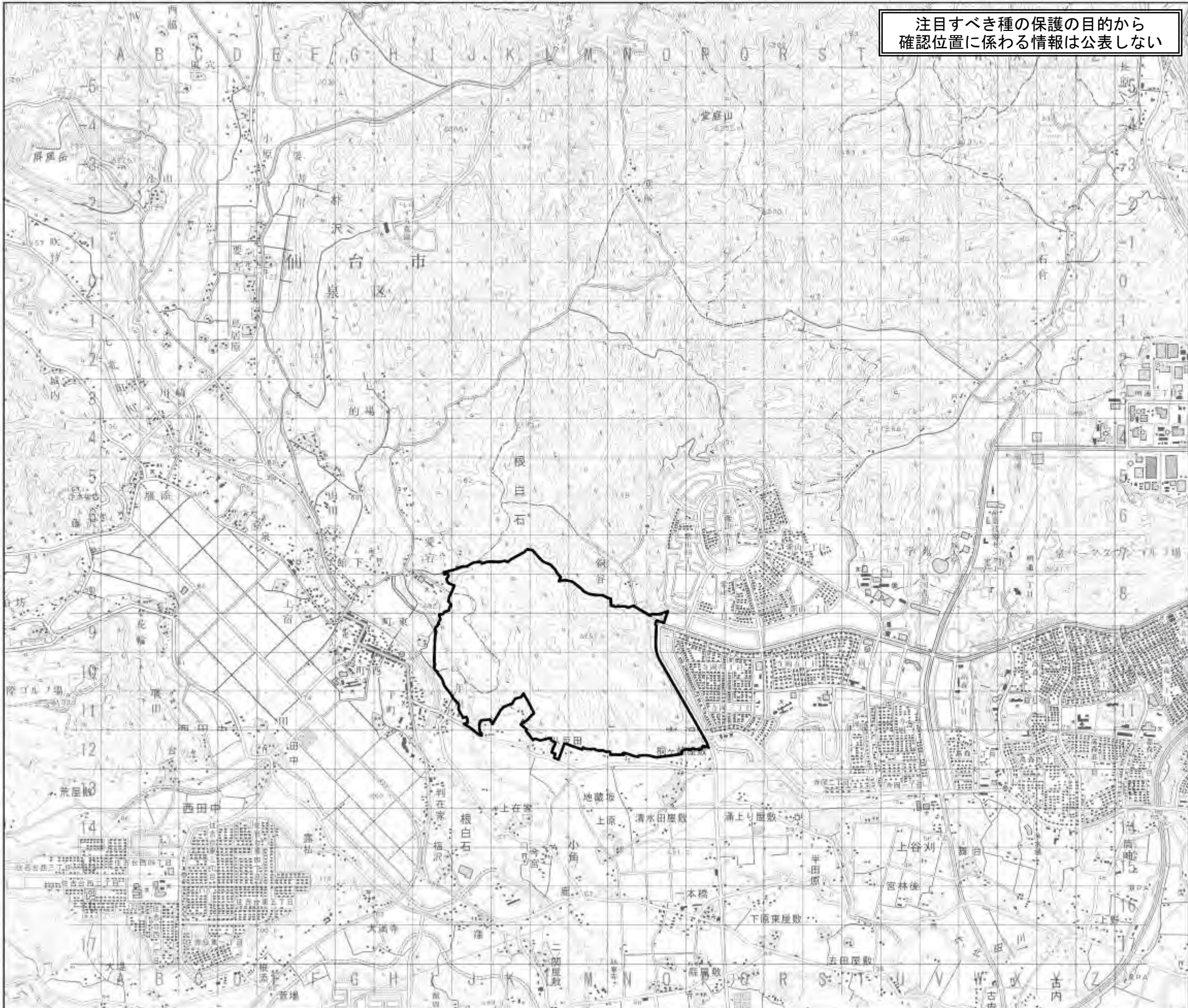


図 6.1-51 ハチクマ飛翔確認位置図

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

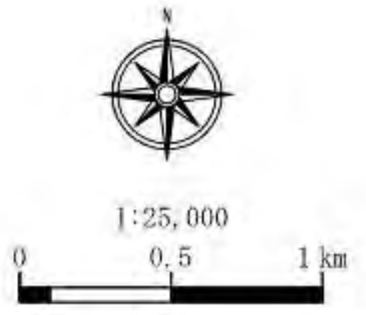


凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣位置(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

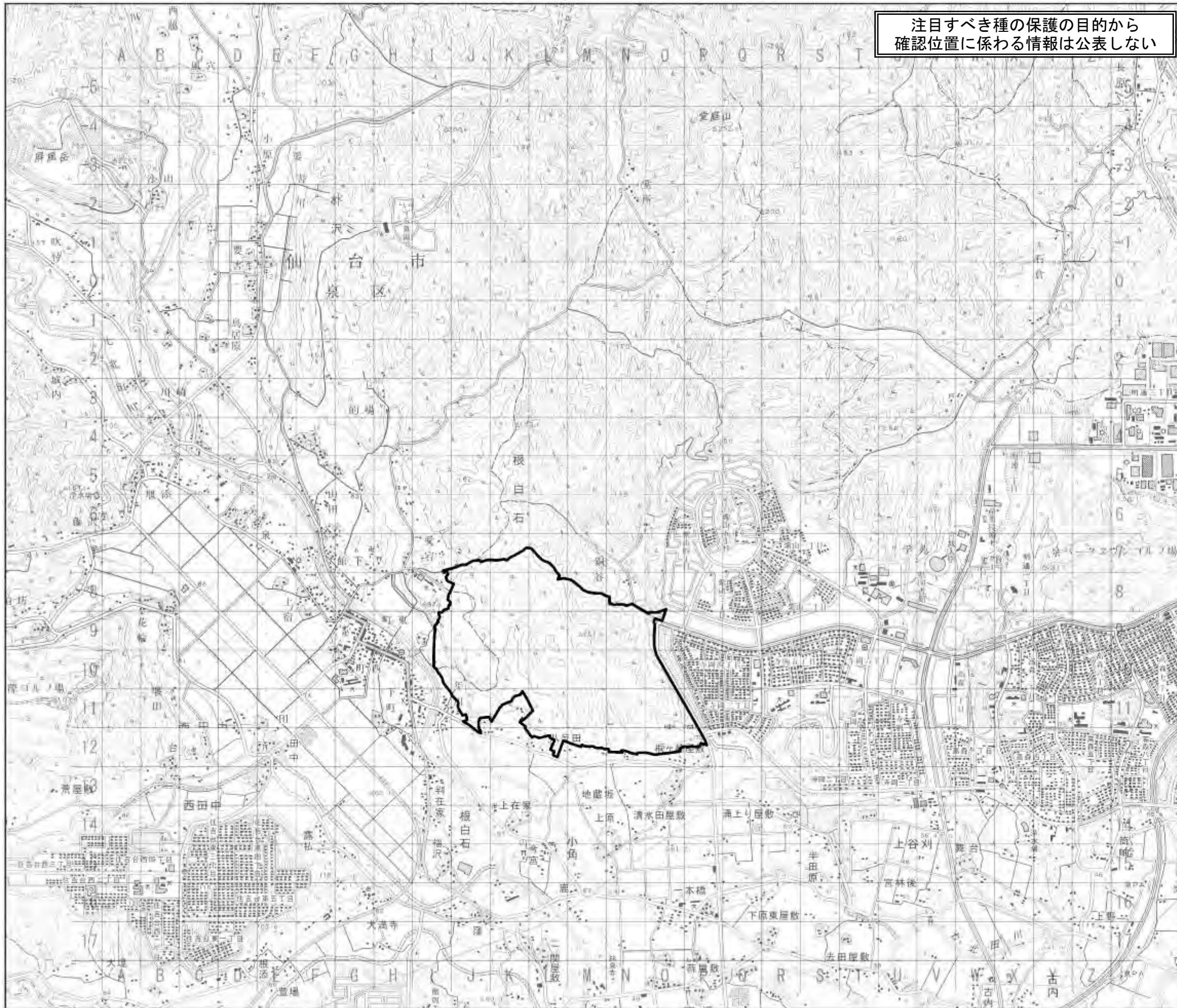
*1: 波状、突っかかりなど、単発的に
行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に
行われるディスプレイ。
*3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種、
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5 オオタカ, N2」は平成
19年に初めて確認した5番めの猛禽類
の巣で、オオタカの巣としては通算2
番目に確認した巣であることを示す。
Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔
	ミサゴ

図 6.1-54 ミサゴ飛翔確認位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

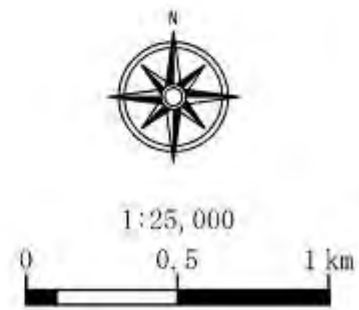


凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

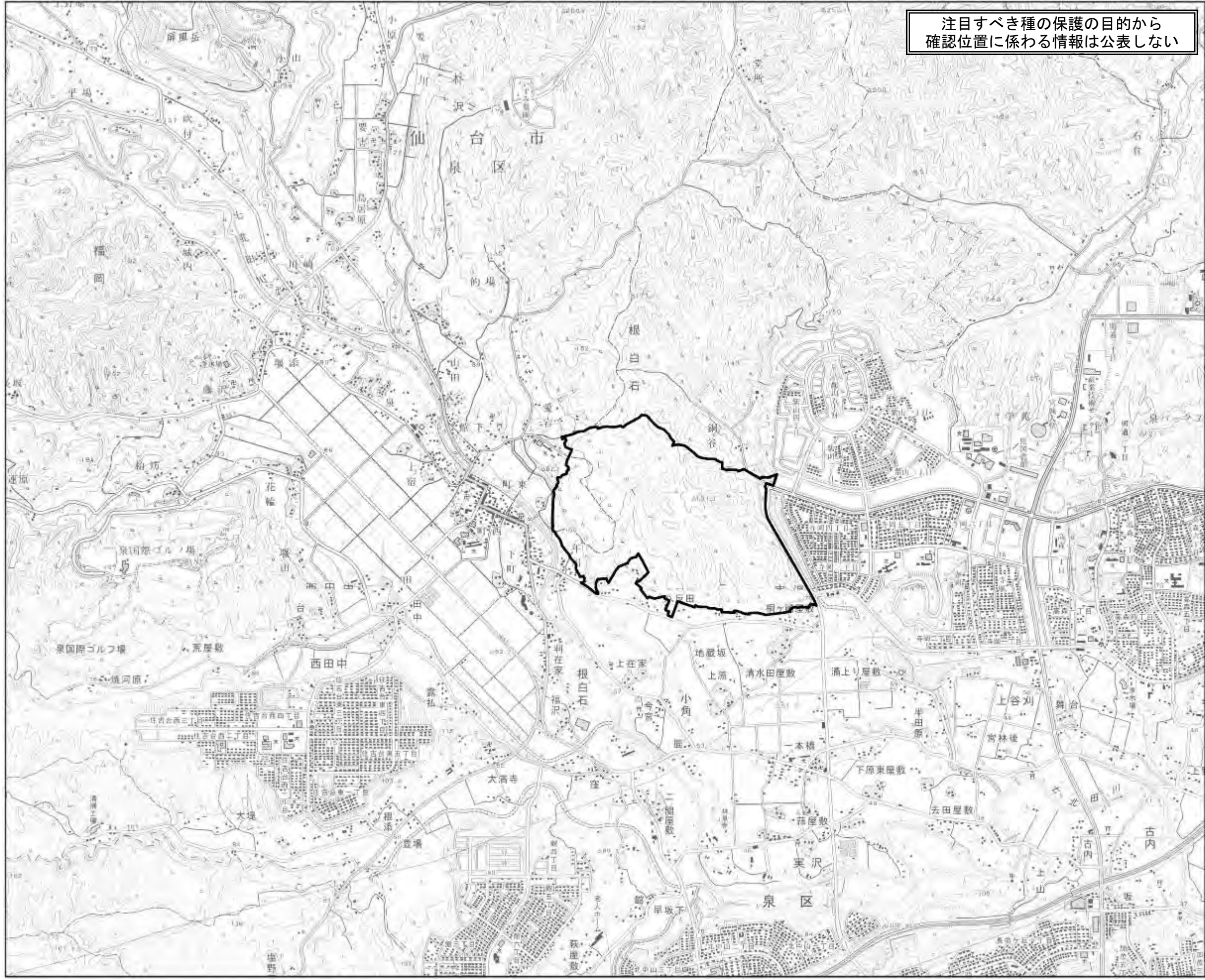
- *1 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号:確認種」
(オオタカのみN+通算番号)
(例:「H19-5 オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔
	チュウヒ

図 6.1-55 チュウヒ飛翔確認位置図



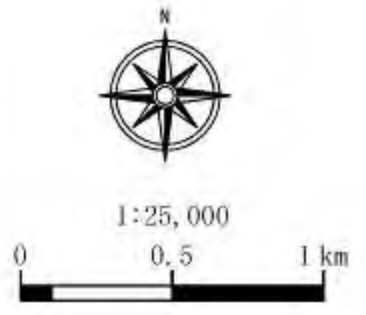
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
色凡例	■ 現存巣
	■ 落巣
○	オオタカを除く猛禽類
色凡例	■ 現存巣
	■ 落巣
▼	H24の調査対象外の巣
○	対象事業計画地

※巣の名称のつけ方は、下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号
(オオタカのみN+通算番号)」
(例:「H19-5(N2)」は平成19年に初めて確認
した5番目の猛禽類の巣で、オオタカの巣と
しては通算2番目に確認した巣であることを
示す。Fは古巣を示す。)
巣の位置は、平成19年度以降に事業者が
自主的に実施した猛禽類調査に基づくも
のである。
※平成24年12月時点の情報である。

図 6.1-56
平成19年～平成24年に
確認された巣の位置図



イ 動物生息地として重要な地域

a) 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）では、表 6.1-107 に示す選定基準により動物生息地として重要な地域を選定している。調査範囲では、表 6.1-126 及び図 6.1-57 に示す動物生息地として重要な地域が存在している。なお、対象事業計画地は「泉ヶ岳から根白石への緑の回廊」の地域内に位置している。

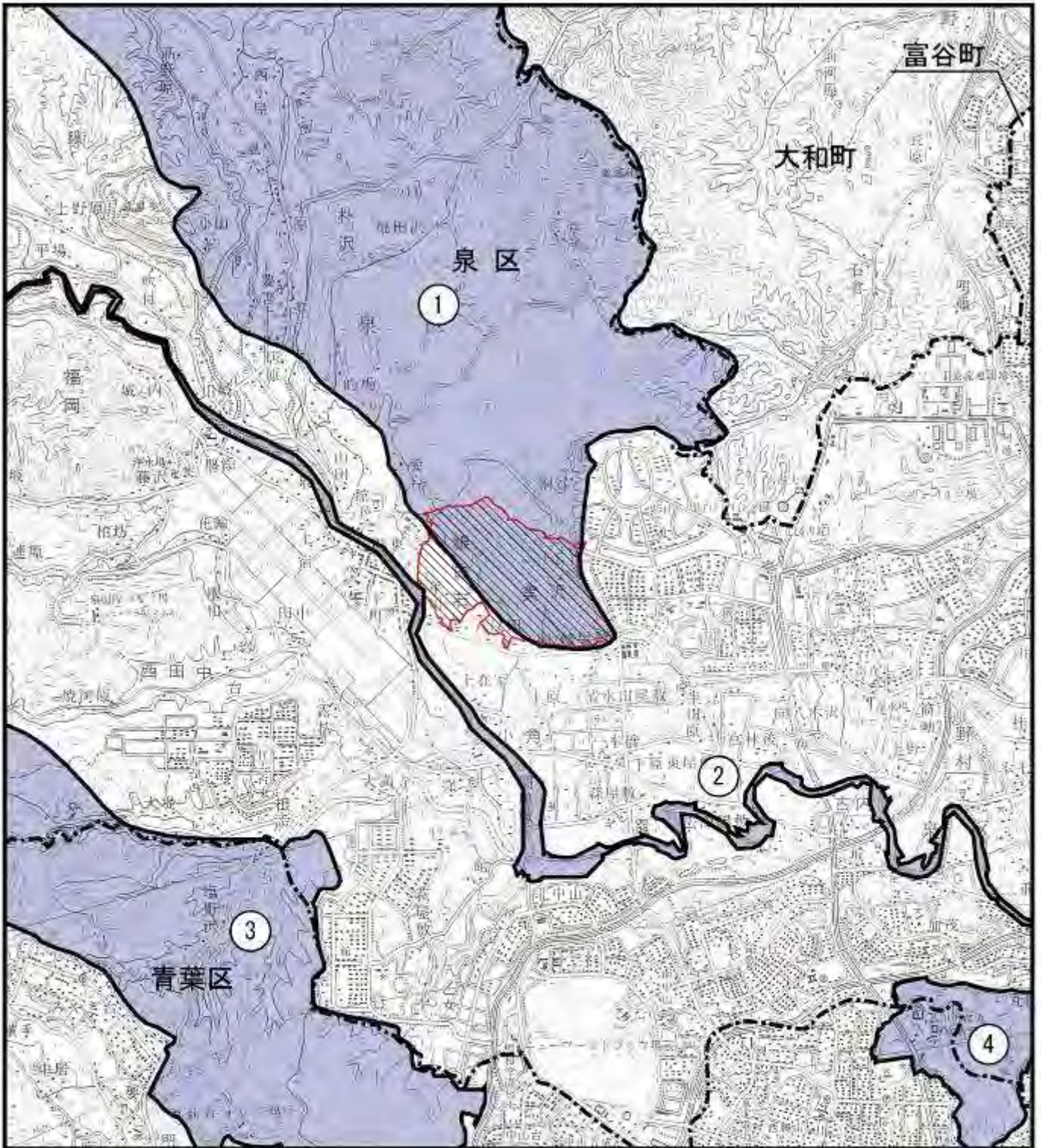
表 6.1-126 動物生息地として重要な地域

NO.	件名	備考	判断理由
①	泉ヶ岳から根白石への緑の回廊	・ 市域北部の動物生息環境，移動路として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8
②	七北田川（中流域～河口）	・ 川に接する地域の環境変化が著しく，動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなっている。	2, 8
③	奥羽山脈から大倉・芋沢丘陵地域への緑の回廊	・ 市域中央部の動物生息環境，移動路として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8
④	丸田沢緑地（水の森公園）	・ 市街地に残された池沼を含む緑地・公園である。市街地に残された動物の生息地，環境学習のフィールドとして重要である。	6, 7




出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

注：表中の No. は図 6.1-57 の番号に対応する。

判断理由は表 6.1-107 に対応する。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 動物生息地として重要な地域
-  : 市区町境界線



S=1:50,000

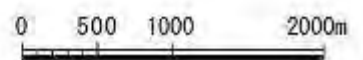


図 6.1-57
動物生息地として
重要な地域

出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
(平成23年3月 仙台市)

ウ 動物からみた対象事業計画地の位置づけ及び保全上の留意点

対象事業計画地は北側から連続する丘陵地の南端部にあたり、南側は七北田川によって形成された段丘平野が広がっている。丘陵地の植生は、コナラ二次林やスギ・アカマツ植林によって大部分が占められる。また、西側には耕作放棄地が広がり里地・里山的な植生となっている。

対象事業計画地は山地地域と市街地地域のバッファゾーン（緩衝帯）として、本市の生物多様性の連続性を支える重要地域であることから、既往の調査結果で確認された注目すべき種を念頭に現地調査を実施して保全対策を検討する。

(3) 生態系

既往調査結果である「泉パークタウン住宅開発（第6期に係る環境影響評価書）」（平成12年3月）の調査結果から、調査範囲の生態系について整理した。

ア 対象事業計画地周辺の生態系の特性

対象事業計画地は、七北田川が東西方向から南北方向に屈曲する上流域の左岸側に位置する。地形的には標高100m～150mの山地～丘陵地帯であり、台地状の河岸段丘が発達している。

河岸段丘のうち、七北田川沿いの低位段丘は水田・畑作耕作地として利用されている。また、周辺の丘陵地は、宅地開発やゴルフ場開発が進んでいる。

丘陵地の植生は、コナラ二次林中に、スギ植林、アカマツ植林がモザイク状に発達している。

自然環境類型は、コナラ群落、スギ植林、アカマツ植林から構成される山地・丘陵地形と、水田雑草群落で構成される台地・段丘及び河岸平野に大別できる。その状況を図6.1-59に示した。

また、対象事業計画地周辺の主要な生息種について食物連鎖図（図6.1-58）として整理した。

<類型区分>

- 山地・丘陵－コナラ群落
- 山地・丘陵－スギ植林
- 山地・丘陵－アカマツ植林
- 山地・丘陵－シバ群落
- 台地・段丘－コナラ群落
- 台地・段丘－水田雑草群落
- 河岸平野・谷底平地－水田雑草群落

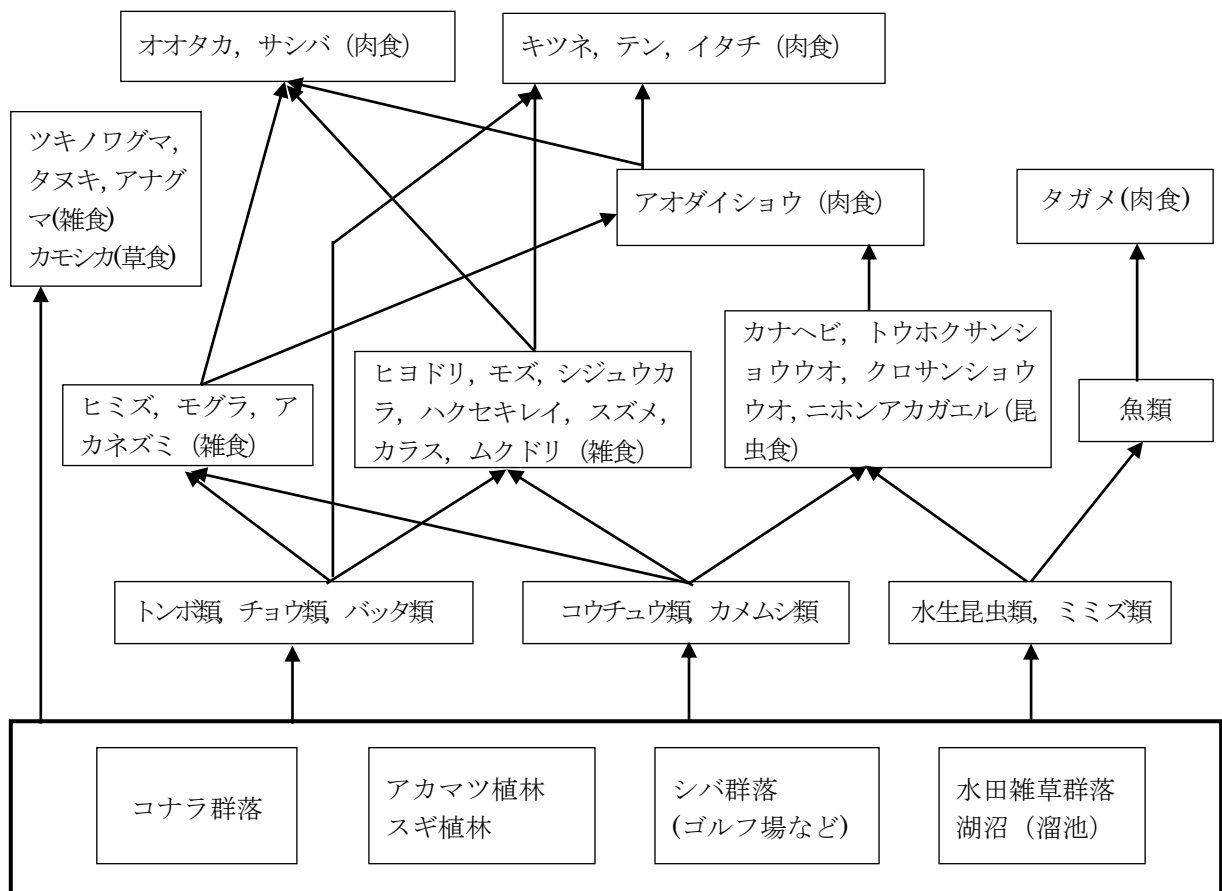
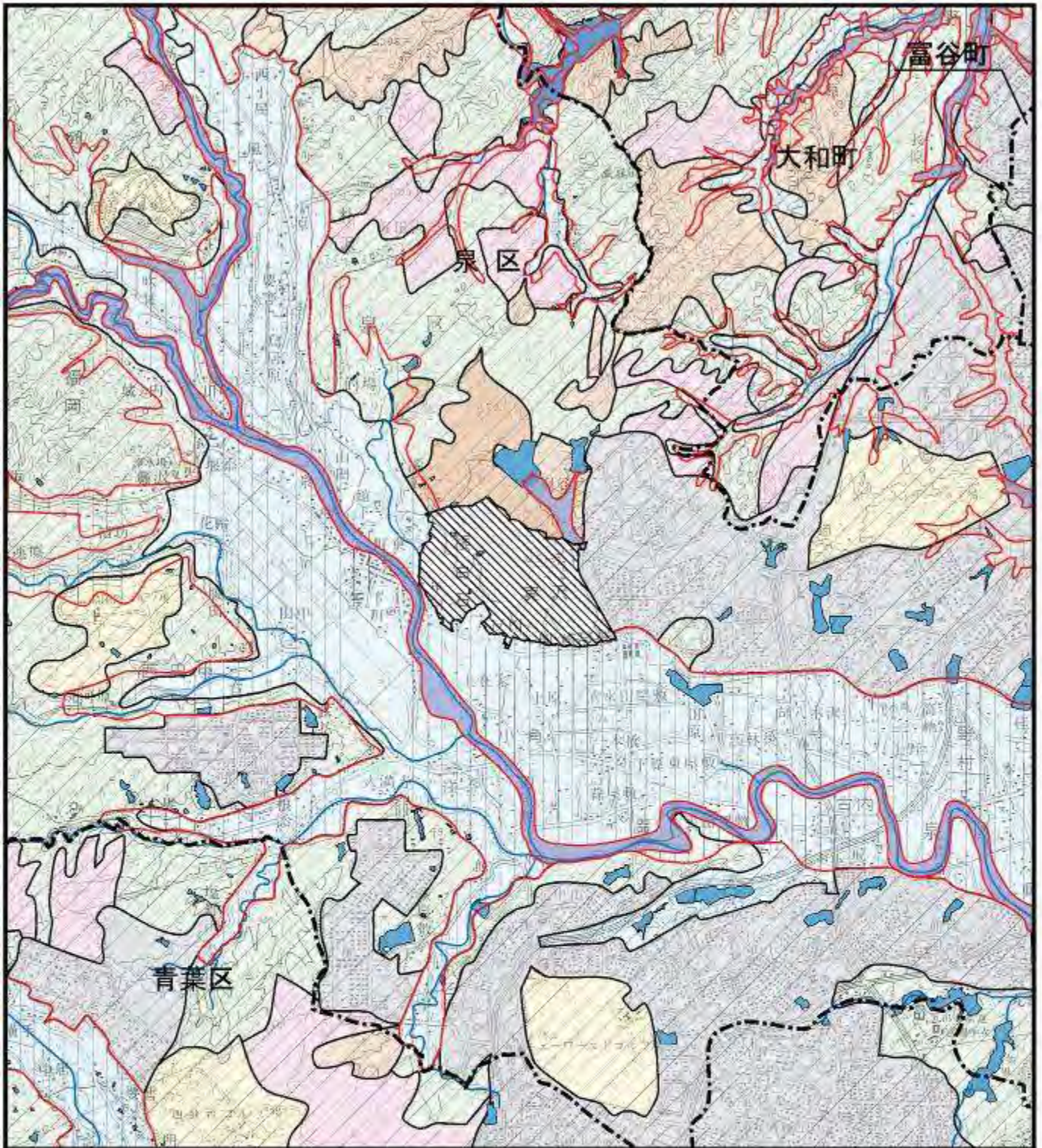


図 6.1-58 対象事業計画地周辺の食物連鎖図



凡例

- | | | |
|---|--|---|
|  : 対象事業計画地 |  : スギ植林 |  : 山地・丘陵地 |
|  : 市区町境界線 |  : 水田雑草群落 |  : 台地・段丘 |
| —植生区分— | | |
|  : コナラ群落 |  : シバ群落
(ゴルフ場など) |  : 河岸平野・谷底平地 |
|  : アカマツ植林 |  : 市街地 |  : 湖沼・ため池 |

—地形区分—



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

出典：現存植生図「吉岡」（昭和61年 環境庁）「仙台」（昭和59年 環境庁）
 地形分類図「吉岡」（昭和55年3月 宮城県）、「仙台」（昭和42年3月 経済企画庁）
 「宮城県河川・海岸図」（平成25年3月 宮城県）
 「平成22年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成23年3月 仙台市）

図 6.1-59
自然環境類型図

イ 対象事業計画地における生態系の特性

対象事業計画地での生息・生育基盤の状況として、表 6.1-127 に生態系類型区分の概要を示す。また、対象事業計画地における類型区分の状況は図 6.1-60 に示すとおりである。

表 6.1-127 生態系類型区分の概要

類型区分	主な植生	概要
丘陵地・段丘 －落葉広葉樹林	コナラ林	計画地の丘陵地や段丘面に発達した二次林により占められる。林床にササ群落の被度が高い箇所と、チゴユリや██████など多様な草本が生育する箇所がある。
	ハンノキ林	計画地北西部の緩傾斜地（水田跡地）に成立した落葉高木林である。
丘陵地・段丘 －常緑針葉樹林	スギ植林	調査地内及び周辺の丘陵地や段丘面にパッチ状に植林されている。林床は██████やチヂミザサの被度が高い。
	アカマツ植林	計画地内及び周辺の丘陵地の一部に植林されている。林床にはチゴユリ、██████などが生育している。
丘陵地・段丘・谷底 －高茎草本群落	ススキ群落	計画地内の段丘面（耕作跡地）や谷底低地に発達する草本群落。
丘陵地・谷底 －湿生植物群落	湿生植物群落	谷底や湿潤な耕作放棄地にみられる。██████，オモダカなどの抽水性植物のほか、イヌホタルイ，アゼナなどが生育する。
人工改変地 －水田・畑作雑草群落	畑作雑草群落	計画地の南～西側に広がる水田耕作地を中心とする人工改変地。
	水田雑草群落	
開放水域	開放水面（池沼）	計画地内及び周辺のため池に相当する。██████，██████，██████などの沈水性，抽水性植物がみられる。
人工改変地 －住宅・道路等	住宅・道路・公園など	計画地の東側（寺岡地区）のほか，南～西側に点在する。

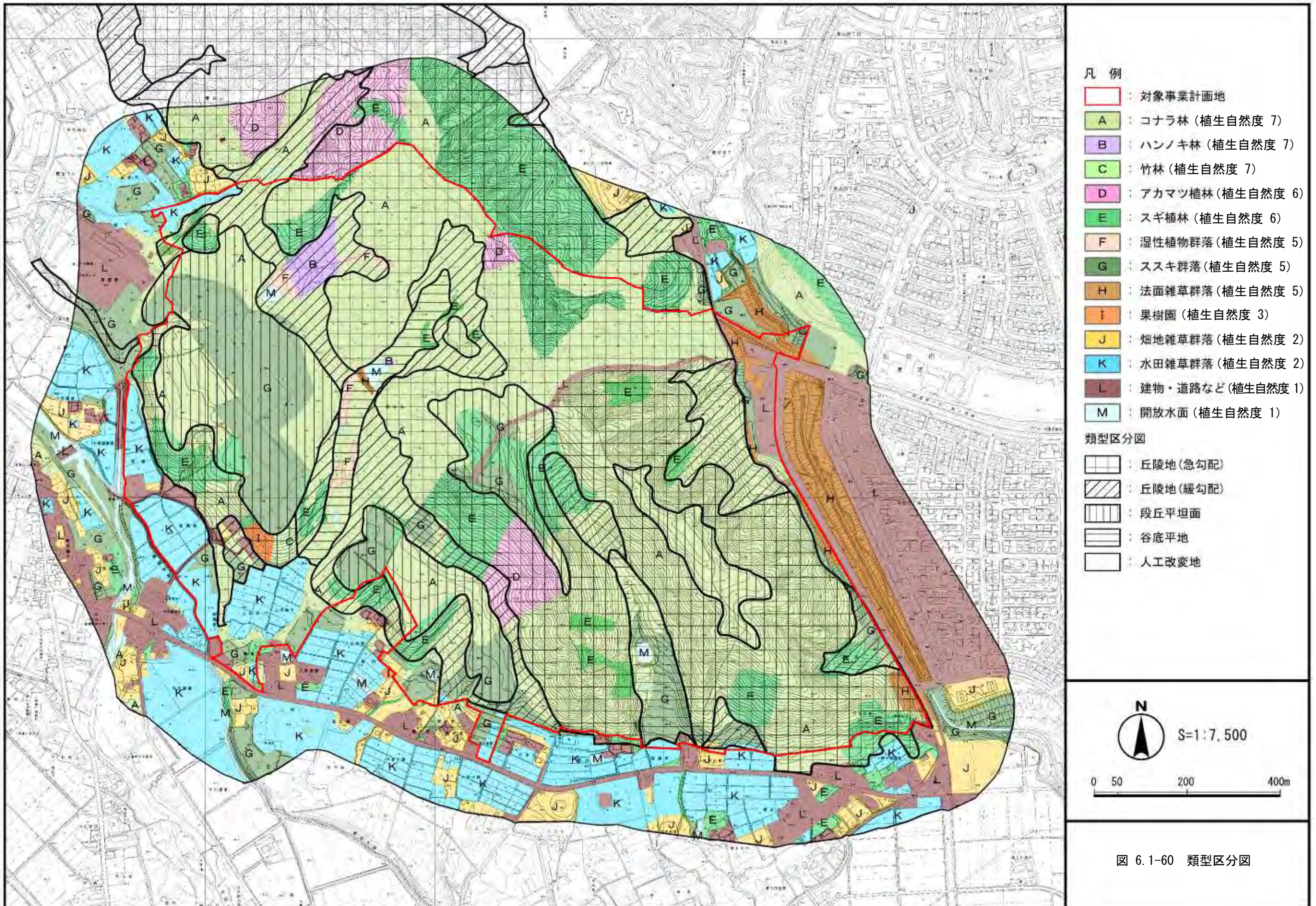


図 6.1-60 類型区分図

ウ 注目種の概要

生態系における注目種（上位性、典型性、特殊性）の考え方を表 6.1-128 に示す。

表 6.1-128 生態系における注目種（上位性、典型性、特殊性）の考え方

区分	考え方	選定上の留意点
上位性	生態系の上位に位置する種。その種の存在を保障することが、おのずと多数の種の存在を確保することを意味する。	調査地域全体または代表的環境を含む、比較的広い範囲にまたがって成立する食物連鎖や、栄養段階数のより大きな食物連鎖に着目する。
典型性	当該地域の生態系の特徴をよく表す種、環境指標種（種群）、キーストーン種等。貴重種ではないありふれた種に着目する。	対象地域において、生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担う種等、生物群集の多様性を特徴づける種や生態遷移を特徴づける種等を対象とし、環境変動などの影響を受けやすい種等を選定する。
特殊性	特異な立地環境を指標する種、生活の重要部分を他の生物に依存する種等。	対象地域において占有面積が比較的小規模で、周囲には見られない環境に着目し、これらの環境要素や環境条件に生息が強く規定される種等を選定する。

エ 生態系を保全する上での留意点

対象事業計画地は北側から連続する丘陵地の南端部にあたり、南側は七北田川によって形成された段丘平野が広がっている。また、丘陵地の植生はコナラ二次林やスギ・アカマツ植林によって大部分が占められるほか、西側には耕作放棄地が広がっている。

対象事業計画地は山地地域と市街地地域のバッファゾーン（緩衝帯）として、本市の生物多様性の連続性を支える重要地域であることから、既往の調査結果で確認された生態系の注目種を念頭に現地調査を実施して保全対策を検討する。

6.1.5. 景観等

(1) 景観

対象事業計画地周辺における景観は、主に丘陵地の住宅地及び山林、田園地帯、遠方の山地で構成されている。

ア 自然的景観資源及び歴史的景観資源の状況

a) 文献調査

調査範囲内における主要な自然的景観資源及び歴史的景観資源は表 6.1-129、景観資源分布図は図 6.1-61 に示すとおりである。

調査範囲内における自然的景観資源は権現森緑地環境保全地域、丸田沢緑地環境保全地域等 6 箇所あり、歴史的景観資源はいぐねと古民家、賀茂神社の 2 箇所がある。

表 6.1-129 調査範囲内における景観資源

【自然的景観資源】

No.	名称	文献*					
		①	②	③	④	⑤	⑥
1	根白石七北田川中流（河成段丘）	○					
2	権現森緑地環境保全地域			○			
3	丸田沢緑地環境保全地域			○			
4	県立自然公園船形連峰			○			
5	屏風岳				○		
6	大森・太田高原				○		
自然的景観資源数計		1	0	3	2	0	0

【歴史的景観資源】

No.	名称	文献*					
		①	②	③	④	⑤	⑥
7	いぐねと古民家					○	
8	賀茂神社						○
歴史的景観資源数計		0	0	0	0	1	1

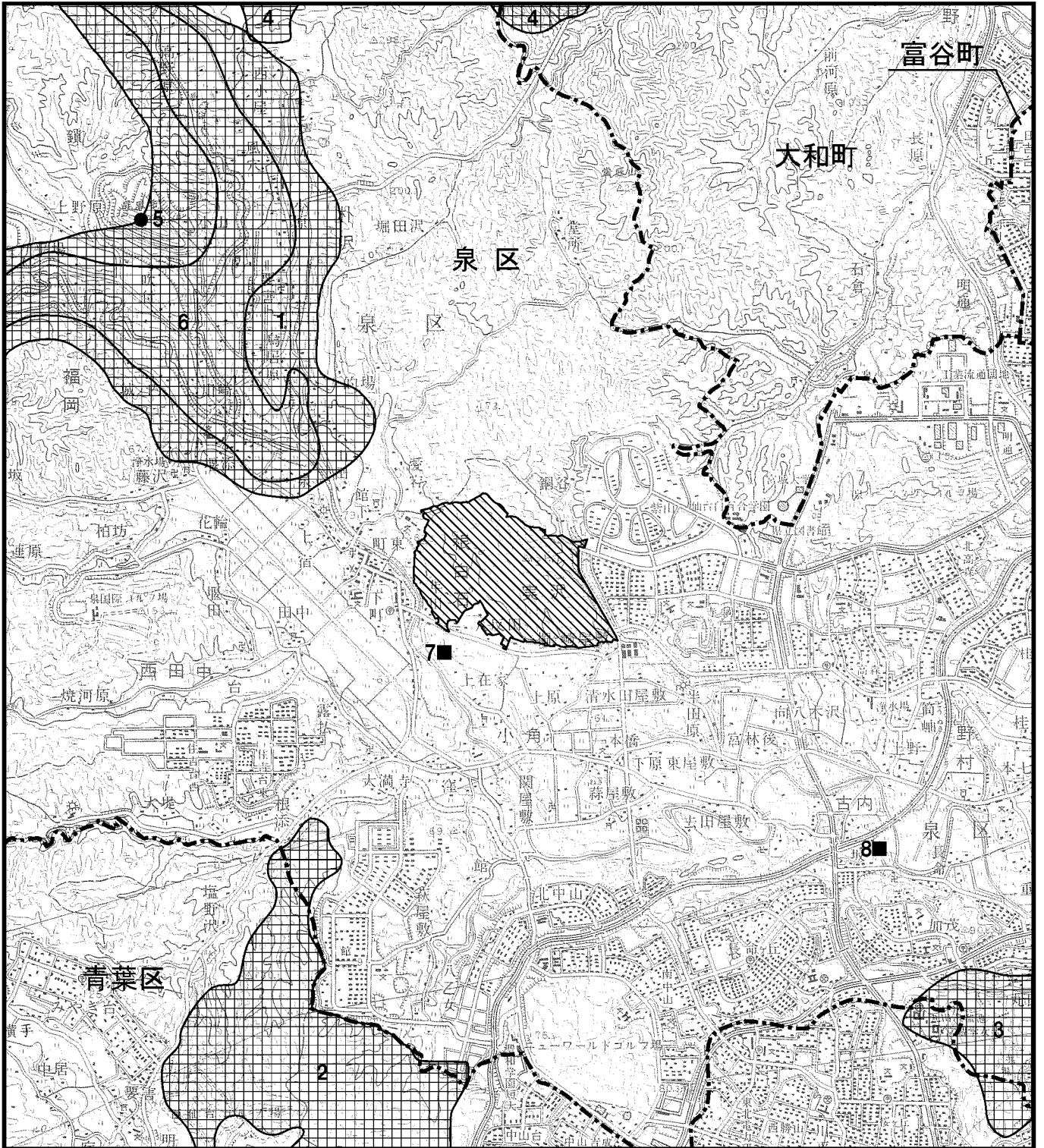
※1：文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）
- ② 「大和町環境基礎調査」（平成 15 年 3 月 大和町）
- ③ 「仙台市公園・緑地等配置図」（平成 23 年 4 月 仙台市）
- ④ 「第 3 回自然環境保全基礎調査 宮城県自然環境情報図」（平成元年 環境庁）
- ⑤ 「みやぎ・身近な景観百選」（平成 24 年 9 月 宮城県）
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tosikei/keikan-100sen-kekka.html>
- ⑥ 「みやぎ伊達な観光マップ」 <http://www.datenamap.com/>





※2：表中の No. は図 6.1-61 の番号に対応する。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、自然的景観資源及び歴史的景観資源の調査は行われていない。

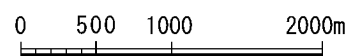


凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 自然的景観資源 (図中番号: 1~6)
-  : 歴史的景観資源 (図中番号: 7~8)



S=1:50,000



- 出典: 1. 「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
 (平成23年3月 仙台市)
 2. 「大和町環境基礎調査」 (平成15年3月 大和町)
 3. 「仙台市公園・緑地等配置図」 (平成23年4月 仙台市)
 4. 「第3回自然環境保全基礎調査 宮城県自然環境情報図」 (平成元年 環境庁)
 5. 「みやぎ・身近な景観百選」 (平成24年9月 宮城県)
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tosikei/keikan-100sen-kekka.html>
 6. 「みやぎ伊達な観光マップ」 <http://www.datenamap.com/>

図 6.1-61
 対象事業計画地周辺の
 景観資源分布図
 (文献調査)

イ 対象事業計画地の景観の状況

対象事業計画地はコナラ林等の落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、アカマツ林の針葉樹林等から構成される森林に覆われた丘陵地景観を呈しており、遠方の山地地域と近傍の住宅地や田畑等を繋ぐ役割を担っている。奥羽山脈の東端にあつて、広がる定高性の七北田丘陵に属しており、対象事業計画地の標高は100～150mの小起伏丘陵地になっている。

眺望地点は、表 6.1-130 に示すとおりである。主要な眺望地点としては、愛宕地区、寺岡地区等が挙げられる。

表 6.1-130 調査範囲内における眺望地点

No.	名称	標高 (m)	対象事業 計画地 までの 距離 (km)	景観の 種類 ^{※1}	眺望の概要	可視性		
						可・ 不可 ^{※2}	不可視 要因	
1	愛宕地区	90	0.4	シーン景観	主稜線は眺望できない。手前の樹林や建物に遮蔽され、対象事業計画地の斜面の一部しか眺望できない。また調査範囲の農地が眺望できる。	△	樹林 建物	
2	寺岡地区	85	0.1		近景	対象事業計画地を南北に伸びる主尾根の稜線及び斜面が眺望できる。	○	
3	根白石地区	61	0.05		近景	対象事業計画地の北西斜面の森林、水田が間近に眺望できる。	○	
4	清水田 屋敷地区	60	0.6		近景	対象事業計画地内を南東に伸びる主尾根先端部の稜線及び斜面、他稜線の一部を眺望できる。	○	
5	西田中地区	69	1.2		中景	対象事業計画地の主尾根稜線及び稜線を含んだ丘陵地帯が一望できる良好な眺望景観を呈している。	○	
6	露払地区	68	1.1		中景	対象事業計画地の主尾根稜線及び稜線を含んだ丘陵地帯が一望できる良好な眺望景観を呈している。	○	
7	対象事業 計画地 北側の道路	180	1.7		遠景	広い範囲で主稜線から伸びる斜面が眺望できる。この地点からの眺望は、手前に広がる森林によって構成され、対象事業計画地を含む丘陵地帯が眺望できる。	○	
8	屏風岳	212	3.5		遠景	対象事業計画地内を南東に伸びる主尾根先端部の稜線及び斜面の一部を眺望できる。	△	地形
9	泉塩釜線	53	1.0	シーク エンス 景観	手前の樹木に遮られ対象事業計画地の稜線の一部を眺望することができる。また周辺地域の農地も眺望できる。	△	地形 樹木	
10	泉塩釜線	33	3.0		遠景	遠方からの眺望であり、手前の樹木等に遮られ対象事業計画地を眺望できない。	×	地形 樹木
11	国道 457 号	80	3.8		遠景	手前の丘陵地先端部に遮られるため、対象事業計画地の主稜線の一部しか眺望できない。	△	地形

※1：景観の種類

シーン景観：ある地点に視点を定めて、そこから得られる景観

シークエンス景観：視点の移動（道路を歩く、車で走るなどの行動）によって得られる景観

近景：近距離景（対象事業計画地周辺）

中景：中距離景（対象事業計画地から1～1.5km以内）

遠景：遠距離景（対象事業計画地から1.5km超）

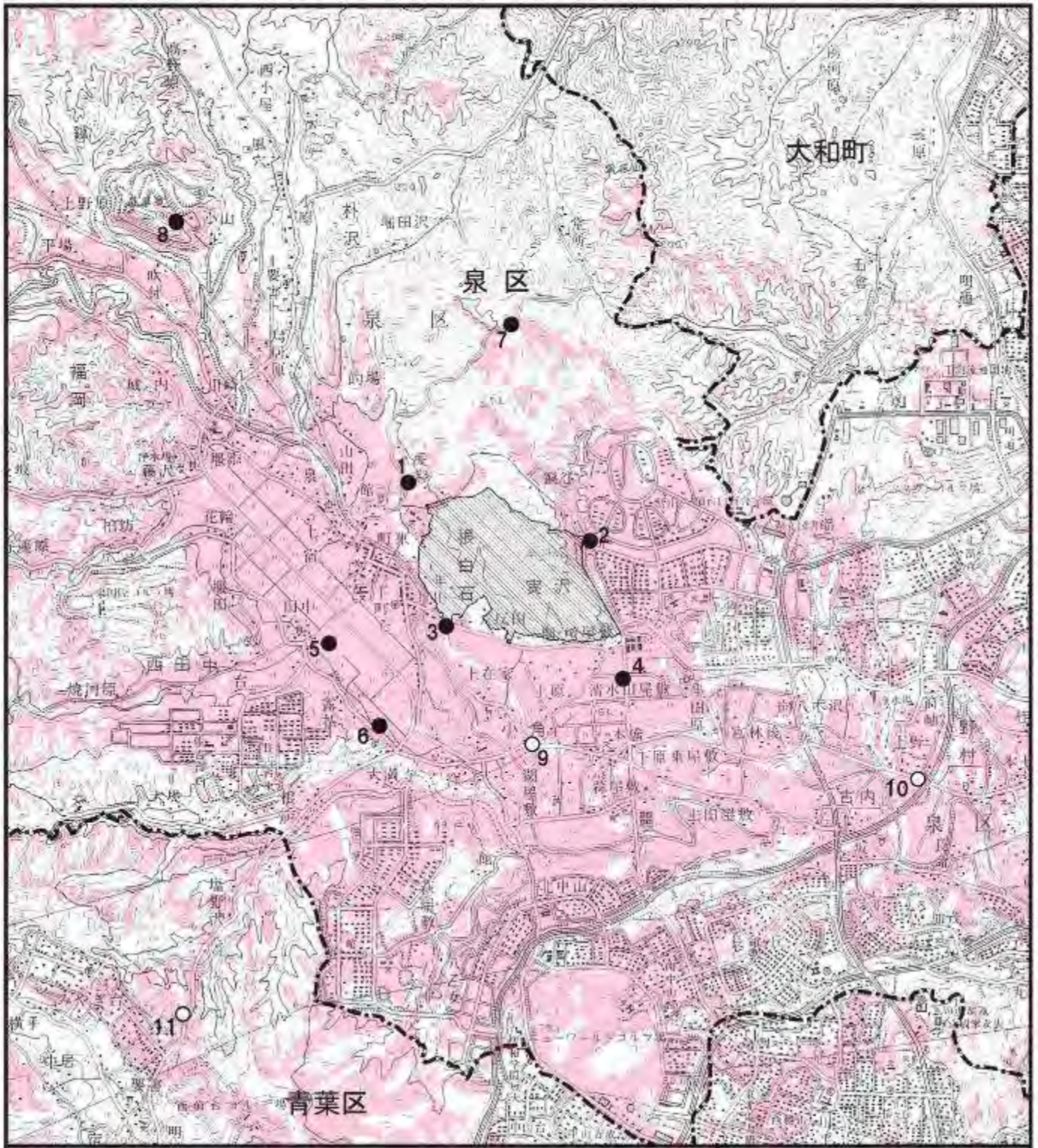
※2：可視性

○：可視部分が多い、△：可視部分が少ない、×：可視できない






（「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

ウ 景観保全上の留意点

対象事業計画地及び周辺は、宮城県の代表的な里山景観を形成している。また、対象事業計画地東側には既成市街地が、南側には水田が広がっている。積極的な森林の残置や造成法面の緑化により、周辺の里山景観、市街地景観、田園景観との調和に留意する。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : シーン景観調査地点 (図中番号: 1~8)
-  : シークエンス景観調査地点 (図中番号: 9~11)
-  : 可視領域
※標高データより対象事業計画地の一部を視認できる箇所

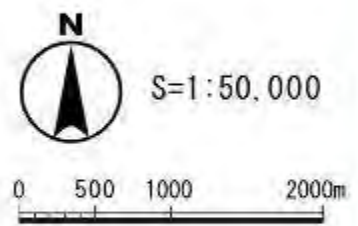


図 6.1-62
対象事業計画地の可視領域
と設定した眺望地点

※出典:「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
(平成12年3月 三菱地所株式会社)

(2) 自然との触れ合いの場

ア 自然との触れ合いの場の状況

a) 文献調査

対象事業計画地が位置する泉区は、七北田川や泉ヶ岳をはじめとした様々な水と緑がある。この対象事業計画地周辺には自然豊かな里山が残っており、新興住宅地は公園の緑や街路樹に彩られている。

七北田川の両岸は河岸段丘となっており、川は田より低いところを流れている。そのため、昔の人々は上流に堰や堤を造り、潜穴（くぐりあな）などの工夫を重ねて米を作り続けてきた。この堰や堤、用水路は今も地元の人々によって大切に管理されている。また、根白石、朴沢、福岡地区には、強風や寒さを防ぐ屋敷林（居久根）がたくさん残っている。

根白石地区では、泉の城跡及び史跡めぐり等の活動を通して豊かな自然や歴史と触れ合うことができるようになっている（表 6.1-131 参照）。また、中学校では、七北田川で水生動物の調査を総合学習の一環として実施するなど、河川を中心に自然と触れ合う機会をもっている（表 6.1-132 参照）。

調査範囲における主要な自然との触れ合いの場は表 6.1-133、自然との触れ合いの場分布図は図 6.1-63 に示すとおりである。

調査範囲には、水の森公園、長命館跡等の公園、賀茂神社等の寺社、七北田川等の河川などの自然との触れ合いの場が 21 箇所ある。

表 6.1-131 根白石市民センターにおける活動（平成 25 年 3 月～平成 26 年 2 月）

活動名称	活動日	年度	活動内容
泉の城跡めぐり (根白石探検隊主催)	4/5, 12, 19, 26 5/10, 17 (全 6 回)	H25	泉区内の城跡探訪。
さくらコンサート	4/21	H25	さくらを愛でながら歌う。
根白石探検隊 ～ぶらっと根白石～	8/30, 9/6, 13, 20, 27 10/4 (全 6 回)	H25	根白石地域の史跡・みちしるべ ・神社・寺院等の探訪。
根白石探検隊 「みちしるべと定義の道」	11/1, 8, 15, 22, 29 12/6 (全 6 回)	H25	朴沢高野原～定義まで、みちしるべを辿りながら定義街道三つのコースを歩く。

出典：根白石市民センターだより（平成 25 年 3 月号～平成 26 年 2 月号）

表 6.1-132 根白石中学校における自然との触れ合い活動

活動項目	活動内容
水生動物調査	仙台市環境局と一緒に、七北田川（鼻毛橋、馬橋周辺）で毎年夏休みに総合学習の一環として水生動物の調査を実施している。
天体観測	中学校のグラウンドは、周囲に明かりとなるものが少なく、見晴らしも良いため、天体観測ポイントとなっている。授業の一環で不定期に実施している。
ホタル観察会	山田川のゲンジボタル群生地で観察会を実施している。
たたら製鉄の再現	平成 5 年～10 年頃にかけて、七北田川から原料となる砂鉄を採取するなど、日本に昔から伝わる鉄を作る技術を体験していた。歴史的な文化を学ぶ体験活動として、今後実施する可能性がある。

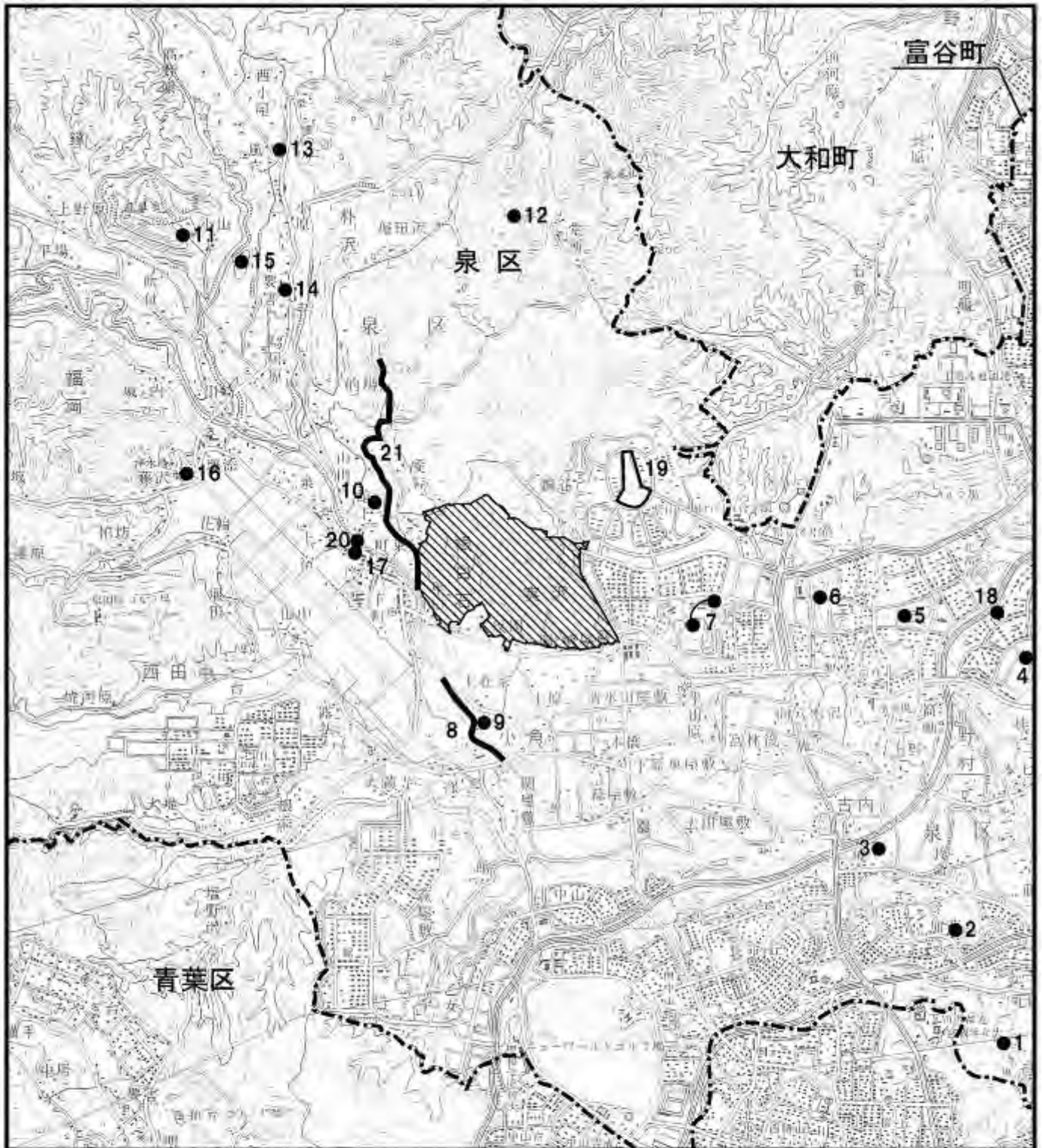
出典：根白石中学校ヒアリング（平成 21 年 10 月 22 日）

表 6.1-133 自然との触れ合いの場の概要




No.	名 称	所在地	文献*		
			①	②	③
1	水の森公園	青葉区水の森四丁目他	○	○	
2	長命館跡【長命館公園（風の子公園）】	泉区加茂二丁目	○	○	
3	賀茂神社	泉区古内字糺1	○	○	
4	桂島緑地	泉区桂一丁目	○	○	
5	高森東公園	泉区高森六丁目	○	○	
6	高森公園（高森自然公園）	泉区高森二丁目	○	○	
7	寺岡山と高森寺岡公園（寺岡中央公園）	泉区寺岡二丁目	○	○	
8	七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）	泉区小角～根白石	○	○	
9	貴船神社	泉区根白石字明神	○		
10	白石城跡	泉区根白石字館下	○	○	
11	鷺倉神社（境内，姥杉）	泉区福岡字小山117	○	○	
12	堂所付近	泉区根白石字堂所	○	○	
13	モミの木と亀の子石	泉区朴沢字壇の原	○	○	
14	興禅院の大イチョウ	泉区朴沢字南		○	
15	朴沢八幡神社	泉区朴沢字八幡下		○	
16	雷神社	泉区福岡字台		○	
17	満興寺	泉区根白石字町西上		○	
18	桂中央公園	泉区桂2丁目		○	
19	紫山公園	泉区紫山五丁目		○	
20	七北田川（馬橋付近）	泉区根白石字町頭			○
21	山田川	泉区根白石字広表中			○

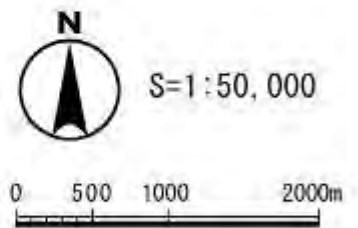
※：文献は以下のとおりである。

- ①「杜の都・仙台 わがまち緑の名所100選 ガイドブック」（平成14年3月 仙台市）
- ②「いずみの水と緑・続『み～つけた』」（平成24年9月 泉区まちづくり推進協議会）
- ③「根白石中学校ヒアリング」（平成21年10月22日）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 自然との触れ合いの場 (図中番号: 1~21)



出典「杜の都・仙台 わがまち緑の名所100選 ガイドブック」(平成14年3月 仙台市)
 「いずみの水と緑・続『み~つけた』」
 (平成24年9月 泉区まちづくり推進協議会)
 「根白石中学校ヒアリング」(平成21年10月22日)

図 6.1-63
 対象事業計画地周辺の
 自然との触れ合いの場
 分布図 (文献調査)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、自然との触れ合いの場の調査は行われていない。

イ 自然との触れ合いの場に対する保全上の留意点

自然との触れ合いの場は直接改変されるものではないが、自然との触れ合いの場の利便性に影響を及ぼすことが想定されるため、資材等の運搬や重機の稼動等に留意する。

(3) 文化財

ア 文化財等の状況

a) 文献調査

調査範囲には歴史のある寺社が残っており、建造物とともに古木や石碑などが現在も地域の人々に大切に守られている。また、この地域では古い伝統を受け継いで、わらで作った馬やわらじ等を飾る、七夕の原点を思わせる祭りが残っている。調査範囲における歴史的・文化的資源は表 6.1-134 に示すとおりである。

表 6.1-134 歴史的・文化的資源

名称	場所	概要
亀の子石	泉区朴沢字壇ノ原	亀の甲羅の形をした大きな石。昔、地蔵を作ろうとして何度も彫ってみたものの、元の亀の形に戻るため作るのをやめたという伝説が残っている。
朴沢八幡	泉区朴沢字八幡下	朴沢地区中央にある、旧朴沢村の一村鎮守。社の森には、見事なスギ、モミ、ヒノキ、ブナ、サクラ等がある。
笈分阿弥陀	泉区福岡字川崎	高さ 98.8cm の木造阿弥陀如来の立像。快慶の作と言われている。
根白石小学校	泉区根白石字杉下前	昭和 5 年に完成した貴賓室、講堂、地下道等を備えた洋風の木造校舎。仙台市内最古の木造建築の小学校で、サクラやイチョウ等の古木とともに、地域の人たちの誇りとなっている。
白石城跡	泉区根白石字館下	河岸段丘を利用した平山城。城跡には、宇佐八幡神社、兎口神社、市の指定文化財に指定されている裁松院の墓、三十三所観音などがある。
満興寺	根白石字町西上	1382 年開山と言われる寺。屋根は改修されたが、門柱や桁は昔のままとなっている。また、「満興寺七不思議」として民謡「願人節」で唄われている。
根白石の石	根白石字判在家	村名の起源を残すため 1728 年に造られた石碑。源頼朝が七ツ森で巻狩りをした際、家臣が大鹿に矢を放ち、近づいて見ると、鹿ではなく根元の白い石だったため、この辺りを根白石と呼ぶようになったと言われている。
七夕祭り	根白石地区	七夕の原点を思わせる祭り。家族みんなで願いを込め、鉢植えの笹竹に、わらで作った馬やわらじ等を飾っている。

出典：根白石歴史マップ（平成 21 年 6 月 根白石市民センター，図 6.1-64 参照）

いずみの水と緑・続『み～つけた』（平成 24 年 9 月 泉区まちづくり推進協議会）



図 6.1-64 根白石歴史マップ

調査範囲における指定文化財等のうち、建造物、史跡及び天然記念物の分布状況は表 6.1-135～表 6.1-140、指定文化財等分布図は図 6.1-65 に示すとおりである。

調査範囲には、文化財として県指定の賀茂神社本殿、鷲倉神社の姥杉等がある。対象事業計画地から西側 500m には市指定の栽松院墓所がある。

表 6.1-135 指定文化財の状況（国指定）

【国指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
有形文化財（歴史資料）					
1	坤輿萬国全図（版本） 附 坤輿萬国全図（着色）	6 幅	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H2. 6. 29
特別天然記念物					
2	ニホンカモシカ	（不定）	—	—	S30. 2. 15

出典：「仙台市の文化財（指定文化財及び登録文化財）の種類と数」（平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課）
<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>
 「宮城県の指定文化財」（宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

表 6.1-136 指定文化財の状況（国登録）

【国登録文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
有形文化財（歴史資料）					
3	紙芝居資料	5,652 点	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H18. 3. 31

出典：「仙台市の文化財（指定文化財及び登録文化財）の種類と数」（平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課）
<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>
 「宮城県の指定文化財」（宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

表 6.1-137 指定文化財の状況（県指定）（1/3）

【県指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
有形文化財（建造物）					
4	賀茂神社本殿 附 棟札 2 枚	2 棟	仙台市泉区古内字糺 1	賀茂神社	S39. 9. 4
有形文化財（彫刻）					
5	木造阿弥陀如来立像	1 軀	仙台市泉区福岡字	個人	S40. 5. 18
6	木造十一面観音立像	1 軀	仙台市泉区高森	個人	S51. 3. 29

出典：「仙台市の文化財（指定文化財及び登録文化財）の種類と数」（平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課）
<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>
 「宮城県の指定文化財」（宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

表 6.1-138 指定文化財の状況（県指定）(2/3)

【県指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
有形文化財（書籍典籍）					
7	観文禽譜（稿本） 禽譜（稿本）	12 冊 11 帖	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 1. 31
8	魚蟲譜（写本）	7 巻	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 1. 31
9	關算四傳書（写本）	507 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 1. 31
10	貞観政要（伏見版）	8 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 1. 31
11	光悦謡本一百番（特製本）	99 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 1. 31
12	生計纂要（稿本）	88 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 1. 31
13	三航蝦夷日誌（稿本）	35 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 1. 31
14	北海道風土記（稿本）附図 10 枚 附 北海道風土記（草稿） 附 琉球新誌 附図 1 枚 附 小笠原島新誌 附図 1 枚	27 冊 6 冊 1 冊 1 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 1. 31
15	言海（稿本）	32 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 1. 31
16	皇国地誌	26 冊 附図 495 舗	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
17	朝鮮古刊本	46 部 262 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H16. 6. 29
18	環海異聞（写本）	16 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H17. 7. 26
19	金城秘韞（写本）	2 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H17. 7. 26
20	英文翻訳彼理日本紀行（稿本）	10 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H17. 7. 26
21	奥州名所図会（自筆稿本）	4 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H17. 7. 26
22	熟語本位英和大辞典（自筆原稿）	1 本	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H17. 7. 26
23	宮城県漁具図解及び略解	2 帖	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H19. 2. 16
24	奥羽観蹟聞老志	20 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H19. 10. 26
25	風土記御用書出	66 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H19. 10. 26

出典：「仙台市の文化財（指定文化財及び登録文化財）の種類と数」（平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課）

<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>

「宮城県の指定文化財」（宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

表 6.1-139 指定文化財の状況（県指定）(3/3)

【県指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
有形文化財（歴史資料）					
26	国絵図	52 舗 1 軸 関係文書 10	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
27	仙台北城下絵図	13 舗	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
28	仙台北城絵図	13 舗 1 帖 1 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
29	仙台北別業・江戸屋敷等絵図	13 舗 7 枚 2 幅 2 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
30	城・要害・在郷屋敷絵図 附 関係文書 1 通	109 舗	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
31	領内図	116 舗 24 枚 4 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
32	飛地領絵図 附 関係文書 5 件	18 舗	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
33	蝦夷地関係絵図	14 舗 16 枚 1 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
34	境絵図	21 舗	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
35	伊能図（中図） 附 北極出地度里程測量 3 冊	5 軸	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
36	仙台北祭絵関係資料	1 帖 1 巻	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H17. 7. 26
無形民俗文化財					
37	芋沢の田植踊	（不定）	仙台市青葉区芋沢	芋沢の田植踊 保存会	S35. 4. 23
38	福岡の鹿踊・剣舞	（不定）	仙台市泉区福岡	福岡の鹿踊 ・剣舞保存会	H3. 8. 30
39	上谷刈の鹿踊・剣舞	（不定）	仙台市泉区上谷刈	上谷刈の鹿踊 ・剣舞保存会	H11. 10. 29
天然記念物					
40	鷲倉神社の姥杉	1 本	仙台市泉区福岡字 小山 19-2	鷲倉神社	H10. 1. 16
41	賀茂神社のイロハモミジ	2 本	仙台市泉区古内字糺 1	賀茂神社	H11. 7. 2
42	賀茂神社のタラヨウ	1 本	仙台市泉区古内字糺 1	賀茂神社	H11. 7. 2

出典：「仙台市の文化財（指定文化財及び登録文化財）の種類と数」（平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課）

<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>

「宮城県の指定文化財」（宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

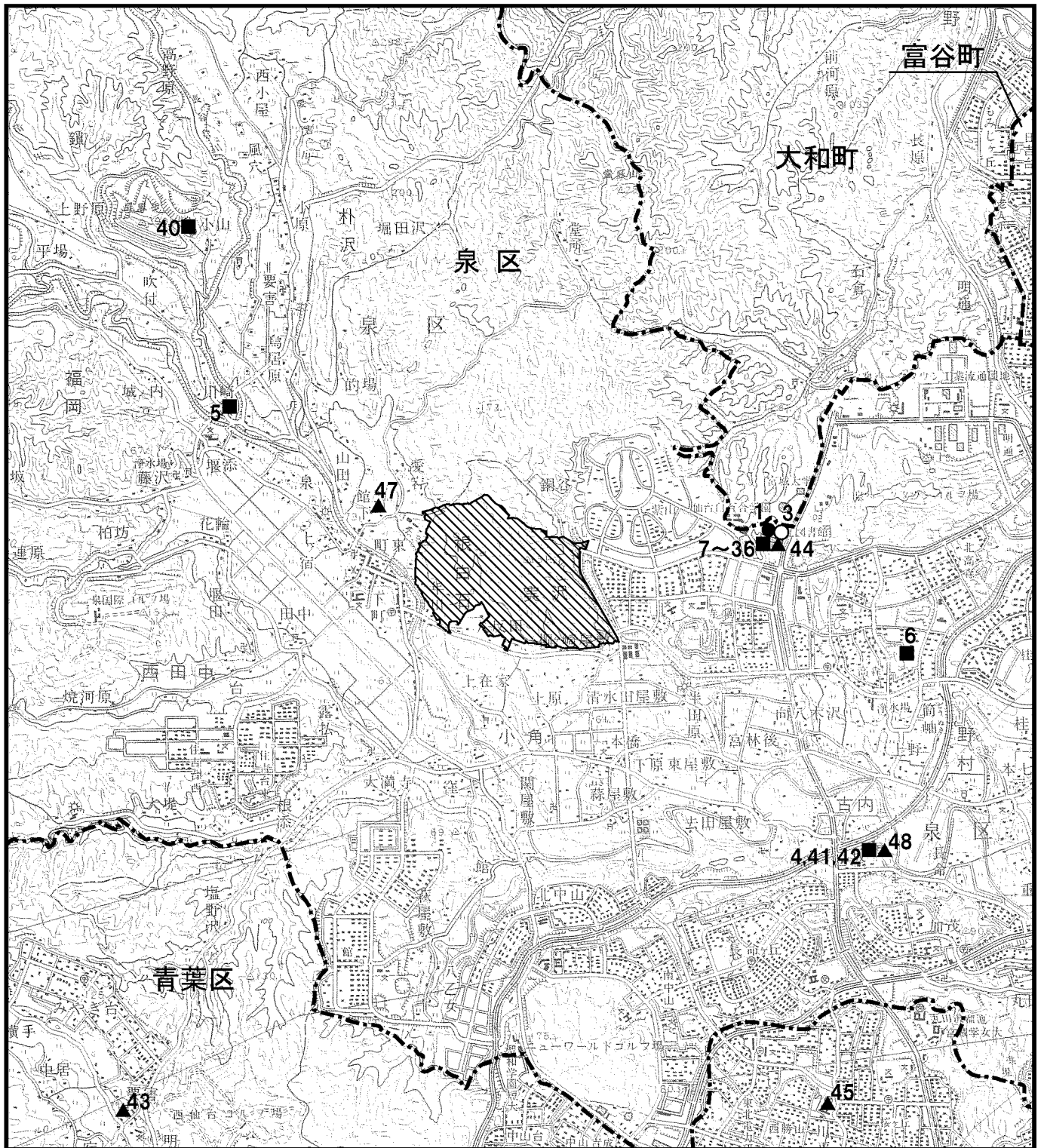
表 6.1-140 指定文化財の状況（市指定）

【市指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
有形文化財（建造物）					
43	宇那禰神社本殿 附 棟札 5 枚	1 棟	仙台市青葉区芋沢字 明神 12	宇那禰神社	S47.12.27
有形文化財（歴史資料）					
44	仙台藩修復帳 御修復帳	1 冊 1 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H12.4.28
45	朴沢学園裁縫教育資料	一括	仙台市青葉区 川平二丁目 26-1	学校法人 朴沢学園	H23.7.1
無形民俗文化財					
46	大沢の田植踊	(不定)	仙台市泉区泉ヶ丘	大沢の田植踊 保存会	S62.8.1
史跡					
47	栽松院墓所	(不定)	仙台市泉区根白石字 館下	満興寺	S43.3.1
天然記念物					
48	賀茂神社のアラカシ	2 本	泉区古内字糺 1	賀茂神社	S60.4.25

出典：「仙台市の文化財（指定文化財及び登録文化財）の種類と数」（平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課）

<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>

「宮城県の指定文化財」（宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

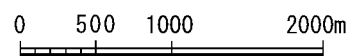


凡例

- : 対象事業計画地
- : 市区町境界線
- : 県指定文化財 (図中番号: 4~36, 40~42)
- : 市指定文化財 (図中番号: 43~45, 47, 48)
- : 国指定文化財 (図中番号: 1)
- : 国登録文化財 (図中番号: 3)



S=1:50,000



※No. 2のカモシカの分布域は出典に記載されていないため図示していない。
No. 37~39及びNo. 46は無形民俗文化財であるため図示していない。

出典: 「仙台市の文化財(指定文化財及び登録文化財)の種類と数」
(平成23年11月 仙台市教育局文化財課)
<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>
「宮城県の指定文化財」(宮城県文化財保護課)
<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei>

図 6.1-65
対象事業計画地周辺の
指定文化財等分布図
(文献調査)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、指定文化財等の調査は行われていない。

イ 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の状況

a) 文献調査

調査範囲の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は表 6.1-141 及び表 6.1-142、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）分布図は図 6.1-66 に示すとおりである。

対象事業計画地内及び近傍には、青笹山遺跡、養賢堂遺跡、針生山遺跡がある。これらの遺跡の調査結果は表 6.1-143 に示すとおりである。平成 4 年及び平成 9 年に試掘確認調査が実施されており、青笹山遺跡、養賢堂遺跡については、仙台市教育委員会により『本調査は必要なく、工事着手は差し支えない』との判断がなされている。一方、針生山遺跡については、『開発地域内で遺構・遺物包含層が発見される可能性が高く、本調査を行う必要がある』とされている。

針生山遺跡の位置を土地利用計画図と重ね合わせた結果は、図 6.1-67 に示すとおりである。針生山遺跡は、対象事業計画地内の中央付近に残置する予定の森林と、造成により発生する切土法面を跨いだ位置となっている。

表 6.1-141 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の状況（1/2）

No.	名称	所在地
仙台市泉区		
1	泥畑遺跡	泉区福岡字泥畑
2	西上野原遺跡	泉区福岡字西上野原
3	西上野原 B 遺跡	泉区福岡字西上野原
4	高野原 A 遺跡	泉区朴沢字高野原
5	高野原 B 遺跡	泉区朴沢字高野原
6	畑中遺跡	泉区朴沢字畑中・畑中前
7	西小屋遺跡	泉区朴沢字西小屋
8	壇の原遺跡	泉区朴沢字壇の原
9	壇の原小塚	泉区朴沢字壇の原
10	西脇西遺跡	泉区朴沢字西脇西
11	亀ノ子小塚	泉区朴沢字壇の原
12	新田遺跡	泉区朴沢字新田
13	鷲倉神社板碑（小山板 A 碑群）	泉区福岡字小山
14	松岩寺板碑（小山板碑 B 群）	泉区福岡字小山
15	中在家遺跡	泉区朴沢字中在家
16	朴沢新城跡	泉区朴沢字要害
17	南遺跡	泉区朴沢字南
18	原遺跡	泉区朴沢字原
19	山下遺跡	泉区朴沢字山下
20	上鳥居原遺跡	泉区朴沢字上鳥居原
21	鳥居原遺跡	泉区朴沢字鳥居原
22	堰添 A 遺跡	泉区福岡字堰添
23	堰添 B 遺跡	泉区福岡字堰添
24	刑部塚	泉区福岡字中在家
25	福岡館跡	泉区福岡字城ノ内
26	慶得庵の碑	泉区福岡字城ノ内裏
27	柏坊遺跡	泉区福岡字柏坊
28	花輪山遺跡	泉区根白石字花輪山
29	成田山館遺跡	泉区住吉台西三・四丁目
30	東泉板碑群	泉区福岡字東泉
31	弘安の碑	泉区根白石字君ヶ代

出典：「宮城県遺跡地図」（平成 25 年 8 月 宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/webgis.html>

表 6.1-142 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の状況（2/2）

No.	名称	所在地
仙台市泉区		
32	柿屋敷板碑	泉区西田中字柿屋敷
33	館陰遺跡	泉区根白石字館陰
34	宇佐八幡宮板碑群（館下板碑B群）	泉区根白石字館下
35	白石城跡	泉区根白石字館下
36	館下板碑群	泉区根白石字館下
37	青笹山遺跡	泉区根白石字青笹山
38	新坂下板碑群	泉区根白石字新坂下
39	養賢堂遺跡	泉区根白石字養賢堂
40	針生山遺跡	泉区根白石字針生山
41	銅谷遺跡	泉区根白石字銅谷
42	紫山遺跡	泉区寺岡三丁目
43	寺岡廃寺	泉区寺岡二丁目
44	福沢城跡	泉区根白石字福沢館下
45	小岳館跡	泉区小角字館・広畑
46	ドウコン塚	泉区実沢字十文字
47	八乙女館跡	泉区実沢字道祖神
48	山野内館跡	泉区実沢字六堂屋敷
49	戸平鍛冶跡	泉区実沢字戸平
50	関の上遺跡	泉区古内字関の上
51	宮下遺跡	泉区古内字宮下
52	長命館跡	泉区加茂二丁目
53	堂所山遺跡	泉区根白石字堂所山
54	宮床山遺跡	泉区朴沢字宮床山
55	堂庭廃寺跡	泉区根白石字堂庭山
仙台市青葉区		
56	荒神館跡	青葉区芋沢字荒神
57	宇那弥神社跡	青葉区芋沢字明神
58	黒森山遺跡	青葉区中山台四丁目
大和町		
59	長原窯跡	大和町小野字長原
60	長原C遺跡	大和町小野字黒木
61	長原上遺跡	大和町小野字後藤
62	赤坂遺跡	大和町小野字赤坂
63	摺菘遺跡	大和町宮床字摺菘

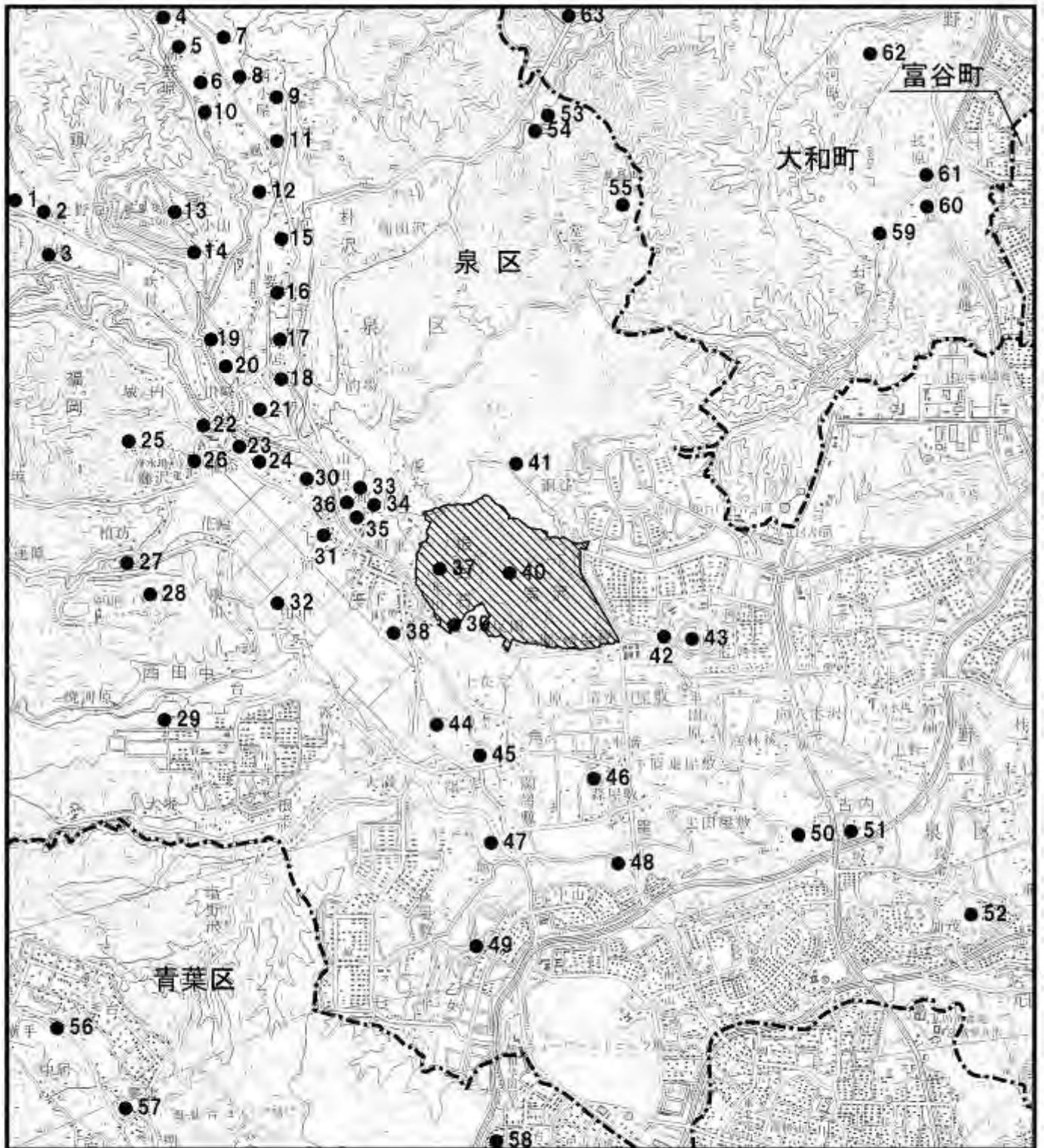
出典：「宮城県遺跡地図」（平成25年8月 宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/webgis.html>

表 6.1-143 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）調査結果一覧表




NO.	文化財番号・名称	試掘調査月日	調査結果	備考
37	19029 青笹山遺跡 （アオササヤマ）	平成4年11月9日	本調査不要 （工事着手差支えなし）	旧石器・縄文 散布地※
38	19018 養賢堂遺跡 （ヨウケンドウ）	平成9年10月28日	本調査不要 （工事着手差支えなし）	縄文 散布地※
40	19088 針生山遺跡 （ハリウヤマ）	平成9年10月29日～31日	本調査必要	縄文 散布地※

※：散布地：単に日常生活で使われていた土器や石器などが散布または土中に包含している遺跡で、集落跡である場合が多い。

出典：聞き取り・資料調査による（平成21年6月9日 仙台市教育委員会生涯学習部文化財課より）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 埋蔵文化財包蔵地 (图中番号: 1~63)

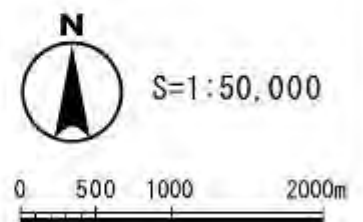


図 6.1-66
対象事業計画地周辺の
埋蔵文化財包蔵地 (遺跡)
分布図 (文献調査)

出典:「宮城県遺跡地図」(平成25年8月 宮城県文化財保護課)
<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/webgis.html>

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の調査は行われていない。

ウ 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に対する保全上の留意点

対象事業計画地内に位置する針生山遺跡については、「開発地域内で遺構・遺物包含層が発見される可能性が高く、本調査を行う必要がある」とされている。針生山遺跡の一部には造成により発生する切土法面が位置しているため、当該法面を造成する前に本調査を実施することで、工事による遺構・遺物を損傷しないように留意する。